前田Ⅴ遺跡

東善住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．前田Ⅴ遺跡出土遺物

2．H－47号住居跡出土遺物

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋市は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でも優れた内容を示しています。今から２万８千年前の旧石器を始めとして、８基を数える国史跡の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの、近代化遺産など多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代の人々が生活した跡が市内ほぼ全域に残されています。古代の人々が暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具や、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

現在、中内町周辺は広く水田が広がっていますが、北関東自動車道の建設などに伴い多くの新しい遺跡が発見され、地域の歴史解明に重要な資料となっています。

本年度の調査の前田Ｖ遺跡では、現在の水田下から平安時代の住居跡や貴重な遺物などが多数検出されました。

発掘調査にあたりまして、ご協力いただきました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者、酷暑の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成12年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　渡辺勝利

例　　言

1．本報告書は、東善住宅団地拡張造成事業に伴う前田Ｖ遺跡発掘調査報告書である。
2．本遺跡の遺跡コードは11Ｇ41である。
3．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
4．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市中内町155番１他
発掘調査期間	平成11年９月22日～平成11年12月10日
整理・報告書作成期間	平成12年12月13日～平成12年３月24日
発掘・整理担当者	齊木　一敏・山口　宗男・吉沢　　貴

5．本書の原稿執筆・編集は齊木・山口・吉沢が行った。
6．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石山日出男・大島きく江・品川　成夫・須田　隆治・鈴木　民江・北爪　雄作・高橋　公代
多田　啓子・中林美智子・細野進太郎・堀込とよ江・松本美咲子・森田　純子・山口　純子
吉田　淑子・渡辺　永造・桜井　　弘・高橋　　孜・中村新太郎・奈良　岩雄・原田　要三
古沢　　実
7．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の1／25,000、1／20,000地形図と前橋市現形図72　1／2,500を使用した。
3．本発掘調査の略称は、11G41である。
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…住居跡　W…溝跡　D…土坑　P…柱穴　I…井戸跡　O…落ち込み　X…土器溜まり
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　　住居跡・土坑・柱穴・井戸跡・溝跡…1／60　　竈断面図…1／30
遺物　　土器…1／3・1／4　　石器・石製品1／3・1／4　　鉄器・鉄製品…1／3・1／4
6．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構平面図　　焼土範囲…　　灰範囲…
遺構断面図　　構築面…　　炭化物…
遺物実測図　　施釉範囲…　　（スス付着など）
7．セクション注記の記号（○　○）は粘性、締まりの順である。

目　　次

序 …… i

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針 …… 5

2　調査経過 …… 5

Ⅳ　基本層序 …… 7

Ⅴ　遺構と遺物

1　竪穴住居跡 …… 8

2　溝跡 …… 16

3　土坑 …… 21

4　柱穴 …… 28

5　井戸跡 …… 29

6　落ち込み …… 29

7　土器溜まり …… 29

8　グリッド等出土遺物 …… 29

Ⅵ　考察

1　遺構について …… 30

2　遺物について …… 31

図　版

口絵 1　主な出土遺物
　　2　H－47号住居跡 出土遺物
PL. 1　H－1・2号住居跡
　　2　H－3・4・22号住居跡、H－5号住居跡周辺
　　3　H－5～10・44号住居跡、
　　4　H－11・12号住居跡
　　5　H－13～17・22号住居跡 H－18・19号住居跡
　　7　H－23～26・29・45号住居跡
　　8　H－27号住居跡、H－29号住居跡周辺
　　9　H－28・31・32号住居跡
　　10　H－33～35号住居跡
　　11　H－36・39号住居跡
　　12　H－39～43号住居跡
　　13　H－47号住居跡
　　14　W－1・2・5・7・8・10・13・14・17・18号溝跡、I－1号井戸跡
　　15　H－39号住居跡周辺、D－71号土坑、土器溜まり
　　16　H－1～5号住居跡 出土土器
　　17　H－5～10号住居跡 出土土器
　　18　H－10～18号住居跡 出土土器
　　19　H－18～39号住居跡 出土土器
　　20　H－40～47号住居跡 出土土器
　　21　H－47号住居跡、W－8号溝跡、D－1・2・71号土坑 出土土器
　　22　H－5～10号住居跡 出土土器
　　23　出土鉄器・石製品・特殊遺物など

挿　図

Fig. 1　位置図
　　2　周辺遺跡図
　　3　グリッド設定図
　　4　調査経過図
　　5　標準土層図
　　6　H－1・2号住居跡
　　7　H－3・22・5・8号住居跡、D－46号土坑
　　8　H－4・6・7・9号住居跡、D－3・4号土坑
　　9　H－10・11・44号住居跡
　　10　H－11～13・15・16号住居跡、D－33号土坑
　　11　H－14・21号住居跡
　　12　H－17・18号住居跡
　　13　H－19・20・23・45・24号住居跡
　　14　H－25～27号住居跡
　　15　H－28～30号住居跡
　　16　H－31～34号住居跡
　　17　H－35～38号住居跡、D－66号土坑
　　18　H－39・40・42・46号住居跡
　　19　H－41・43・47号住居跡
　　20　W－1・2・5～7・10・11号溝跡、D－31号土坑
　　21　W－8・9・12～16・18～20・25号溝跡、D－60号土坑
　　22　W－21・22・24・27～29・31・32号溝跡
　　23　W－23・33～36溝跡
　　24　D－1～28号土坑
　　25　D－29～62号土坑
　　26　D－63～73号土坑、P－1～3号柱穴
　　27　I－1号井戸跡、O－2号落ち込み
　　28　H－1～5号住居跡 出土土器
　　29　H－5～10号住居跡 出土土器
　　30　H－10号住居跡 出土土器
　　31　H－11～15号住居跡 出土土器
　　32　H－18号住居跡 出土土器
　　33　H－19～28号住居跡 出土土器
　　34　H－29～37号住居跡 出土土器
　　35　H－39～42号住居跡 出土土器
　　36　H－43～46号住居跡 出土土器
　　37　H－47号住居跡出土土器（1）
　　38　H－47号住居跡出土土器（2）
　　39　W－8号溝跡、D－1・72号土坑、I－1号井戸跡、X－1号土器溜まり出土土器
　　40　グリッド 出土土器及び鉄器
　　41　石製品・木製品・特殊遺物など
　　42　前田V遺跡全体図

表

Tab. 1　周辺遺跡一覧表
　　2　土器観察表
　　3　石器・木製品・特殊遺物観察表
　　4　鉄器観察表
　　5　住居跡一覧表
　　6　竈跡一覧表
　　7　住居跡内部施設一覧表
　　8　溝跡計測表
　　9　土坑・井戸跡・落ち込み計測表

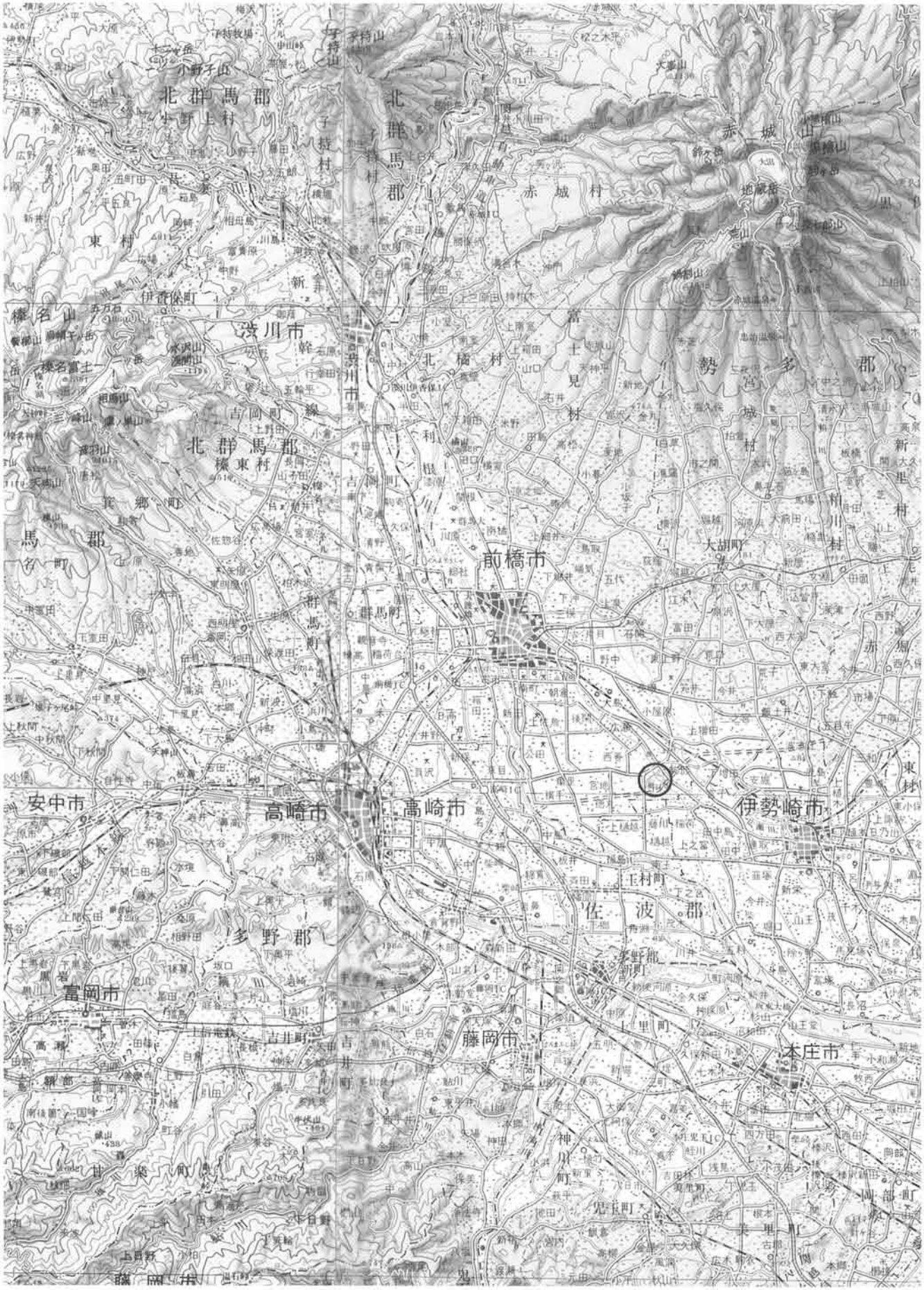

北群馬郡
北群馬郡
渋川市
北群馬郡
前橋市
高崎市
高崎市
伊勢崎市
安中市
佐波郡
多野郡
富岡市
藤岡市
本庄市
赤城村
勢多郡

Fig. 1　位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

平成11年９月９日、前橋工業団地造成組合（管理者　萩　原　弥惣治）より、東善住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受け同教育委員会で検討したところ、これまでの周辺遺跡の調査結果（前田遺跡、前田Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡）を踏まえて本調査が必要であるとの結論が出された。９月16日、前橋市教育長より前橋工業団地造成組合に本調査実施の回答がなされた。また、同日、前橋市教育長より前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団に本調査を実施するように通知された。これに基づき、前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団が協議をおこなった。９月22日、両者の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結され、10月５日に現地での発掘調査を開始するに至った。また、10月25日、前橋工業団地造成組合より調査面積の増加（4,021㎡→8,246㎡）の協議の申し入れがあり、両者協議の結果、11月15日、変更契約（委託契約料金の増額）を締結した。なお、遺跡名称「前田Ⅴ遺跡」（遺跡コード：11G41）の「前田」は旧地籍の小字名を採用した。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前田Ⅴ遺跡は前橋市の中心市街地から東南の方向約８kmの中内町地内の東善住宅団地拡張造成予定地の道路部分である。前橋市の地形は北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）、両者に挟まれ地溝状になった広瀬川低地帯（沖積低地）の３地域に分類でき、この辺りは広瀬低地帯と接する平坦な前橋台地の東端に位置する。そして、利根川、その支流の藤川や端気川、広瀬川の支流の韮川らが流れ、水が豊富である。よって、以前は前橋市の穀倉地帯であった。現在も田畑が多く残っている。

現在の様子は、主要地方道高崎・駒形線が東西に走り、主要地方道藤岡・大胡線が南北に走っており、それらの交差する交通の要所である。また、すぐ南には現在建設中の北関東自動車道の工事が急ピッチで進められている。高崎・駒形線沿いには運送会社、倉庫、レストラン、食堂、自動車販売店、ガソリンスタンド等が並び、一歩道から中に入ると田畑が残っているものの住宅が建ち始めている。以前の田園地帯の開発、市街化が急速に進んできている。

2　歴史的環境

本遺跡が所在する前橋市の南部は、近年北関東自動車道やその関連事業、その他の開発に伴う埋蔵文化財発掘調査によりその歴史が明らかにされてきている。

弥生時代以前のものとしては、縄文時代の石器製作跡の検出された西善尺司遺跡、溝跡、土坑等の検出された徳丸仲田Ⅲ遺跡がある。この時期の歴史については、遺構が検出された遺跡が少なく、今後の発掘調査が待たれるところである。

古墳時代に目を転じてみると、本遺跡のある前橋市南部はこの時期、前橋市の歴史の中心の一つであり、古くから広瀬川低地帯と接する前橋台地の縁にある旧市域から旧上陽村にわたり帯状に連

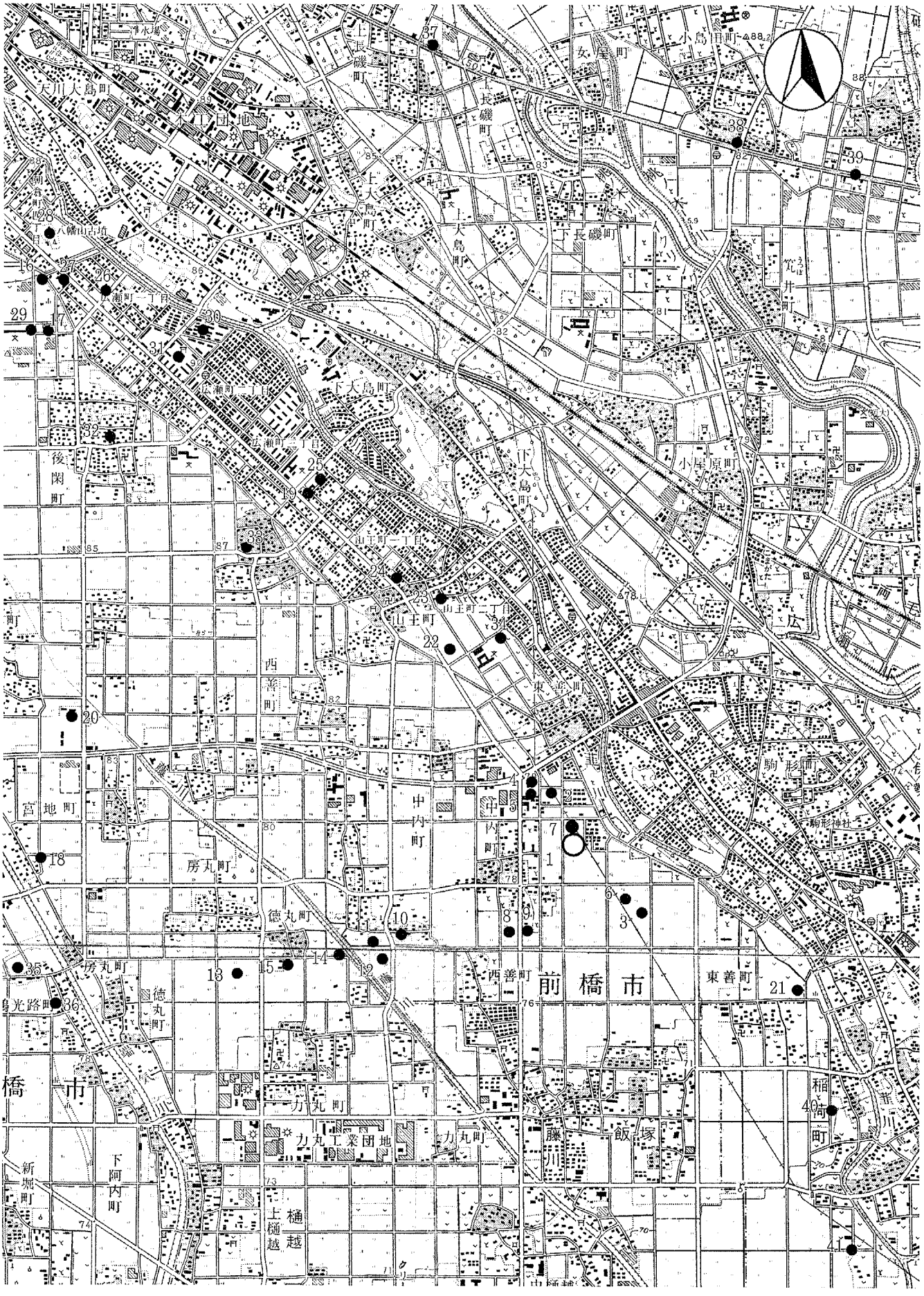
なる広瀬古墳群がある。昭和10年の調査では、169基の古墳が確認されている。しかし、戦前、戦中、戦後の開墾や宅地造成などにより、多くは調査せず平夷されてしまった。現在残されている古墳の中で代表的なものとしては、東日本最大の前方後方墳とされる八幡山古墳〈国指定史跡・4世紀後半〉、三角縁神獣鏡を始め出土遺物の多くが重要文化財に指定された東日本最古の前方後円墳とされる天神山古墳〈県指定史跡・4世紀後半〉、金銅製冠が出土した前方後円墳の金冠塚古墳〈市指定史跡・6世紀後半〉、亀の形を思わせる帆立貝式古墳の亀塚古墳〈市指定史跡・6世紀前半〉、円墳の経塚古墳〈市指定史跡・7世紀〉などがある。また、中内村前遺跡からは住居跡、水田跡、西善尺司・Ⅱ遺跡からは方形周溝墓、住居跡、水田跡、徳丸仲田・Ⅱ遺跡からは住居跡、後閑団地遺跡からは住居跡が検出されている。このようにみてみると、この辺りは周辺を治める権力者を中心に人々は水田を耕しながら生活していた様子が窺える。

次に奈良・平安時代についてであるが、この辺りでは、この時期の遺跡は住居跡と水田跡が主なものである。まず、住居跡の検出された遺跡としては、前田遺跡（前埋文）、前田遺跡（事業団）、前田Ⅱ遺跡、前田Ⅲ遺跡、前田Ⅳ遺跡、前田Ⅵ遺跡、中内村前遺跡、中内村前Ⅱ遺跡、西善尺司遺跡、西善尺司Ⅱ遺跡、徳丸仲田遺跡、徳丸仲田Ⅱ遺跡、後閑団地遺跡、後閑Ⅱ遺跡等がある。例えば、前田遺跡（事業団）と中内村前遺跡では約162軒と、多くの遺跡で集落跡が検出されている。また、水田跡としては、前田遺跡（前埋文）、前田遺跡（事業団）、中内村前遺跡、中内村前Ⅱ遺跡、徳丸仲田遺跡、徳丸仲田Ⅲ遺跡、後閑Ⅱ遺跡、宮地中田遺跡等がある。As-B軽石によって埋没した水田跡では、条里地割りに基づいた水田跡や可能性のある水田跡が確認されている。よって、平安時代、人々が稲作をし、集団をなして生活していた様子が窺える。

中・近世の遺跡としては、環壕屋敷跡、環壕堀等が検出された前田遺跡（前埋文）、前田遺跡（事業団）、前田Ⅳ遺跡、西善尺司・Ⅱ・Ⅲ遺跡、徳丸仲田・Ⅲ遺跡等がある。これ以外にも西善環壕遺構群や徳丸環壕遺構群、山王環壕集落跡、後閑大屋敷等、この遺跡の周辺には環壕屋敷跡があり、それが生かされている堀が現在も残されている。これらは、中世末頃頻発した戦乱に対応して、有力な農民が自衛のため屋敷の周囲に壕と土塁をめぐらす環壕屋敷を作ったようである。その後、上層の武士の館邸等に多く用いられるようになり、戦国末期になり数が多くなってきたようである。武士がそれらを発展させたのが城砦であり、力丸城址、阿内古城址等が残されている。

参考文献

前橋市	『前橋市史　第1巻』前橋市史編さん委員会	1971
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	『前田遺跡』	1990
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	『前田Ⅱ遺跡』	1990
前橋市教育委員会	『前田Ⅲ遺跡』	1994
群馬県埋蔵文化財調査事業団	『平成10年度事業概要 北関東自動車道（高崎～伊勢崎）埋蔵文化財発掘調査事業』	
新井　房夫編	『火山灰考古学』古今書院	1993



1 : 25,000

500m 0 500 1000 1500

Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	主な時代	主な遺構
1	前田Ⅴ遺跡	H11	本遺跡	
2	前田遺跡（前埋文）	H 3	平安時代	竪穴住居跡、溝跡、水田跡、土坑、柱穴等
3	前田遺跡（事業団）	H10・11	平安時代	住居跡、水田跡等
			中世	環濠屋敷跡、掘、溝跡、井戸跡、柱穴等
			近・現代	農業用水路等
4	前田Ⅱ遺跡	H 3	平安時代	竪穴住居跡、土坑、柱穴等
5	前田Ⅲ遺跡	H 7	平安時代	竪穴住居跡、土坑等
6	前田Ⅳ遺跡	H10	平安時代	竪穴住居跡、溝跡、水田跡、土坑、柱穴等
			中世	環濠等
7	前田Ⅵ遺跡	H11	平安時代	竪穴住居跡、溝跡、水田跡、土坑、柱穴等
8	中内村前遺跡	H10	古墳時代	竪穴住居跡、掘立柱建物、水田跡、井戸跡等
			奈良・平安	住居跡、溝跡、水田跡等
			中・近世	環濠屋敷跡、掘立柱建物、溝跡、土坑等
9	中内村前Ⅱ遺跡	H10	平安時代	水田跡、溝跡、土坑、柱穴等
10	西善尺司遺跡	H10・11	縄文時代	石器製作跡等
			古墳時代	方形周溝墓、竪穴住居跡、水田跡、溝跡、井戸跡、土坑等
			奈良・平安	竪穴住居、掘立柱建物、水田跡、溝跡等
			中・近世	館跡、掘立柱建物、井戸跡、火葬墓、溝跡、土坑等
11	西善尺司Ⅱ遺跡	H 9	古墳時代	方形周溝墓、木道遺構等
			平安時代	竪穴住居跡、土坑、溝跡等
			中・近世	土坑墓等
12	西善尺司Ⅲ遺跡	H10	弥生時代以前	溝跡、土坑、柱穴等
			中世	環濠屋敷掘等
13	徳丸仲田遺跡	H10	古墳時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、灌漑水路、井戸跡等
			平安時代	住居跡、水田跡等
			中・近世	薬研掘方形溝等
14	徳丸仲田Ⅱ遺跡	H 9	古墳時代	掘立柱建物跡、土坑、溝跡等
			奈良・平安	竪穴住居跡、土坑、溝跡等
15	徳丸仲田Ⅲ遺跡	H10	弥生時代以前	溝跡、土坑、柱穴等
			平安時代	水田跡、土坑、柱穴等
			中世	館跡等
16	後閑団地遺跡	S57	古墳時代	竪穴住居跡、石槨墓、土坑、溝跡等
			奈良時代	竪穴住居、井戸跡、溝跡等
17	後閑Ⅱ遺跡	S58	平安時代	竪穴住居跡、水田跡、溝跡、土坑、井戸跡等
18	宮地中田遺跡	H 7	平安時代	水田跡等

19　木ノ宮遺跡　20　東田遺跡　21　経塚古墳　22　阿弥陀山古墳　23　文珠山古墳
24　金冠塚古墳　25　亀塚山古墳　26　天神山古墳　27　坊山遺跡　28　八幡山古墳
29　後閑遺跡　30　後閑大屋敷　31　飯玉ノ神社古墳　32　後閑環濠集落　33　山王環濠集落
34　上陽10号墳　35　西田Ⅱ遺跡　36　西田遺跡　37　野中天神遺跡　38　笂井八日市遺跡
39　今井白山遺跡　40　今村城址　41　今村環濠遺構群

Ⅲ　調査の経過

1　方　　法

委託された調査箇所は、東善住宅団地の拡張造成が計画されている地域の６ｍ道路になる部分の約1,500㎡である。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ０、Ｘ１、Ｘ２…と、北から南へＹ０、Ｙ１、Ｙ２…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

前田Ｖ遺跡のＸ20・Ｙ33の公共座標は次のとおりである。

第Ⅸ系	＋37718.000（Ｘ）	－62920.000（Ｙ）	
緯度	36° 20′ 16″ 5552	経度	139° 07′ 56″ .4260
子午線収差角	24′ 55″ .4	増大率	0.999949

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1／20、住居跡竈は1／10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、委託契約締結後10月５日より調査を開始した。まず、調査区全体にトレンチを入れ、遺構の把握をした。その結果、住居跡、溝跡等が検出され、６日～８日にかけて重機（バックフォー0.4㎥）を使い、全調査区の表土掘削を行った。８日から杭打ちを行い、鋤簾による遺構確認を行った。As-B純層、As-B混土層を剥がしたところで、As-C混黒色土の平安時代の遺構面が現れた。As-B混土層が厚く、遺構の確認に苦労をするところもあったが、住居跡約40軒、溝跡約30条、土坑・柱穴等が約60基あることが掴めた。

まず、As-B純層で埋まる大きいＷ－11号溝跡の東側から精査に取り掛かることにした。多いところでは４軒の住居跡の重複があったりし、遺構の新旧関係がはっきりせず精査を始めるのに何度も鋤簾による遺構確認を行ったり、トレンチを入れ確認しながらの精査になったりと調査の状況を難しくしたが、効率よく調査を進めるように心がけた。また、天候にも恵まれ調査がはかどった。11月16日にＷ－11号溝跡の東側の調査を終了した。

次に、その西側の調査に取り掛かった。東側に比べると遺物の数量は少な目だったが、やはり住居跡の重複が多く、調査期間が当初の予定より延びそうなので、作業員を６名増員した。18日には地元の山王小学校の６年生が現場見学と発掘体験にやってきた。現場見学では出土遺物の説明をしたり、体験では作業員と一緒に住居跡を精査したりした。特に、遺物が出土するとより興味を持って取り組めていたようである。また、26日には春日中学校の２年生が職場体験学習に訪れ、発掘調査の現場を体験した。発掘調査の話、出土遺物の説明、住居跡の精査、溝跡の精査、図面作成を体験した。発掘の楽しさ、たいへんさ等多くのことを吸収して帰校した。12月３日、西側の調査が終了した。最終的に、住居跡47軒、土坑73基、柱穴３基、溝跡36条等の検出ができた。７日、ハイライザーによる全体撮影をした。

その後、20日まで現地プレハブで土器洗い、図面整理等を行った。12日には東善町・中内町自治

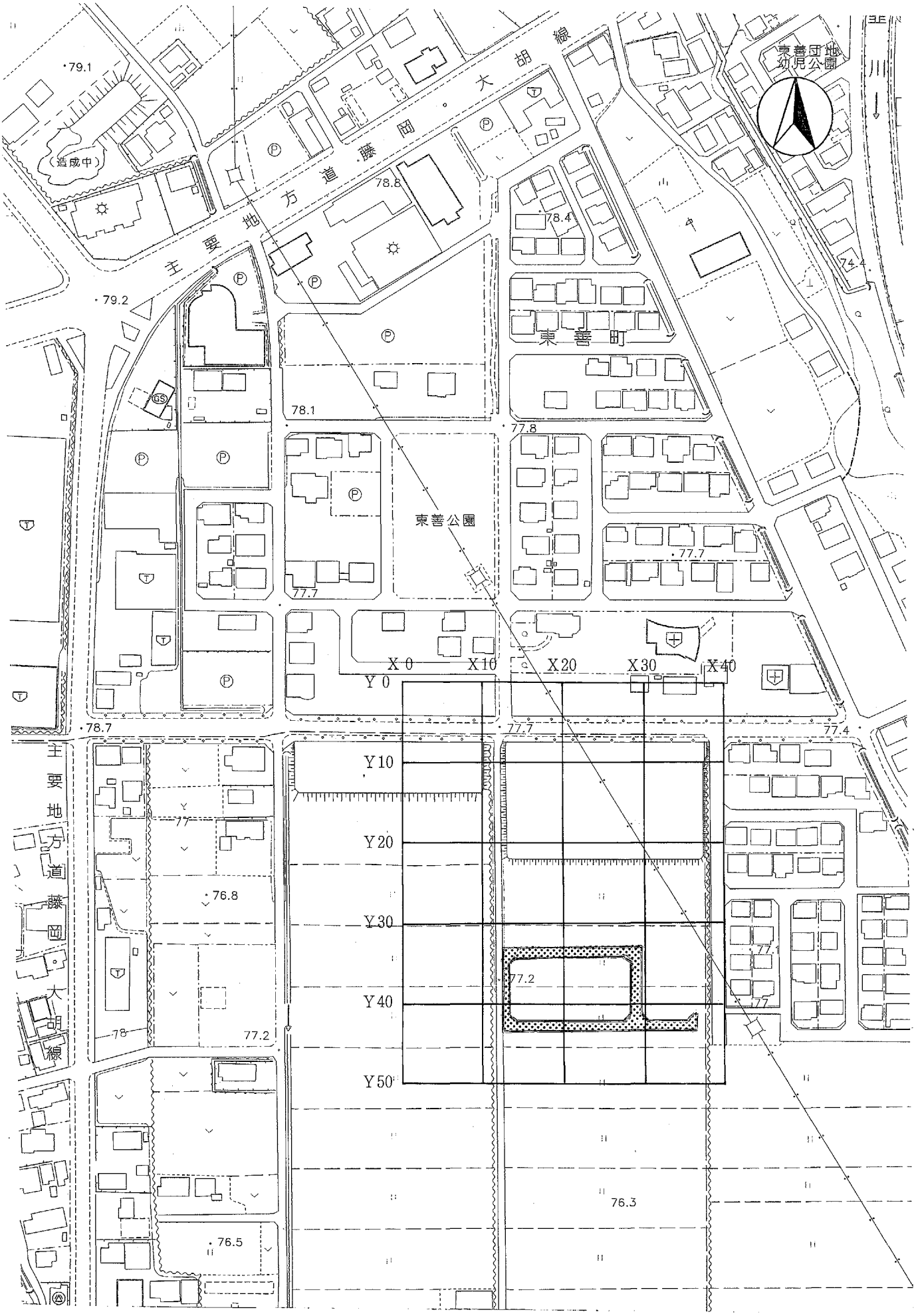


Fig. 3　グリッド設定図

会の遺跡見学及び学習会が開かれ、お年寄りからこどもまでの約35名の地元の人たちが訪れた。自分たちの住んでいる土地の下から出た遺跡ということで興味を持って来た人が多かったようである。15日に重機（ブルトーザー：Ｄ６）、16日に重機（バックフォー0.4m³）を使用し、調査区の埋め戻しを行った。21日より文化財保護課に戻り、整理作業に取り組み、３月24日までに完成させる運びとなった。

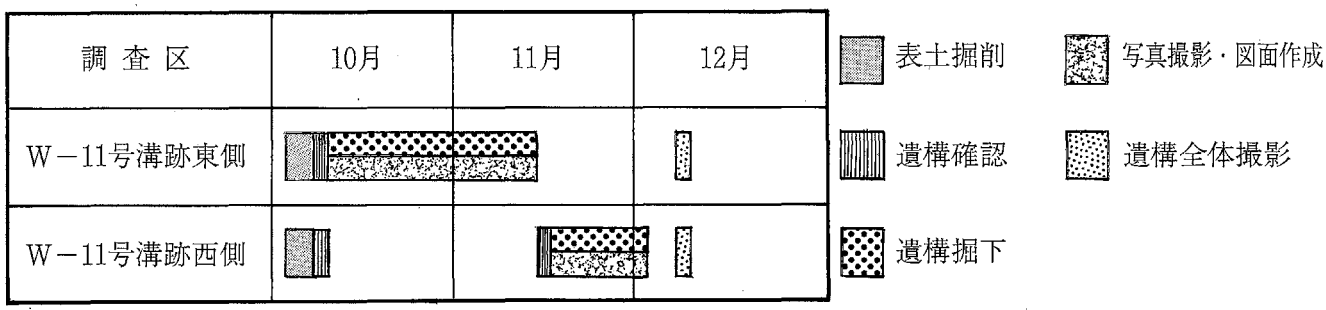


Fig. 4　調査経過図

Ⅳ 基 本 層 序

本遺跡地内の地層の堆積は、Fig. ５のとおりである。

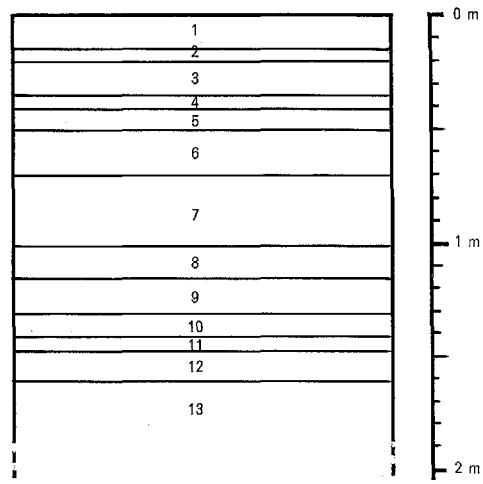


Fig. 5　標準土層図

1　灰黄褐色土（10YR5／2）耕作土

2　明赤褐色土（５YR5／8）粘性無し、締まり有り。
φ0.5～１㎜のAs-B軽石を５％含む。鉄分沈殿（斑鉄）層。

3　にぶい黄褐色土（10YR5／3）粘性無し、締まり有り。
φ0.5～１㎜のAs-B軽石を15%含む。

4　明褐色土（7.5YR5／6）粘性無し、締まり有り。
φ0.5～１㎜のAs-B軽石を10%含む。

5　暗褐色土（10YR3／3）粘性・締まりをやや有する。
φ0.5～１㎜のAs-B軽石を10%含む。As-B混土層

6　黒色土（10YR2／1）粘性・締まりをやや有する。
φ１～５㎜のAs-C軽石を10%含む。As-C混土層

7　黒色土（10YR2／1）粘性・締まりをやや有する。φ１～５㎜のAs-C軽石を２～３％含む。

8　黒褐色土（10YR3／1）粘性有り、締まりをやや有する。ロームへの漸移層。

9　にぶい黄褐色土（10YR5／3）粘性有り、締まりをやや有する。細砂を10%含む。

10　灰黄褐色粗砂（10YR6／2）粘性無し、締まりをやや有する。φ10～20㎜の円礫を５％、φ10～20㎜の浅黄橙色（10YR8／4）軽石を10%含む。褐色（7.5YR4／6）斑点がみられる。

11　にぶい黄橙色細砂（10YR7／2）粘性無し、締まりをやや有する。褐色（7.5YR4／6）斑点がみられる。

12　にぶい黄橙色粗砂（10YR7／2）粘性無し、締まり有り。φ５㎜の円礫を30%含み、極暗赤褐色（５YR2／4）斑点が多くみられ硬化している。

13　浅黄色シルト（５YR7／4）粘性やや有り、締まり無し。

V　遺跡の概要

※計測値については、(　　) は現存値、[　　] は復元値を表わす。

1　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig. 6、PL. 1）

位置　X29・30、Y41・42グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.27m、南北3.98m、壁現高22cmを測る。　**面積**（12.58）㎡　**床面**　平坦で、竈周辺が部分的に堅緻な床面　**竈**　東壁より検出され、主軸方向がN－86°－Wであり、全長75cm、最大幅64cm、焚口部幅27cmを測る。石が袖と支脚の構築材として使用されている。　**重複**　H－2と重複し、新旧関係はH－2→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。　**備考**　本遺跡で唯一11世紀代と断定できる住居跡。土釜が出土した。　**出土遺物**　総数1,526点。そのうち土器1点を図示した。

H－2号住居跡（Fig. 6、PL. 1）

位置　X29～31、Y41・42グリッド　**主軸方向**（N－92°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西5.66m、南北3.35m、壁現高45cmを測る。　**面積**（16.79）㎡　**床面**　平坦な床面　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－1とW－2と重複し、新旧関係はW－2→本遺構→H－1の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。　**備考**　輪花椀か輪花皿と考えられる土器を出土した。　**出土遺物**　総数1,382点。そのうち土器12点を図示した。

H－3号住居跡（Fig. 7、PL. 2）

位置　X27、Y39・40グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　方形と推定される。東西0.50m、南北3.13m、壁現高23cmを測る。　**面積**（1.73）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　東壁中央部より検出され、主軸方向がN－94°－Eであり、全長80cm、最大幅115cm、焚口部幅45cmを測る。　**重複**　H－22、W－5と重複し、新旧関係はH－22→本遺構、W－5→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数104点。そのうち土器1点を図示した。

H－4号住居跡（Fig. 8、PL. 2）

位置　X29・30、Y42グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　ゆがんだ方形と推定される。東西3.42m、南北1.82m、壁現高20cmを測る。　**面積**（5.23）㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な床面　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－2、W－1、W－3、W－4と重複し、新旧関係はW－1→H－2→本遺構→W－4→W－3の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数590点。そのうち土器2点を図示した。

H－5号住居跡（Fig. 7、PL. 3）

位置　X27・28、Y39～41グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.82）m、南北5.19m、壁現高54cmを測る。　**面積**（17.03）㎡　**床面**　平坦な床面。貯蔵穴（円形、規模115×55cm、深さ44cm、出土遺物15点）を検出する。　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－8、D－28と重複しており、新旧関係はH－8→本遺構、D－28→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。　**出土遺物**　総数2,943点。そのうち

土器17点を図示した。

H－6号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　X27、Y41・42グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　方形と推測される。東西（2.21）m、南北3.42m、壁現高4cmを測る。　**面積**（5.04）㎡　**床面**　平坦で、部分的に堅緻な床面　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－94°－Eであり、全長105cm、最大幅74cm、焚口部幅50cmを測る。　**重複**　H－7、D－3、D－4、W－7と重複し、新旧関係は本遺構→H－7→W－7、本遺構→D－3・D－4の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数48点。そのうち土器3点を図示した。

H－7号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　X26・27、Y41・42グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.08）m、南北3.80m、壁現高6cmを測る。　**面積**（5.04）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に竈周辺が堅緻な床面　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－92°－Eであり、全長（77）cm、最大幅110cm、焚口部幅88cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。　**重複**　H－6、W－7と重複し、新旧関係はH－6→本遺構→W－7の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀終末から11世紀初頭と考えられる。　**出土遺物**　総数19点。そのうち土器1点を図示した。

H－8号住居跡（Fig. 7、PL. 3）

位置　X28、Y39グリッド　**主軸方向**　［N－78°－E］　**形状等**　方形と推定される。東西（2.75）m、南北（1.34）m、壁現高45cmを測る。　**面積**（2.69）㎡　**床面**　平坦な床面　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－5と重複し、新旧関係は本遺構→H－5の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数161点。そのうち土器1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　X28、Y37・38グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.08）m、南北3.80m、壁現高33cmを測る。　**面積**（7.47）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。D－1（楕円形と推測される。規模100×82cm、深さ15cm、出土遺物4点）を検出する。　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－44と重複し、新旧関係はH－44→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数440点。そのうち土器1点を図示した。

H－10号住居跡（Fig. 9、PL. 3）

位置　X27・28、Y36・37グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.06）m、南北5.23m、壁現高50cmを測る。　**面積**（15.58）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈周辺に堅緻な面が検出できる床面　**竈**　東壁南寄りに一部が検出され、主軸方向がN－96°－Eであり、全長（35）cm、最大幅（94）cm、焚口部幅37cmを測る。　**重複**　H－9、H－11、H－13、H－44と重複し、新旧関係はH－44→H－9→本遺構→H－11、本遺構→H－13→H－11の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。　**備考**　竈を含めその周辺の床、壁に粘土を層状に貼り補強している様子が窺える。　**出土遺物**　総数2,082点。そのうち土器15点を図示した。

H－11号住居跡（Fig. 9、PL. 4）

位置　X27・28、Y36・37グリッド　**主軸方向**　N－69°－E　**形状等**　正方形。東西3.43m、南北3.12m、壁現高28cmを測る。　**面積**　9.77㎡　**床面**　平坦で、竈周辺に粘土が貼ってあり堅緻な

床面。D－1（円形、規模70×67cm、深さ21cm）を検出する。 **竈** 東壁南隅より検出され、主軸方向がN－103°－Eであり、全長93cm、最大幅88cm、焚口部幅40cmを測る。石が袖や支脚の構築材として使用されている。 **重複** H－10、H－12、H－13と重複し、新旧関係はH－10→H－13→本遺構、H－12→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 **備考** 住居内全面より多数の石が検出された。使われなくなった住居に石が投げ込まれたものではないかと考えられる。 **出土遺物** 総数1,330点。そのうち土器6点を図示した。

H－12号住居跡（Fig.10、PL.4）

位置 X27・28、Y35・36グリッド **主軸方向** N－88°－E **形状等** ゆがんだ方形と推定される。東西（1.58）m、南北4.72m、壁現高10cmを測る。 **面積**（6,00）㎡ **床面** 平坦で、竈周辺に粘土が貼ってあり堅緻な床面 **竈** 東壁中央部より検出され、主軸方向がN－87°－Eであり、全長92cm、最大幅82cm、焚口部幅60cmを測る。粘土が構築材として使用されている。 **重複** H－11と重複し、新旧関係は本遺構→H－11の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀前半から中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数115点。そのうち土器1点を図示した。

H－13号住居跡（Fig.10、PL.5）

位置 X28、Y35・36グリッド **主軸方向** N－83°－E **形状等** 方形と推定される。東西（1.67）m、南北3.95m、壁現高40cmを測る。 **面積**（5.80）㎡ **床面** 平坦な床面 **竈** 調査区外にあると推定される。 **重複** H－10、H－15と重複し、新旧関係はH－10→本遺構、H－15→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 **出土遺物** 総数273点。そのうち土器2点を図示した。

H－14号住居跡（Fig.11、PL.5）

位置 X25～27、Y32・33グリッド **主軸方向** N－88°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（1.67）m、南北3.85m、壁現高9cmを測る。 **面積**（10.94）㎡ **床面** 平坦な床面。D－1（円形と推定される。規模60×（48）cm、深さ23cm）を検出する。 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－76°－Eであり、全長100cm、最大幅70cm、焚口部幅50cmを測る。石が支脚と袖の構築材として使用されている。 **重複** W－8と重複しており、新旧関係は本遺構→W－8の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。 **備考** 床面の直上の広い範囲に焼土、炭化物があり、焼失住居跡と思われる。付け替えられる前の古い竈が東壁中央部より検出された。 **出土遺物** 総数191点。そのうち土器8点を図示した。

H－15号住居跡（Fig.10、PL.5）

位置 X28、Y35グリッド **主軸方向** ［N－86°－E］ **形状等** 方形と推定される。東西（0.85）m、南北（1.85）m、壁現高42cmを測る。 **面積**（1.26）㎡ **床面** 平坦な床面 **竈** 調査区外にあると推定される。 **重複** H－13、H－16と重複し、新旧関係は本遺構→H－13、H－16→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 **出土遺物** 総数58点。そのうち土器2点を図示した。

H－16号住居跡（Fig.10、PL.5）

位置 X28、Y34・35グリッド **主軸方向** N－94°－E **形状等** 方形と推定される。東西（1.18）m、南北3.28m、壁現高35cmを測る。 **面積**（3.25）㎡ **床面** 平坦な床面 **竈** 調査区外にあると推

定される。 **重複** Ｈ－15、Ｄ－33と重複し、本遺構→Ｈ－15、本遺構→Ｄ－33の順である。 **時期** 重複関係から10世紀前半からAs-B降下の間の遺構と考えられる。 **出土遺物** 総数193点。

Ｈ－17号住居跡（Fig.12、PL.5）

位置 Ｘ27・28、Ｙ33～35グリッド **主軸方向** Ｎ－94°－Ｅ **形状等** ゆがんだ方形と推定される。東西（1.88）m、南北3.25m、壁現高16cmを測る。 **面積**（3.82）㎡ **床面** 平坦で、部分的に堅緻な床面 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がＮ－84°－Ｅであり、全長80cm、最大幅95cm、焚口部幅48cmを測る。粘土が構築材として使用されている。 **重複** Ｄ－42と重複し、新旧関係は本遺構→Ｄ－42の順である。 **時期** 重複関係からAs-B降下以前の遺構と考えられる。 **出土遺物** 総数296点。

Ｈ－18号住居跡（Fig.12、PL.6）

位置 Ｘ27・28、Ｙ32・33グリッド **主軸方向** Ｎ－91°－Ｅ **形状等** 正方形。東西2.85m、南北2.83m、壁現高20cmを測る。 **面積** 7.50㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。床下土坑（楕円形、規模130×50cm、深さ13cm）を検出する。 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がＮ－101°－Ｅであり、全長82cm、最大幅75cm、焚口部幅36cmを測る。石が袖と支脚の構築材として使用されている。粘土も使用されている。 **重複** Ｗ－９と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－９の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数643点。そのうち土器11点を図示した。

Ｈ－19号住居跡（Fig.13、PL.6）

位置 Ｘ28、Ｙ32・33グリッド **主軸方向** Ｎ－94°－Ｅ **形状等** 方形と推定される。東西（2.27）m、南北3.28m、壁現高40cmを測る。 **面積**（6.11）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。Ｄ－１（楕円形と推定される。規模82×（45）cm、深さ33cm）を検出する。 **竈** 調査区外にあると推定される。 **重複** Ｈ－20と重複し、新旧関係はＨ－20→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数483点。そのうち土器４点を図示した。

Ｈ－20号住居跡（Fig.13）

位置 Ｘ28、Ｙ33グリッド **主軸方向** ［Ｎ－87°－Ｅ］ **形状等** 一部分の検出のため平面形状は不明 東西（0.75）m、南北（0.57）m、壁現高28cmを測る。 **面積**（0.55）㎡ **床面** ほぼ平坦な床面 **竈** 調査区外と推定される。 **重複** Ｈ－19と重複し、本遺構→Ｈ－19の順である。 **時期** 重複関係から10世紀中頃以前の遺構と考えられる。 **出土遺物** 総数０点

Ｈ－21号住居跡（Fig.11、PL.5）

位置 Ｘ26・27、Ｙ33グリッド **主軸方向** Ｎ－65°－Ｅ **形状等** 方形と推定される。東西（0.90）m、南北（1.23）m、壁現高14cmを測る。 **面積**（0.66）㎡ **床面** 平坦な床面 **竈** 一部分の検出であるが東壁より検出され、主軸方向がＮ－52°－Ｅであり、全長（30）cm、最大幅（50）cm、焚口部幅（22）cmを測る。 **重複** なし **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 **出土遺物** 総数24点。

Ｈ－22号住居跡（Fig.７、PL.２）

位置 Ｘ27、Ｙ40グリッド **主軸方向** Ｎ－90°－Ｅ **形状等** 一部分の検出のため平面形状は不

明。東西（0.19）m、南北（1.95）m、壁現高10cmを測る。 **面積**（0.86）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**竈** 東壁より検出。主軸方向はN－92°－Eであり、全長90cm、最大幅80cm、焚口部幅50cmを測る。 **重複** H－3、D－46と重複し、新旧関係は本遺構→H－3、本遺構→D－46の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 **出土遺物** 総数117点。そのうち土器5点を図示した。

H－23号住居跡（Fig.13、PL.7）

位置 X19・20、Y42グリッド **主軸方向** N－78°－E **形状等** 一部分の検出のため平面形状は不明 東西3.48m、南北（0.98）m、壁現高18cmを測る。 **面積**（1.87）㎡ **床面** 平坦な地山の床面。P－1（円形、規模56×50cm、深さ13cm）を検出する。 **竈** H－45に切られたと考えられる。 **重複** H－45と重複し、新旧関係は本遺構→H－45の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀後半から終末と考えられる。 **出土遺物** 総数75点。そのうち土器1点を図示した。

H－24号住居跡（Fig.13、PL.7）

位置 X18・19、Y41・42グリッド **主軸方向** N－58°－E **形状等** 方形と推定される。東西3.45m、南北（3.01）m、壁現高4cmを測る。 **面積**（5.96）㎡ **床面** 平坦な地山の床面 **竈** 調査区外にあると推定される。 **重複** なし **時期** 不明 **出土遺物** 総数11点。

H－25号住居跡（Fig.14、PL7）

位置 X14・15、Y41・42グリッド **主軸方向** N－60°－E **形状等** 方形と推定される。東西3.45m、南北（2.35）m、壁現高6cmを測る。 **面積**（4.59）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－83°－Eであり、全長70cm、最大幅（68）cm、焚口部幅（57）cmを測る。 **重複** なし **時期** 埋土や出土遺物から9世紀後半以降と考えられる。 **出土遺物** 総数32点。そのうち土器2点を図示した。

H－26号住居跡（Fig.14、PL.7）

位置 X13・14、Y41・42グリッド **主軸方向** N－88°－E **形状等** 方形と推定される。東西2.88m、南北（1.67）m、壁現高40cmを測る。 **面積**（4.50）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面 **竈** 東壁より検出され、主軸方向がN－81°－Eであり、全長66cm、最大幅73cm、焚口部幅47cmを測る。 **重複** W－25と重複し、新旧関係は本遺構→W－25の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。 **出土遺物** 総数55点。そのうち土器2点を図示した。

H－27号住居跡（Fig.14、PL8）

位置 X12、Y40・41グリッド **主軸方向** N－86°－E **形状等** 正方形。東西3.00m、南北3.50m、壁現高32cmを測る。 **面積** 9.75㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。D－1（不整形、規模101×90cm、深さ12cm）を検出する。 **竈** 東壁中央部から検出され、主軸方向がN－82°－Eであり、全長110cm、最大幅112cm、焚口部幅57cmを測る。 **重複** なし **時期** 埋土や出土遺物から9世紀終末から11世紀初頭と考えられる。 **備考** 竈の両脇に棚があり。 **出土遺物** 総数116点。そのうち土器6点を図示した。

H－28号住居跡（Fig.15、PL.9）

位置 X11、Y42グリッド **主軸方向** N－88°－E **形状等** 方形と推定される。東西（1.13）m、

南北3.72m、壁現高25cmを測る。 **面積**（4.24）㎡ **床面** 平坦な床面 **竈** 東壁より検出され、主軸方向がN－67°－Eであり、全長100cm、最大幅78cm、焚口部幅48cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。 **重複** W－27と重複し、新旧関係は本遺構→H－28の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀中頃と考えられる。 **出土遺物** 総数106点。そのうち土器3点を図示した。

H－29号住居跡（Fig.15、PL.7）

位置 X11・12、Y40・41グリッド **主軸方向** N－81°－E **形状等** 方形と推定される。東西(2.55)m、南北3.28m、壁現高25cmを測る。 **面積**（7.41）㎡ **床面** 平坦で、部分的に堅緻な床面。P－1（楕円形と推定される。規模50cm×（30）cm、深さ23cm）を検出する。 **竈** 東壁南隅より検出され、主軸方向がN－88°－Eであり、全長110cm、最大幅112cm、焚口部幅57cmを測る。石が袖の構築材として使用されている。 **重複** なし **時期** 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数118点。そのうち土器3点を図示した。

H－30号住居跡（Fig.15）

位置 X11・12、Y39・40グリッド **主軸方向** N－92°－E **形状等** 方形と推定される。東西（1.21）m、南北3.19m、壁現高28cmを測る。 **面積**（3.46）㎡ **床面** 平坦で部分的に堅緻な床面 **竈** 調査区外にあると推定される。 **重複** H－47と重複し、新旧関係はH－47→本遺構の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。 **出土遺物** 総数60点。そのうち土器1点を図示した。

H－31号住居跡（Fig.16、PL.9）

位置 X11、Y39グリッド **主軸方向** ［N－96°－E］ **形状等** 一部分の検出のため平面形状は不明。東西（0.62）m、南北（2.56）m、壁現高14cmを測る。 **面積**（1.01）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－86°－Eであり、全長55cm、最大幅52cm、焚口部幅30cmを測る。 **重複** H－32、H－33、H－47と重複し、新旧関係はH－47→H－32→本遺構→H－33の順である。 **時期** 重複関係から10世紀終末の遺構と考えられる。 **出土遺物** 総数0点。

H－32号住居跡（Fig.16、PL.9）

位置 X11、Y39・40グリッド **主軸方向** N－85°－E **形状等** 方形と推定される。東西（1.33）m、南北3.12m、壁現高19cmを測る。 **面積**（2.86）㎡ **床面** ほぼ平坦で堅緻な床面 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－89°－Eであり、全長77cm、最大幅7cm、焚口部幅44cmを測る。 **重複** H－31、H－33、H－47と重複し、新旧関係はH－47→本遺構→H－31→H－33の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。 **出土遺物** 総数96点。そのうち土器3点を図示した。

H－33号住居跡（Fig.16、PL.10）

位置 X11、Y38・39グリッド **主軸方向** N－82°－E **形状等** ゆがんだ方形と推定される。東西（1.66）m、南北4.32m、壁現高30cmを測る。 **面積**（5.16）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。貯蔵穴（楕円形、規模（113）×100cm、深さ15cm）を検出する。 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－83°－Eであり、全長68cm、最大幅73cm、焚口部幅45cmを測る。粘土が構築材とし

て使用されている。　**重複**　H－31、H－32、H－47と重複し、新旧関係はH－47→H－32→H－31→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　**出土遺物**　総数74点。そのうち土器1点を図示した。

H－34号住居跡（Fig.16、PL.10）

位置　X11・12、Y38・39グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.71）m、南北3.46m、壁現高13cmを測る。　**面積**（8.07）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－33と重複し、新旧関係はH－33→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀終末から11世紀初頭と考えられる。　**出土遺物**　総数200点。そのうち土器3点を図示した。

H－35号住居跡（Fig.17、PL.10）

位置　X11・12、Y37・38グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　少しゆがんだ正方形。東西（3.08）m、南北3.48m、壁現高12cmを測る。　**面積**（9.78）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－110°－Eであり、全長56cm、最大幅56cm、焚口部幅30cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。　**重複**　H－36、D－66と重複し、新旧関係はH－36→本遺構→D－66の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　**出土遺物**　総数306点。そのうち土器3点を図示した。

H－36号住居跡（Fig.17、PL.11）

位置　X11・12、Y36・37グリッド　**主軸方向**　N－79°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（1.60）m、南北（3.45）m、壁現高8cmを測る。　**面積**（4.15）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面　D－1（方形と推定される。規模100cm×（95cm）、深さ8cm）を検出する。　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－35と重複し、新旧関係は本遺構→H－35の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数18点。そのうち土器2点を図示した。

H－37号住居跡（Fig.17、PL.11）

位置　X11、Y35グリッド　**主軸方向**　N－93°－Eと推定される。　**形状**　方形と推定される。東西（1.18）m、南北（2.16）m、壁現高15cmを測る。　**面積**（2.38）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　東壁より検出され、主軸方向がN－95°－Eであり、全長67cm、最大幅65cm、焚口部幅52cmを測る。　**重複**　H－38、H－39と重複し、新旧関係は本遺構→H－38→H－39の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数67点。そのうち土器2点を図示した。

H－38号住居跡（Fig.17、PL.11）

位置　X11・12、Y34・35グリッド　**主軸方向**　N－87°－Eと推定される。　**形状等**　方形と推定される。東西（1.75）m、南北（2.33）m、壁現高6cmを測る。　**面積**（3.43）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－37、H－39と重複し、新旧関係はH－37→本遺構→H－39の順である。　**時期**　重複関係から10世紀後半から終末の遺構と考えられる。　**出土遺物**　総数20点

H－39号住居跡（Fig.18、PL.11）

位置　X11・12、Y34・35グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（3.20）m、南北3.97m、壁現高24cmを測る。　**面積**（12.79）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。貯蔵穴（円形、規模56cm×50cm、深さ31cm）とD－1（円形と推定される。規模63cm×（53）cm、深さ37cm）を検出する。　**竈**　東壁南隅より検出され、主軸方向がN－93°－Eであり、全長（50）cm、最大幅62cm、焚口部幅35cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。　**重複**　新旧関係はH－37、H－38、H－40、H－41、H－47と重複し、H－37→H－38→本遺構、H－41→本遺構、H－40→本遺構→H－46の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　**出土遺物**　総数728点。そのうち土器3点を図示した。

H－40号住居跡（Fig.18、PL.12）

位置　X11、Y33・34グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（1.85）m、南北［2.23］m、壁現高20cmを測る。　**面積**（3.82）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　東壁より検出され、主軸方向がN－86°－Eであり、全長70cm、最大幅75cm、焚口部幅60cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。　**重複**　H－39と重複し、新旧関係は本遺構→H－39→H－46の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。　**出土遺物**　総数186点。そのうち土器4点を図示した。

H－41号住居跡（Fig.19、PL.12）

位置　X11・12、Y33・34グリッド　**主軸方向**　N－82°－Eと推定される。　**形状等**　方形と推定される。東西（2.78）m、南北（2.83）m、壁現高15cmを測る。　**面積**（4.13）㎡　**床面**　平坦な堅緻な床面　**竈**　調査区外にあると推定される。　**重複**　H－39、W－29と重複し、新旧関係は本遺構→H－39→W－29の順である。　**時期**　重複関係から10世紀終末以前の遺構と考えられる。　**出土遺物**　総数4点。

H－42号住居跡（Fig.18、PL.12）

位置　X11、Y32・33グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.09）m、南北2.98m、壁現高23cmを測る。　**面積**（6.15）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－90°－Eであり、全長70cm、最大幅85cm、焚口部幅68cmを測る。　**重複**　W－29と重複し、新旧関係は本遺構→W－29の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　総数155点。そのうち土器4点を図示した。

H－43号住居跡（Fig.19、PL.12）

位置　X14・15、Y32・33グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　方形と推定できる。東西2.99m、南北（2.72）m、壁現高10cmを測る。　**面積**（7.83）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。貯蔵穴（楕円形、規模48cm×40cm、深さ15cm）とD－1（円形、規模45cm×43cm、深さ26cm）を検出する。　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－92°－Eであり、全長58cm、最大幅75cm、焚口部幅52cmを測る。　**重複**　なし　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　**出土遺物**　総数53点。そのうち土器2点を図示した。

H－44号住居跡（Fig.9、PL.3）

位置　X28、Y37グリッド　**主軸方向**　N－80°－Eと推定される。　**形状等**　一部分の検出のため平面形状は不明。東西（0.85）m、南北（1.54）m、壁現高23cmを測る。　**面積**（1.20）㎡　**床面**

平坦な床面　竈　H－9とH－10に切られ欠損　重複　H－9、H－10と重複し、新旧関係は本遺構→H－10→H－9の順ある。　時期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数54点。そのうち土器3点を図示した。

H－45号住居跡（Fig.13、PL.7）

位置　X19～21、Y42グリッド　主軸方向　N－73°－E　形状等　ゆがんだ方形と推定できる。東西3.90m、南北（2.47）m、壁現高40cmを測る。　面積（6.31）㎡　床面　平坦な地山の床面　竈　東壁より検出され、主軸方向がN－79°－Eであり、全長（82）cm、最大幅（74）cm、焚口部幅（55）cmを測る。　重複　H－23と重複し、新旧関係はH－23→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から9世紀終末と考えられる。　出土遺物　総数96点。そのうち土器9点を図示した。

H－46号住居跡（Fig.18）

位置　X11、Y34グリッド　面積（0.17）㎡　竈　主軸方向がN－82°－Eであり、全長（40）cm、最大幅（50）cm、焚口部幅（25）cmを測る。　重複　H－39、H－40と重複し、新旧関係はH－40→H－39→本遺構の順である。　時期　埋土や出土遺物から10世紀中頃以降と考えられる。　備考　本遺構は竈の一部分だけの検出である。　出土遺物　総数37点。そのうち土器3点を図示した。

H－47号住居跡（Fig.19、PL.13）

位置　X11、Y39・40グリッド　主軸方向　N－90°－E　形状等　長方形と推定される。東西2.67m、南北4.14m、壁現高34cmを測る。　面積［9.70］㎡　床面　平坦で堅緻な床面。貯蔵穴（不整形、規模52cm×46cm、深さ46cm）とD－1（正方形、規模55cm×53cm、深さ32cm）を検出する。　竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－95°－Eであり、全長102cm、最大幅80cm、焚口部幅30cmを測る。石が支脚と袖の構築材として使用されている。　重複　H－30、H－31、H－32、D－69と重複し、新旧関係はH－30→本遺構→H－32→H－31、本遺構→D－69の順である。　時期　埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。　出土遺物　総数502点。そのうち土器18点を図示した。

2　溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.20、PL.14）

位置　X28～35、Y41・42グリッド　方位　東壁よりN－77°－Eの方向で西へ9.72m進み、そこから西へN－90°の方向で18.68m進む。　形状等　断面はU字形を呈し、上幅62～50cm、深さ28cm、長さ（28.46）mを測る。　出土遺物　なし　時期　H－2に切られていることから、10世紀より前に存在していた溝と推定される。

W－2号溝跡（Fig.20、PL.14）

位置　X32～35、Y41・42グリッド　方位　東壁よりN－89°－Eの方向で西へ7.76m進み、そこから湾曲しながら西へN－57°－Eの方向で4.79m進。　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅261～96cm、深さ28cm、長さ（12.50）mを測る。　出土遺物　なし　時期　Hr-FP軽石が埋土のことから、6世紀中頃以前に存在していた溝と推定される。

W－3号溝跡

位置　X27～29、Y37～42グリッド　方位　N－21°－W　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅84

～34cm、深さ6cm、長さ（21.50）mを測る。　**出土遺物**　総数27点　**時期**　土層等から土地改良前まで存在していた新しい溝だと推定される。　**備考**　出土遺物については流れ込んだものと推定される。

W－4号溝跡

位置　X27～29、Y38～42グリッド　**方位**　N－28°－W　**形状等**　断面はU字形を呈し、上幅100～24、深さ7cm、長さ（19.40）mを測る。　**出土遺物**　総数57点　**時期**　土層等から土地改良前まで存在していた新しい溝だと推定される。　**備考**　出土遺物については流れ込んだものと推定される。

W－5号溝跡（Fig.20、PL.14）

位置　X27・28、Y39グリッド　**方位**　N－88°－W　**形状等**　断面は楕円形を呈し、上幅73～66cm、深さ30cm、長さ（2.52）mを測る。　**出土遺物**　総数2点　**時期**　H－3、H－8に切られていることから、10世紀中頃より前に存在していた溝と推定される。

W－6号溝跡（Fig.20）

位置　X27・28、Y38グリッド　**方位**　N－77°－W　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅121～95cm、深さ42cm、長さ（4.98）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W－7号溝跡（Fig.20、PL.14）

位置　X26・27、Y41・42グリッド　**方位**　N－25°－W　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅121～95cm、深さ42cm、長さ（4.98）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　溝の中にAs-B混土が流れ込んでいることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W－8号溝跡（Fig.21、PL.14）

位置　X25・26、Y32・33グリッド　**方位**　N－43°－E　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅160～129cm、深さ48cm、長さ（5.65）mを測る。　**出土遺物**　総数372点。そのうち土器1点を図示した。　**時期**　図示した須恵器の甕の破片が溝底部より出土したことから、8世紀後半から9世紀の間に存在していた溝と推定される。

W－9号溝跡（Fig.21）

位置　X26～28、Y32・33グリッド　**方位**　N－62°－E　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅39～21cm、深さ16cm、長さ（9.22）mを測る。　**出土遺物**　総数101点　**時期**　埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W－10号溝跡（Fig.20、PL.14）

位置　X25・26、Y41・42グリッド　**方位**　N－33°－W　**形状等**　断面は楕円形を呈し、上幅152～127cm、深さ40cm、長さ（4.98）mを測る。　**出土遺物**　総数104点　**時期**　埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W－11号溝跡北（Fig.20）

位置　X15～19、Y32・33グリッド　方位　N－14°－W　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅1330～1310cm、深さ88cm、長さ（4.40）mを測る。　出土遺物　なし　時期　土地改良前に存在していた溝と推定できる。

W－11号溝跡南（Fig.20）
位置　X20～25、Y41・42グリッド　方位　N－40°－W　形状等　長さ5.50mを測る。出土遺物　なし　時期　埋土から土地改良前に存在していた溝と推定できる。

W－12号溝跡（Fig.12）
位置　X25・26、Y32・33グリッド　方位　N－39°－E　形状等　断面は逆台形を呈し、上幅26～21cm、深さ8cm、長さ（5.86）mを測る。　出土遺物　なし　時期　埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W－13号溝跡（Fig.21、PL.14）
位置　X24・25、Y32・33グリッド　方位　N－26°－E　形状等　断面はすり鉢形を呈し、上幅51～28cm、深さ18cm、長さ（5.01）mを測る。　出土遺物　なし　時期　埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W－14号溝跡（Fig.21、PL.14）
位置　X24・25、Y32・33グリッド　方位　N－50°－W　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅48～19cm、深さ6cm、長さ（3.83）mを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下より検出されたので、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W－15号溝跡（Fig.21）
位置　X22・23、Y32・33グリッド　方位　N－8°－W　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅83～31cm、深さ17cm、長さ（4.51）mを測る。　出土遺物　総数38点　時期　As-B混土層の下より検出されたので、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W－16号溝跡（Fig.21）
位置　X22・23、Y32・33グリッド　方位　N－25°－W　形状等　断面はすり鉢形を呈し、上幅85～51cm、深さ39cm、長さ（4.89）mを測る。　出土遺物　総数11点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W－17号溝跡北
位置　X21・22、Y32・33グリッド　方位　N－17°－W　形状等　上幅377～368cm、深さ（18）cm、長さ（4.48）mを測る。　出土遺物　なし　時期　埋土から土地改良前まで存在していた新しい溝と考えられる。

W－17号溝跡南
位置　X25・26、Y41・42グリッド　方位　N－18°－W　形状等　上幅280～150cm、長さ（4.58）mを測る。　出土遺物　なし　時期　埋土から土地改良前まで存在した新しい溝跡と考えられる。

W－18号溝跡（Fig.21、PL.14）

位置　X20・21、Y32・33グリッド　**方位**　N－47°－W　**形状等**　断面は逆台形を呈し、上幅45～24cm、深さ20cm、長さ（5.15）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前に存在した溝と推定できる。

W－19号溝跡（Fig.21）

位置　X27・28、Y35グリッド　**方位**　N－47°－W　**形状等**　断面は楕円形を呈し、上幅35～28cm、深さ9cm、長さ（3.76）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前に存在した溝と推定できる。

W－20号溝跡（Fig.21）

位置　X25、Y42グリッド　**方位**　N－74°－E　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅82～67cm、深さ16cm、長さ（2.62）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　埋土がHr-FA軽石であることから、6世紀初頭以前に存在していた溝と推定できる。

W－21号溝跡（Fig.22）

位置　X17・18、Y41・42グリッド　**方位**　N－37°－W　**形状等**　断面は楕円形を呈し、上幅70～50cm、深さ20cm、長さ（5.78）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W－22号溝跡（Fig.22）

位置　X17・18、Y41・42グリッド　**方位**　N－35°－W　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅70～54cm、深さ26cm、長さ（5.56）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W－23号溝跡北（Fig.23）

位置　X16～18、Y41・42グリッド　**方位**　N－37°－W　**形状等**　断面はすり鉢形を呈し、上幅216～186cm、深さ82cm、長さ（6.35）mを測る。　**出土遺物**　総数10点　**時期**　土地改良前まで存在していた新しい溝と推定できる。

W－24号溝跡（Fig.22）

位置　X15・16、Y41グリッド　**方位**　N－63°－E　**形状等**　断面は楕円形を呈し、上幅39～19cm、深さ7cm、長さ（2.51）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

W－25号溝跡（Fig.21）

位置　X14・15、Y41・42グリッド　**方位**　北壁より南へN－26°－Eの方向で約3.4m進み、そこから東へN－69°－Eの方向で約4.8m進む。　**形状等**　断面は楕円形を呈し、上幅55～26cm、深さ13cm、長さ（8.17）mを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　土地改良前まで存在していた新しい溝と推定できる。

W－26号溝跡　欠番

W－27号溝跡（Fig.22）
位置　X11、Y42グリッド　方位　N－21°－W　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅24～18cm、深さ29cm、長さ（2.70）mを測る。　出土遺物　なし　時期　土地改良前まで存在していた新しい溝と推定できる。

W－28号溝跡（Fig.22）
位置　X11・12、Y41グリッド　方位　N－79°－E　形状等　断面はU字形を呈し、上幅38～27cm、深さ20cm、長さ（5.30）mを測る。　出土遺物　総数5点　時期　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W－29号溝跡（Fig.22）
位置　X11・12、Y32から34グリッド　方位　N－13°－W　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅35～18cm、深さ6cm、長さ（8.20）mを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W－30号溝跡
位置　X11・12、Y36グリッド　方位　N－85°－W　形状等　断面は（U字形）を呈し、上幅50～35cm、深さ34cm、長さ（3.43）mを測る。　出土遺物　なし　時期　土地改良前に存在していた新しい溝と推定できる。

W－31号溝跡（Fig.22）
位置　X11・12、Y35・36グリッド　方位　N－80°－W　形状等　断面は逆台形を呈し、上幅111～95cm、深さ50cm、長さ（3.45）mを測る。　出土遺物　なし　時期　土地改良前に存在していた新しい溝と推定できる。

W－32号溝跡（Fig.22）
位置　X11・12、Y35グリッド　方位　N－84°－W　形状等　断面はU字形を呈し、上幅24～18cm、深さ7cm、長さ（3.41）mを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W－33号溝跡（Fig.33）
位置　X12、Y32・33グリッド　方位　N－21°－E　形状等　上幅41～23cm、長さ（5.96）mを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

W－34号溝跡（Fig.23）
位置　X12・13、Y32・33グリッド　方位　N－21°－E　形状等　断面は楕円形を呈し、上幅118～76cm、深さ23cm、長さ（5.20）mを測る。　出土遺物　総数11点　時期　不明

W－35号溝跡（Fig.23）
位置　X18、Y41・42グリッド　方位　N－33°－W　形状等　断面はすり鉢形を呈し、上幅30～12cm、深さ19cm、長さ（3.42）mを測る。　出土遺物　総数8点　時期　埋土にHr-FP軽石が含まれることから6世紀中頃より前に存在していた溝と推定できる。　備考　埋土等からW－36とつな

がる可能性があると考えられる。

W－36号溝跡（Fig.36）
位置　X13・14、Y33グリッド　方位　N－37°－W　形状等　断面は逆台形を呈し、上幅54～48cm、深さ27cm、長さ（3.10）mを測る。　出土遺物　なし　時期　埋土にHr-FP軽石が含まれることから6世紀中頃より前に存在した溝と推定できる。　備考　埋土等からW－35とつながる可能性があると考えられる。

3　土　　坑

D－1号土坑（Fig.24）
位置　X29・30、Y41グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸45cm、短軸35cm、深さ5cmを測る。　出土遺物　総数27点　時期　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

D－2号土坑（Fig.24）
位置　X29、Y41グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸56cm、短軸56cm、深さ16cmを測る。　出土遺物　総数12点　時期　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

D－3号土坑
位置　X27、Y42グリッド　形状等　平面形状は菱形を呈し、長軸33cm、短軸32cm、深さ6cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－4号土坑
位置　X30・31、Y41グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸57cm、短軸50cm、深さ34cmを測る。　出土遺物　総数7点　時期　As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－5号土坑（Fig.24）
位置　X30・31、Y41グリッド　形状等　平面形状は（楕円形）を呈し、長軸69cm、短軸（29）cm、深さ10cmを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－6号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y42グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸81cm、短軸55cm、深さ8cmを測る。　出土遺物　総数22点　時期　不明

D－7号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y42グリッド　形状等　平面形状は（円形）を呈し、長軸27cm、短軸（21）cm、深さ5cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－8号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y42グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸18cm、短軸14cm、深さ3cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－9号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y42グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸14cm、短軸14cm、深さ3cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－10号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y42グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸15cm、短軸10cm、深さ3cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－11号土坑
位置　X28、Y42グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸10cm、短軸10cm、深さ4cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－12号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y41・42グリッド　形状等　平面形状は不整形を呈し、長軸79cm、短軸44cm、深さ9cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－13号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y41グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸17cm、短軸15cm、深さ8cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－14号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y41グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸18cm、短軸17cm、深さ5cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－15号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y41グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸18cm、短軸12cm、深さ3cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－16号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y41グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸12cm、短軸10cm、深さ3cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－17号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y41グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸12cm、短軸14cm、深さ2cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－18号土坑（Fig.24）
位置　X27・28、Y41グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸95cm、短軸85cm、深さ6cmを測る。　出土遺物　総数11点　時期　不明

D－19号土坑（Fig.24）
位置　X27、Y41グリッド　形状等　平面形状は隅丸方形を呈し、長軸33cm、短軸21cm、深さ5cm

を測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

D－20号土坑（Fig.24）
位置　X27、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸13cm、短軸13cm、深さ2cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

D－21号土坑（Fig.24）
位置　X27、Y40グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸13cm、短軸11cm、深さ3cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

D－22号土坑（Fig.24）
位置　X28・29、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸125cm、短軸98cm、深さ26cmを測る。　**出土遺物**　総数47点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－23号土坑（Fig.24）
位置　X28、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は隅丸方形を呈し、長軸174cm、短軸（54）cm、深さ14cmを測る。　**出土遺物**　総数7点　**時期**　As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－24号土坑
位置　X28、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸9cm、短軸8cm、深さ4cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

D－25号土坑　　欠番

D－26号土坑（Fig.24）
位置　X34、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は（円形）を呈し、長軸150cm、短軸（72）cm、深さ16cmを測る。　**出土遺物**　総数18点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－27号土坑（Fig.24）
位置　X27・28、Y39グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸70cm、短軸51cm、深さ8cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－28号土坑（Fig.24）
位置　X27、Y40グリッド　**形状等**　平面形状は隅丸正方形を呈し、長軸79cm、短軸（52）cm、深さ（20）cmを測る。　**出土遺物**　総数98点　**時期**　As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－29号土坑（Fig.25）

位置　X28、Y39グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸86cm、短軸73cm、深さ15cmを測る。　出土遺物　総数23点　時期　不明

D－30号土坑　　欠番

D－31号土坑（Fig.20）
位置　X28、Y38グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸114cm、短軸110cm、深さ44cmを測る。　出土遺物　なし　時期　不明

D－32号土坑（Fig.25）
位置　X27、Y34・35グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸55cm、短軸47cm、深さ４cmを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－33号土坑（Fig.10）
位置　X28、Y34グリッド　形状等　平面形状は菱形を呈し、長軸79cm、短軸66cm、深さ56cmを測る。　出土遺物　総数21点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－34号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y34グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸40cm、短軸40cm、深さ６cmを測る。　出土遺物　総数10点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－35号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y34グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸27cm、短軸21cm、深さ７cmを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－36号土坑（Fig.25）
位置　X27、Y34グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸39cm、短軸33cm、深さ20cmを測る。　出土遺物　総数３点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－37号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y33グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸69cm、短軸64cm、深さ68cmを測る。　出土遺物　総数54点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－38号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y34グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸72cm、短軸65cm、深さ14cmを測る。　出土遺物　総数17点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土

坑と考えられる。

D－39号土坑（Fig.25）
位置　X27・28、Y33グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸87cm、短軸64cm、深さ8cmを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－40号土坑　　欠番

D－41号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y34グリッド　形状等　平面形状は不整形を呈し、長軸51cm、短軸39cm、深さ38cmを測る。　出土遺物　総数16点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－42号土坑（Fig.25）
位置　X27、Y33～33グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸87cm、短軸85cm、深さ6cmを測る。　出土遺物　総数26点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－43号土坑（Fig.25）
位置　X27、Y33グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸47cm、短軸44cm、深さ8cmを測る。　出土遺物　なし　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－44号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y33グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸71cm、短軸62cm、深さ18cmを測る。　出土遺物　総数5点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－45号土坑（Fig.25）
位置　X27、Y33グリッド　形状等　平面形状は円形を呈し、長軸30cm、短軸27cm、深さ15cmを測る。　出土遺物　総数1点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－46号土坑（Fig.7）
位置　X27、Y40グリッド　形状等　平面形状は楕円形を呈し、長軸109cm、短軸71cm、深さ18cmを測る。　出土遺物　総数5点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－47号土坑（Fig.25）
位置　X27、Y32グリッド　形状等　平面形状は（楕円形）を呈し、長軸126cm、短軸90cm、深さ11cmを測る。　出土遺物　総数2点　時期　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以

前の土坑と考えられる。

D－48号土坑（Fig.25）
位置　X27・28、Y32グリッド　**形状等**　平面形状は不整形を呈し、長軸89cm、短軸82cm、深さ16cmを測る。　**出土遺物**　総数3点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－49号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y33・34グリッド　**形状等**　平面形状は不整形を呈し、長軸133cm、短軸58cm、深さ48cmを測る。　**出土遺物**　総数16点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－50号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y34グリッド　**形状等**　平面形状は不整形を呈し、長軸49cm、短軸40cm、深さ36cmを測る。　**出土遺物**　総数4点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－51号土坑（Fig.25）
位置　X28、Y34グリッド　**形状等**　平面形状は（円形）を呈し、長軸120cm、短軸（98）cm、深さ6cmを測る。　**出土遺物**　総数1点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－52号土坑（Fig.25）
位置　X19、Y41・42グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸95cm、短軸78cm、深さ6cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－53号土坑（Fig.25）
位置　X18、Y41・42グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸35cm、短軸35cm、深さ4cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－54号土坑（Fig.25）
位置　X18、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸52cm、短軸38cm、深さ6cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－55号土坑
位置　X18、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸143cm、短軸76cm、深さ24cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－56号土坑（Fig.25）
位置　X16・17、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸91cm、短軸76cm、深さ3cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－57号土坑（Fig.25）
位置　X16、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は不整形を呈し、長軸（68）cm、短軸60cm、深さ8cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－58号土坑（Fig.25）
位置　X16・17、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は不整形を呈し、長軸82cm、短軸47cm、深さ9cmを測る。　**出土遺物**　総数1点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－59号土坑（Fig.25）
位置　X15、Y42グリッド　形状等　平面形状は正方形を呈し、長軸71cm、短軸66cm、深さ3cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－60号土坑（Fig.21）
位置　X15、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸136cm、短軸140cm、深さ52cmを測る。　**出土遺物**　総数9点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－61号土坑　　欠番

D－62号土坑（Fig.25）
位置　X13、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は（円形）を呈し、長軸96cm、短軸（50）cm、深さ12cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－63号土坑（Fig.26）
位置　X12、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸92cm、短軸65cm、深さ14cmを測る。　**出土遺物**　総数2点　**時期**　As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－64号土坑（Fig.26）
位置　X12・13、Y41・42グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸57cm、短軸78cm、深さ17cmを測る。　**出土遺物**　総数3点　**時期**　As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－65号土坑

位置　X12、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸50cm、短軸21cm、深さ24cmを測る。　**出土遺物**　総数6点　**時期**　埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－66号土坑（Fig.17）

位置　X11、Y37グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸110cm、短軸108cm、深さ19cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　不明

D－67号土坑（Fig.26）

位置　X11、Y33グリッド　**形状等**　平面形状は円形を呈し、長軸95cm、短軸93cm、深さ15cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－68号土坑（Fig.26）

位置　X15、Y42グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸51cm、短軸44cm、深さ4cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－69号土坑（Fig.26）

位置　X11・12、Y39グリッド　**形状等**　平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸145cm、短軸76cm、深さ17cmを測る。　**出土遺物**　総数2点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－70号土坑（Fig.26）

位置　X19・20、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は正方形を呈し、長軸142cm、短軸133cm、深さ30cmを測る。　**出土遺物**　総数28点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－71号土坑（Fig.26、PL.15）

位置　X11・12、Y33グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸210cm、短軸（130）cm、深さ15cmを測る。　**出土遺物**　総数80点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことや出土遺物から、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D－72号土坑（Fig.26）

位置　X12、Y40・41グリッド　**形状等**　平面形状は（円形）を呈し、長軸83cm、短軸（44）cm、深さ42cmを測る。　**出土遺物**　総数6点　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前に存在した土坑と考えられる。

D－73号土坑

位置　X16、Y32グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸（54）cm、短軸49cm、深さ13cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土の遺構面となる土坑なので、As-B降下以降の土坑

と考えられる。　**備考**　馬の骨（歯骨）が検出された。

4　柱　穴

P－1号柱穴（Fig.26）

位置　X32、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は（円形）を呈し、長軸46cm、短軸（39）cm、深さ18cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の柱穴と推定できる。　**備考**　Ⅰ－1号井戸跡に伴うものである可能性が考えられる。

P－2号柱穴（Fig.26）

位置　X32、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は楕円形を呈し、長軸48cm、短軸42cm、深さ31cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の柱穴と推定できる。　**備考**　Ⅰ－1号井戸跡に伴うものである可能性が考えられる。

P－3号柱穴（Fig.26）

位置　X32、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は長方形を呈し、長軸51cm、短軸44cm、深さ62cmを測る。　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の柱穴と推定できる。　**備考**　Ⅰ－1号井戸跡に伴うものである可能性が考えられる。

5　井戸跡

Ⅰ－1号井戸跡（Fig.27、PL.15）

位置　X32・33、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は（方形）を呈し、長軸（155）cm、短軸（49）cm、深さ（200）cmを測る。　**出土遺物**　総数218点　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀終末から10世紀前半のものと思われる。

6　落ち込み

O－1号落ち込み

位置　X32・33、Y38グリッド　**形状等**　平面形状は不整形　**出土遺物**　総数83点　**時期**　不明　**備考**　出土遺物は流れ込みによるものと思われる。

O－2号落ち込み（Fig.27）

位置　X34、Y41グリッド　**形状等**　平面形状は不整形　**出土遺物**　なし　**時期**　As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

7　土器溜まり

X－1号土器溜まり（Fig.27、PL.15）

位置　X33、Y41グリッド　**出土遺物**　総数301点。そのうち土器8点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀前半のものと考えられる。　**備考**　井戸跡に関連する可能性が考えられる。

8　グリッド等出土遺物

小破片を含め総数4,787点の遺物を出土した。そのうち、土器6点を図示した。

Ⅵ 考　　察

1　遺構について

現耕作土より約50cmほど掘り下げると浅間Ｂ降下（1108年）軽石混土層が検出され、その下より遺構面が確認された。土層や出土遺物から主に９世紀から11世紀の平安時代の集落跡遺跡であると考えられる。発掘の結果、竪穴住居跡47軒、溝跡36条、土坑73基、柱穴３基、井戸跡１基、落ち込み跡２基が検出された。それらについては、Ⅴ　遺構と遺物のところで遺構個々に説明してあり、ここでは各種遺構について総括的に考えてみたい。隣の前田Ⅵ遺跡の調査区より検出されたAs-B純層下の水田跡、水田よりも住居跡は高いところに構築されると考えられることから、当時の生活面は現在の遺構面より約20cm以上高いことが予想される。本遺跡は６ｍの道路部分の発掘調査であり、考察にも限りがあることを付け加えておきたい。

(1)　竪穴住居跡

埋土や出土遺物、重複関係から、９世紀代に構築されたと考えられる住居跡が７軒、９世紀終末から10世紀初頭と考えられる住居跡が１軒、10世紀代と考えられる住居跡が31軒、10世紀終末から11世紀初頭と考えられる住居跡が２軒、11世紀代と考えられる住居跡が１軒、時期を限定できない住居跡が５軒、計47軒が検出された。ここではある程度時期を限定できた住居跡について、時期ごとに住居跡の特徴等を考察したい。

９世紀代と考えられる住居跡は調査区の主に南西部に確認された。規模は、東西方向で一辺３ｍ弱から3.5ｍの範囲でほぼ同じ規模を呈している。また、どれも部分的な検出にとどまり、形状は方形とは推定できるがはっきり確認できない。大きい溝跡Ｗ－11近くのＨ－45は礫の混じった湿った砂層の地山まで掘り込んで構築されているが、貼り床がなく地山が床面となっているものであった。Ｈ－25・26も同様であった。Ｈ－12・23・28・36は地山まで掘り込んで構築され、堅緻な貼り床が確認された。住居跡の主軸方向はすべてほぼ真東であり、この時期、同じ方向に向かって住居跡が建てられていることが分かる。竈については、検出された住居跡はすべて東壁に確認され、中央から南寄りに位置する。竈の主軸方向は北北東から東の間である。内部施設としては、３軒の住居跡から１つずつ柱穴が検出されているだけであり、それ以外の住居跡については検出されていない。

10世紀代と考えられる住居跡は、この遺跡から検出された住居跡の半数以上にのぼる。規模は、東西方向で一辺３ｍ弱から５ｍ強まで存在し、９世紀代よりもバラエテイーに富む。規模については規則性は認められない。形状については、方形とは推定できるもののはっきりと確認できない。地山まで掘り込んで構築されているものが多い。しかし、９世紀代と違いすべての住居跡で地山のブロックを含んだ土によって作られた顕著な堅緻な貼り床が確認できる。湿った地山の堀り方の住居跡では床面や壁、竈に粘土を貼ることによって、住居内を湿気から守る工夫がなされている。住居跡の主軸方向については、Ｈ－11以外はほぼ真東の方向である。竈については、検出されたものはすべて東壁であり、10世紀代前半、後半に関わらず中央から南隅までに位置する。住居跡の主軸方向において一つだけ違う方向に位置したＨ－11についても竈の主軸方位ははほぼ真東の方向に向いており　、他の住居跡もほぼ真東の方向を示す。構築材としては、検出されたものからは支脚石や袖石、粘土が確認できたものが多かった。内部施設としては10軒の住居跡から貯蔵穴、柱穴、土坑等が確認された。

11世紀代と考える住居跡としてはＨ－１があり、検出された部分の規模は南北方向で10世紀代の

大きい住居跡H－5同じぐらいと考えられる。住居跡、竈の主軸方向についてはほぼ真東の方向で9・10世紀代の住居跡との違いは認められない。その他についても違いは見受けられない。

本遺跡は9世紀代から11世紀代の集落跡と考えられその前後の遺構は1つも検出することができず、As-B降下以前にこの集落は消滅してしまったのか、また、その後のこの周辺の人々はどこでどんな生活をしていたのか、疑問が残った。本調査区は狭いため、実際には調査区の周りには11世紀以降の建物跡が存在するのかもしれない。しかし、今までの過去の遺跡調査の結果等から次のようなことが分かった。律令制度による税の徴収のため新しい水田の開発が進められ、それに伴う9・10世紀の集落が出現した。古くから存続している集落は別だが、この遺跡のような9・10世紀に作られた集落の中には一時的には集落を形成するが、高い税の徴収等により寺社の荘園で働く小作人や新しいところへ移住する人々が出てきて、11世紀代になると消滅する集落が出てくるようである。

(2) 溝跡

住居跡と同時期もしくはそれ以前の17条の溝について考察したい。調査区の中央を北北西から南南東の方向に大きいW－11が流れている。底にAs-B純層、その上にAs-B混土層が多量に堆積しており、As-B降下以前、利用されていたことが分かる。この溝跡を挟み、両側に集落跡が存在している。当時の人たちは、この溝跡又はその支流になるであろうその他の溝跡、及び後ほど考察する井戸跡の水を生活用水として利用していたものと思われる。特に、出土遺物の多かったW－8については当時の人々の生活用水として使用されていたことが窺われる。

(3) 土坑

調査区の主に北東の隅に土坑が集中的に検出された。ここから検出された土坑は埋土をAs-B混土とするものが多くAs-B降下以前の土坑と考えられ、中には柱穴になると予想されるものもあったが、調査区の幅が約6mと狭いため、掘立柱建物を推定できず土坑のまま処理した。

(4) 井戸跡

当初はきれいな川原石で規則正しく石が積まれ構築された石組みの井戸跡であることから住居跡の時期よりも新しいものと予想されたが、As-B混土層の下から検出されたことや井戸の埋土の中から出土した遺物の判定から9世紀終末から10世紀前半のものであると考えられる。そうであるとすれば、この集落の住居跡と時期を同じくして存在したこととなり当時の人々の生活用水として使用されていたこととなる。調査区周辺は低湿地であり、当時の溝の氾濫などによりきれいな生活用水の確保が難しかったと想像され、井戸跡の構造上、個人ではなく共同でこの井戸を使用していたものと考えられる。また、この井戸跡は埋土の土層から人工的に埋められたものではなく、自然の堆積の中で埋まっていったものと考えられる。

2　遺物について

(1) はじめに

前田V遺跡出土土器についていくつかの住居出土資料において一括性が高いと認められ、かつ器種に偏りが無いものをとりあげ、県下における当該期の編年状況に照らし合わせ、出土土器群の位置づけをしてみたい。ここでは住居出土資料を扱うのだが、各住居ともに甕形土器・杯形土器・椀形土器[1]（以下「形土器」を省略）の三つの器種がほぼ共伴しており他の資料との比較が容易であることから取り上げた。また、本来は遺跡（周辺地域）ごとに出土資料の編年を組み立てるべきで

あるが、調査の性格上集落すべてを把握するに至らないことと、編年作業に耐えうる出土資料が少ないと判断したため既存の編年・編年案を参考におおよその年代観をあたえるにとどめたい。

(2) 出土土器の検討

各住居出土資料の様相を既存の編年に照らし合わせると(2)10号住居→18号住居・47号住居→5号住居→14号住居という変遷が伺える。各住居出土土器の様相を簡単に述べると、10号住居は甕が「コ」の字状口縁前段階の特徴をもち、須恵器椀の口径（14～15cm）及び底径（7～8cm）が比較的大きい。18号住居・47号住居は甕が「コ」の字状口縁が崩れた形態でまた、須恵器椀は底径が小さくなる傾向にあり、78, 162, 163のような比較的小さな底部（5～7cm）から湾曲気味に立ち上がり口縁部に至る形態のものと76のような高台張り付けが雑になるものが見受けられ、小型のロクロ整形（調整）による甕も出現する。5号住居は甕が「コ」の字状口縁が崩れた形態で煮沸形態に羽釜形土器が加わり、須恵器杯は18,(19)のような比較的小さな底部（5cm）からやや外反気味にたちあがり口縁部に至る口径の大きな（12～13cm）形態が見られる。14号住居は羽釜の口縁部がやや直立気味の形態のものと須恵器杯において小形化したものが見られ、また高台の高くなったもの、内面をミガキと黒色処理を施した椀も見受けられる。各住居出土土器は10号住居が9世紀前半、18・47号住居が9世紀後半、5号住居が10世紀前半、14号住居が10世紀後半～11世紀前半というおおよその年代観が与えられよう。

(3) まとめ—若干の検討課題—

前田V遺跡出土土器を通して若干の検討課題を述べまとめに代えてみたい。

甕形土器について、当遺跡では典型的な「コ」の字状口縁の型式の資料が少ないのだが、10号住居、18・47号住居といった資料に見られるように、その前後の形態は見受けられる。10号住居と18・47号住居の甕を比べると前者は口縁部が緩やかに外反し長めであるのに対し、後者は短く外反する口縁形態をもち、この点からも前者と後者の分類が可能である。また、口縁端部の形態も前者は内面にわずかに肥厚するもの（51）と内外面から上方へつまみ出され外面に面（凹線状のくぼみ）をもつもの（52）が見られるのに対し、後者は外側に面をもち一条の沈線状のくぼみが見られる（81、156、157)(3)。「コ」の字状口縁の甕にもこの一条の沈線状のくぼみが多く見られ、この口縁端部の形態（調整）上の属性からも18・47号住居の甕はいわゆる「コ」の字崩れの段階の甕と見ることが出来る。なかでも47号住居の甕156, 157は「コ」の字状口縁の甕の特徴である頸部と体部との境に見られる明瞭なナデによる段差がなく、比較的器壁が厚く、形態的にも短く外反する「く」の字状口縁の甕と分類出来る(4)。47号住居の甕は羽釜が共伴しておらず一時期を反映している可能性があり、桜岡氏のCIV類甕と比較すると「コ」の字状口縁甕に形態的により近い様相を示している。その次の段階として18号住居甕82、45号住居甕158などがあげられ、検討を要するが恐らく「土師器甕」に属し、後の段階に多く見られる「土釜」とは区別すべきであろう。また、「コ」の字状口縁甕の出現以降を見ると甕形土器にバラエティーが見られ単に「コ」の字崩れの範疇でそれが捨象され得るものではなく、系統差がここに見られる可能性がある。すなわち甕形土器の「多様化」は単に規範の崩れだけではなく「生産体制」の変容を反映してのではなかろうか(5)。

以上、まことに身勝手なことを書き連ねてきたが今後の検討課題としてまとめに代えさせていただきたい。

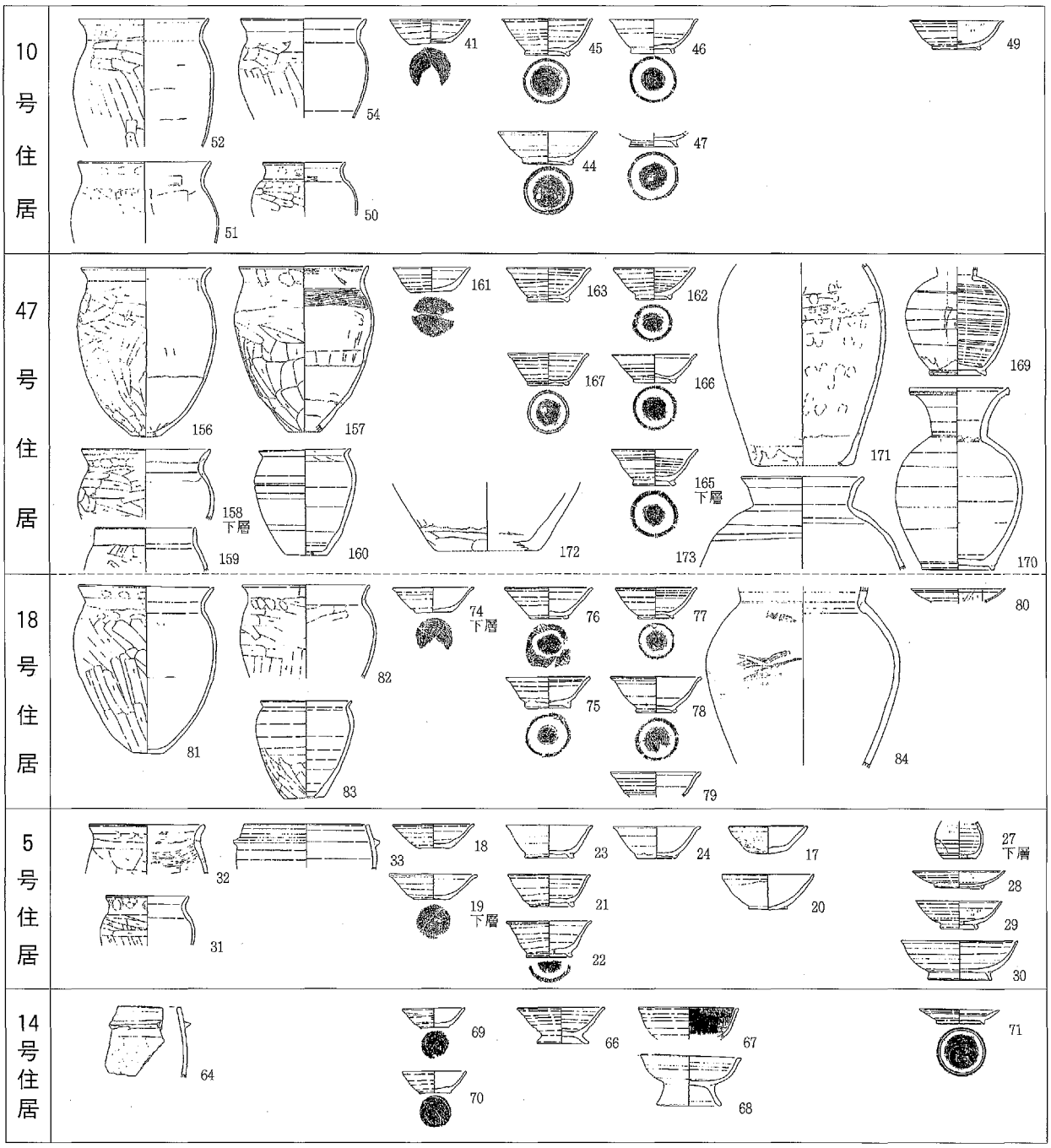


図　各住居出土土器（S＝1／10）

註
(1)本報告書において高台の付くものを「椀」、付かないものを「杯」と便宜的に分類し使用した。
(2)当該期の編年研究は数多く存在するがここでは井上（1978）、坂口・三浦（1986）、桜岡（1987）、木津（1988）、綿貫（1988）、神谷（1994）を参考に各器種ごとの型式変化の方向と組成の様相を把握した。
(3)「肥厚」「つまみだし」「凹線状のくぼみ」「一条の沈線状のくぼみ」といった表現は適切ではないのだがそれらの形態を表現する用語が見あたらないためにあえて使用した。この口縁端部の形態は口縁部（口縁端部）における調整の過程の違いに起因するものと考えられ、検討を要することではあるが、他の資料にも多く見られ制作者個人の「くせ」ではなく制作集団レベルの「規範」に還元しうる技法の可能性も考えられる。
(4)桜岡氏の土師器甕CIV（桜岡1987）、神谷氏の土師器甕E－1（神谷1994）に相当する。
(5)憶測の感を否めないが各地域ごとにおける小規模な生産体制に変化した可能性があるのではなかろうか。また、いわゆる「土釜」にはバラエティーに富むことが指摘されているが（三浦・黒沢1989）、土釜とされているものの中には羽釜系統のものと複数の「土師器甕」系統のものが存在しバラエティーの実体はそこにある可能性もある。

参考文献
井上唯雄　1978「群馬県下の歴史時代の土器」「群馬県史研究」第8号　群馬県史編さん委員会
神谷佳明　1994「V-2出土土器について」「二之宮谷地遺跡」一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　群馬県埋蔵文化財調査事業団
木津博明　1988「3．出土遺物」「関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書」第24集　群馬県埋蔵文化財調査事業団
坂口　一・三浦京子　1986「奈良・平安時代の土器の編年-住居の重複と供伴関係による土器型式組列の検討」「群馬県史研究」第24号　群馬県史編さん委員会
桜岡正信　1987「古墳時代中期～奈良、平安時代の遺物」「関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書」第20集　群馬県埋蔵文化財調査事業団
三浦京子・黒沢はるみ　1989「平安時代の煮沸土器について－土釜とは何か－」「研究紀要」6　群馬県埋蔵文化財調査事業団
綿貫邦男　1988「第5章 成果と課題」「関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書」第21集　群馬県埋蔵文化財調査事業団

Tab. 2　土器観察表

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
1	H－1、1 竈内	(須恵器) 甕(土釜)	高 [12.8] 口 24.4 底 － 体最 26.7	体部上位に最大径をもち頸部でややすぼまり短く「く」の字に外反する。口縁端部に面を持ち凹線状にくぼむ。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉ横位ナデ ｏヨコナデ　ｏ縦位ヘラケズリ	にぶい橙 (5YR6／4)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
2	H－2、1 床直	須恵器 杯	高 3.8 口 13.5 底 5.9	底部から外上方に緩やかに開く。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	褐灰 (10YR4／1)	還元焔焼成 やや硬質 結晶片岩有り
3	H－2、2 床直	須恵器 杯？	高 [3.9] 口 (13.8) 底 －	外上方にたちあがり口縁部は外反する。ヘラ記号有り。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	にぶい橙 (7.5YR7／4)	酸化焔焼成 結晶片岩有り
4	H－2、3 埋土下層	須恵器 杯	高 3.8 口 13.0 底 5.8	体部中位にふくらみをもち緩やかに外反しながら口縁に至る。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (5Y7／1)	還元焔焼成 軟質 結晶片岩有り
5	H－2、4 床直	須恵器 椀	高 5.3 口 (13.4) 底 6.2	口縁部に片口を有する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	褐灰 (10YR5／1)	還元焔焼成 硬質
6	H－2、5 埋土上層	須恵器 椀	高 5.2 口 (14.8) 底 6.9	底部から稍内湾気味に立ち上がり直線的な体部を経て口縁部に至る。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰黄 (2.5YR6／2)	還元焔焼成 硬質
7	H－2、6 埋土下層	須恵器 椀	高 5.1 口 (13.4) 底 5.7	底部から稍内湾気味に立ち上がり口縁部で若干外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰 (5Y7／2)	還元焔焼成 軟質 結晶片岩有り
8	H－2、7 床直	須恵器 皿	高 2.8 口 (13.8) 底 (7.1)	底部から直線的に外上方へのび口縁端部を丸くおさめる。高台は鋭角な三角形状。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏヨコナデ	灰白 (10YR8／1)	還元焔焼成 硬質
9	H－2、8 埋土上層	須恵器 皿	高 3.8 口 14.2 底 6.1	底部から直線的に外方へのび口縁部で稍外反する。端部は丸く厚くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (7.5YR8／4)	酸化焔焼成 軟質
10	H－2、9 床直	灰釉 皿	高 3.1 口 [14.8] 底 6.7	底部から緩やかに内湾しながら立ち上がり口縁端部が外反する。高台は厚めの三日月高台。底部を除き内外面施釉。光が丘1号窯期？ 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）→ 施釉　底 ｉナデ ｏ（中位斜位ハケメ）→ヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　ｏナデ	灰白 (2.5Y7／1)	硬質
11	H－2、10 埋土上層	灰釉 皿	高 3.6 口 (15.4) 底 6.3	底部から稍内湾気味に外上方へのびる。高台は方形の断面を呈する。顕著な施釉が見られない。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏヨコナデ	灰白 (2.5Y8／1)	硬質
12	H－2、11 埋土下層	灰釉 小瓶	高 [3.2] 口 4.7 底 －	頸部から外反し口縁端部にやや面を意識し丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　ｏ－	灰白 (10YR7／1)	硬質
13	H－2、12 埋土	緑釉 輪花椀	高 － 口 － 底 －	内面に稜を持ちまた陰刻文を施す。	オリーブ灰 (10Y4／2)	硬質 内面還元
14	H－3、1 床直（竈内	須恵器 椀	高 4.6 口 (14.0) 底 6.1	底部から直線的に外方へのびる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい橙 (7.5YR7／4)	酸化焔焼成 硬質
15	H－4、1 埋土	須恵器 椀	高 － 口 － 底 (6.4)	底部から内湾気味に立ち上がる。 口・体 ｉヨコナデ　底 ｉ－ ｏ－　ｏ－	灰白 (10YR7／1)	還元焔焼成 軟質
16	H－4、2 埋土	須恵器 椀	高 6.0 口 (15.6) 底 7.1	底部からやや内湾気味に立ち上がり体部上位で緩やかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏ－　ｏ（ナデ）	灰白 (2.5Y8／2)	酸化焔焼成 やや軟質
17	H－5、1 埋土下層	土師器 椀	高 4.4 口 (12.3) 底 5.6	底部から外上方へ直線的に立ち上がり口縁部で若干内湾し丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ　底 ｉヨコナデ ｏナデ（器面は粗い）→中位まで斜位ヘラケズリ　ｏヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	硬質
18	H－5、2 床直	須恵器 杯	高 3.7 口 (12.8) 底 5.1	底部からやや内湾気味に立ち上がり体部上位で緩やかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (2.5Y8／2)	還元焔焼成 硬質
19	H－5、3 埋土下層	須恵器 杯	高 3.9 口 (13.8) 底 5.5	底部からやや内湾気味に立ち上がり体部上位で緩やかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ　底 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏ回転糸切り未調整	褐灰 (10YR6／1)	還元焔焼成 やや軟質
20	H－5、4 床直	土師器 椀	高 5.6 口 14.4 底 6.1	底部から内湾し立ち上がる。底部内面は面をなさず外面が高台よりやや突出する。 口 ｉヨコナデ　体 ｉナデ　底 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏナデ（器面は粗く接合痕が見られる）　ｏナデ（砂粒付着）	橙 (5YR6／6)	硬質
21	H－5、5 住居内D-1	須恵器 椀	高 5.2 口 (13.5) 底 7.7	体部は直線的にのび口縁部でわずかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉナデ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏナデ	灰白 (2.5Y7／1)	酸化焔焼成 硬質
22	H－5、6 床直	須恵器 椀	高 5.6 口 (13.4) 底 7.3	体部下半がやや張り直線的にのび口縁部は外反する。口縁ぶに補修痕有り。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	褐灰 (10YR5／1)	還元焔焼成 硬質
23	H－5、7 床直	須恵器 椀	高 5.0 口 (13.0) 底 6.0	体部下半がやや張り直線的にのび口縁部でわずかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉナデ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏナデ	橙 (7.5YR6／6)	酸化焔焼成 硬質
24	H－5、8 床直	須恵器 椀	高 5.0 口 (13.6) 底 6.2	体部は直線的にのび口縁部でわずかに外反する。 口・体 ｉ－　底 ｉ－ ｏヨコナデ　ｏ－	褐灰 (10YR6／1)	還元焔焼成 軟質
25	H－5、9 不明	須恵器 椀	高 5.0 口 (13.8) 底 6.4	体部は直線的にのび口縁部でわずかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	浅黄橙 (7.5YR8／4)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
26	H－5、10 埋土上層	須恵器 椀	高 [4.0] 口 [11.7] 底 7.2	底部から内湾気味に立ち上がる。 口・体 ｉ－　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏ－　ｏ－	黄灰 (2.5Y5／1)	還元焔焼成 軟質
27	H－5、11 埋土下層	灰釉 小瓶	高 [5.8] 口 － 底 (5.8)	体部下半が張り頸部ですぼまる形態。体部外面施釉。推定器口10.5 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (10YR8／1)	硬質

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
28	H－5、12 床直	灰釉 皿	高 2.7 口 14.3 底 7.7	底部から内湾気味にのび、口縁端部上面を丸くおさめ、下面がやや突出する。高台断面は台形状。見込み部を除く内面のみ施釉。 口・体 i ヨコナデ→施釉　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ヨコナデ	黄灰 (2.5Y6／1)	硬質
29	H－5、13 床直	灰釉 椀	高 4.4 口 (13.4) 底 (5.8)	底部から内湾気味に立ち上がり器壁を薄くして口縁に至る。口縁端部上面を丸くおさめ下面がやや突出する。高台断面は湾曲する矩形。 口・体 i ヨコナデ→施釉　底 i ヨコナデ→施釉 o ヨコナデ→施釉（下位左方向ヘラケズリ）　o ヨコナデ	灰黄 (2.5YR6／2)	硬質 光ヶ丘1号窯式2段階? 大原2号窯式1段階?
30	H－5、14 埋土下層	灰釉 深椀	高 6.1 口 (18.2) 底 (10.0)	底部から内湾して立ち上がる。口縁端部は内面がやや肥厚する。高台は外下方へ開く長めの矩形。発色の良い顕著な施釉は見られない。 口・体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o 左方向ヘラケズリ→ヨコナデ　o ヨコナデ	灰白 (10YR7／7)	虎渓山1号窯式期? 硬質
31	H－5、15 床直	土師器 甕	高 [7.3] 口 (13.0) 底 － 体最 (14.7)	最大幅を体部上半に持ち口頸部は若干「コ」字状をなす。口縁端部は外方に面を持ち凹線が一条めぐる。 口・頸 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ o ヨコナデ→ユビオサエ　o 斜位ヘラケズリ→横位ヘラケズリ（上半部）	褐灰 (7.5YR5／2)	硬質
32	H－5、16 床直	土師器 甕	高 [7.6] 口 (17.8) 底 － 体最 [19.0]	体部上半部に最大幅を持ち口頸部は「コ」字形が弱くなった形態で厚く口縁端部は外方に面を持ち凹線が一条めぐる。 口・頸 i ヨコハケ→ヨコナデ　体 i ヨコハケ o ユビオサエ→ヨコナデ　o 横位ヘラケズリ	橙 (5YR7／8)	硬質 結晶片岩有り
33	H－5、17 床直	(須恵器) 羽釜	高 [7.0] 口 (19.0) 底 － 体最 (22.4)	体部は上位に最大径を持ちそこから内側に傾き口縁に至る。口縁端部は面を持ち若干くぼむ。凸帯は断面台形で上稜が角張り下稜は丸くまた最大幅を有する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i － o ヨコナデ（ロクロ目有）　o －	灰白 (10YR7／1)	還元焔焼成 硬質
34	H－6、1 竈内	(須恵器) 羽釜	高 [6.4] 口 (23.4) 底 － 体最 (27.8)	体部は上位に最大径を持ち凸帯付近で内面に大きく傾く。口縁端部で厚くなり面を持つ。凸帯は断面が突出する三角形状を呈する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i － o ヨコナデ（ロクロ目有）　o －	浅黄橙 (7.5YR8／3)	酸化焔焼成 硬質
35	H－6、2 埋土	土師器 杯	高 [2.4] 口 (13.0) 底 －	底部は湾曲気味で体部との境で屈曲して口縁に至る。 口・体 i ナデ→ヘラミガキ　底 i ナデ o ヨコナデ　o ヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	硬質
36	H－6、3 埋土	弥生	高 － 口 － 底 －	外面に櫛描文を持つ。	橙 (5YR6／6)	硬質 前野町式？
37	H－7、1 埋土上層	須恵器 椀	高 6.0 口 (14.2) 底 8.7	底部からやや内湾しながら立ち上がり口縁端部は薄めに内側に面をやや意識する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ナデ o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	褐灰 (10YR6／1)	還元焔焼成 硬質
38	H－8、1 床直	須恵器 椀	高 4.5 口 (14.4) 底 8.7	体部下半がわずかに張り口縁部でやや外反する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ナデ o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰黄 (10YR6／2)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
39	H－9、1 床直	須恵器 杯	高 4.5 口 (13.0) 底 5.5	体部は内外面とも底部との境が不明瞭で直線的にのび口縁部でやや外反する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	浅黄橙 (10YR8／3)	酸化焔焼成 硬質
40	H－10、1 埋土下層	土師器 杯	高 (2.9) 口 12.2 底 8.0	底部から緩やかに屈曲し直線的にのびそのまま丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰褐 (7.5YR5／2)	硬質
41	H－10、2 床直	須恵器 杯	高 3.8 口 12.5 底 6.4	底部からやや内湾気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰白 (10YR7／1)	還元焔焼成 やや硬質
42	H－10、3 不明	須恵器 椀	高 3.9 口 12.7 底 3.9	底部からほぼ直線的に外上方へのび、端部はわずかに外反し丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り？→ナデ	にぶい褐 (7.5YR6／3)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
43	H－10、4 埋土上層	須恵器 皿	高 3.3 口 13.2 底 6.3	底部から外上方へ若干内湾しのび口縁部は外反する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	にぶい黄褐 (10YR7／2)	還元焔焼成 やや軟質
44	H－10、5 床直	須恵器 椀	高 5.3 口 15.4 底 7.8	底部からやや内湾気味に立ち上がり体部中位から直線的にのび口縁部はわずかに外反する。高台は断面台形。底部内面中央が突出する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	褐灰 (10YR4／1)	還元焔焼成 やや硬質 結晶変岩有り
45	H－10、6 床直	須恵器 椀	高 5.7 口 14.0 底 7.0	底部からやや内湾気味に立ち上がり体部中位から直線的にのび口縁部はわずかに外反する。高台は低い矩形。底部内面中央が突出する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	黒褐 (10YR3／1)	還元焔焼成 硬質 結晶変岩有り
46	H－10、7 埋土下層	須恵器 椀	高 5.4 口 (13.7) 底 6.8	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部を外反させ端部はやや厚く丸くおさめる。高台は丁寧に付けられ断面矩形。体部内面に炭素吸着か？ 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	褐灰 (10YR5／1)	還元焔焼成 軟質 結晶片岩有り
47	H－10、8 床直	須恵器 椀	高 [2.2] 口 － 底 (7.5)	高台は断面高い矩形。 口・体 i －　底 i ナデ o －　o 回転糸切り未調整	灰 (5Y6／1)	還元焔焼成 硬質
48	H－10、9 埋土下層	須恵器 椀	高 4.6 口 (13.4) 底 (7.4)	底部から内湾気味に立ち上がり端部を丸くおさめる。高台断面台形でゆがみ大。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o －	灰白 (2.5Y7／1)	還元焔焼成 硬質
49	H－10、10 床直	灰釉 椀	高 4.5 口 14.7 底 7.5	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部は外方へ外反する。端部は薄めに鋭くおさめる。高台は低い角高台。底部内外面に三叉トチン痕有り。 口・体 i －（施釉）　底 i －（施釉） o －（施釉）　o 回転ヘラケズリ→ヨコナデ	灰白 (10YR7／1)	硬質 黒笹14号型式
50	H－10、11 竈外白色粘質土上面	土師器 台付甕	高 [8.4] 口 (12.8) 底 － 体最 (16.2)	体部下位欠損。体部上位に最大幅を持ち、頸部と体部との境が明瞭で「コ」字状を呈する。端部は外側に若干面をなす。 口・頸 i ヨコハケ→ヨコナデ　体 i ヨコナデ o ヨコナデ、ユビオサエ　o 斜位ヘラケズリ頸部付近横位ヘラケズリ	にぶい赤褐 (5YR5／4)	硬質
51	H－10、12 床直	土師器 甕	高 [13.0] 口 (20.7) 底 － 体最 (23.0)	体部は丸みを有し上位に最大幅を持つ。頸部との境は不明瞭となり外反して口縁に至る。端部は内側にわずかに肥厚する。体部の器壁は薄い。] 口・頸 i ヨコハケ→ヨコナデ　体 i ヨコハケ→ヨコナデ o ヨコナデ、ユビオサエ　o 横位ヘラケズリ	橙 (5YR7／8)	硬質

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
52	H－10、13 床直	土師器 甕	高［20.0］ 口（20.0） 底 － 体最（21.9）	体部はやや直線的で上位に最大幅を持つ。頸部との境は不明瞭で外反し、端部付近でわずかに内湾気味になる。端部は内側にやや丸く肥厚しおさめる。 口・頸 ｉヨコナデ　　体 ｉナデ 　　ｏヨコナデ→ユビオサエ　　ｏ横位ヘラケズリ（上）→斜位ヘラケズリ（下）	橙 （2.5YR6／6）	硬質
53	H－10、14 埋土下層	土師器 甕	高［20.0］ 口（20.0） 底 － 体最（21.9）	体部は丸みを有し上位に最大幅を持つ。頸部はほぼ直立し口縁部は外上方にのびて端部はそのまま丸くおさめる。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉヨコハケ→ナデ 　　ｏヨコナデ　　ｏ横位ヘラケズリ（上）、斜位ヘラケズリ（下）	橙 （5YR7／6）	硬質
54	H－10、15 竈内	土師器 甕	高［15.6］ 口（19.8） 底 － 体最（20.3）	体部は丸みを有し上位に最大幅を持つ。頸部はほぼ直立し口縁部は外上方にのびて厚めに丸くおさめる。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉナデ 　　ｏヨコナデ　　ｏ横位ヘラケズリ（上）、斜位ヘラケズリ（下）	橙 （2.5YR6／8）	やや硬質
55	H－11、1 埋土上層	土師器 甕	高［8.2］ 口（20.8） 底 － 体最 －	体部は丸みを有し上位に最大幅を持つ。頸部はほぼ直立し口縁部は外上方にのびてやや厚めに丸くおさめる。 口・頸 ｉヨコナデ　　体ｉヨコハケ→ナデ 　　ｏユビオサエ→ヨコナデ　　ｏ横位ヘラケズリ（上）	橙 （2.5YR6／6）	硬質
56	H－11、2 埋土下層	（須恵器） 甕（土釜）	高［8.0］ 口（21.7） 底 －	体部はほぼ直線的でそのまま口縁部に至る。端部は面を有する。体部上位に把手の剥離痕が見られ、中央に円形刺突孔を持つ。 口 ｉヨコナデ　体 ｉヨコナデ 　　ｏヨコナデ　　ｏ斜位ヘラケズリ→ナデ	褐灰 （10YR4／1）	酸化焔焼成 硬質
57	H－11、3 床直	（須恵器） 甕（土釜）	高 － 口 － 底 －	体部の傾きから浅めの体部を持つものでやや丸みを有する。口縁部は屈曲する。 体 ｉヨコナデ 　　ｏ斜位ヘラケズリ、口縁付近斜位ユビナデ	にぶい橙 （10YR7／3）	酸化焔焼成 硬質
58	H－11、4 床直	円筒埴輪	高［9.0］	凸帯断面台形。 体 ｉナデ 　　ｏタテハケ→凸帯貼付	にぶい橙 （7.5YR7／3）	硬質 竈転用か？
59	H－11、5 床直	円筒埴輪	高［6.6］	凸帯断面台形。 体 ｉナデ 　　ｏタテハケ→凸帯貼付	にぶい橙 （7.5YR7／3）	硬質 竈転用か？
60	H－11、6 埋土	（須恵器） 皿	高 2.0 口（7.2） 底 4.2	底部から上方へ短くのび端部を丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ　　ｏ回転糸切り未調整	橙 （5YR7／6）	酸化焔焼成 硬質
61	H－12、1 埋土下層	須恵器杯	高 3.5 口（13.0） 底（7.4）	底部からほぼ直線的に外上方へのび、端部は丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　　底 ｉ－ 　　ｏヨコナデ（下位回転ヘラケズリ）　　ｏ回転ヘラケズリ	灰白 （5Y8／1）	還元焔焼成
62	H－13、1 埋土	土師器杯	高 3.4 口（13.3） 底（9.0）	底部のヘラケズリにより体部との境が明瞭で、体部はやや内湾気味に立ち上がり端部鋭くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ　底 ｉナデ 　　ｏナデ　　ｏヘラケズリ	にぶい橙 （7.5YR7／4）	酸化焔焼成 硬質
63	H－13、2 埋土	須恵器 椀	高 4.6 口（14.5） 底（7.4）	底部からほぼ直線的に外上方にのびる。端部は厚く丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏ回転糸切り未調整	灰白 （5Y8／2）	還元焔焼成 硬質
64	H－14、1 竈内	（須恵器） 羽釜	高［10.9］ 口 － 最 － 底 －	体部上位に最大径をもちやや内側に傾き口縁に至る。端部に面をもつ。凸帯は断面形三角形。 口 ｉヨコナデ　体 ｉヨコナデ 　　ｏヨコナデ　　ｏ斜位ヘラケズリ	にぶい黄橙 （10YR4／1）	酸化焔焼成 硬質
65	H－14、2 住内D-1	土師器 甕	高［8.6］ 口 － 底 －	口縁部は緩やかに外反し、端部はそのまま薄くおさめる。 口 ｉヨコナデ　体 ｉ－ 　　ｏヨコナデ　　ｏ横位ヘラケズリ	橙 （5YR6／6）	軟質
66	H－14、3 床直	（須恵器） 椀	高 5.8 口（13.7） 底 8.1	体部下半がやや内湾気味にふくらみ、口縁がわずかに外反する。高台は長く外反してのび端部は丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏナデ	橙 （5YR7／6）	酸化焔焼成 硬質
67	H－14、4 竈内	（須恵器） 椀	高［4.7］ 口（15.6） 底 －	体部下半から内湾して立ち上がり、口縁端部はわずかに外反し丸くおさめる。体部内面を黒色処理しミガキを施す。 口・体 ｉヨコナデ→横位ヘラミガキ（黒色処理） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）	にぶい橙 （10YR7／3）	酸化焔焼成 やや軟質
68	H－14、5 竈内	（須恵器） 椀	高 8.0 口 15.0 底 10.1	底部から内湾して立ち上がり、端部は面を成しわずかに外方へつまみ出される。高台は長く外反してのび端部をそのまま丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）	にぶい橙 （10YR7／3）	酸化焔焼成 やや軟質
69	H－14、6 埋土下層	（須恵器） 杯	高 3.2 口 9.8 底 4.9	体部下半がやや内湾気味にふくらみ上方へのびる。端部はそのまま丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏ回転糸切り未調整	橙 （5YR7／6）	酸化焔焼成 やや軟質
70	H－14、7 埋土下層	（須恵器） 杯	高 3.4 口 10.0 底 3.0	体部下半がやや内湾気味にふくらみ上方へのびる。端部はそのまま丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏ回転糸切り未調整	橙 （7.5YR7／6）	酸化焔焼成 硬質
71	H－14、8 床直	緑釉 段皿	高 2.7 口 12.4 底 7.6	体部下半がややふくらみをもち外上方へのび端部はそのまま丸くおさめる。内面に２本の凹線をめぐらすことにより段を形成する。また内面及び高台端部に三叉トチン痕が認められる。高台は張り付けられ内側に段を持つ（有段輪高台）。釉に濃緑色の斑（ゴマ）が見られる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有）→施釉 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　　ｏ回転糸切り未調整→施釉	暗オリーブ （7.5Y4／3）	硬質（還元色） 奥濃、近江産？
72	H－15、1 埋土下層	土師器 甕	高［6.8］ 口 － 底 －	頸部はほぼ直に立ち上がり口縁部で屈曲し内湾気味にのびて端部を丸くおさめる。 口・頸 ｉヨコナデ　　体 ｉヨコナデ 　　ｏユビオサエ→ヨコナデ　　ｏ横位ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	硬質
73	H－15、2 埋土下層	灰釉 皿	高 3.0 口（14.6） 底 7.1	体部は内湾気味に外上方へのび端部は外方へつまみ出されるが丸くにぶい。高台は断面三日月高台であるが丸みを帯び不明瞭。 口・体 ｉヨコナデ→施釉　底 ｉヨコナデ 　　ｏヨコナデ→施釉　　ｏヨコナデ	灰白 （5Y7／1）	硬質 光ケ丘１号窯？
74	H－18、1 埋土下層	須恵器 椀	高 4.0 口（12.8） 底 5.7	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部が若干外反する。底部内面中央が窪む。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏ回転糸切り未調整	橙 （2.5YR7／6）	酸化焔焼成 やや軟質
75	H－18、2 床直	須恵器 椀	高 4.9 口 13.2 底 7.2	底部からやや内湾気味に膨らみをもって立ち上がり外上方へ直線的にのび口縁部は若干外反する。底部内面中央が窪む。高台は断面三角形で、張り付けが雑。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） 　　ｏヨコナデ（ロクロ目有）　　ｏ回転糸切り未調整	灰 （N5）	還元焔焼成 やや軟質 結晶変岩有り

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
76	H－18、3 床直	須恵器 椀	高 4.9 口 (12.8) 底 6.2	底部からほぼ直線的に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。底部内面中央は突出。高台は断面幅広の台形で歪みが見られる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい黄褐 (10YR6／4)	酸化焔焼成 軟質 結晶変岩有り
77	H－18、4 床直	須恵器 椀	高 4.9 口 (12.8) 底 5.6	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。高台は断面が外方へ出る矩形で丁寧に付けられる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい橙 (7.5YR6／4)	酸化焔焼成 硬質 結晶変岩有り
78	H－18、5 床直	須恵器 椀	高 6.5 口 (14.2) 底 6.5	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部はやや厚くおさめる高台は断面が外方へ出る矩形で歪みが見られる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	褐灰 (10YR6／1)	酸化焔焼成 軟質 結晶変岩有り
79	H－18、6 床直	須恵器 椀	高 [3.9] 口 (14.2) 底 －	体部は内湾気味で口縁部でわずかに外反する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	灰黄 (2.5Y7／2)	酸化焔焼成 軟質 結晶変岩有り
80	H－18、7 床直	灰釉 皿	高 [2.2] 口 (14.6) 底 －	体部は内湾気味で口縁端部はわずかに外方へつまみ出される。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　ｏ－	灰白 (10Y8／1)	硬質
81	H－18、8 床直・竈内	土師器 甕	高 26.0 口 21.0 底 4.4 体最 22.2	体部上位に最大幅をもつ倒卵形。頸部との境は不明瞭で、端部は外側に面を意識し一条沈線状の窪みがめぐる。底部外面は砂粒が多く見られる。 口 ｉヨコナデ　体 ｉナデ ｏユビオサエ→ヨコナデ　ｏ斜位ヘラケズリ（上半は横位に近くなる）	橙 (5YR6／6)	硬質
82	H－18、9 床直・竈内	土師器 甕	高 [14.5] 口 18.0 底 － 体最 21.4	体部上位に最大幅をもち、頸部との境は不明瞭で緩やかに外反する。端部は概して丸くおさめる。片口状の部分が見られる。 口 ｉユビオサエ→ヨコナデ　体 ｉヨコナデ ｏユビオサエ→ヨコナデ　ｏ斜位ヘラケズリ（下）→横位ヘラケズリ（上）	橙 (2.5YR6／6)	硬質 結晶片岩有り 口縁部内面炭化物付着
83	H－18、10 床直	(須恵器) 甕	高 15.0 口 13.9 底 6.4 体最 15.2	体部上位に最大幅をもち肩が張り、口縁部は短く屈曲外反する。 口 ｉヨコナデ　体 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ　ｏヨコナデ（ロクロ目有）→斜位ヘラケズリ（下半）	にぶい橙 (5YR6／4)	酸化焔焼成・硬質 結晶変岩有り ロクロ酸化焔焼成煮
84	H－18、11 床直・竈内	須恵器 甕	高 [28.5] 口 － 底 － 体最 (30.1)	体部上位に最大幅を持つ。 体 ｉヨコナデ（→下半部縦位ナデ） ｏ左上がりタタキ→ナデ（中位にハケメ）	褐灰 (10YR6／1)	還元焔焼成
85	H－19、1 埋土上層	土師器 甕	高 [4.7] 口 (18.8) 底 －	口縁部は緩やかに外反し、端部外面に面を持ち沈線状の窪みが１条めぐる。 口 ｉハケ→ヨコナデ　体 ｉ－ ｏヨコナデ　ｏ－	橙 (5YR7／6)	硬質
86	H－19、2 埋土上層	(須恵器) 羽釜	高 － 口 － 底 －	体部上位は張りがなく直線的で口縁部は内傾する。凸帯は断面三角形。 口 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　体 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏヨコナデ（ロクロ目有）	にぶい褐 (7.5YR6／3)	酸化焔焼成 硬質
87	H－19、3 埋土下層	須恵器 椀？	高 [2.6] 口 － 底 (7.6)	底部から内湾気味に立ち上がる。高台は低い矩形。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	灰 (N4)	還元焔焼成 硬質
88	H－19、4 埋土上層	土師器 甑(把手)	長径 2.6 短径 1.9	成形時のしぼり痕が見られる。 ナデ	にぶい橙 (7.5YR6／4)	硬質
89	H－21、1 埋土	須恵器 壺	つまみ径 (4.8)	体部は扁平で環状のつまみが付く。断面三角形。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏ回転ヘラケズリ→ヨコナデ（ロクロ目有）	灰白 (7.5Y8／1)	還元焔焼成 やや軟質
90	H－22、1 床直・竈内	土師器 甕	高 [6.3] 口 (14.3) 底 － 体最 (16.0)	体部上位に最大径をもち口縁は緩やかに屈曲し端部は外側にやや面をもち尖る。 口 ｉヨコナデ　体 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏ横位ヘラケズリ	橙 (5YR7／6)	やや硬質
91	H－22、2 床直・竈内	土師器 台付甕	高 17.0 口 13.4 底 10.2 体最 (14.2)	体部上位に最大径をもつ倒卵形で頸部との境に若干段を残す。口縁部は緩やかに外反し端部は面をもち１条沈線状の窪みがめぐる。脚はハ字状に外反する。 口 ｉヨコハケ→ヨコナデ　体 ｉヨコハケ→ナデ　脚 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏ斜位ヘラケズリ・横位ヘラケズリ　ｏナデ	にぶい橙 (5YR6／4)	硬質
92	H－22、3 埋土	(須恵器) 羽釜	高 － 口 － 底 －	口縁部は内傾する。端部は上側に面をもち厚くおさめる。凸帯は高めの台形。 口 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　体 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	灰白 (10YR7／1)	還元焔焼成 やや軟質
93	H－22、4 埋土	土師器 杯	高 [3.1] 口 (10.7) 底 －	口縁部で段を成し短く外方へのび端部は丸くおさめる。 口 ｉヨコナデ　体 ｉヨコナデ ｏヨコナデ　ｏナデ	浅黄橙 (10YR8／4)	硬質
94	H－22、5 床直	須恵器 椀	高 [3.7] 口 － 底 6.9	底部から内湾気味に立ち上がる。高台は丸みをおびた三角形。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　体 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏ－　ｏヨコナデ（ロクロ目有）	浅黄橙 (10YR8／3)	酸化焔焼成 軟質
95	H－23、1 埋土	土師器 杯	高 [2.8] 口 (13.6) 底 －	底部から直線的に外上方へのび口縁部で稜を成して端部はそのまま丸くおさめる。 体 ｉヨコナデ　体 ｉヨコナデ ｏヨコナデ　ｏユビオサエ→ナデ	にぶい橙 (5YR6／3)	硬質
96	H－25、1 竈内	須恵器 椀	高 4.7 口 (13.4) 底 (7.2)	底部から直線的に立ち上がり口縁部でわずかに外反し端部は厚めに丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	灰 (5Y5／1)	酸化焔焼成 軟質 結晶変岩有り
97	H－25、2 床直	須恵器 椀	高 [3.7] 口 (15.4) 底 －	やや内湾気味に外上方へ立ち上がり端部はそのまま丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	橙 (7.5YR7／6)	酸化焔焼成 軟質
98	H－26、1 竈内	土師器 甕	高 [6.8] 口 (20.6) 底 －	最大幅を体部上半にもち口縁部は緩やかに外反する。端部は丸くおさめる。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉヨコハケ ｏヨコナデ　ｏ横位ヘラケズリ	橙 (5YR6／8)	硬質
99	H－26、2 埋土上層	須恵器 椀	高 [3.5] 口 (13.8) 底 －	口縁部はわずかに外反し端部は丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	褐灰 (10YR6／1)	還元焔焼成 硬質
100	H－27、1 床直	土師器 甕	高 [5.7] 口 － 底 －	頸部でやや上方に直線的にのび口縁部は緩やかに外反する。端部は外方に面をもつ。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉヨコハケ ｏヨコナデ　ｏ（頸部ナデ→）横位ヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	硬質
101	H－27、2 床直	土師器 杯	高 4.4 口 (12.1) 底 (4.4)	底部から緩やかに内湾して立ち上がり体部中位から直線的に口縁部に至る。端部は外側に丸みをもち内側にわずかに肥厚する。 口 ｉヨコナデ　体 ｉケズリ→ユビオサエ・ナデ　底 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏヨコナデ　ｏ横位ヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	硬質 結晶片岩有り

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
102	H－27、3 床直	須恵器 杯	高 4.0 口 12.2 底 6.5	底部からやや内湾気味にのび口縁部は外反し端部は厚く丸くをさめる。底部内面中央はなでつけにより中心が突出する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有） 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有） o 回転糸切り未調整	にぶい橙 （7.5YR5／4）	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
103	H－27、4 埋土上層	須恵器 椀	高 4.6 口（15.0） 底（4.6）	底部からやや内湾気味に外上方にのび口縁部でわずかに外反し端部は丸くおさめる。高台は矩形でつぶれて外方に出る。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有） 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有） o －	灰白 （2.5Y8／2）	還元焔焼成 軟質
104	H－27、5 埋土下層	須恵器 椀	高［3.5］ 口 － 底（6.6）	底部から内湾気味に立ち上がる。高台は三角形で歪みがあり。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有） 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有） o 回転糸切り未調整	黄灰 （2.5Y6／1）	還元焔焼成 やや硬質
105	H－27、6 埋土	須恵器 甕	高［6.4］ 口（28.8） 底 －	口縁部は外反し端部は外方に面をもち上下につまみ出される。 口 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）	灰 （N5）	還元焔焼成 硬質
106	H－28、1 床直	土師器 甕	高［6.3］ 口（19.9） 底 －	体部上位に最大径をもち口縁部は緩やかに外反する。端部は面をもち沈線がめぐる。 口・頸 i ユビオサエ→ヨコナデ 体 i ヨコハケ o ヨコハケ→ヨコナデ o 横位ヘラケズリ	にぶい赤褐 （2.5YR5／4）	硬質 海綿骨針有り 107と同一個体
107	H－28、2 竈内	土師器 甕	高［7.4］ 口 － 底（2.3）	底部からやや内湾気味に外上方にのびる。 体 i ヨコハケ（中位）・ナデ（下半） 底 i ヘラケズリ o 縦位ヘラケズリ o ナデ	にぶい赤褐 （2.5YR5／4）	硬質 結晶片岩・海綿骨針有 106と同一個体
108	H－28、3 埋土	灰釉 長頸壺	高［5.4］ 口 － 底 －	頸 i ヨコナデ（ロクロ目有）→施釉 o ヨコナデ（ロクロ目有）→下位に施釉	灰白 （5Y7／1）	硬質
109	H－29、1 竈内	（須恵器） 羽釜	高［6.9］ 口（25.6） 底 － 体最（27.8）	凸帯からやや内傾し端部外側に低い凸帯めぐらせ上部に面をもつ。凸帯は低い三角形で下辺はナデ付けが弱く直下にユビオサエが連続して見られる。 口 i ヨコナデ 体 i 斜位ナデ・ユビオサエ o ヨコナデ→斜位ナデ o ナデ	にぶい橙 （2.5YR6／3）	酸化焔焼成 硬質
110	H－29、2 埋土	（須恵器） 羽釜	高［8.8］ 口（24.2） 底 － 体最（28.8）	体部上位に最大幅をもち口縁部は内傾する。端部は上部に面をもち２条凹線が入り外側につまみ出される。凸帯は丸みを帯びた三角形で丁寧にナデ付けられる。 口 i ヨコナデ 体 i ヨコナデ o ヨコナデ o ヨコナデ	にぶい赤褐 （2.5YR5／3）	酸化焔焼成 硬質
111	H－29、3 竈内	（須恵器） 甕（土釜）	高［10.1］ 口（21.2） 底 － 体最（24.6）	体部上半が湾曲し上位に最大幅をもつ。端部は凸帯を外側に張り付ける形で肥厚する。 口 i ナデ 体 i 縦位ハケ o ヨコナデ o 縦位ハケ→ナデ	橙 （7.5YR7／6）	酸化焔焼成 硬質
112	H－30、1 埋土下層	須恵器 椀	高［2.6］ 口 － 底（7.8）	底部内面は湾曲気味でハケ原体のアタリを放射状に残す。高台は高く端部は丸くおさめる。丁寧な作り。 底 i ハケ→ナデ o ヨコナデ	にぶい褐 （7.5YR6／3）	酸化焔焼成 硬質
113	H－32、1 床直	土師器 台付甕	高［3.2］ 口 － 底 －	底部から湾曲気味に立ち上がる脚部欠損。椀の可能性もあり。 体 i ハケ→ナデ 体 i ナデ o 縦位ヘラケズリ o ナデ	橙 （5YR6／6）	酸化焔焼成 硬質
114	H－32、2 埋土	須恵器 椀	高［3.3］ 口（13.4） 底 －	口縁部はわずかに外反し端部はあ丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有） 底 i － o ヨコナデ（ロクロ目有） o －	灰白 （10YR8／2）	酸化焔焼成 やや軟質 結晶片岩有り
115	H－32、3 床直	（須恵器） 甕（土釜）	高［11.1］ 口 － 底 －	体部上半はほぼ直線的で口縁部はわずかに外反する。端部は丸くおさめる。 口 i ヨコナデ 体 i ナデ o ヨコナデ ・ o ナデ	赤褐 （2.5YR4／6）	酸化焔焼成 やや軟質
116	H－32、4 竈内	（須恵器） 羽釜	高［6.5］ 口 － 底 －	凸帯からやや内傾し端部外側に低い凸帯めぐらせ上部に面をもつ。凸帯は低い三角形で下辺はナデ付けが弱く直下にユビオサエが連続して見られる。 口 i ヨコナデ 体 i 斜位ナデ・ユビオサエ o ヨコナデ o ナデ	橙 （2.5YR6／6）	酸化焔焼成 硬質
117	H－33、1 住内D-1	（須恵器） 甕（土釜）	高［5.1］ 口 － 底 －	体部は張りがなく口縁部は緩やかに外反する。 口 i ヨコナデ 体 i ヨコハケ→ナデ o ヨコナデ o 横位ヘラケズリ	橙 （5YR6／6）	酸化焔焼成 やや軟質 結晶片岩有り
118	H－34、1 埋土	（須恵器） 椀	高［3.6］ 口 － 底 8.6	高台は器壁が薄く内湾気味に下方へのびる。若干端部が厚みをもち丸くおさめる。 底 i ヨコナデ 高台 i ヨコナデ o ヨコナデ o ヨコナデ	明赤褐 （2.5YR5／6）	酸化焔焼成 軟質
119	H－34、2 埋土	土師器 甕	高［7.2］ 口 － 底 6.4	底部は平底で上方へやや内湾しのびる。 体 i ナデ（原体あたり） 底 i ナデ o ヘラケズリ o ナデ	にぶい橙 （7.5YR7／4）	酸化焔焼成 やや軟質
120	H－34、3 埋土	（須恵器） 羽釜	高［10.8］ 口 － 底 －	口縁部はやや内傾し上部に面をもつ。断面三角形の小振りな凸帯が付く。 口 i ヨコナデ 体 i ナデ o ヨコナデ o ナデ	橙 （7.5YR7／6）	酸化焔焼成 やや軟質
121	H－35、1 竈内	（須恵器） 羽釜	高［11.4］ 口 － 底 －	口縁部はやや内傾し上部に面をもつ。断面三角形の凸帯が付き下辺はナデ付けが弱い。 口 i 斜位ハケ→ヨコナデ 体 i 斜位ハケ→ナデ o ヨコナデ o ナデ	灰白 （10YR8／1）	酸化焔焼成 硬質
122	H－35、2 竈内	（須恵器） 椀	高［5.1］ 口（7.0） 底（8.6）	底部中央から内湾して立ち上がる。高台は外方へ長く出て端部に面をもつ。 体 i ヘラミガキ 底 i ヘラミガキ o ヨコナデ（ロクロ目有り） o ヨコナデ（ロクロ目有り）	浅黄橙 （10YR8／4）	酸化焔焼成 やや軟質
123	H－35、3 埋土	（須恵器） 椀	高［3.0］ 口 － 底（8.4）	高台は中位から外反する。端部はやや面を意識し、内側に浅い凹線が入る。 底 i ヨコナデ（ロクロ目有り） 高台 i ヨコナデ（ロクロ目有り） o ヨコナデ（ロクロ目有り） o ヨコナデ（ロクロ目有り）	にぶい黄橙 （10YR7／4）	酸化焔焼成 硬質
124	H－36、1 床直	須恵器 椀	高 5.3 口 14.8 底 6.9	体部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部はわずかに厚く丸くおさめる。高台は丸みをもつ三角形でナデ付けは丁寧。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有） 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有） o 回転糸切り未調整	灰黄 （2.5Y6／2）	酸化焔焼成 やや軟質 結晶片岩有り
125	H－36、2 埋土	土師器 台付甕	高［2.9］ 口 － 底（8.4）	脚部は外反し端部内面に折り返し状の接合痕を残す。 脚 i ヨコナデ o ヨコナデ	にぶい赤褐 （5YR5／3）	酸化焔焼成 硬質
126	H－37、1 竈内	土師器 杯	高［3.4］ 口（11.4） 底 7.0	体部中位に膨らみをもちほぼ直線的にのびる。端部は外側に面を意識し尖り気味。 口 i ヨコナデ 体 i ヨコナデ 底 i ヨコナデ o ヨコナデ o ユビオサエ・ヨコナデ o ナデ（「砂底」）	にぶい橙 （5YR6／4）	酸化焔焼成 硬質 結晶変岩有り
127	H－37、2 竈内	須恵器 杯	高 4.2 口（11.3） 底（5.9）	底部から直線的に立ち上がり体部中位に膨らみをもつ。口縁部はやや外反する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有） 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有） o 回転糸切り未調整	にぶい黄橙 （10YR7／3）	酸化焔焼成 硬質

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
128	H－39、1 埋土	(須恵器) 甕(土釜)	高 [9.3] 口 (19.6) 底 －	体部上位に最大幅をもち口縁部は緩やかに外反する。端部はそのまま丸くおさめる。 口 ｉヨコナデ　体 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏ縦位ヘラケズリ	にぶい赤褐 (2.5YR5／4)	酸化焔焼成 硬質
129	H－39、2 竈内	(須恵器) 甕(土釜)	高 [22.3] 口 (22.9) 底 － 体最 (27.0)	体部は緩やかに湾曲し最大幅を上位にもつ。口縁部は短く屈曲する。 口 ｉヨコナデ　体上 ｉナデ　体下 ｉ－ ｏヨコナデ　ｏナデ（一部ミガキ状のナデ）　ｏ縦位ヘラケズリ	橙 (2.5YR6／8)	酸化焔焼成 硬質
130	H－39、3 床直	須恵器 椀	高 [3.0] 口 － 底 (7.2)	底部から内湾気味に立ち上がる。高台は断面台形。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい橙 (7.5YR5／4)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
131	H－40、1 床直	須恵器 甕	高 [20.1] 口 － 底 － 体最 (27.8)	体部下位からほぼ直線的にのび上位は強く湾曲して頸部に至る。頸部の破断面は摩滅が顕著に見られる。 体 ｉナデ（当て具痕有り） ｏヨコナデ（ロクロ目有）・ナデ	褐灰 (10YR6／1)	還元焔焼成 硬質
132	H－40、2 竈内	土師器 甕	高 [7.1] 口 (13.9) 底 － 体最 (16.4)	体部上位に最大幅をもち頸部は直選定に上方へ向かい口縁部は外方に屈曲する。端部は内外がわずかに肥厚し丸くおさめられる。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏ横位ヘラケズリ	明赤褐 (2.5YR5／6)	酸化焔焼成 硬質
133	H－40、3 埋土	(須恵器) 甑	高 [10.7] 口 － 底 (22.9)	体部は直線的に立ち上がる。脚部は外方へ強く屈曲し端部に面をもつ。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　脚 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏヨコナデ（ロクロ目有）	にぶい橙 (7.5YR6／4)	酸化焔焼成 硬質 結晶変岩有り
134	H－40、4 埋土	須恵器 杯	高 3.5 口 (14.0) 底 (8.1)	底部から体部へは緩やかに移行し稜をなさない。体部は直線的にのびる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (10YR7／1)	還元焔焼成 やや軟質 結晶片岩有り
135	H－42、1 床直	須恵器 杯	高 4.6 口 (13.0) 底 (5.4)	底部から内湾気味に立ち上がり端部はやや厚みをもち丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (10YR7／1)	還元焔焼成 硬質
136	H－42、2 竈内	須恵器 椀	高 4.5 口 14.0 底 7.2	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反し端部はやや厚みをもち丸くおさめる。高台は低い台形で歪みがある。底部内中央突出。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰黄 (2.5Y7／2)	酸化焔焼成 軟質 結晶片岩有り
137	H－42、3 床直	須恵器 椀	高 4.3 口 (15.4) 底 (7.0)	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部は厚みをもち丸くおさめる。高台は低い台形で歪みがある。底部内中央突出。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい橙 (7.5YR6／4)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
138	H－42、4 埋土下層	須恵器 椀	高 3.4 口 (10.2) 底 7.0	底部から内湾気味に立ち上がる。高台は断面矩形で丁寧なナデ付け。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰黄褐 (10YR6／2)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
139	H－43、1 埋土下層	(須恵器) 羽釜	高 [6.3] 口 (23.3) 底 －	口縁部は内側に屈曲し端部は内外にやや肥厚し窪む面をもつ。凸帯は低い台形状でナデ付けが丁寧。 口 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　体 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ－	橙 (2.5YR6／8)	酸化焔焼成 硬質 結晶片岩有り
140	H－43、2 床直	(須恵器) 羽釜	高 [8.3] 口 (24.6) 底 －	口縁部で若干内側に傾き、端部はそのまま丸くおさめる。凸帯は丸みをもち厚い三角形。器壁も全体的に厚め。 口 ｉヨコナデ　体 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏ縦位ヘラケズリ	にぶい橙 (5YR6／4)	酸化焔焼成 やや軟質
141	H－44、1 埋土	土師器 台付甕	高 [7.8] 口 － 底 －	体部は内湾して立ち上がる。底部内面は中心が窪みユビオサエが見られる。 体 ｉナデ　底 ｉナデ・ユビオサエ ｏ斜、縦位ヘラケズリ　ｏナデ	橙 (5YR6／6)	酸化焔焼成 硬質
142	H－44、2 埋土	須恵器 椀	高 5.1 口 (12.6) 底 (5.6)	底部から体部中位まで緩やかに内湾し口縁部はわずかに外反する。端部はそのまま丸くおさめる。高台は台形で歪みをもつ。底内面中央が突出する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰黄 (2.5Y6／2)	還元焔焼成 軟質 結晶片岩有り
143	H－44、3 埋土	須恵器 椀	高 4.8 口 (13.5) 底 (5.9)	体部中位で若干張りをもち口縁部はわずかに外反し端部は丸くおさめる。高台は低い台形で歪みをもつ。底部内面中央が突出する。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい黄橙 (10YR7／3)	酸化焔焼成 やや軟質 結晶片岩有り
144	H－45、1 埋土下層	土師器 甕	高 [4.8] 口 (12.3) 底 －	頸部は内側に傾き口縁部との境が不明瞭となり緩やかに外反する。端部はやや面をもちまた一条の沈線（擦痕）が部分的にみられる。 口・頸 ｉヨコハケ→ヨコナデ　体 ｉ横位ナデ ｏユビオサエ→ヨコナデ　ｏ横位ヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	硬質
145	H－45、2 埋土下層	土師器 甕	高 [8.0] 口 (15.1) 底 －	体部上半はやや湾曲気味で頸部は上方にのび口縁部は緩やかに外反する。端部外面に凹線がめぐり丸くおさめる。 口・頸 ｉヨコハケ→ヨコナデ　体 ｉヨコハケ→ナデ ｏユビオサエ→ヨコナデ　ｏ横位ヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	硬質
146	H－45、3 埋土	土師器 甕	高 [5.5] 口 (19.3) 底 －	頸部と体部の境はほとんどなくなり体部から緩やかに外反して口縁部に至る。端部は外側に面をもち凹線をめぐらせる。 口・頸 ｉヨコハケ→ヨコナデ　体 ｉヨコハケ ｏヨコナデ　ｏナデ→横位ヘラケズリ	橙 (2.5YR6／6)	硬質 結晶変岩有り
147	H－45、4 竈内	土師器 甕	高 [11.2] 口 － 底 (4.2)	底部の境は稜をなしやや湾曲気味に立ち上がる。 体 ｉナデ　底 ｉ－ ｏ縦・斜位ヘラケズリ　ｏヘラケズリ	にぶい赤褐 (5YR5／4)	硬質
148	H－45、5 埋土上層	土師器 甕	高 [5.6] 口 － 底 －	頸部下に凹線状のナデをめぐらせ体部との境を強調させる。頸部はやや内傾してのび緩やかに外反する。端部は尖り気味。 口・頸 ｉヨコナデ　体 ｉナデ ｏヨコナデ　ｏヘラケズリ	橙 (5YR6／6)	やや軟質 結晶変岩有り
149	H－45、6 床直	須恵器 椀	高 [2.8] 口 － 底 (7.8)	底部から内湾気味に立ち上がる。高台は丸みをおびた台形状。 体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	にぶい橙 (7.5YR7／4)	酸化焔焼成 軟質 結晶変岩有り
150	H－45、7 竈内	須恵器 杯	高 3.9 口.(12.0) 底 (6.1)	底部から内湾して立ち上がり中位から緩やかに外反する。端部は丸くおさめられ、内側に若干肥厚する。底部内面中央がへこむ。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉヨコナデ（ロクロ目有） ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰黄褐 (10YR6／2)	還元焔焼成 硬質 結晶変岩有り
151	H－45、8 埋土上層	須恵器 杯	高 3.9 口 (13.0) 底 5.7	底部からほぼ直線的に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部はそのまま丸くおさめる。 口・体 ｉヨコナデ（ロクロ目有）　底 ｉ－ ｏヨコナデ（ロクロ目有）　ｏ回転糸切り未調整	灰白 (2.5Y7／1)	還元焔焼成 軟質

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
152	H－45、9 埋土上層	灰釉 皿	高［2.1］ 口 － 底 7.1	体部はやや内湾気味に立ち上がる。高台は三日月高台。 体 i ヨコナデ(ロクロ目有)→施釉　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ(ロクロ目有)→施釉　o 回転ヘラケズリ？→（ロクロ目有）	灰白 （10YR8／1）	硬質
153	H－46、1 竈内	（須恵器） 甕	高［3.5］ 口（13.5） 底 －	体部上半が張り口縁部は短く屈曲する。端部はそのまま丸くおさめる。 口 i ヨコナデ（ロクロ目有）　体 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o ヨコナデ（ロクロ目有）	橙 （5YR6／6）	酸化焔焼成 硬質 結晶変岩有り
154	H－46、2 竈内	土師器 甕	高［8.2］ 口（18.0） 底 －	体部上半が湾曲し頸部を若干意識して緩やかに外反する。 口・頸 i ヨコナデ　体 i ナデ o ユビオサエ・ヨコナデ　o 横位ヘラケズリ	にぶい橙 （5YR6／4）	硬質 結晶変岩有り
155	H－46、3 竈内	土師器 甕	高［10.3］ 口（13.5） 底 －	体部上位でやや内側に傾き口縁部は緩やかに外反する。端部はやや尖り気味。 口 i ヨコハケ→ヨコナデ　体 i ヨコハケ→ナデ o ヨコハケ→ヨコナデ　o 横位ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	やや軟質
156	H－47、1 床直 住内D-1	土師器 甕	高 26.5 口（20.2） 底（4.2） 体最（21.6）	体部最大幅が上位にくる倒卵形。口縁部は体部との境が不明瞭となり緩やかに外反し端部は外側に面をもち凹線状のくぼみが所々見られる。 口・頸 i ヨコナデ　体 i ナデ(原体アタリ有)→ナデ o ヨコナデ　o 横位・斜位ヘラケズリ	灰褐 （7.5YR4／2）	硬質
157	H－47、2 床直 埋土下層	土師器 甕	高［25.9］ 口（20.3） 底（5.0） 体最（21.8）	体部最大幅が上位にくる倒卵形。口縁部は体部との境が不明瞭となり緩やかに外反し端部は外面に若干面を意識し凹線状の窪みが所々に見られる。 口・頸 i ヨコハケ→ヨコナデ　体 i ヨコハケ→ナデ o ヨコナデ・ユビオサエ　o 横位・斜位ヘラケズリ	にぶい橙 （5YR6／3）	硬質
158	H－47、3 床直 埋土下層	土師器 甕	高［10.1］ 口（20.2） 底 － 体最（21.3）	体部最大幅が上位にあり強く湾曲する。口縁部は緩やかに外反する。端部は面をなさずやや丸くおさめる。 口・頸 i ヨコナデ　体 i ナデ o ユビオサエ→ヨコナデ　o 横位ヘラケズリ	灰褐 （5YR5／2）	硬質
159	H－47、4 竈内	土師器 甕	高［6.9］ 口（15.7） 底 －	体部上半は湾曲してすぼまり口縁部で緩く屈曲してほぼ直立する。端部は丸くおさめられる。 口 i ヨコナデ　体 i ナデ o ヨコナデ　o 縦位ヘラケズリ→横位ヘラケズリ	黒褐 （5YR3／1）	硬質 結晶変岩有り
160	H－47、5 床直	（須恵器） 甕(土釜)	高 16.8 口 14.3 底 6.3 体最 15.8	体部最大幅が上位にくる倒卵形。口縁部は短く外方へ屈曲する。 口 i ヨコナデ(ロクロ目有)　体 i ヨコナデ(ロクロ目有)　底 i ヨコナデ(ロクロ目有) o ヨコナデ(ロクロ目有)　o ヨコナデ(ロクロ目有)　o － （体部 o 下位に横位ヘラケズリ状擦痕有り）	褐 （7.5YR4／3）	酸化焔焼成 硬質
161	H－47、6 竈内・床直	須恵器 杯	高 3.9 口 12.1 底 6.4	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部は丸くおさめられる。底部内面は湾曲している。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰白 （N8）	還元焔焼成 軟質 内面黒斑有り
162	H－47、7 竈内	須恵器 椀	高 4.9 口 12.8 底 5.7	底部から内湾気味に立ち上がり、上半はほぼ直線的にのび端部を丸くおさめる。高台は台形。底部内面にわずかな平坦面をもち口縁部まで湾曲する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰白 （2.5Y7／8）	還元焔焼成 やや軟質 結晶変岩有り
163	H－47、8 竈内	須恵器 椀	高 5.2 口（13.2） 底 6.7	体部中位に膨らみをもち口縁部はわずかに外反する。端部は丸くおさめる。高台は台形で歪みがある。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ナデ　o 回転糸切り未調整	明赤褐 （2.5YR5／6）	酸化焔焼成 硬質 結晶変岩有り
164	H－47、9 埋土下層	須恵器 椀	高 4.8 口（14.4） 底（6.8）	体部は直線的にのび口縁部は若干器壁を厚くしやや外反する。端部は丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i － o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰黄褐 （10YR5／2）	還元焔焼成 やや軟質
165	H－47、10 埋土下層	須恵器 椀	高 5.7 口（13.6） 底 6.9	体部は中位まで内湾気味に立ち上がり口縁部は緩やかに外反気味にのびる。端部はそのまま丸くおさめる。高台は外方へ突出する断面矩形。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰黄褐 （10YR5／2）	酸化焔焼成 硬質
166	H－47、11 竈内・床直	須恵器 椀	高 4.4 口 13.4 底 6.7	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する高台は歪みがなく断面丸みをもつ台形。底部内面は中央が突出する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰白 （2.5Y8／2）	還元焔焼成 やや軟質 結晶変岩有り
167	H－47、12 竈内	須恵器 椀	高 5.0 口（12.2） 底 6.5	底部からほぼ直線的に外上方にのび口縁部はわずかに外反する。高台は台形状。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	黒 （2.5Y2／1）	還元焔焼成 硬質 結晶変岩有り
168	H－47、13 埋土下層	（須恵器） 耳皿	高 2.8 長 8.9 短 6.2 底 4.8	くびれ部は上方へ湾曲しながら立ち上がりそのまま丸くおさめる。皿部は外反気味に外上方にのび端部は丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）・ナデ　o 回転糸切り未調整	浅黄橙 （7.5YR8／4）	酸化焔焼成 やや軟質 結晶変岩有り
169	H－47、14 床直	灰釉 長頸壺	高［16.9］ 頸（6.1） 底 9.0	底部から若干湾曲気味に立ち上がり肩部が張る。高台は内側に段を有し外方へ丸く突出する。 体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有）→施釉 o 上半ヨコナデ（ロクロ目有）→施釉　o ヨコナデ（ロクロ目有） 下半回転ヘラケズリ→施釉	灰白 （N7／1）	硬質
170	H－47、15 住内D-1	須恵器 長頸壺	高 28.5 口 15.3 底 11.3 体最 19.6	体部上位に最大径をもち肩部がやや張り頸部へとすぼまる。口縁部は外反し端部外側に面をもつ。端面には段を有し上下につまみ出される。 口 i ヨコナデ（ロクロ目有）　体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ナデ o ヨコナデ（ロクロ目有）　o ナデ　o ヨコナデ	褐灰 （10YR5／1）	還元焔焼成 硬質 結晶変岩有り
171	H－47、16 竈内 住内D-1	須恵器 甕	高［31.8］ 底（15.9） 体最（36.0）	体部最大幅を上位にもちそこまで底部からほぼ直線的にのびる。 体上 i ユビオサエ・ヨコハケ→ナデ　体下 i ユビオサエ・ナデ o ナデ　o ナデ（底部付近横位ヘラケズリ）	灰 （N5）	還元焔焼成 硬質 結晶変岩有り
172	H－47、17 埋土下層	須恵器 甕	高［10.7］ 口 － 底（16.6）	底部から外方に直線的に立ち上がる。 体 i ナデ　底 i － o ナデ（底部付近横位ヘラケズリ）　o －	赤橙 （10R6／8）	酸化焔焼成 軟質
173	H－47、18 住内D-1	須恵器 甕	高［14.5］ 口 19.2 底 －	体部上半は湾曲し口縁部は緩やかに外反する。端部はそのまま丸くおさめられる。 口 i ヨコナデ（ロクロ目有）　体 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o ヨコナデ（ロクロ目有）	にぶい黄橙 （10YR6／3）	酸化焔焼成 やや軟質
174	W－8、1	土師器 杯	高 3.3 口（12.4） 底 －	底部からそのまま湾曲して口縁部に至る。端部はやや尖り気味におさめる。 口 i －　体 i －　底 i － o ヨコナデ　o ナデ・横位ヘラケズリ　o ヘラケズリ	橙 （5YR6／6）	硬質
175	W－8、2	土師器 甕	高［8.1］ 口（20.8） 底 －	体部上位がやや張り口縁部は緩やかに外反する。 口 i ヨコナデ　体 i ナデ o ヨコナデ　o 横位ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	硬質

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調整技法	色調	備考
176	W－8、3	須恵器 甕	高（69.8） 口 47.0 底 －	体部最大径が上位にあり肩部がやや張る。口縁部は外反し端部は面をもち上下に肥厚させる。 口 i ヨコナデ　体 i ナデ（中位当て具痕）　底部 i ナデ o ヨコナデ　o ナデ　o ナデ	灰 （7.5Y5／1）	還元焔焼成 硬質
177	D－1、1 埋土	土師器 杯	高 4.1 口 11.4 底 5.7	底部からほぼ直線的に立ち上がり口縁部に張りをもち端部は尖り気味におさめる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ底部　i ヨコナデ o ヨコナデ　o上ユビオサエ・ナデ　下横位ヘラケズリ　o ナデ「型肌」	にぶい赤褐 （5YR5／4）	硬質
178	D－2、1 埋土	（須恵器） 椀	高 6.1 口 14.2 底 5.8	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。高台は台形。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o ヨコナデ	浅黄 （2.5Y7／3）	酸化焔焼成 やや軟質
179	D－71、1 埋土	須恵器 椀	高［3.2］ 口 － 底 9.1	底部内面は平坦。高台は「ハ」字状に外反しながらのび丸くおさめる。 底 i ナデ o ヨコナデ	浅黄 （7.5YR8／6）	酸化焔焼成 やや軟質
180	D－71、2 床直	（須恵器） 甕（土釜）	高［14.8］ 口 － 底 －	体部上位はほとんど張らず頸部が若干くびれ口縁部はわずかに外反する。端部に面をもつ。補修痕と思われる粘土貼り付けが見られその部分で割れたかたちとなる。 口 i ヨコナデ　体 i ナデ o ヨコナデ　o（ナデ・ヘラケズリ）・補修後ヘラミガキ状擦痕	にぶい褐 （7.5YR6／3）	酸化焔焼成 硬質 181と同一個体
181	D－71、3 床直	（須恵器） 甕（土釜）	高［10.3］ 口 － 底 －	体部上位はほとんど張らず頸部が若干くびれ口縁部はわずかに外反する。端部に面をもつ。補修痕と思われる粘土貼り付けが見られる。 口 i ヨコナデ　体 i ナデ o ヨコナデ　o縦位ヘラケズリ・補修後ヘラミガキ状擦痕	にぶい褐 （7.5YR6／3）	酸化焔焼成 硬質 2次被熱有り 180と同一個体
182	I－1、1 8層	土師器 杯	高［3.5］ 口（12.4） 底 －	体部は湾曲しながら立ち上がり口縁部下で段をもち端部はそのまま丸くおさめる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ　o ナデ（「型肌」）	灰白 （7.5YR8／2）	酸化焔焼成 やや軟質
183	I－1、2 7層	須恵器 椀	高［1.4］ 口 － 底 6.3	高台は低い台形。 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o 回転糸切り未調整	浅黄橙 （10YR8／3）	酸化焔焼成 硬質
184	I－1、3 7層	灰釉	高［1.7］ 口 － 底 7.7	高台は三日月。 底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ	灰白 （2.5Y8／1）	硬質 大原2号窯1？
185	I－1、4 8層	灰釉	高［1.2］ 口 － 底 8.0	高台は内側に稜をもつ台形。 底 i ヨコナデ→ナデ o 回転ヘラケズリ	灰白 （2.5Y7／1）	硬質 大原2号窯2？
186	X－1、1 I－1 5層	土師器 杯	高 3.5 口（11.6） 底 －	底部は丸底気味で、底部から湾曲しながら立ち上がり口縁部に至る。端部は薄く丸くおさめる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ　o ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	硬質
187	X－1、2 I－1 5層	土師器 杯	高 3.5 口（13.0） 底 －	底部は丸底で、底部から湾曲しながら立ち上がり口縁部に至る。端部は内側にわずかに肥厚する。底部外面にユビオサエが連続してみられる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ　o ユビオサエ→ヘラケズリ	橙 （5YR6／6）	硬質
188	X－1、3 I－1 5層	土師器 杯	高［3.2］ 口（12.4） 底 －	体部と底部との境が不明瞭で体部中位まで内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部はそのまま丸くおさめる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ（「型肌」）　o ヘラケズリ	明赤褐 （2.5YR5／6）	硬質
189	X－1、4 I－1 5層	土師器 杯	高 3.2 口 11.8 底 8.5	底部外面はヘラケズリにより平坦。体部は中位まで内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部はそのまま丸くおさめる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ユビオサエ→ナデ　o ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	硬質
190	X－1、5 I－1 5層	土師器 杯	高 3.8 口（11.4） 底（7.8）	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。端部はそのまま丸くおさめる。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ・（ユビオサエ）　o ヘラケズリ	にぶい橙 （2.5YR6／4）	硬質
191	X－1、6 I－1 5層	土師器 杯	高 3.6 口（11.9） 底（9.3）	底部は丸底気味で体部からほぼ直線的に外上方にのび口縁部は内側に肥厚する。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ　o ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	硬質
192	X－1、7 I－1 5層	土師器 杯	高［3.3］ 口（12.4） 底 －	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部は内側に丸く肥厚する。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ（「型肌」）　o ヘラケズリ	にぶい橙 （5YR7／4）	硬質
193	X－1、8 I－1 5層	土師器 杯	高［2.6］ 口（12.5） 底（9.6）	底部から外上方にほぼ直線的にのび口縁部に至る。端部は内側に丸く肥厚する。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ　底 i ヨコナデ o ヨコナデ　o ナデ（「型肌」）　o ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	硬質
194	G-X28Y38	（須恵器） 羽釜	高［15.0］ 口（18.5） 底 － 体最（28.5）	体部は球形で口縁部までそのまま至る。端部は上方に面をもつ。凸帯は幅が狭く突出気味の三角形。 口 i ヨコナデ　体 i ヨコナデ o ヨコナデ　o 斜位ヘラケズリ	にぶい赤褐 （5YR5／4）	酸化焔焼成 硬質
195	G－不明	土師器 杯	高 3.1 口 11.9 底 －	底部は丸底で底部から上方へ短く屈曲し口縁部に至る。端部は丸くおさめる。 口・体 i ヨコナデ　底 i ナデ o ヨコナデ　o ヘラケズリ	橙 （2.5YR6／6）	やや軟質
196	G-X11Y33	須恵器 椀	高 5.5 口 14.4 底 6.1	底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部まで直線的にのびわずかに外反する。端部はやや厚く丸くおさめる。高台は台形。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	にぶい橙 （7.5YR7／4）	酸化焔焼成 硬質 結晶変岩有り
197	G-X30Y41	須恵器 椀	高 6.3 口（16.2） 底 6.6	底部から内湾気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。高台はやや高めの台形。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	灰白 （5Y8／1）	還元焔焼成 硬質
198	G-X14Y33	須恵器 杯	高 3.2 口 9.8 底 5.0	体部は中位に膨らみをもち端部はそのまま丸くおさめる。底部内面中央が突出する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o ヨコナデ（ロクロ目有）	にぶい橙 （5YR6／4）	酸化焔焼成 硬質 内面すす付着
199	G-X30Y41	（須恵器） 皿	高 1.5 口 8.2 底 5.8	底部から短く上方に屈曲する。 口・体 i ヨコナデ（ロクロ目有）　底 i ヨコナデ（ロクロ目有） o ヨコナデ（ロクロ目有）　o 回転糸切り未調整	橙 （2.5YR6／6）	酸化焔焼成 硬質

Tab. 3　石製品、木製品、特殊遺物観察表

番号	地区・層位	種類・器種	法量	形態上の特徴
1	H47、18	丸　　鞆	長 2.6　幅 4.0　厚 0.8	
2	H 1 、 5	紡 錘 車	径 5.1　厚 2.1　軸径 0.8	断面台形状。全体を磨く。
3	H39、 4　床直	紡 錘 車	径 4.5　厚 1.2　軸径 0.8	断面隅丸台形状。下面を比較的磨く。
4	X12Y44　表採	砥　　石	長 5.8　幅 4.5　厚 2.8	台形状で孔をもつ。孔付近に幅広の擦痕が見られる。
5	H 5 、20　埋土下層	砥　　石	長 9.5　幅 3.9　厚 2.9	台形状。細かい擦痕が見られる。
6	H 5 、21　埋土上層	羽　　口	長 [10.7]　径 7.1　孔径 1.8	断面わずかに楕円形。ナデ調整。先端部は珪質化。
7	H11、 7　埋土下層	土　　錘	長 4.6　幅 1.8　孔径 0.4	外面ナデ調整。
8	H10、18　埋土下層	土　　錘	長 3.8　幅 1.9　孔径 0.4	外面ナデ調整。一部欠損。
9	H17、 1　埋土	土　　錘	長 [4.2]　幅 1.8　孔径 0.3	外面ナデ調整。一部欠損。
10	H 9 、 2　埋土	土　　錘	長 [3.7]　幅 1.6　孔径 0.3	外面ナデ調整。両端欠損。
11	W 9 、 1　埋土	土　　錘	長 [2.5]　幅 1.1　孔径 0.3	外面ナデ調整。一部欠損。
12	I 1 、 5　埋土下層	井戸枠？	長 122.7　幅 13.2　厚 5.1	一端が抉られる。腐食が著しいため加工痕は不明。
13	I 1 、 6　埋土下層	曲 げ 物	長 [8.4]　幅 [7.6]　厚 0.2	結合部分。木皮（桜？）により合わせられる。
14	I 1 、 7　埋土下層	曲 げ 物	長 [6.2]　幅 [5.1]　厚 0.3	切れ込みが等間隔に入る。
15	I 1 、 8　埋土下層	曲 げ 物	長 [5.3]　幅 [7.9]　厚 0.3	切れ込みが等間隔に入る。
16	I 1 、 9　埋土	石　　鏃	長 2.0　幅 1.3　厚 0.4	凹基無茎。
17	H17、 2　埋土	剥　　片	長 6.3　幅 7.7　厚 0.9	黒色頁岩。
18	H 2 、16　埋土	剥　　片	長 6.1　幅 6.6　厚 0.1	黒色頁岩。
19	H 2 、17　埋土	剥　　片	長 3.9　幅 5.6　厚 1.3	黒色頁岩。

Tab. 4　鉄器観察表

番号	地区・層位	種類・器種	法量	形態上の特徴
1	H 1 、 2　埋土上層	釘	長 4.8　幅 0.9　厚 0.8	頭部が平たく張り出しをもつ。断面は方形。先端部は欠損。
2	H 1 、 3	釘	長 6.9　幅 0.9　厚 1.0	錆化が著しい。頭部が一方へ突出する。
3	H16、 4	釘	長 7.9　幅 0.6　厚 0.7	頭部が平たく一方へ突出する。断面は方形。先端へ細くなる。
4	H10、16	釘	長 8.8　幅 0.8　厚 0.8	錆化が著しい。断面は方形。先端へ細くなる。
5	H25、 3	紡 錘 車	車部径 4.6　厚 0.3　軸心径 0.5	軸棒は欠損。はずみ車部のみ残存。
6	H 2 、14　埋土上層	紡 錘 車	軸長 17.2　幅 0.4　厚 0.4 車部径 4.8　厚 0.3	軸棒は一部欠損し先端が鉤状になる。断面はやや方形を呈する。
7	D22、 1　埋土	鏃　　？	長 11.4　幅 2.5　厚 0.9	錆化が著しい。
8	H 1 、 4　埋土上層	刀　　子	長 3.3　幅 1.1　厚 0.3	刀子刃部のみ残存。
9	H 5 、18　埋土	刀　　子	長 6.8　幅 1.0　厚 0.6	刃部先端欠損。茎部に木質が残る。
10	H 5 、19　埋土	刀　　子	長 10.9　幅 1.1　厚 0.5	錆化が著しい。茎部一部欠損。
11	H10、17　埋土上層	鎌	長 10.6　幅 3.1　厚 0.5	錆化が著しい。刃部先端欠損。折り返し部が残る。
12	H 2 、15　埋土上層	帯 金 具	長 4.2　幅 4.1　厚 1.0	錆化が著しい。かこであろう。
13	H 4 、 4　埋土	鉄　　塊	長 10.4　幅 5.4　厚 2.5	錆化が著しい。板状。鉄素材？
14	H 4 、 5　埋土	鉄　　塊	長 7.3　幅 6.7　厚 1.5	錆化が著しい。板状。鉄素材？
15	H 4 、 6　埋土	鉄　　塊	長 8.3　幅 4.9　厚 1.6	錆化が著しい。板状。鉄素材？

出土遺物の観察表について

出土遺物の観察表は土器、鉄器、石製品・木器及びその他の遺物と編集の都合上３つに分け記述した。

［番　　号］　実測図版と写真図版に共通のもの。

［地　区・層　位］　出土遺構番号と併せて遺構内での遺物番号（遺構内出土位置に対応）を併記した。層位は「床直」「竈内」「埋土下層」「埋土上層」に分けた。「床直」は床面直上及び床面から10センチ以内で出土したものとし、「竈内」は竈内部より出土したもの、「埋土下層」「埋土上層」は「床面」より上部を便宜的に２層に分けたものである。尚、数字で表された層位はその遺構での層位に対応したものである。

［器　　種］　「器種」は「甕」「甑」「杯」「椀」「皿」「甕（貯蔵形態）」「壺」等に分類し、種別として「土師器」「須恵器」「灰釉」「緑釉」等の区別をした。

［法　　量］　器高、口縁部径、底部径、体部最大幅を計測し、それぞれ「高」「口」「底」「体最」と略した。反転復原等により推定された計測値には（　）を付け、復原できないものについては現存での計測値としてそれに［　］を付けた。

［形　態　及び　成形・調整技法］　調整技法は各部位ごとに「ｉ」（内面）、「ｏ」（外面）に分け記述した。また、「→」により調整の順序を示した。

［色　　調］　土器外面で観察し、色名は　小山正忠他1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社によった。

［備　　考］　焼成として「硬質」「やや硬質」「やや軟質」「軟質」の区別をし、「須恵器」に関しては色調等により「酸化焔焼成」「還元焔焼成」の区別をした。また胎土に関して特徴的なものに限り記述した。

Tab. 5　住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）	面積	壁現高	主軸方向	竈	備考
		東西×南北	(㎡)	(cm)			重　複　等
H－1	X29～31、Y41・42	3.27×(3.98)	(12.53)	22	N－86°－E	東　壁	H－2 W－1
H－2	X29～31、Y41・42	5.66×(3.35)	(16.79)	45	N－92°－E	な　し	H－1 H－4 W－1
H－3	X27、Y39・40	(0.50)×(3.13)	(1.73)	23	(N－87°－E)	東　壁	H－2 W－5
H－4	X29～30、Y42	3.42×(1.82)	(5.23)	20	(N－87°－E)	な　し	H－2 W－1 W－3 W－4
H－5	X27・28、Y39～41	(3.82)×5.19	(17.03)	54	(N－87°－E)	な　し	H－8 D－8 W－3 W－4
H－6	X27、Y41～42	(2.21)×3.42	(5.04)	4	N－91°－E	東壁南寄り	H－7 D－3 D－4 W－7
H－7	X26～27、Y41～42	(2.08)×4.22	(6.48)	6	N－84°－E	東壁南寄り	H－6 W－7
H－8	X28、Y39	(2.75)×(1.34)	(2.69)	45	[N－78°－E]	な　し	H－5 W－3 W－4 W－5
H－9	X28、Y37～38	(2.08)×3.80	(7.47)	33	N－92°－E	な　し	H－44
H－10	X27～28、Y36～37	(3.06)×5.23	(15.58)	50	N－96.5°－E	東壁南寄り	H－13 H－44
H－11	X27～28、Y36～37	3.43×31.2	9.77	28	N－69°－E	東壁南隅	H－10
H－12	X27～28、Y35～36	(1.58)×4.72	(6.00)	10	N－88°－E	東　壁	H－11
H－13	X28、Y35～36	(1.67)×3.95	(5.80)	40	N－88°－E	な　し	H－10 H－15
H－14	X25～27、Y32～33	(4.25)×3.85	(10.94)	9	N－83°－E	東壁南寄り	W－8 W－9 H－21 古い竈あり
H－15	X28、Y35	(0.85)×(1.85)	(1.26)	42	(N－86°－E)	な　し	H－13 H～16
H－16	X28、Y34～35	(1.18)×3.28	(3.25)	35	N－94°－E	な　し	H－15 D－33 D－51
H－17	X27～28、Y33～34	(1.88)×3.25	(3.82)	16	N－85°－E	東壁南寄り	D－42
H－18	X27～28、Y32～33	2.85×2.83	7.50	20	N－91°－E	東壁南寄り	W－9
H－19	X28、Y32～33	(2.27)×3.28	(6.11)	40	N－94°－E	な　し	H－20
H－20	X－28、Y33	(0.75)×(0.57)	(0.55)	28	[N－87°－E]	な　し	H－19
H－21	X26～27、Y33	(0.6)×(1.23)	(0.66)	14	N－65°－E	東壁南	H－14 W－9
H－22	X27、Y40	(0.19)×(1.95)	(0.86)	10	N－90°－E	東壁隅	H－3 D－46
H－23	X19～20、Y42	3.48×(0.98)	(1.87)	18	N－78°－E	な　し	H－45
H－24	X18～19、Y41～42	3.45×(3.01)	(5.96)	4	N－58°－E	な　し	
H－25	X14～15 、Y41～42	3.45×(2.35)	(4.59)	6	N－60°－E	東壁南寄り	
H－26	X13～14、Y41～42	2.88×(1.67)	(4.50)	40	N－88°－E	東　壁	W－25
H－27	X12、Y40～41	3.00×3.50	9.75	32	N－86°－E	東　壁	竈の両側に棚あり
H－28	X11、Y41～42	(1.13)×3.72	(4.24)	25	N－88°－E	東　壁	W－27
H－29	X11～12、Y40～41	(2.55)×3.28	(7.41)	25	N－81°－E	東壁南隅	
H－30	X11～13、Y39～40	(1.21)×3.19	(3.46)	28	N－92°－E	な　し	H－47 D－69
H－31	X11、Y39	(0.62)×(2.56)	(1.01)	14	N－96°－E	東壁南寄り	H－32 H－33 H－47
H－32	X11、Y39～40	(1.33)×3.12	(2.86)	19	N－85°－E	東壁南寄り	H－31 H－47
H－33	X11、Y38～39	(1.66)×4.32	(5.16)	30	N－82°－E	東壁南寄り	H－31 H－34
H－34	X11～12、Y38～39	(2.71)×3.46	(8.07)	13	N－88°－E	な　し	H－33
H－35	X11～12、Y37～38	(3.08)×3.48	(9.78)	12	N－90°－E	東壁南端	H－36 D－66
H－36	X11～12、Y36～37	(1.60)×(3.45)	(4.15)	8	N－79°－E	な　し	H－35
H－37	X11、Y35	(1.18)×(2.16)	(2.38)	15	N－93°－E	東　壁	H－38 H－39
H－38	X11～12、Y34～35	(1.75)×(2.33)	(3.43)	6	N－87°－E	な　し	H－37 H－39
H－39	X11～12、Y34～35	(3.20)×3.97	(12.79)	24	N－88°－E	東壁南隅	H－37 H－38 H－40 H－41 H－46
H－40	X11、Y33～34	(1.85)×[2.23]	(3.82)	20	N－86°－E	東壁南隅	H－39 H－46
H－41	X11～12、Y33～34	(2.78)×(2.83)	(4.13)	15	[N－82°－E]	な　し	W－29 H－39
H－42	X11、Y32～33	(2.09)×2.98	(6.15)	23	N－89°－E	東壁南寄り	
H－43	X14～15、Y32～33	2.99×(2.72)	(7.83)	10	N－88°－E	東壁南寄り	
H－44	X28、Y37	(0.85)×(1.54)	(1.20)	23	[N－80°－E]	な　し	H－9 H－10 H－11
H－45	X19～21、Y42	3.90×(2.47)	(6.31)	40	(N－73°－E)	東　壁	H－23
H－46	X11、Y34	――	(0.17)	――	――	東　壁	H－39 H－40 竈のみ
H－47	X11、Y39～40	2.67×4.14	[9.70]	34	N－90°－E	東壁南寄り	H－30 H－31 H－32 D－69

※検測値については（　）は現存値［　］は復元値を表す。

Tab. 6　竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長（cm）	最大幅（cm）	焚口部幅（cm）	備考（構築材等）
H－1	N－86°－E	75	64	27	支脚と袖の構築材として石を使用
H－3	N－94°－E	80	115	45	
H－6	N－94°－E	105	74	50	
H－7	N－92°－E	(77)	110	88	支脚の構築材として石を使用
H－10	N－96°－E	(35)	(94)	37	構築材として粘土を使用
H－11	N－103°－E	93	88	40	支脚と袖の構築材として石を使用
H－12	N－87°－E	92	82	60	構築材として粘土を使用
H－14	N－76°－E	100	70	50	支脚と袖の構築材として石を使用
H－17	N－84°－E	80	95	48	構築材として粘土を使用
H－18	N－101°－E	82	75	36	支脚と袖の構築材として石を使用
H－21	N－52°－E	(30)	(50)	(22)	
H－22	N－92°－E	90	80	50	
H－25	N－83°－E	70	(65)	(57)	
H－26	N－72°－E	66	73	47	
H－27	N－82°－E	110	112	57	
H－28	N－67°－E	100	78	48	支脚の構築材として石を使用
H－29	N－88°－E	110	67	43	袖の構築材として石を使用
H－31	N－86°－E	55	52	30	
H－32	N－86°－E	77	77	44	
H－33	N－83°－E	68	73	45	構築材として粘土を使用
H－35	N－110°－E	56	56	30	支脚の構築材として石を使用
H－37	N－95°－E	67	65	52	
H－39	N－93°－E	(50)	62	35	支脚の構築材として石を使用
H－40	N－86°－E	70	75	60	支脚の構築材として石を使用
H－42	N－90°－E	70	85	68	
H－43	N－92°－E	58	75	52	
H－45	N－79°－E	(82)	(74)	(55)	
H－46	N－82°－E	(40)	(50)	(25)	
H－47	N－95°－E	102	80	30	支脚と袖の構築材として石を使用

Tab. 7　住居跡柱穴等計測表

遺構名	種類	形状	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）
H－5	貯蔵穴	楕円形	115	55	44
H－9	貯蔵穴	楕円形	100	82	15
H－11	P－1	円形	70	67	21
H－14	P－1	半円形	60	(48)	23
H－18	床下土坑	楕円形	130	50	13
H－19	P－1	半円形	82	(45)	33
H－23	P－1	円形	56	50	13
H－27	P－1	不整形	101	90	12
H－29	P－1	半円形	53	(30)	23
H－33	貯蔵穴	楕円形	(113)	100	15
H－36	P－1	半円形	100	95	8
H－39	貯蔵穴	円形	56	50	31
H－39	P－1	半円形	63	(53)	37
H－43	貯蔵穴	楕円形	48	40	15
H－43	P－1	－	45	43	26
H－45	P－1	楕円形	67	37	45
H－47	貯蔵穴	不整形	52	46	46
H－47	P－1	円形	55	53	32

※検測値については（　）は現存値［　］は復元値を表す。

Tab. 8　溝跡計測表

遺構名	位　　置	長　さ（cm）	深さ	上　　幅（cm）		方　位	形　　状
			（cm）	最大	最小		
W － 1	X28～35、Y41・42	(28.46)	28	62	50	注b	U 字 形
W － 2	X32～35、Y41・42	(12.50)	28	261	96	注c	楕 円 形
W － 3	X27～29、Y37～42	(21.50)	6	84	34	N－21° －W	楕 円 形
W － 4	X27～29、Y38～42	(19.40)	7	100	24	N－28° －W	U 字 形
W － 5	X27・28、Y39	(2.52)	30	73	66	N－88° －W	楕 円 形
W － 6	X27・28、Y38	(4.98)	34	92	38	N－77° －W	U 字 形
W － 7	X26・27、Y41・42	(4.98)	42	121	95	N－25° －W	すり鉢形
W － 8	X25・26、Y32・33	(5.65)	48	160	129	N－43° －E	すり鉢形
W － 9	X26～28、Y32・33	(9.22)	16	39	21	N－62° －E	すり鉢形
W － 10	X25・26、Y41・42	(4.98)	40	152	127	N－33° －W	楕 円 形
W－11南	X20～25、Y41・42	(5.50)	—	計測できず		N－40° －W	－
W－11北	X15～19、Y32・33	(4.40)	88	1330	1310	N－14° －W	楕 円 形
W － 12	X25・26、Y32・33	(5.86)	8	26	21	N－39° －E	逆 台 形
W － 13	X24・25、Y32・33	(5.01)	18	51	28	N－26° －E	すり鉢形
W － 14	X24・25、Y32・33	(3.83)	6	48	19	N－50° －W	楕 円 形
W － 15	X22・23、Y32・33	(4.51)	17	83	31	N－8° －W	楕 円 形
W － 16	X22・23、Y32・33	(4.89)	39	85	51	N－25° －W	すり鉢形
W－17北	X21・22、Y32・33	(4.48)	(18)	377	368	N－17° －W	－
W － 18	X20・21、Y32・33	(5.15)	20	45	24	N－47° －W	逆 台 形
W － 19	X27・28、Y35	(3.76)	9	35	28	N－47° －W	楕 円 形
W － 20	X25、Y42	(2.62)	16	82	67	N－74° －E	すり鉢形
W － 21	X17・18、Y41・42	(5.78)	20	70	50	N－37° －W	楕 円 形
W － 22	X17・18、Y41・42	(5.56)	26	70	54	N－35° －W	すり鉢形
W－23北	X16～18、Y41・42	(6.35)	82	216	186	N－37° －W	すり鉢形
W － 24	X15・16、Y41	(2.51)	7	39	19	N－63° －E	楕 円 形
W － 25	X14・15、Y41・42	(8.17)	13	55	26	注a	楕 円 形
W－17南	X25・26、Y41・42	(4.58)	－	280	150	N－18° －W	－
W － 27	X11、Y42	(2.70)	29	24	18	N－21° －W	楕 円 形
W － 28	X11・12、Y41	(5.30)	20	38	27	N－79° －E	U 字 形
W － 29	X11・12、Y32～34	(8.20)	6	35	18	N－13° －W	楕 円 形
W － 30	X11・12、Y36	(3.43)	34	50	35	N－85° －W	（U字形）
W － 31	X11・12、Y35・36	(3.45)	50	111	95	N－80° －W	逆 台 形
W － 32	X11・12、Y35	(3.41)	7	24	18	N－84° －W	U 字 形
W － 33	X12、Y32・33	(5.96)	5	41	23	N－21° －E	－
W － 34	X12・13、Y32・33	(5.20)	23	118	76	N－21° －E	楕 円 形
W － 35	X18、Y41・42	(3.42)	19	30	12	N－33° －W	すり鉢形
W － 36	X13・14、Y33	(3.10)	27	54	48	N－37° －W	逆 台 形

注a：北壁より南へ3.4mは、N－26° －E。そこから東へ4.8mはN－69。

注b：東壁より西へ9.78mはN－77° －E。そこからまた西へN－90° －Eの方位で進み18.68mで消滅する。

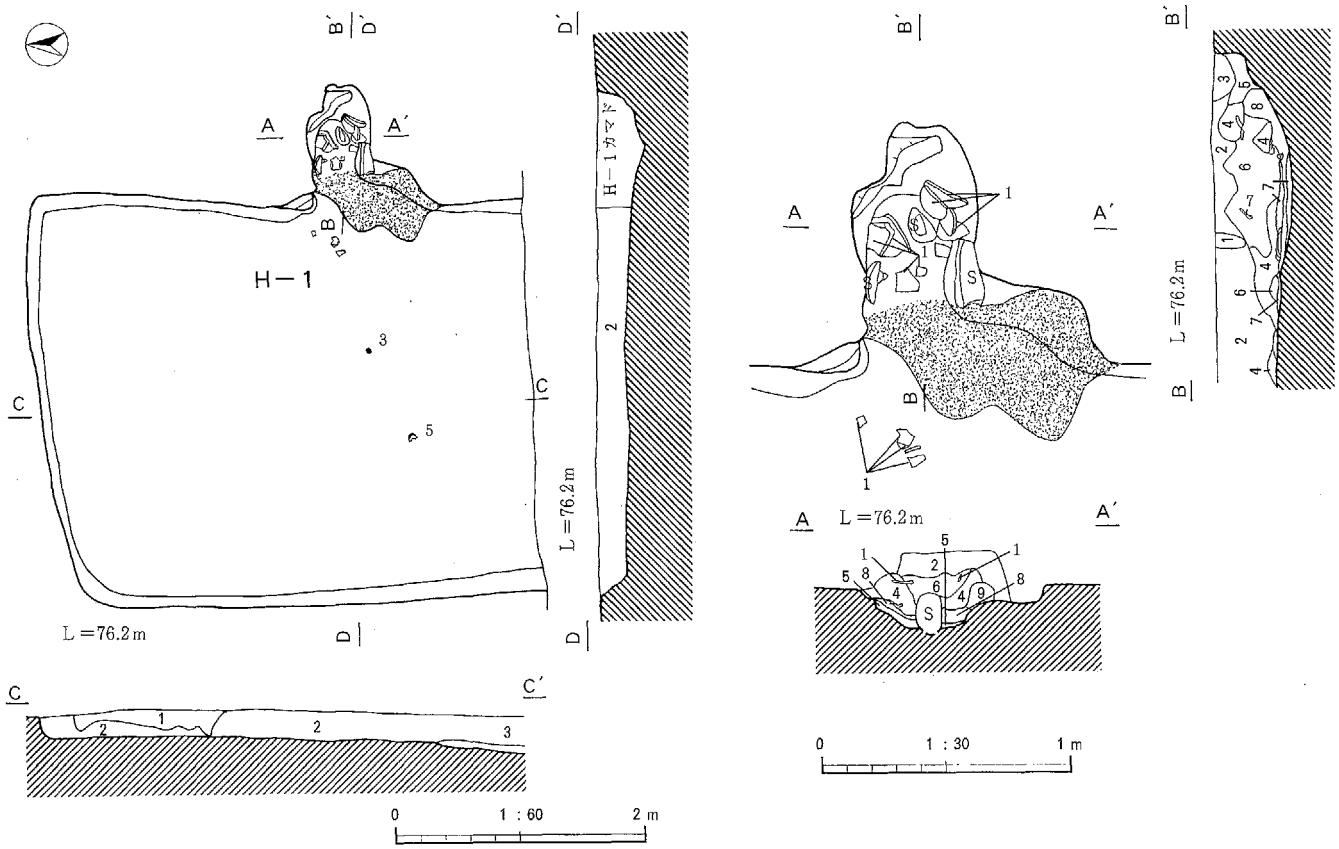
注c：東壁より西へ7.76mはN－89° －E。そこから湾曲しながらN－57° －Eの方位で4.79m進み、南壁にぶつかる。

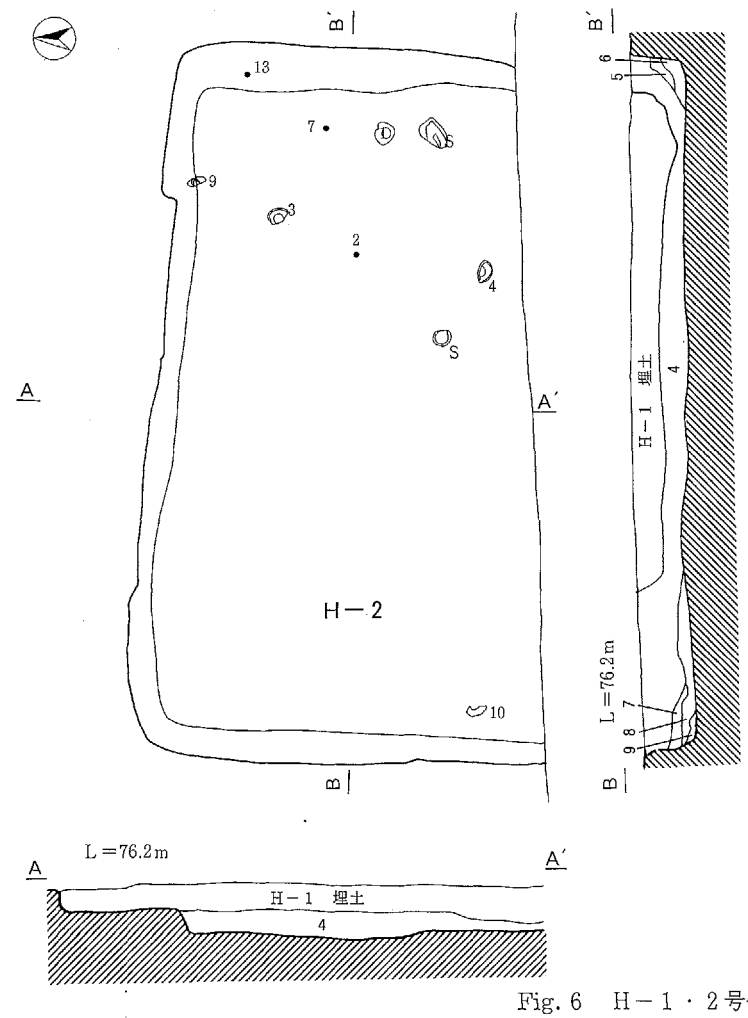
※検測値については（　）は現存値［　］は復元値を表す。

Tab. 9　土坑・井戸跡・落ち込み計測表

遺構名	長軸	短軸	深さ	形状	遺構名	長軸	短軸	深さ	形状
	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)			(cm)	(cm)	
D－1	45	35	5	楕円形	D－41	51	39	38	不整形
D－2	56	56	16	円形	D－42	87	85	6	円形
D－3	33	32	6	菱形	D－43	47	44	8	円形
D－4	57	50	34	円形	D－44	71	62	18	円形
D－5	60	(30)	10	円形	D－45	30	27	15	円形
D－6	81	55	8	楕円形	D－46	109	71	18	楕円形
D－7	27	(21)	5	(円形)	D－47	126	90	11	(楕円形)
D－8	18	14	3	楕円形	D－48	89	82	16	不整形
D－9	14	14	3	円形	D－49	133	58	48	不整形
D－10	15	10	3	楕円形	D－50	49	40	36	不整形
D－11	10	10	4	円形	D－51	欠番			
D－12	79	44	9	不整形	D－52	95	78	6	円形
D－13	17	15	8	円形	D－53	35	35	4	円形
D－14	18	17	5	円形	D－54	52	38	6	楕円形
D－15	18	12	3	楕円形	D－55	143	76	24	楕円形
D－16	12	10	3	円形	D－56	91	76	3	楕円形
D－17	12	14	2	円形	D－57	(68)	60	8	不整形
D－18	95	85	6	楕円形	D－58	82	47	9	不整形
D－19	33	21	5	隅丸長方形	D－59	71	66	3	正方形
D－20	13	13	2	円形	D－60	136	140	52	円形
D－21	13	11	3	円形	D－61	欠番			
D－22	125	98	26	楕円形	D－62	96	(50)	12	(円形)
D－23	174	(54)	14	(隅丸長方形)	D－63	92	65	14	楕円形
D－24	9	8	4	円形	D－64	57	78	17	円形
D－25	欠番				D－65	50	21	24	楕円形
D－26	150	(72)	16	(円形)	D－66	110	108	19	円形
D－27	70	51	8	楕円形	D－67	95	93	15	円形
D－28	79	(52)	(20)	隅丸正方形	D－68	51	44	4	楕円形
D－29	86	73	15	楕円形	D－69	145	76	17	隅丸長方形
D－30	欠番				D－70	133	142	30	正方形
D－31	114	100	44	円形	D－71	210	150	15	楕円形
D－32	55	47	4	円形	D－72	83	(44)	42	(円形)
D－33	79	66	56	菱形	D－73	(54)	49	13	楕円形
D－34	40	40	6	円形	P－1	46	(39)	18	(円形)
D－35	27	21	7	楕円形	P－2	48	42	31	楕円形
D－36	39	33	20	楕円形	P－3	51	44	62	長方形
D－37	69	64	68	円形	I－1	(155)	(49)	(200)	(方形)
D－38	72	65	14	円形	O－1	－	－	40	不整形
D－39	87	64	8	楕円形	O－2	－	－	46	不整形
D－40	欠番								

※検測値については（　）は現存値［　］は復元値を表す。





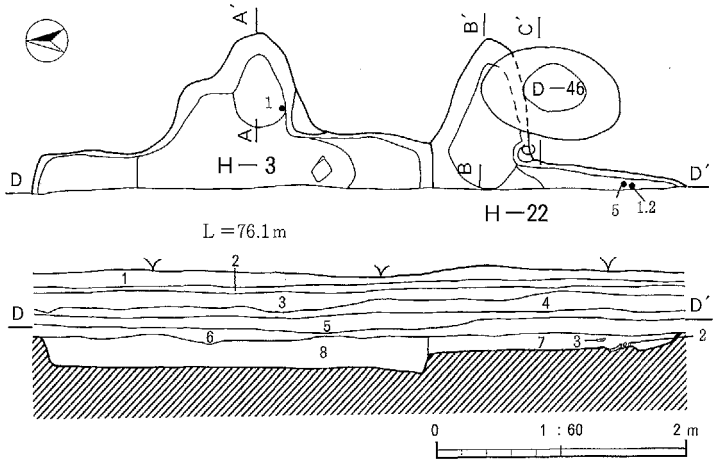
H－1・2号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×△　φ0.5㎜のAs-B軽石を５％含む。
2　暗褐色土（10YR3／3）　×○　φ１～５㎜のHr-FPを10～15％、φ３㎜のAs-Cを１～２％、φ５～10㎜の焼土粒を３～５％、φ２㎜の炭化物を２％含む。（H－１埋土）
3　暗褐色土（10YR3／3）　×△　黒褐色（10YR3／1）の灰を多く含む。
4　褐色土（10YR4／4）　×○　φ２㎜の明黄褐色（10YR6／6）土ブロックを25％、φ５㎜のHr-FPを５％、φ３㎜の焼土粒を５％、φ３㎜の炭化物を３％含む。上面が暗褐色（7.5YR3／4）を呈し硬化しておりH－１の床面。
5　黒褐色土（10YR3／2）　○○　φ２㎜のHr-FP・焼土粒を１～２％、黒色（10YR2／1）土ブロックを多く含む。
6　黒褐色土（10YR3／2）　○○　φ10㎜の炭化物及びφ２～３㎜のHr-FPを１～２％含む。
7　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△○　φ２～３㎜のHr-FPを３％、φ５㎜の焼土粒を１～２％、炭化物を若干含む。
8　暗褐色土（10YR3／3）　△○　φ10～15㎜の明黄褐色（10YR6／8）・にぶい黄橙色（10YR6／3）土ブロックを10～15％、φ５～７㎜のHr-FPを２～３％、φ３～５㎜の焼土粒を２～３％、φ20㎜の炭化物を５～７％含む。
9　灰黄褐色土（10YR6／2）　○○　φ20～25㎜の黒色（10YR2／1）土ブロックを10～15％含む。
10　黒褐色微砂（10YR3／2）　○○　φ５～10㎜のHr-FPを２～３％、φ20㎜の炭化物を２～３％、φ５㎜の焼土粒を１～２％含む。
11　暗褐色微砂（10YR3／3）　△○　φ20～60㎜の黄褐色（10YR5／8）土ブロックを50％近く、φ２～３㎜の焼土粒・炭化物を１～２％含む。

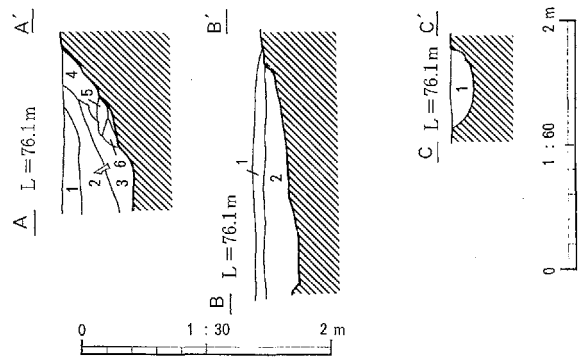
H－1号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×△　φ１～２㎜のAs-Bを２～３％含む。
2　暗褐色土（10YR3／3）　×△　φ３～12㎜のHr-FP及びφ１～２㎜のAs-Cを５～７％、φ10～15㎜の炭化物及びφ５㎜の焼土粒を２～３％含む。
3　明赤褐色土（2.5YR5／8）　△○　竈煙道部の焼土
4　にぶい黄橙色シルト（10YR5／3）　○○　焼土・Hr-FP軽石を１～２％含む。竈天井部粘質土の崩落したもの。
5　灰黄褐色土（10YR4／4）　△○　６層と同質。焼土を３％含む。
6　灰黄褐色土（10YR4／4）　△○　φ30～50㎜のにぶい黄橙色（10YR5／3）シルトブロックを含む。
7　暗灰色灰層（N3）　○△　灰層
8　明赤褐色土（2.5YR5／8）　×○　φ10～20㎜の焼土塊が多くみられる。
9　暗灰色灰層（N3）　○△　灰層

Fig. 6　H－１・２号住居跡



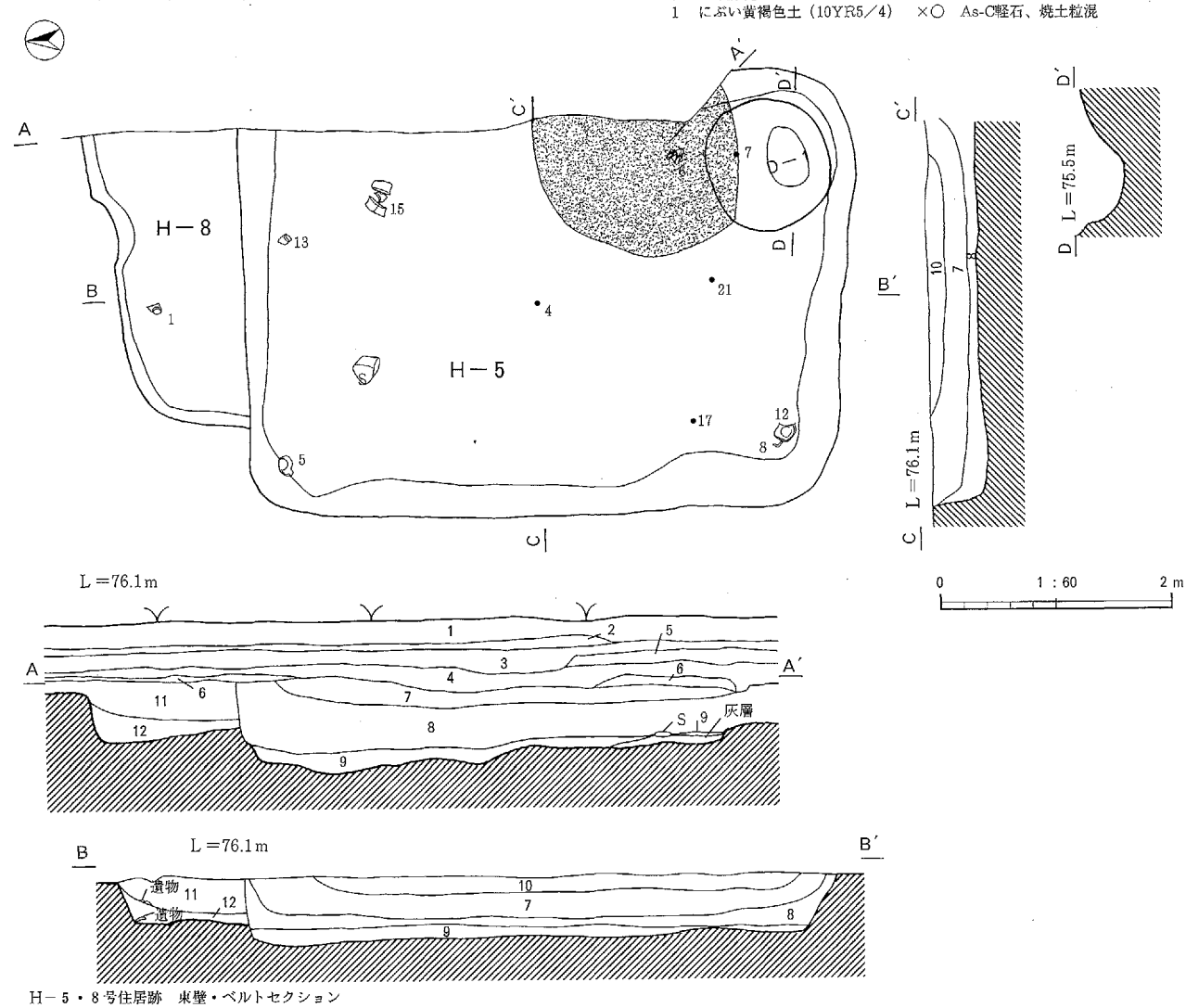
H－3・22号住居跡　西壁セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　現耕作土
2　明赤褐土（5YR5／8）　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○　白色軽石を含む。
4　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　○×　旧耕作土
5　明褐色土（7.5YR5／6）　○×　鉄分沈殿（斑鉄）層
6　黄橙色土（10YR7／8）　△○
7　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△×　As-C及び橙色（5YR6／8）焼土粒を含む。
8　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　×△　As-C及び黄橙色土粒を含む。



H－3号住居跡　竈セクション
1　にぶい黄褐色土（10YR5／6）　×○　白色軽石を含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　×△　白色軽石を含む。
3　褐色土（10YR4／4）　△△　橙色焼土粒を10%含む。
4　褐色土（10YR4／4）　△△　橙色焼土粒を30%含む。
5　褐色土（10YR4／4）　△△　橙色焼土粒を若干含む。
6　橙色土（10YR6／8）　×△　ブロック

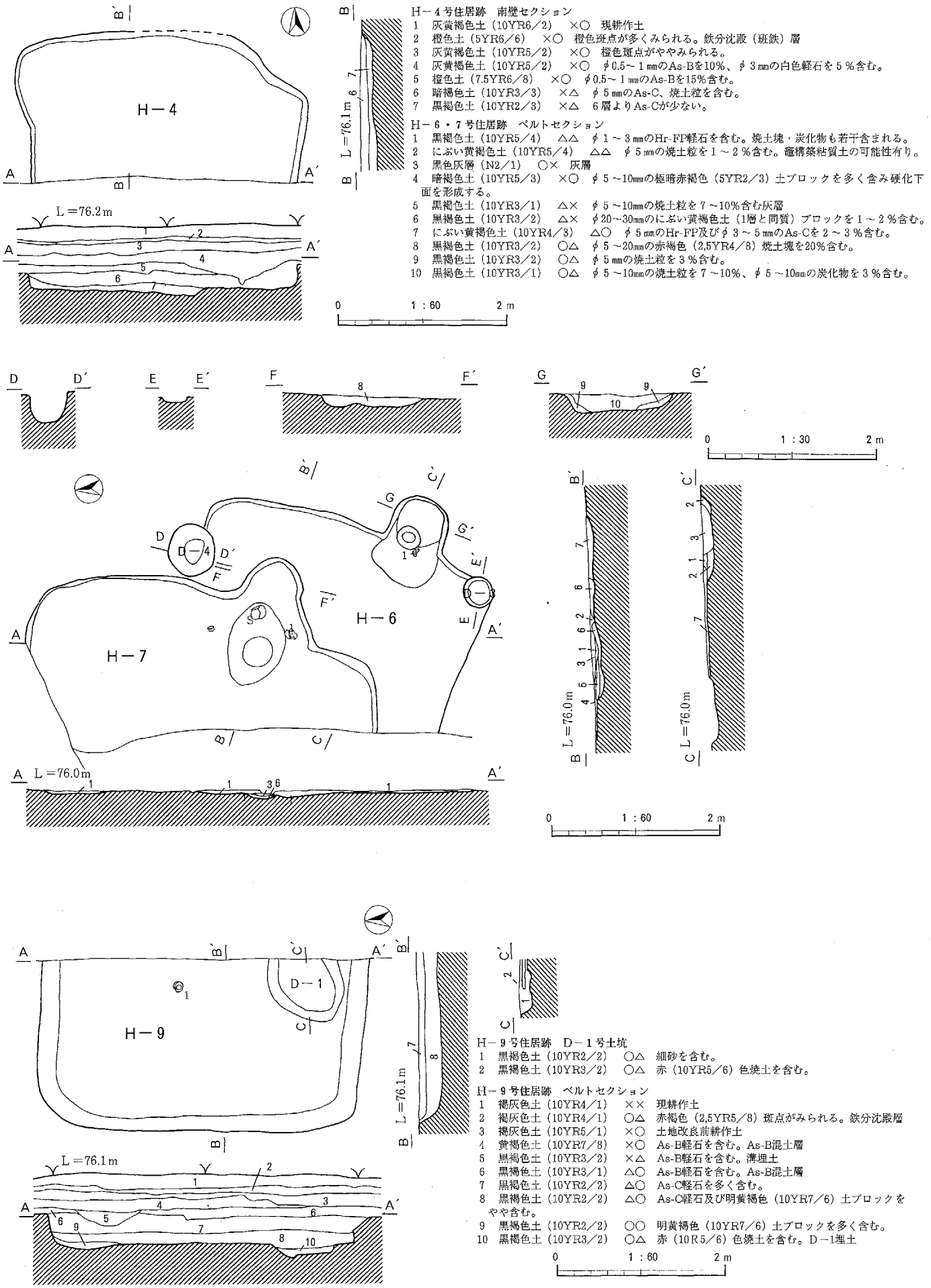
H－22号住居跡　竈セクション
1　にぶい黄褐色土（10YR6／3）　×○　白色軽石を含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　×○　白色軽石を多く、橙色（10YR6／8）焼土粒を少量含む。

D－46号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR5／4）　×○　As-C軽石、焼土粒混



H－5・8号住居跡　東壁・ベルトセクション
1　にぶい黄褐色土　××　現耕作土
2　黄橙色土　××　床土
3　にぶい黄褐色土　×○　旧耕作土
4　灰黄褐色土　×○　白色軽石を多く含む。旧耕作土
5　灰黄褐色土　×○　白色軽石を多少含む。旧耕作土
6　黄橙色土　×○　旧耕作土床土
7　にぶい黄褐色土　×○　焼土粒をわずかに含む。白色軽石を含むが10層より少ない。
8　にぶい黄褐色土　×○　焼土粒をわずかに含む。白色軽石を含むが10層より少ない。
9　灰黄褐色土　○○　H－5床面、黄橙色地山ブロック混土層
10　黄橙色土　×○　白色軽石を7・8層より多く含む。
11　にぶい黄褐色土　△○　白色軽石を11層より多く含む。
12　にぶい黄褐色土　○○　白色軽石を11層より少なく含む。

Fig. 7　H－3・22・5・8号住居跡、D－46号土坑



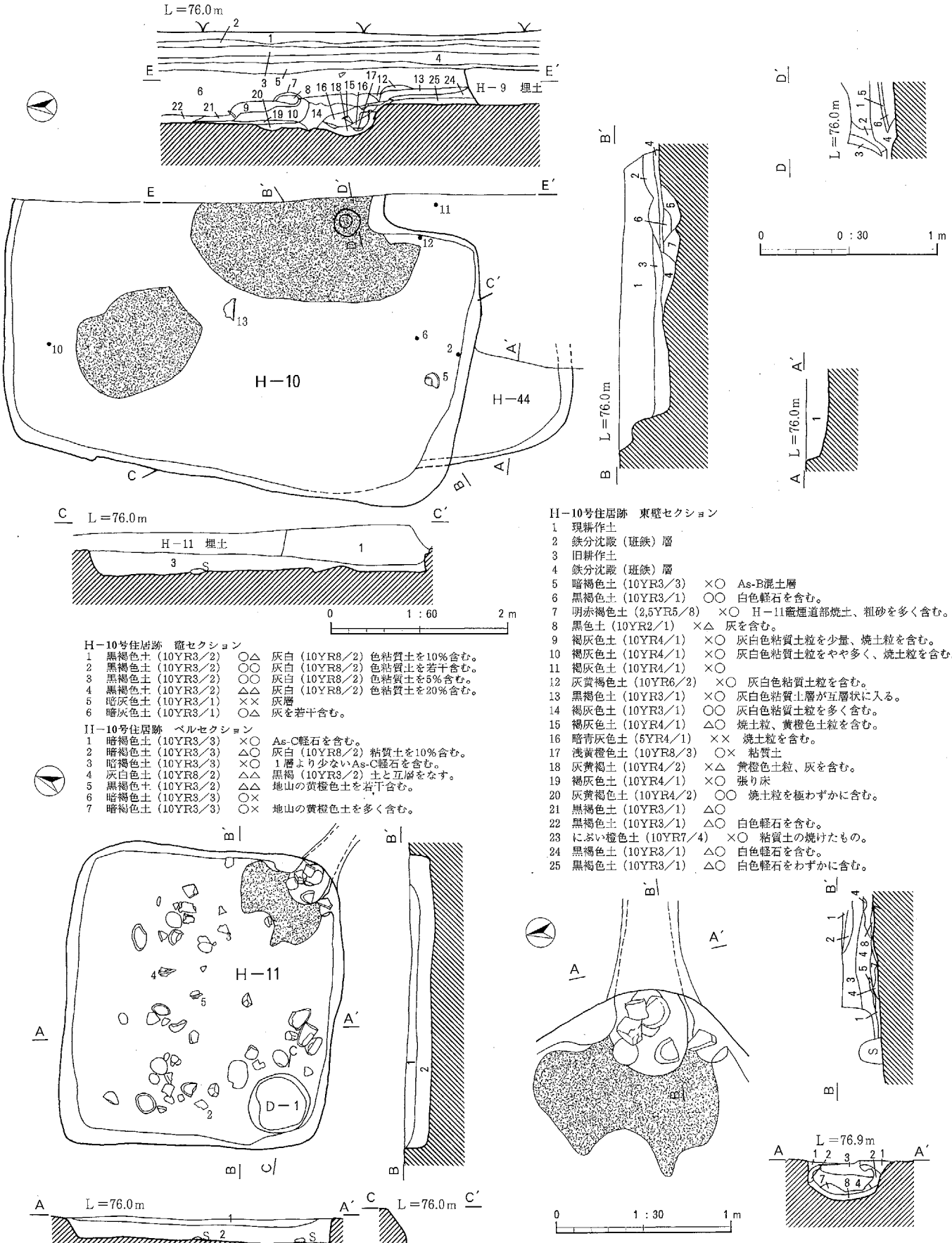
H－4号住居跡　南壁セクション
1　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○　現耕作土
2　橙色土（5YR6／6）　×○　橙色斑点が多くみられる。鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR5／2）　×○　橙色斑点がややみられる。
4　灰黄褐色土（10YR5／2）　×○　φ0.5～1㎜のAs-Bを10%、φ3㎜の白色軽石を5%含む。
5　橙色土（7.5YR6／8）　×○　φ0.5～1㎜のAs-Bを15%含む。
6　暗褐色土（10YR3／3）　×△　φ5㎜のAs-C、焼土粒を含む。
7　黒褐色土（10YR2／3）　×△　6層よりAs-Cが少ない。

H－6・7号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色土（10YR5／4）　△△　φ1～3㎜のHr-FP軽石を含む。焼土塊・炭化物も若干含まれる。
2　にぶい黄褐色土（10YR5／4）　△△　φ5㎜の焼土粒を1～2%含む。竈構築粘質土の可能性有り。
3　黒色灰層（N2／1）　○×　灰層
4　暗褐色土（10YR5／3）　×○　φ5～10㎜の極暗赤褐色（5YR2／3）土ブロックを多く含み硬化下面を形成する。
5　黒褐色土（10YR3／1）　△×　φ5～10㎜の焼土粒を7～10%含む灰層
6　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ20～30㎜のにぶい黄褐色土（1層と同質）ブロックを1～2%含む。
7　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△○　φ5㎜のHr-FP及びφ3～5㎜のAs-Cを2～3%含む。
8　黒褐色土（10YR3／2）　○△　φ5～20㎜の赤褐色（2,5YR4／8）焼土塊を20%含む。
9　黒褐色土（10YR3／2）　○△　φ5㎜の焼土粒を3%含む。
10　黒褐色土（10YR3／1）　○△　φ5～10㎜の焼土粒を7～10%、φ5～10㎜の炭化物を3%含む。

H－9号住居跡　D－1号土坑
1　黒褐色土（10YR2／2）　○△　細砂を含む。
2　黒褐色土（10YR3／2）　○△　赤（10YR5／6）色焼土を含む。

H－9号住居跡　ベルトセクション
1　褐灰色土（10YR4／1）　××　現耕作土
2　褐灰色土（10YR4／1）　○△　赤褐色（2,5YR5／8）斑点がみられる。鉄分沈殿層
3　褐灰色土（10YR5／1）　×○　土地改良前耕作土
4　黄褐色土（10YR7／8）　×○　As-B軽石を含む。As-B混土層
5　黒褐色土（10YR3／2）　×△　As-B軽石を含む。溝埋土
6　黒褐色土（10YR3／1）　△○　As-B軽石を含む。As-B混土層
7　黒褐色土（10YR2／2）　△○　As-C軽石を多く含む。
8　黒褐色土（10YR2／2）　△○　As-C軽石及び明黄褐色（10YR7／6）土ブロックをやや含む。
9　黒褐色土（10YR2／2）　○○　明黄褐色（10YR7／6）土ブロックを多く含む。
10　黒褐色土（10YR3／2）　○△　赤（10R5／6）色焼土を含む。D－1埋土

Fig. 8　H－4・6・7・9号住居跡、D－3・4号土坑



H－10号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土（10YR3／2）　○△　灰白（10YR8／2）色粘質土を10%含む。
2　黒褐色土（10YR3／2）　○○　灰白（10YR8／2）色粘質土を若干含む。
3　黒褐色土（10YR3／2）　○○　灰白（10YR8／2）色粘質土を5%含む。
4　黒褐色土（10YR3／2）　△△　灰白（10YR8／2）色粘質土を20%含む。
5　暗灰色土（10YR3／1）　××　灰層
6　暗灰色土（10YR3／1）　○△　灰を若干含む。

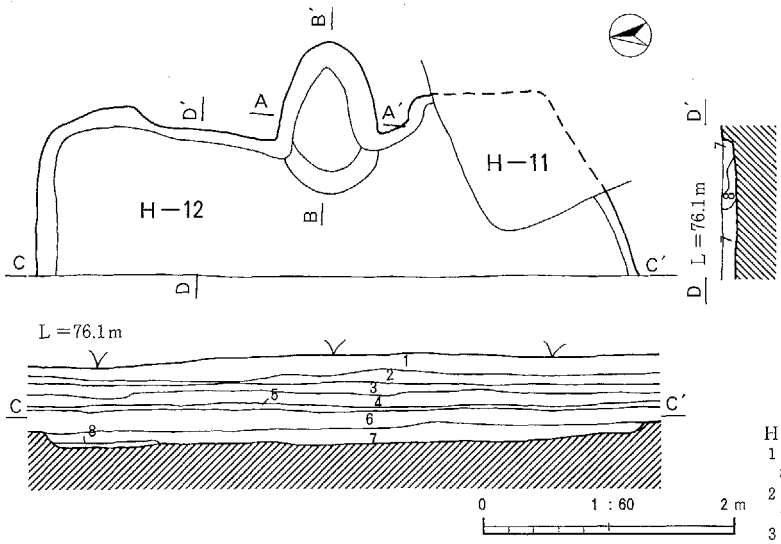
H－10号住居跡　ベルセクション
1　暗褐色土（10YR3／3）　×○　As-C軽石を含む。
2　暗褐色土（10YR3／3）　△○　灰白（10YR8／2）粘質土を10%含む。
3　暗褐色土（10YR3／3）　×○　1層より少ないAs-C軽石を含む。
4　灰白色土（10YR8／2）　△△　黒褐（10YR3／2）土と互層をなす。
5　黒褐色土（10YR3／2）　△△　地山の黄橙色土を若干含む。
6　暗褐色土（10YR3／3）　○×
7　暗褐色土（10YR3／3）　○×　地山の黄橙色土を多く含む。

H－10号住居跡　東壁セクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　暗褐色土（10YR3／3）　×○　As-B混土層
6　黒褐色土（10YR3／1）　○○　白色軽石を含む。
7　明赤褐色土（2,5YR5／8）　×○　H－11竈煙道部焼土、粗砂を多く含む。
8　黒色土（10YR2／1）　×△　灰を含む。
9　褐灰色土（10YR4／1）　×○　灰白色粘質土粒を少量、焼土粒を含む。
10　褐灰色土（10YR4／1）　×○　灰白色粘質土粒をやや多く、焼土粒を含む。
11　褐灰色土（10YR4／1）　×○
12　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○　灰白色粘質土粒を含む。
13　黒褐色土（10YR3／1）　×○　灰白色粘質土層が互層状に入る。
14　褐灰色土（10YR3／1）　○○　灰白色粘質土粒を多く含む。
15　褐灰色土（10YR4／1）　△○　焼土粒、黄橙色土粒を含む。
16　暗青灰色土（5YR4／1）　××　焼土粒を含む。
17　浅黄橙色土（10YR8／3）　○×　粘質土
18　灰黄褐色土（10YR4／2）　×△　黄橙色土粒、灰を含む。
19　褐灰色土（10YR4／1）　×○　張り床
20　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　焼土粒を極わずかに含む。
21　黒褐色土（10YR3／1）　△○
22　黒褐色土（10YR3／1）　△○　白色軽石を含む。
23　にぶい橙色土（10YR7／4）　×○　粘質土の焼けたもの。
24　黒褐色土（10YR3／1）　△○　白色軽石を含む。
25　黒褐色土（10YR3／1）　△○　白色軽石をわずかに含む。

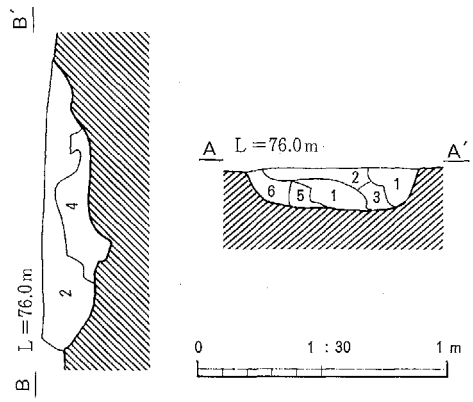
H－11号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　××
2　橙色土（10YR7／8）　×○　煙道壁面焼土
3　黒褐色土（10YR3／2）　×△　白色軽石、焼土粒を含む。
4　灰色灰層（N6／0）　××　灰白（5GY8／1）色灰を40%、浅黄橙（10YR8／4）色焼土粒を含む。
5　黒色灰層（10YR1.7／1）　××
6　明青灰色灰層（5YR4／1）　○×
7　橙色細砂（5YR7／8）　××　焼土と4層の灰の混じり。
8　5層と同質

H－11号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色土（10YR3／2）　△○　As-C軽石を多く含む。
2　黒褐色土（10YR3／2）　○△　As-C軽石をやや含み、黄橙色焼土粒を含む。

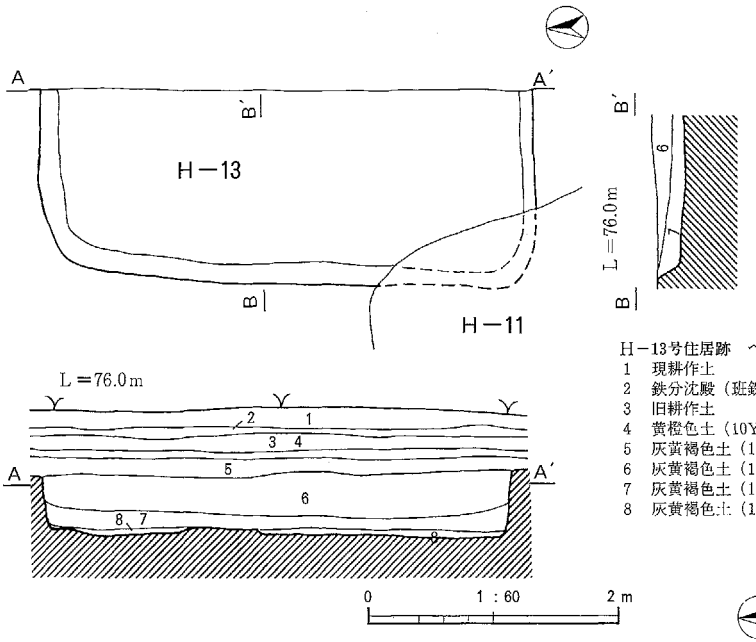
Fig. 9　H－10・11・44号住居跡



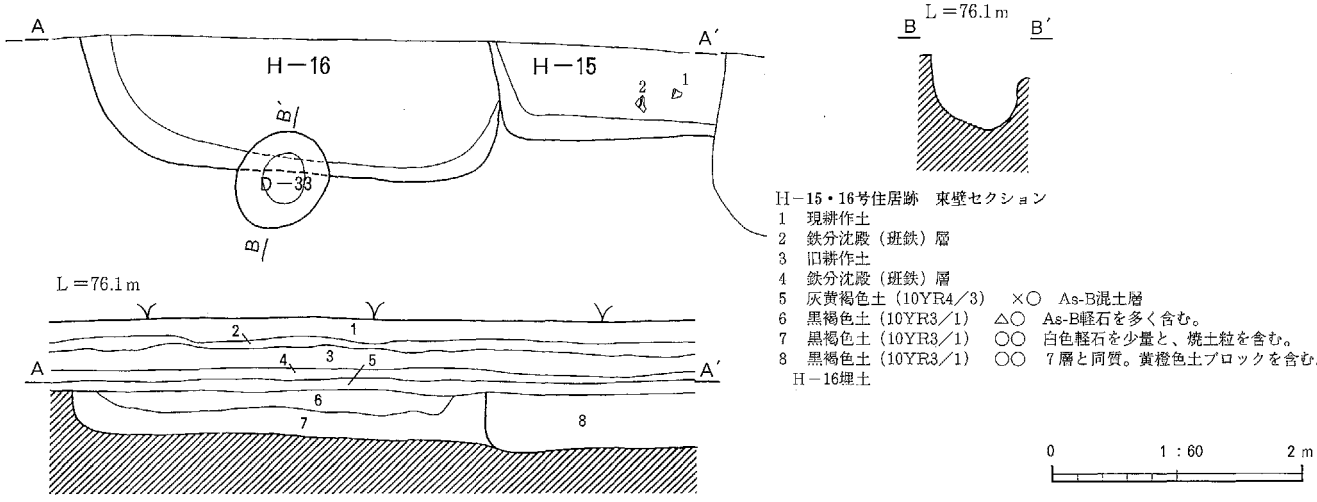
H－12号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　明黄褐色土（10YR6／6）　×○　下部にAs-B軽石を含む。
5　褐灰色土（10YR4／1）　×○　As-B混土層
6　黒褐色土（10YR3／2）　×○　白色軽石・焼土ブロックを多く含む。
7　黒褐色土（10YR3／2）　×○　白色軽石・焼土ブロックをやや含む。
8　黒色土（10YR2／1）　○×



H－12号住居跡　竈セクション
1　白色粘質土（10YR8／2）　×○　にぶい黄橙（10YR4／3）色ブロック、黄橙（10YR8／8）土粒を含み、白色軽石を少量含む。
2　にぶい黄橙色土（10YR4／3）　×○　灰白（10YR8／2）色土粒をわずかに含む。
3　にぶい黄橙色土（10YR5／3）　×○　黄橙色土ブロック・白色軽石をわずかに含む。
4　にぶい黄橙色土（10YR4／3）　△△　黄橙色土ブロック・白色軽石をわずかに含む。1層が混じる。
5　黒褐色土（10YR3／2）　△△　白色軽石をわずかに含む。
6　にぶい黄橙色土（10YR4／3）　×○　白色軽石をわずかに含む。

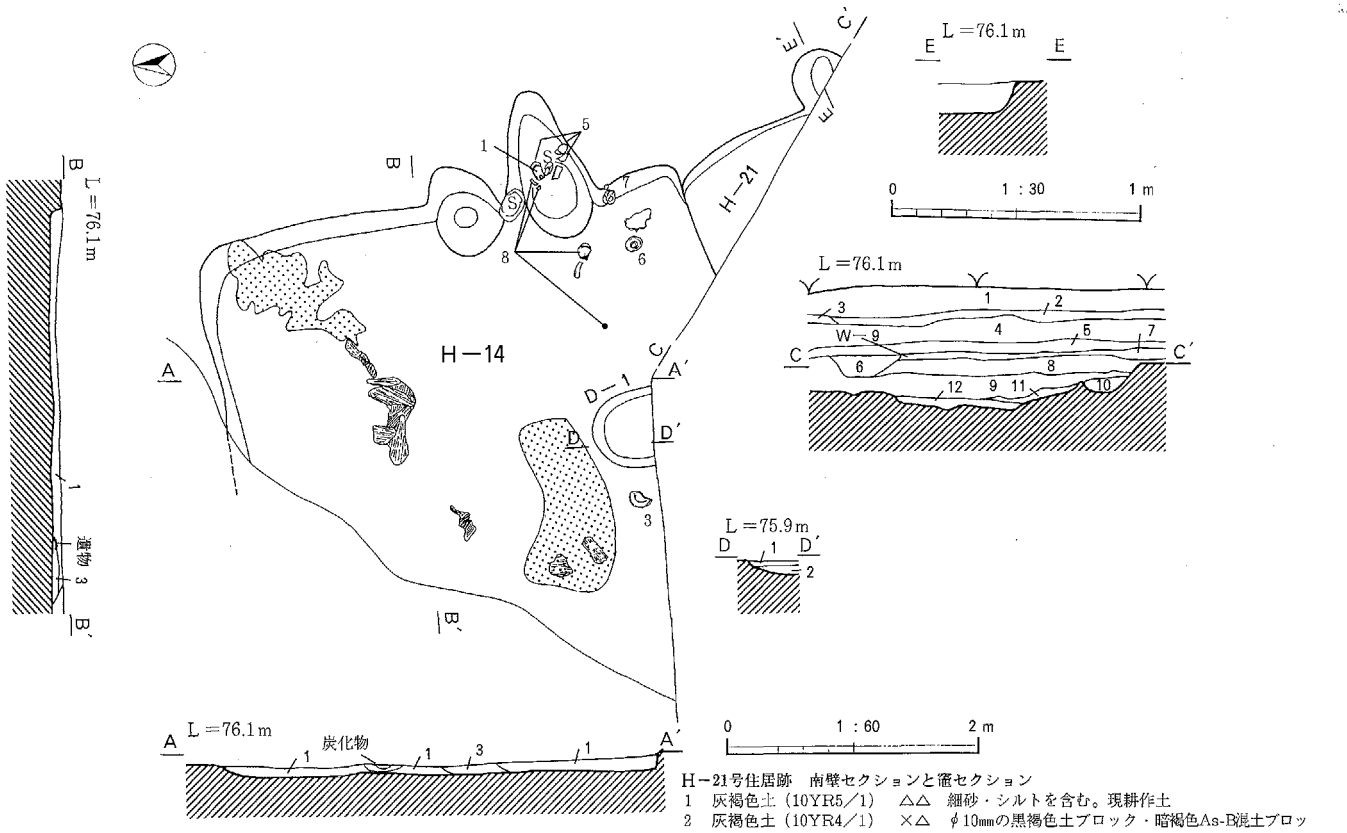


H－13号住居跡　ベルトセクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　黄橙色土（10YR8／8）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　As-B混土層
6　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　As-C軽石を多く含む。
7　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　As-C軽石をやや含み、黄橙（10YR7／8）色粘質土を含む。
8　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　黄橙色粘質土を含む。張り床



H－15・16号住居跡　東壁セクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　灰黄褐色土（10YR4／3）　×○　As-B混土層
6　黒褐色土（10YR3／1）　△○　As-B軽石を多く含む。
7　黒褐色土（10YR3／1）　○○　白色軽石を少量と、焼土粒を含む。
8　黒褐色土（10YR3／1）　○○　7層と同質。黄橙色土ブロックを含む。
H－16埋土

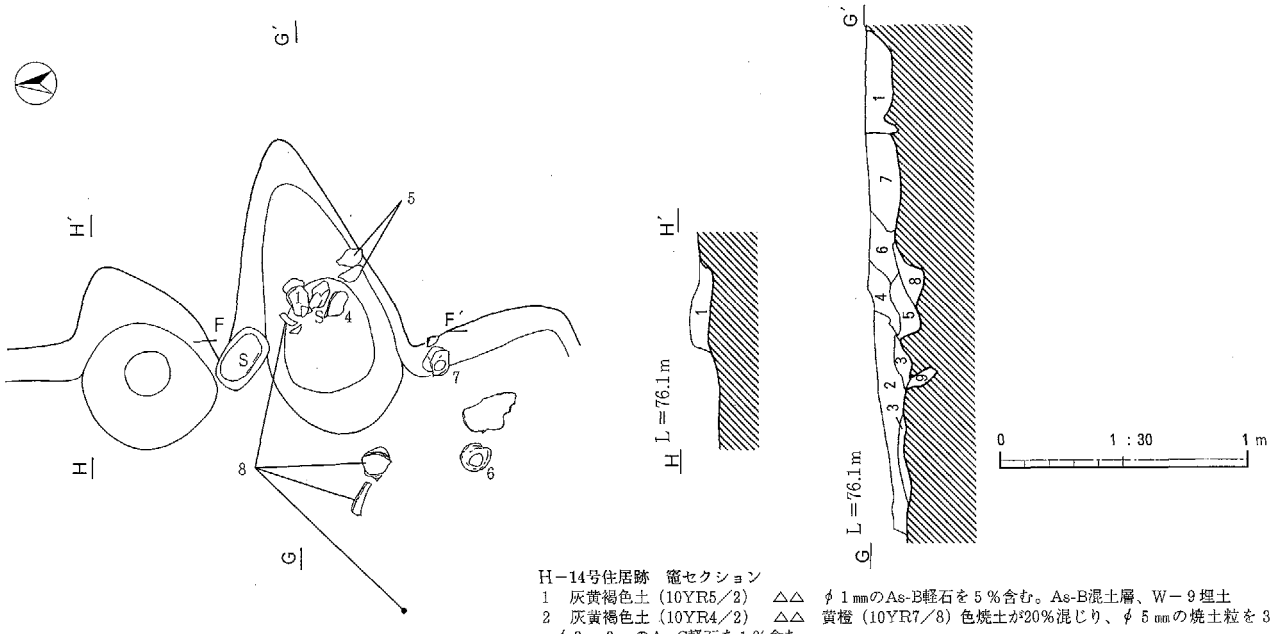
Fig.10　H－11～13・15・16号住居跡、D－33号土坑



H－14号住居跡　ベルトセクションとW－８号溝跡セクション
1　黒褐色土（10YR2／2）　○×　As-C軽石・橙（5YR7／8）色焼土粒をわずかに含む。
2　黒褐色土（10YR2／2）　○△　地山ロームブロックをやや含む。
3　黒褐色土（10YR2／2）　○×　橙色焼土ブロックを30％含む。

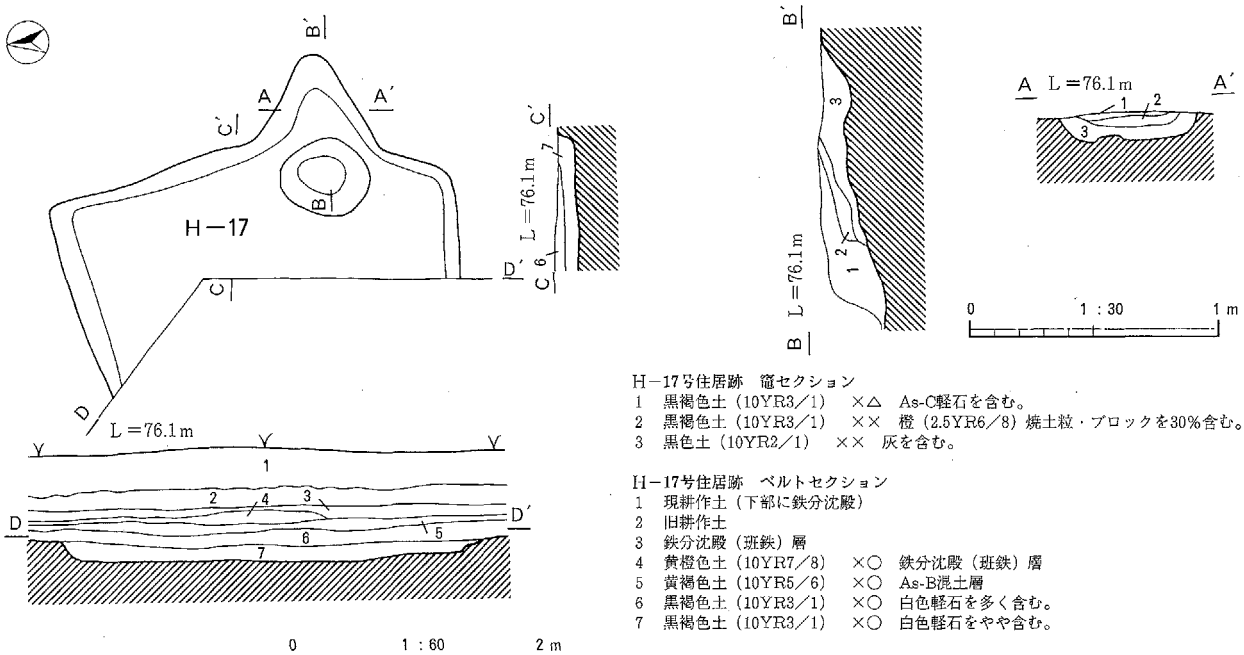
H－14号住居跡　D－１セクション
1　灰褐色土（10YR4／1）　φ３㎜の焼土粒を２～３％含む。
2　黒褐色土（10YR2／2）　φ１㎜の白色軽石を２～３％、φ３㎜の焼土粒を極わずかに含む。

H－21号住居跡　南壁セクションと竈セクション
1　灰褐色土（10YR5／1）　△△　細砂・シルトを含む。現耕作土
2　灰褐色土（10YR4／1）　×△　φ10㎜の黒褐色土ブロック・暗褐色As-B混土ブロックを含む。客土
3　暗褐色土（7.5YR3／3）　△○　鉄分沈殿（斑鉄）層
4　灰褐色土（10YR5／1）　△△　φ３～５㎜の発泡性軽石を５％含む。旧耕作土
5　黄褐色土（10YR5／6）　△○　φ５～10㎜のHr-FP軽石・φ0.5～１㎜のAs-B軽石を５％含む。
6　灰褐色土（10YR4／1）　△△　φ0.5～１㎜のAs-B軽石を20％含む。W－９埋土
7　暗褐色土（10YR3／3）　△△　φ0.5～１㎜のAs-B軽石を20％、φ１～２㎜の橙色粘質土粒を３％含む。As-B混土層
8　黒褐色土（10YR3／1）　○△　φ３㎜のAs-C軽石・φ５㎜のHr-FP軽石を５％、φ５㎜の焼土粒を２％含む。
9　黒褐色土（10YR2／2）　○×　φ５～10㎜の焼土粒を２～３％、炭化物を含む。
10　黒褐色土（10YR2／2）　○△　φ10～15㎜の焼土粒を５％含む。H－21竈埋土
11　黒褐色土（10YR2／2）　○×　黄褐（10YR5／8）色土ブロックを２％含む。
12　黒色土（10YR2／1）　○○　φ２～３㎜のAs-C軽石・φ５㎜の焼土粒を２％含む。張り床



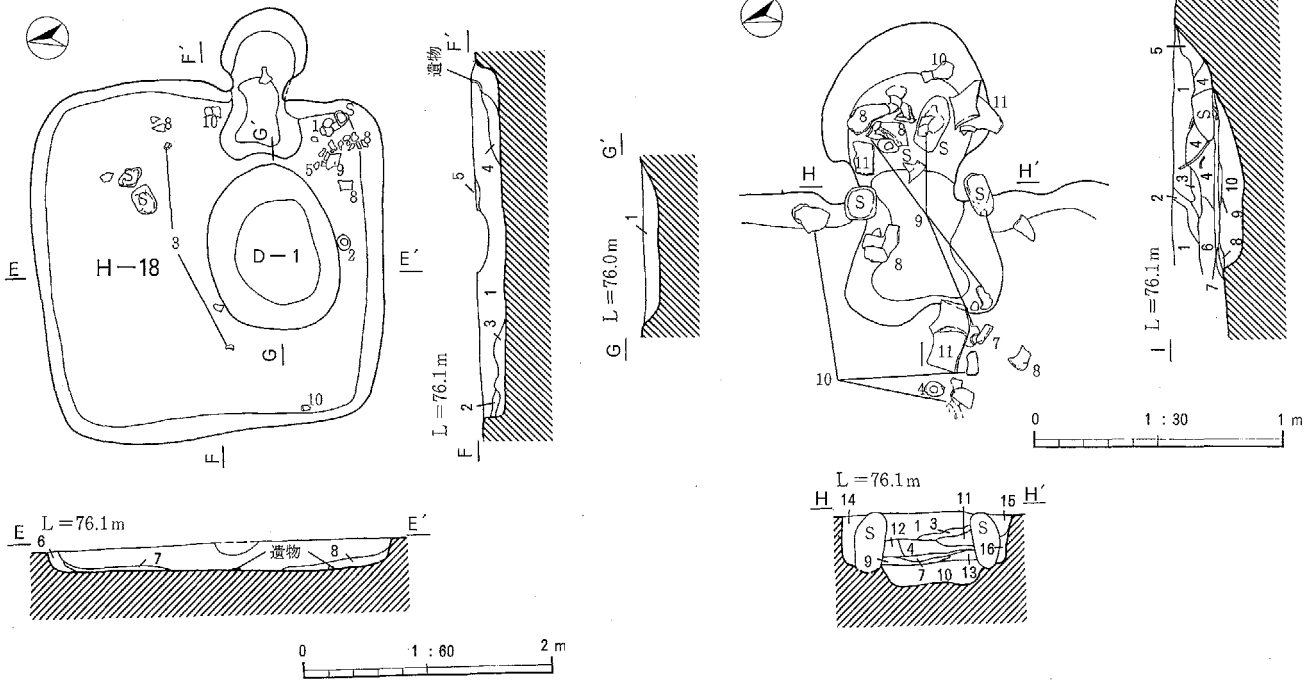
H－14号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　△△　φ１㎜のAs-B軽石を５％含む。As-B混土層、W－９埋土
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　△△　黄橙（10YR7／8）色焼土が20％混じり、φ５㎜の焼土粒を３％、φ２～３㎜のAs-C軽石を１％含む。
3　黒褐色土（10YR3／2）　○×　φ２～３㎜の焼土粒を２％含む灰層
4　黄褐色土（10YR5／6）　○×　φ５㎜の焼土粒を３％含む。
5　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△×　φ５～10㎜の焼土粒を10％を含み、灰もみられる。
6　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△×　橙（5YR6／8）色焼土が全面にみられる。
7　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△×　φ５～10㎜の焼土粒を10％含む。
8　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ５～７㎜の焼土粒を１～２％含む。
9　灰黄褐色土（10YR3／2）　△×　φ３～５㎜の焼土粒を20～25％含み、３層と同質の灰もみられる。
10　黒褐色土（10YR3／2）　△○　φ５～10㎜の焼土粒を５％含む。
11　赤褐色土（2,5YR4／8）　×○　赤褐色から橙色を呈する焼土
12　黒褐色土（10YR3／1）　○×　φ５㎜の焼土粒を３％、また灰を多く含む。

Fig.11　H－14・21号住居跡



H－17号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土（10YR3／1）　×△　As-C軽石を含む。
2　黒褐色土（10YR3／1）　××　橙（2.5YR6／8）焼土粒・ブロックを30％含む。
3　黒色土（10YR2／1）　××　灰を含む。

H－17号住居跡　ベルトセクション
1　現耕作土（下部に鉄分沈殿）
2　旧耕作土
3　鉄分沈殿（斑鉄）層
4　黄橙色土（10YR7／8）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　黄褐色土（10YR5／6）　×○　As-B混土層
6　黒褐色土（10YR3／1）　×○　白色軽石を多く含む。
7　黒褐色土（10YR3／1）　×○　白色軽石をやや含む。

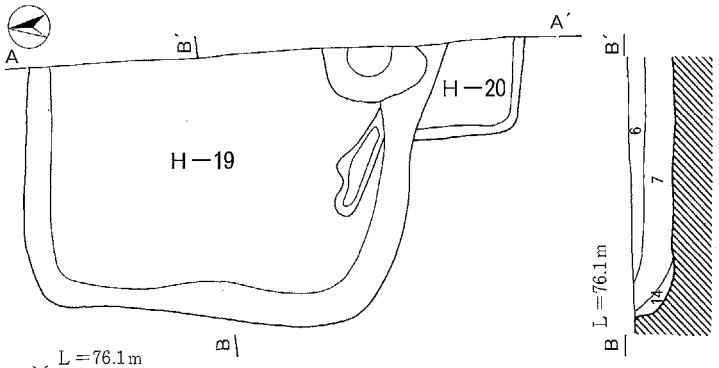


H－18号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ2～3㎜の焼土粒を2％、炭化物をわずかに含む。
2　黒褐色土（10YR2／2）　△△　φ3㎜のHr-FP軽石・φ2～4㎜の焼土粒をわずかに含む。
3　黒褐色土（10YR3／2）　○○　にぶい黄褐色粘質土を50％近く含む。天井崩落粘質土
4　灰黄褐色土（10YR4／2）　△×　φ10㎜のにぶい黄褐色粘質土を5％、φ3㎜の焼土粒を2％含む。
5　黒褐色土（10YR3／2）　△○　焼土を50％近く含む。
6　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ3㎜のHr-FP軽石、φ2～4㎜の焼土粒をわずかに含む。
7　黒褐色土（10YR2／2）　○×　φ2㎜の焼土粒を2～3％、全体的に灰を含む。
8　灰色灰層（N4）　○×　灰層
9　黒褐色土（10YR3／2）　○×　焼土を20～30％含む。
10　黒褐色土（10YR2／3）　△○　φ10～50㎜の黄褐色土ブロックを30％含む。竈堀り方
12　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ5㎜～10㎜の焼土粒を5％、φ5㎜の炭化物を3％含む。
13　黒褐色土（10YR3／2）　○×　φ10～20㎜のにぶい黄褐色粘質土を20％含む。
14　褐色土（10YR4／6）　△○　φ10㎜の黄褐色粘質土ブロックを10％含む。竈構築粘質土
15　黄褐色土（10YR5／6）　○○　白色細砂を10％含む。竈掘り方
16　黒色土（10YR2／3）　○○　φ10～50㎜の黄褐色土ブロックを30％含む。竈堀り方

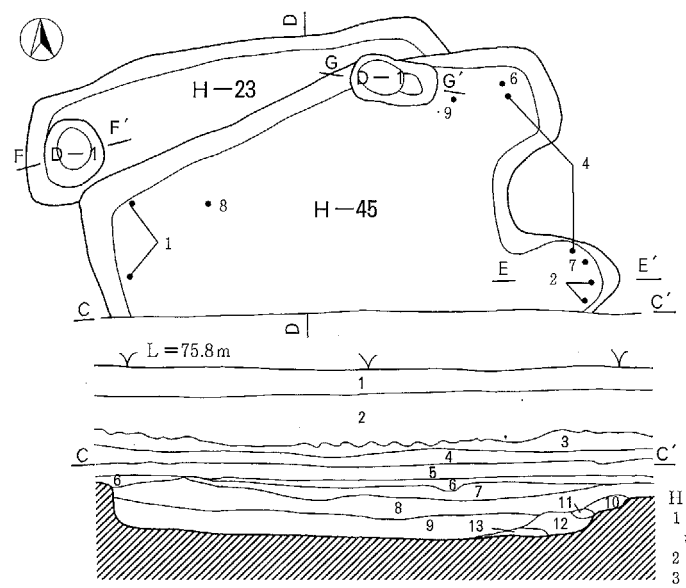
H－18号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色土（10YR3／4）　△△　φ3～5㎜のHr-FP軽石を5％、φ7㎜の焼土粒を2～3％、炭化物を含む。
2　黒褐色土（10YR3／1）　○△　φ1～2㎜のHr-FP軽石を若干含む。
3　暗褐色土（10YR3／4）　○△　φ5～30㎜の焼土粒・φ5㎜のHr-FP軽石を若干含む。
4　黒褐色土（10YR3／1）　○×　φ50㎜の明黄褐（10YR6／6）色土ブロックを10％、φ5㎜の焼土粒を2～3％含む。
5　暗褐色土（10YR3／4）　△○　φ20～30㎜の黒（10YR2／1）色土ブロックを20％含む。
6　褐色土（7.5YR4／3）　×△　φ2～5㎜の焼土粒を5％、φ2～5㎜のHr-FP軽石を3％含む。
7　暗褐色土（10YR3／3）　○△　φ10㎜の明黄褐色土ブロックを5％含む。
8　黒褐色土（10YR3／1）　○△　φ5㎜の焼土粒・Hr-FP軽石・明黄褐色土ブロックをを若干含む。

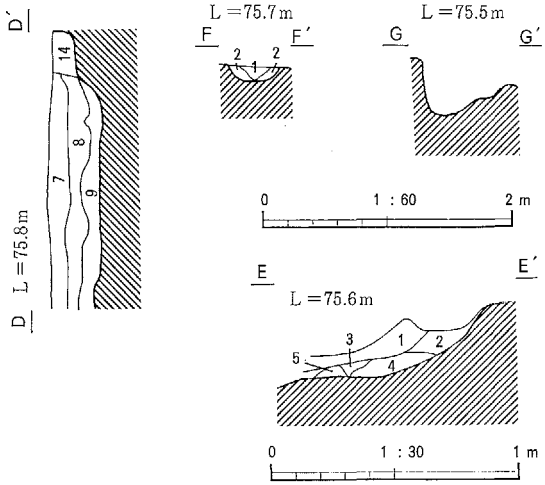
H－18号住居跡　D－1セクション
1　黒褐色土（10YR2／2）　○○　φ3～5㎜のHr-FP軽石を5％、φ10～20㎜の黄褐色土ブロックを3％含む。

Fig.12　H－17・18号住居跡



H－19号住居跡　ベルトセクションとH－20　東壁セクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　明黄褐色土（10YR6／6）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層、下部にAs-B軽石を多く含む。
5　灰褐色土（10YR4／1）　×○　As-B混土層
6　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　白色軽石を多く、黄褐色土ブロックをわずかに含む。焼土粒を含む。
7　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　白色軽石をわずかに、黄褐色土ブロックをやや多く含む。
8　黒褐色土（10YR2／2）　○○
9　灰黄褐色土（10YR4／2）　○△　灰を含む。
10　黒褐色土（10YR2／2）　○○　黄褐色土ブロックを多く含む。
11　灰黄褐色土（10YR4／2）　○△　灰を含む。
12　灰黄褐色土（10YR4／2）　○△
13　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　H－20埋土
14　黒褐色土（10YR3／2）　○○　黄褐色土ブロックを多く含む。

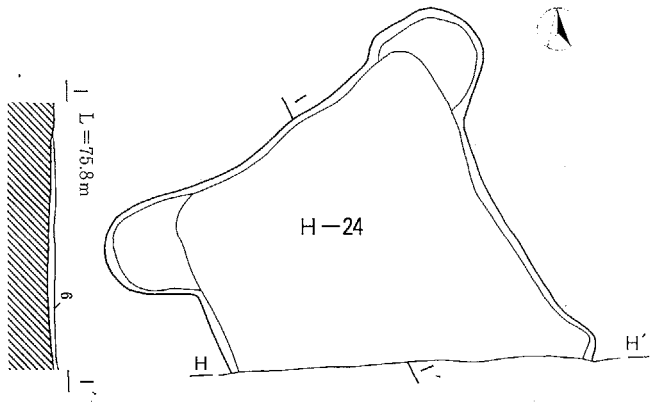




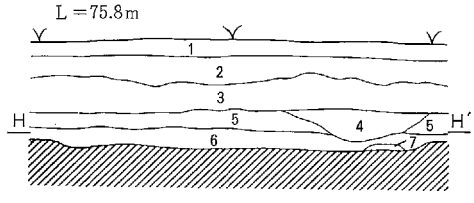
H－45号住居跡　竈セクション
1　褐灰色土（10YR4／1）　×△　灰を20%、φ3～5㎜の焼土粒を10%、φ20㎜の浅黄橙（10YR8／4）色ブロックを2～3%含む。
2　褐灰色土（10YR4／1）　×○　φ3～5㎜の焼土粒を15%、灰を20%含む。
3　暗灰色灰層（N3）　××　灰層
4　灰色灰層（N5）　××　にぶい橙（5YR6／4）色焼土を10～15%含む灰層
5　にぶい黄橙色土（10YR7／2）　×△　灰を5%含む砂層

H－23号住居跡　D－1セクション
1　灰黄褐微砂（10YR5／2）　×△　細砂を30%含む。
2　褐灰色土（10YR4／1）　△○　φ5㎜のHr-FP軽石を1～2%、φ10㎜の黒色土ブロックを2～3%含む。

H－23・45号住居跡　南壁と南北ベルトセクション
1　灰黄褐色土（10YR5／4）　△△　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　φ5㎜の白色軽石を15%含む。客土
3　灰褐色土（10YR5／1）　×○　φ0.5～3㎜の白色軽石を10%含む。旧耕作土
4　黄橙色土（10YR7／8）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を10%含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
5　灰褐色土（10YR5／1）　△△　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20%含む。As-B混土層
6　灰褐色土（7.5YR4／2）　○△　φ1～20㎜の黄橙（10YR7／8）色土粒を40%含む。
7　灰褐色土（7.5YR4／2）　○△　φ5～20㎜のHr-FP軽石を3～4%、微砂を若干含む。
8　灰褐色土（7.5YR4／2）　○△　φ10～20㎜のHr-FP軽石を1～2%、φ10～30㎜の明黄褐（10YR6）色土ブロックを10%含む。
9　灰黄褐色土（10YR4／2）　○×　φ20～30㎜のHr-FP軽石を1～2%、φ10～30㎜の明黄褐（10YR6／8）色土ブロックを15%、φ5～10㎜の焼土粒を1～2%含む。
10　黒褐色土（10YR3／2）　○○　にぶい黄橙（10YR6／4）色微砂20%含む。
11　にぶい黄橙色土（10YR6／4）　○△　微砂を多く含む。
12　黒褐色土（10YR2／1）　△△　φ5～10㎜の焼土粒を5%、灰を含む。
13　黒色灰層（10YR2／1）　△×　灰層
14　黒褐色土（10YR3／2）　○×　H－23埋土



H－24号住居跡　南壁とベルトセクション
1　現耕作土
2　暗赤褐色土（5YR3／3）　△○　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　褐灰色土（10YR5／1）　○○　旧耕作土
4　褐灰色土（7.5YR5／1）　△○
5　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　△○　鉄分沈殿（斑鉄）層
6　褐灰色土（7.5YR4／2）　○○　Hr-FP軽石を5%含む
7　黒色土（7.5YR2／1）　○△　炭化物を多く、焼土をわずかに含む。竈由来か？



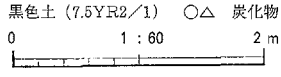
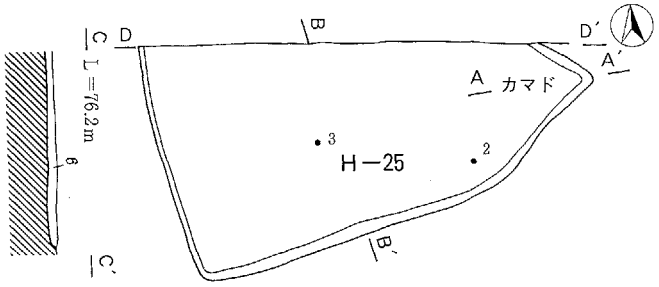
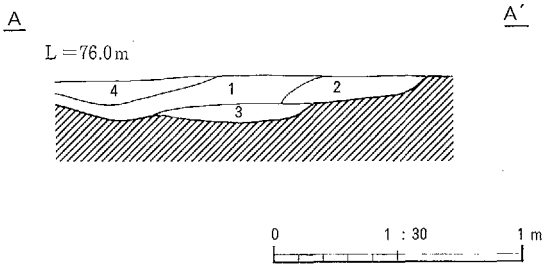


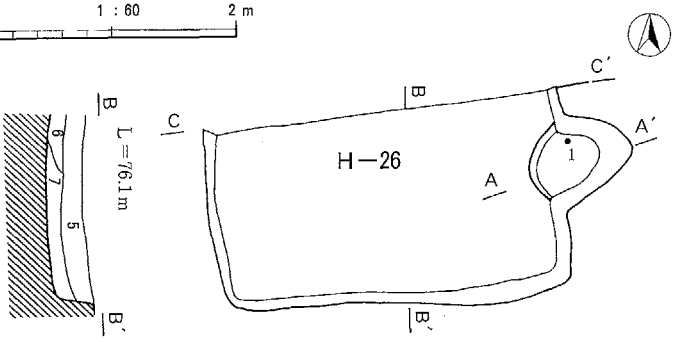
Fig.13　H－19・20・23・45・24号住居跡

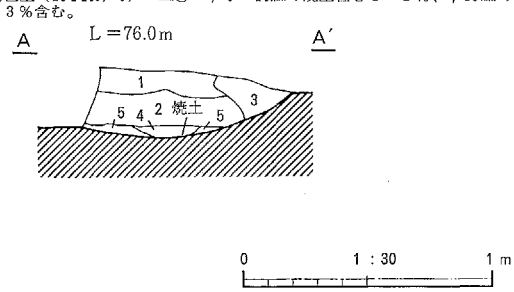




H－25号住居跡　竈セクション
1　暗灰色灰層（N3）　△×　φ3～5㎜の焼土粒を3～4％含む。灰層
2　褐灰色土（10YR4／1）　○○　φ3～5㎜の焼土粒を5％含む。
3　赤褐色土（2.5YR4／8）　×○　焼土層
4　黄褐色土（10YR5／6）　△○　φ5～10㎜の焼土粒を1～2％、φ5～10㎜のHr-FP軽石を2～3％含む。

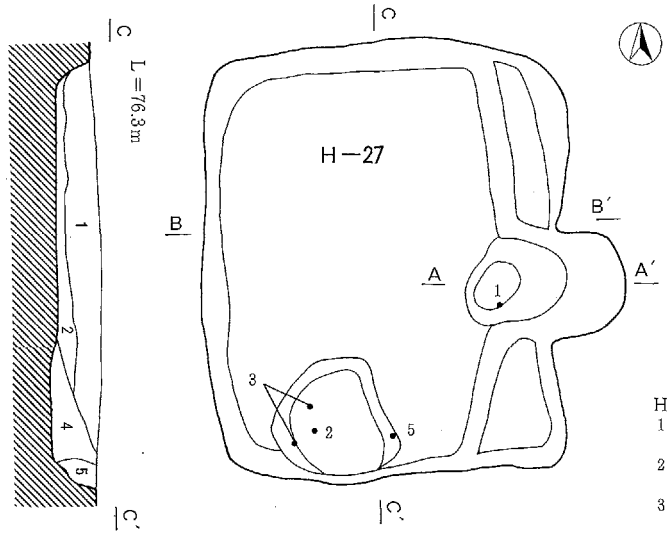
H－25号住居跡　北壁セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　現耕作土
2　褐灰色土（5YR4／2）　×△　鉄分沈殿（班鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　φ3～5㎜の白色軽石を10％含む。旧耕作土
4　黄褐色土（2.5Y5／6）　×○　明褐（7.5YR5／8）色斑点がみられる。鉄分沈殿（班鉄）層
5　黄褐色土（2.5Y5／6）　×○　明褐色斑点がみられ、φ0.5～1㎜のAs-B軽石を5％含む。
6　黄褐色土（10YR5／6）　△○　φ5～10㎜の焼土粒を1～2％、φ10㎜のHr-FP軽石を2～3％含む。

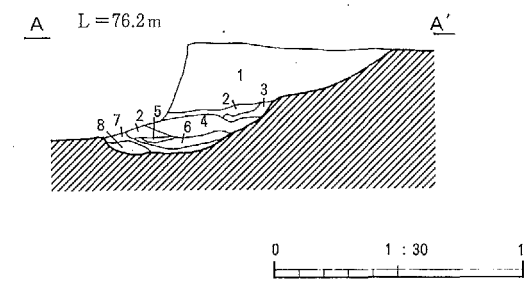




H－26号住居跡　北壁とベルトセクション
1　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR6／2）　△○　W－23堆土
3　明黄褐色土（10YR6／6）　△○　As-B軽石を10％含む。
4　灰褐色土（7.5YR5／2）　○○　Hr-FP軽石を5％、As-C軽石をわずかに含む。
5　にぶい黄橙色土（10YR5／3）　Hr-FP軽石・As-C軽石をわずかに含む。
6　黄褐色土（2.5YR5／4）　○○　粘質土粒を5％、Hr-FP軽石・炭化物をわずかに含む。
7　にぶい黄橙色土（10YR5／4）　○○　Hr-FP軽石をわずかに含む。

H－26号住居跡　竈セクション
1　にぶい黄橙色細砂（10YR6／3）　○○　Hr-FP軽石5％、焼土粒をわずかに含む。
2　灰黄褐色細砂（10YR6／2）　○○　黒色土ブロックを5％、Hr-FP軽石・焼土粒をわずかに含む。
3　灰褐色粗砂（7.5YR6／2）　△○　焼土を5％含む。
4　焼土層
5　灰層

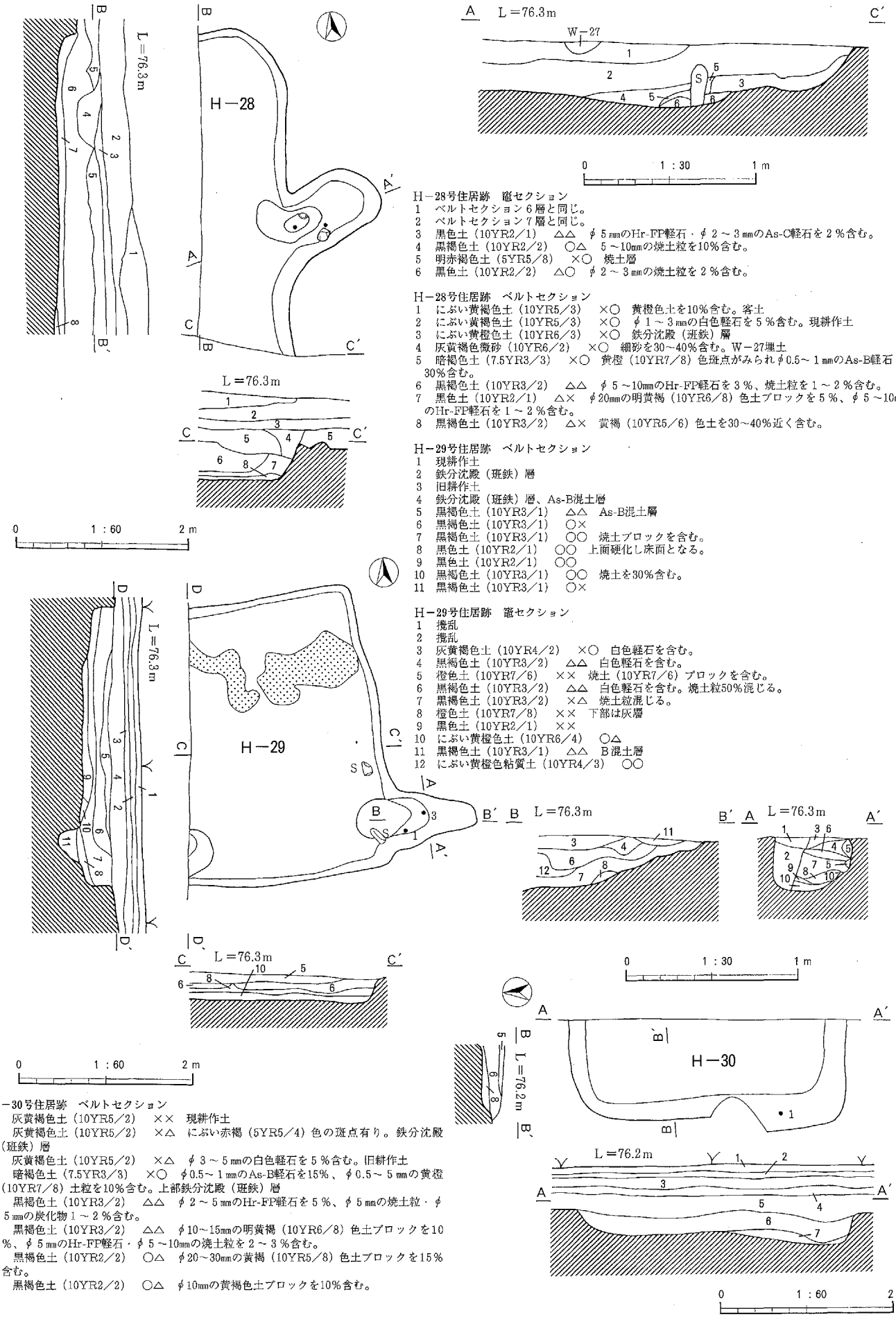




H－27号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色土（10YR3／2）　○△　φ3～10㎜の黄褐（10YR5／6）色土ブロックを10％、φ10㎜の黒褐（10YR2／1）土ブロックを5％含む。
2　黒褐色土（10YR3／2）　○×　φ3～10㎜の黄褐色土ブロック、φ10～30㎜の黒褐色土ブロックを10％、φ5㎜のHr-FP軽石を2～3％含む。
3　黒褐色土（10YR3／1）　○×　φ3～10㎜の黄褐色土・φ10～30㎜の黒褐色土ブロックを5％含む。
4　黒褐色土（10YR3／1）　○×　黄褐色土ブロックを2％、φ1～3㎜のHr-FP軽石を1～2％含む。
5　黒褐色土（10YR3／1）　○○　φ20～50㎜の黒褐（10YR2／1）色土ブロックを40％含む。

H－27号住居跡　竈セクション
1　H－27ベルトセクション1層と同じ。
2　にぶい黄橙色粘質土（10YR6／3）　○△　φ5～10㎜の浅黄橙（10YR8／4）色粘質ブロックを10％含む。竈崩落粘土
3　橙色土（5YR6／6）　×△　焼土層
4　黒褐色土（10YR3／2）　○△　φ3～5㎜の橙色焼土粒を10％含む。
5　黒色灰層（10YR1.7／1）　××　炭化物を40％近く含む灰層
6　褐灰色灰層（10YR5／1）　××　φ2～3㎜の焼土粒を2％含む。
7　黒褐色灰層（10YR2／2）　△△　灰層
8　褐灰色灰層（10YR4／1）　△△　φ10㎜の浅黄橙色土ブロックを10％含む灰層

Fig.14　H－25～27号住居跡



H－28号住居跡　竈セクション
1　ベルトセクション６層と同じ。
2　ベルトセクション７層と同じ。
3　黒色土（10YR2／1）　△△　φ５㎜のHr-FP軽石・φ２～３㎜のAs-C軽石を２％含む。
4　黒褐色土（10YR2／2）　○△　５～10㎜の焼土粒を10％含む。
5　明赤褐色土（5YR5／8）　×○　焼土層
6　黒色土（10YR2／2）　△○　φ２～３㎜の焼土粒を２％含む。

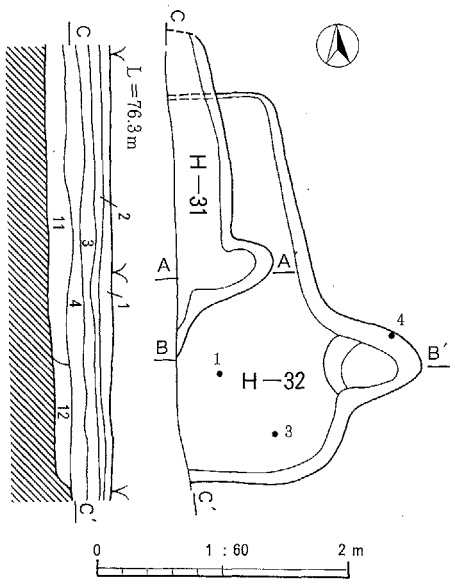
H－28号住居跡　ベルトセクション
1　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　黄橙色土を10％含む。客土
2　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　φ１～３㎜の白色軽石を５％含む。現耕作土
3　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層
4　灰黄褐色微砂（10YR6／2）　×○　細砂を30～40％含む。W－27埋土
5　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　黄橙（10YR7／8）色斑点がみられφ0.5～１㎜のAs-B軽石を30％含む。
6　黒褐色土（10YR3／2）　△△　φ５～10㎜のHr-FP軽石を３％、焼土粒を１～２％含む。
7　黒色土（10YR2／1）　△×　φ20㎜の明黄褐（10YR6／8）色土ブロックを５％、φ５～10㎜のHr-FP軽石を１～２％含む。
8　黒褐色土（10YR3／2）　△×　黄褐（10YR5／6）色土を30～40％近く含む。

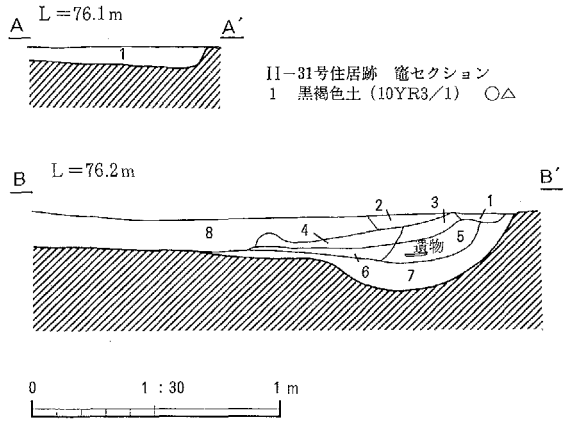
H－29号住居跡　ベルトセクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層、As-B混土層
5　黒褐色土（10YR3／1）　△△　As-B混土層
6　黒褐色土（10YR3／1）　○×
7　黒褐色土（10YR3／1）　○○　焼土ブロックを含む。
8　黒色土（10YR2／1）　○○　上面硬化し床面となる。
9　黒色土（10YR2／1）　○○
10　黒褐色土（10YR3／1）　○○　焼土を30％含む。
11　黒褐色土（10YR3／1）　○×

H－29号住居跡　竈セクション
1　攪乱
2　攪乱
3　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　白色軽石を含む。
4　黒褐色土（10YR3／2）　△△　白色軽石を含む。
5　橙色土（10YR7／6）　××　焼土（10YR7／6）ブロックを含む。
6　黒褐色土（10YR3／2）　△△　白色軽石を含む。焼土粒50％混じる。
7　黒褐色土（10YR3／2）　×△　焼土粒混じる。
8　橙色土（10YR7／8）　××　下部は灰層
9　黒色土（10YR2／1）　××
10　にぶい黄橙色土（10YR6／4）　○△
11　黒褐色土（10YR3／1）　△△　B混土層
12　にぶい黄橙色粘質土（10YR4／3）　○○

H－30号住居跡　ベルトセクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　××　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR5／2）　×△　にぶい赤褐（5YR5／4）色の斑点有り。鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR5／2）　×△　φ３～５㎜の白色軽石を５％含む。旧耕作土
4　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　φ0.5～１㎜のAs-B軽石を15％、φ0.5～５㎜の黄橙（10YR7／8）土粒を10％含む。上部鉄分沈殿（斑鉄）層
5　黒褐色土（10YR3／2）　△△　φ２～５㎜のHr-FP軽石を５％、φ５㎜の焼土粒・φ５㎜の炭化物１～２％含む。
6　黒褐色土（10YR3／2）　△△　φ10～15㎜の明黄褐（10YR6／8）色土ブロックを10％、φ５㎜のHr-FP軽石・φ５～10㎜の焼土粒を２～３％含む。
7　黒褐色土（10YR2／2）　○△　φ20～30㎜の黄褐（10YR5／8）色土ブロックを15％含む。
8　黒褐色土（10YR2／2）　○△　φ10㎜の黄褐色土ブロックを10％含む。

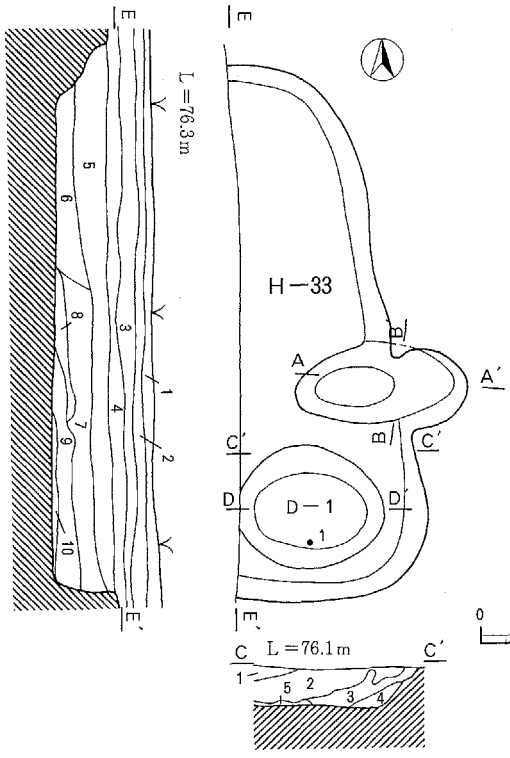
Fig.15　H－28～30号住居跡

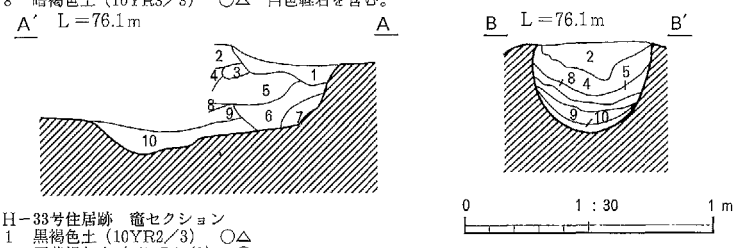




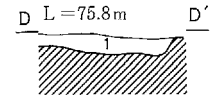
H－31・32・33号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　暗褐色土（10YR3／3）　△△　As-B混土層、上部鉄分沈殿（斑鉄）層
5　黒褐色土（10YR3／2）　○○　白色軽石を含む。
6　暗褐色土（10YR3／3）　○○　浅黄橙色粘質土粒・焼土粒をわずかに含む。
7　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　浅黄橙色粘質土粒・焼土粒・黒色土ブロックを30%含む。
8　淡黄色土（2.5Y8／4）　△○　粘質土。焼土粒・黒色土ブロックを10%含む。
9　灰黄褐色土（10YR4／2）　○△　浅黄橙色粘質土ブロックを10%、黒色土ブロックを含む。
10　淡黄色土（2.5Y8／4）　○○　上部床面
11　黒褐色土（10YR3／2）　○○　白色軽石をわずかに含む。
12　黒褐色土（10YR3／2）　○○　白色軽石をわずかに含む。

H－32号住居跡　竈セクション
1　暗褐色土（10YR3／3）　×△　橙（10YR7／8）色焼土を20%含む。
2　褐灰色土（10YR4／1）　○○　As-B軽石を含む。
3　暗褐色土（10YR3／3）　○○
4　橙色土（5YR6／8）　×○　粘質土ブロックを10%含む。
5　暗褐色土（10YR3／3）　○○　橙（5YR6／8）色焼土を５%含む。
6　緑黒色土（5YR1.7／1）　○×　灰層
7　暗褐色土（10YR3／3）　○○　竈掘り方。
8　暗褐色土（10YR3／3）　○△　白色軽石を含む。

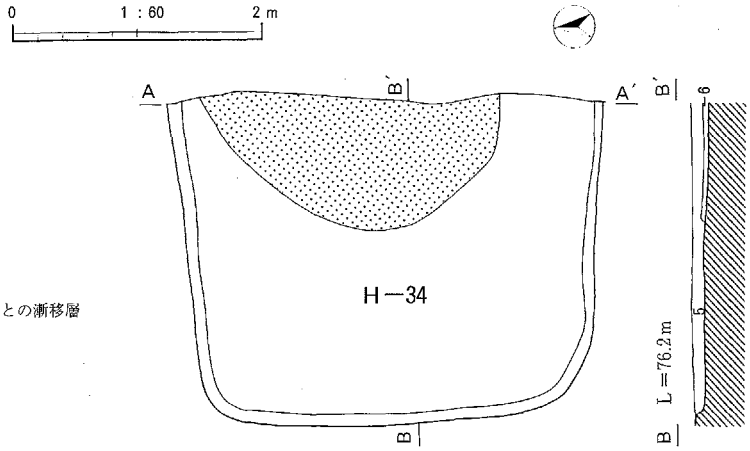




H－33号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土（10YR2／3）　○△
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　○△
3　黒褐色土（10YR3／2）　○△
4　淡黄色土（5Y8／3）　△△　粘質土ブロックを含む。
5　橙色土（5Y7／6）　○△　灰を10%含む。
6　にぶい黄橙色土（10YR7／4）　△△　焼土を10%含む。
7　橙色土（5YR7／6）　△△　灰を40%含む。
8　暗青灰色灰層（5YR4／1）　△×　灰層
9　淡黄色土（5Y8／3）　△△　粘質土ブロックを含む。
10　淡黄色土（7.5Y8／3）　○△　焼土・灰を含む。

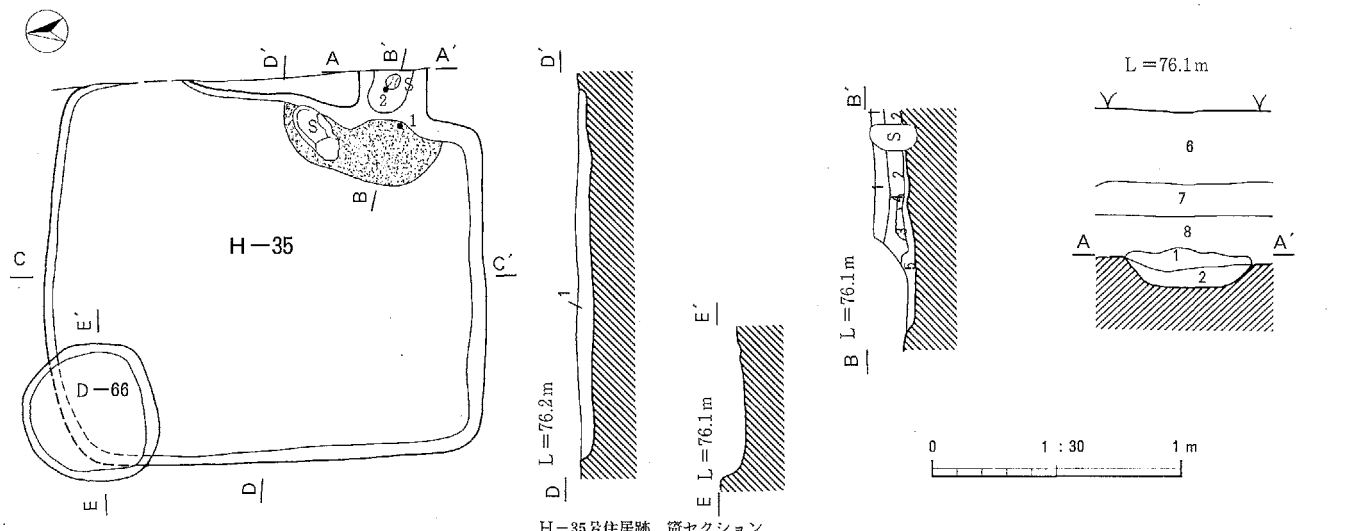


H－33号住居跡　D－１号土坑セクション
1　褐灰色土（10YR4／1）　○○　浅黄橙色粘質土を10%含む。

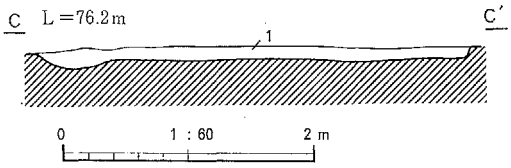


H－34号住居跡　ベルトセクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　黄橙色土（10YR7／8）　×○　As-B混土層、下部は5層との漸移層
5　黒褐色土（10YR2／3）　△○　白色軽石を含む。
6　黒褐色土（10YR2／3）　○△　灰を含む。

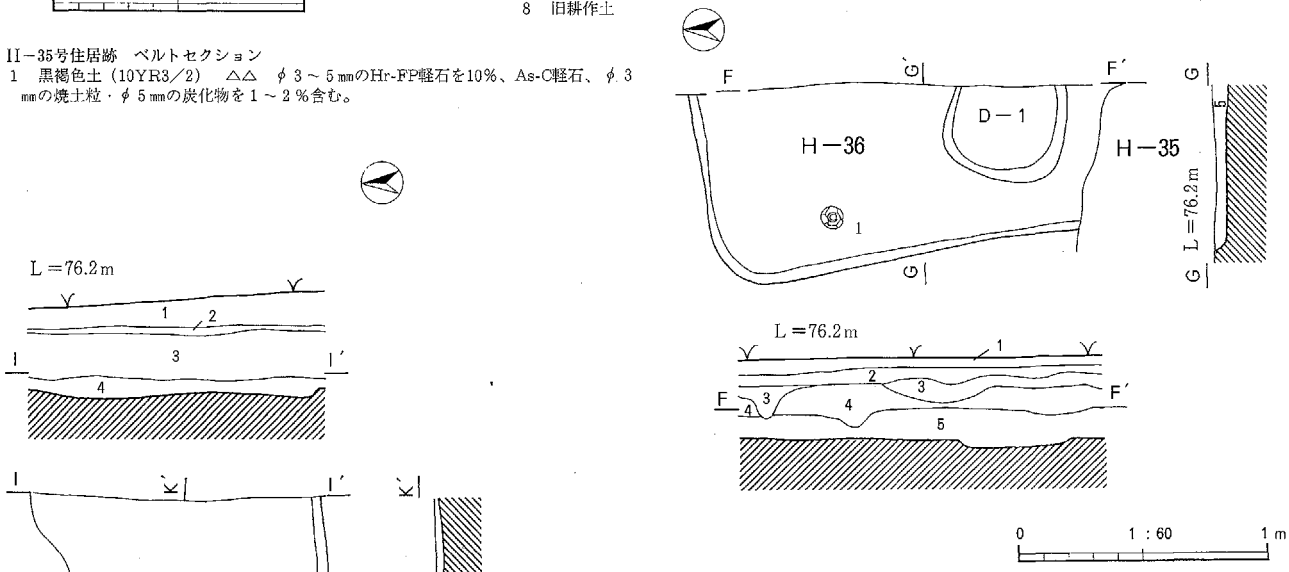
Fig.16　H－31～34号住居跡



H－35号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土（10YR3／2）　△△　φ5～10㎜の焼土粒を5％、φ5㎜のHr-FP軽石を3％含む。
2　黒褐色土（10YR3／1）　○×　φ8～30㎜の焼土ブロックを20％、φ5～10㎜のHr-FP軽石を1～2％含む。
3　黒色灰層（N2）　△×　φ10㎜の焼土粒をわずかに含む灰層
4　暗灰色灰層（N3）　△×　φ5㎜の焼土粒を10％含む灰層
5　暗灰色灰層（N3）　△×　φ5㎜の焼土を3％含む灰層
6　現耕作土
7　鉄分沈殿（班鉄）層
8　旧耕作土

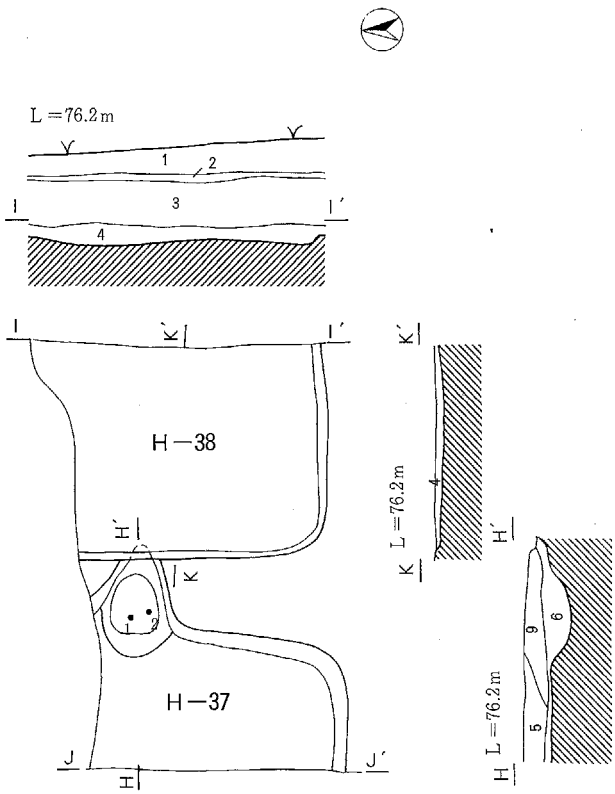


II－35号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色土（10YR3／2）　△△　φ3～5㎜のHr-FP軽石を10％、As-C軽石、φ3㎜の焼土粒・φ5㎜の炭化物を1～2％含む。



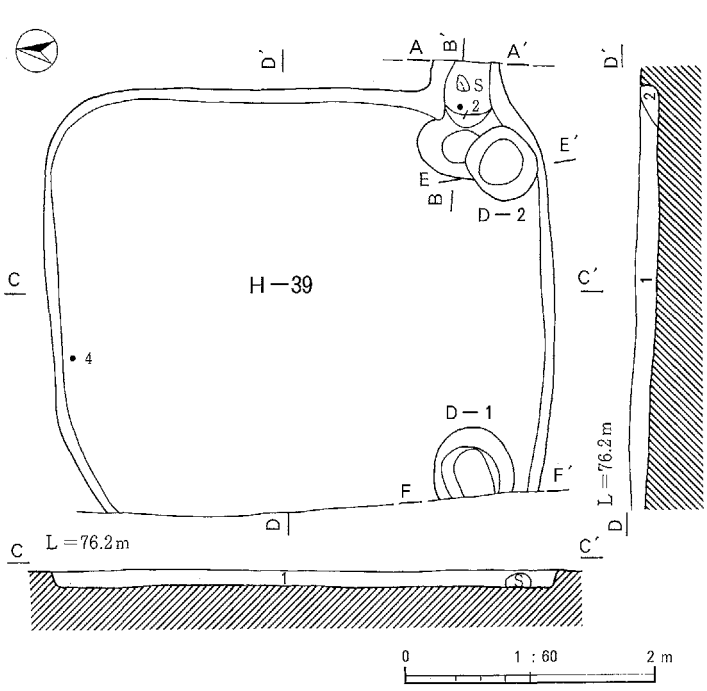
H－36号住居跡　ベルトセクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　×△　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　鉄分沈殿（班鉄）層
3　旧耕作土
4　灰黄褐色土（10YR5／2）　×○　黒色土ブロックを含む。W－30埋土
5　暗褐色土（10YR3／3）　△△　As-B混土。上部鉄分沈殿（班鉄）

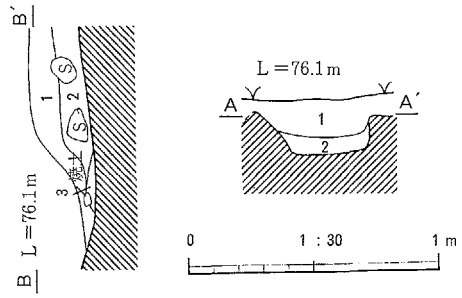
H－38号住居跡　ベルトセクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（班鉄）層
3　旧耕作土（土地改良前の溝埋土の可能性有り）
4　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　白色軽石を含む。



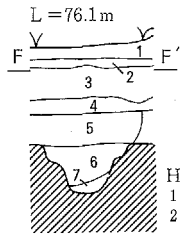
II－37号住居跡　西壁・ベルトセクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（班鉄）層
3　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20％含む。鉄分沈殿（班鉄）層
4　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20％、Hr-FP軽石をわずかに含む。上層より橙色斑点が多くみられる。
5　暗褐色土（10YR3／3）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を10％、Hr-FP軽石をわずかに含む。
6　暗褐色土（10YR3／3）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を5％、にぶい黄褐（10YR6／4）色土ブロックを10％含む。
7　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を5％含む。
8　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　φ50㎜のにぶい黄褐色土ブロックを5％含む。
9　明褐色土（10YR3／4）　△×　φ5～20㎜の明黄褐色土ブロックを10％、φ5㎜の焼土粒を5％含む。

Fig.17　H－35～38号住居跡、D－66号土坑

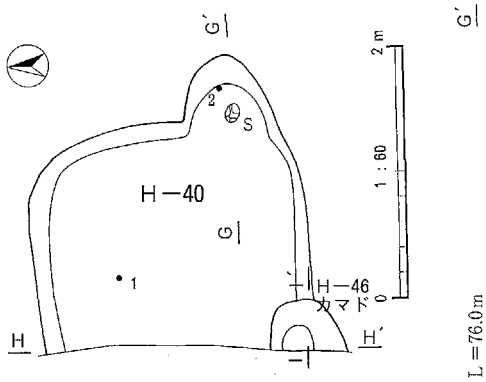




H－39号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　焼土ブロックを20％含む。
3　灰層



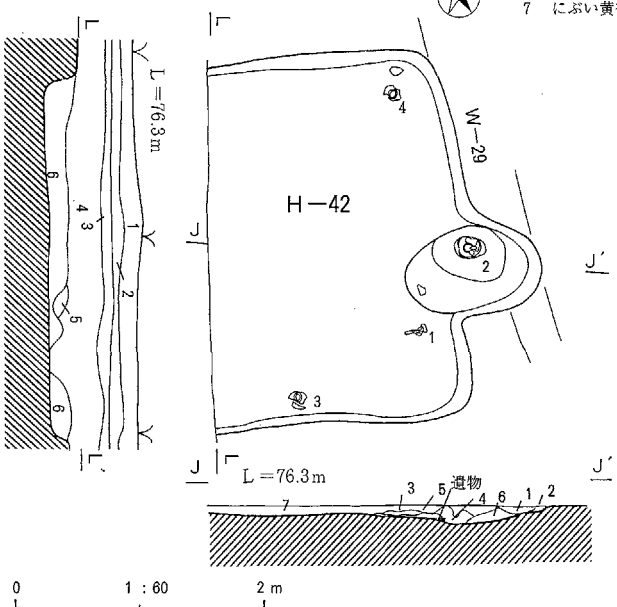
H－39号住居跡　ベルトセクション
1　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　×○　白色軽石を含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　×○　白色軽石、黄燈色土ブロックを含む。



H－39号住居跡　D－1号土坑セクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20％含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
4　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20％、Hr-FP軽石をわずかに含む。上層より燈色斑　点が多くみられる。
5　H－39埋土
6　黒褐色土（10YR2／2）　△○　φ5㎜のHr-FP軽石1～2％、φ5～15㎜の焼土粒を3％含む。
7　黒褐色土（10YR2／2）　△○　砂利ブロックを5％含む。

H－46号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　φ10㎜の焼土粒を20～25％含む。
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　φ10～20㎜の黒色（10YR2／1）土ブロック2％含む。
3　暗灰色灰層（N3）　△×　φ10㎜の焼土粒を10％含む。
4　黒褐色土（10YR3／2）　△△　φ10㎜の焼土粒を5％、φ5㎜の炭化物を3％含む。
5　明黄褐色土（10YR6／6）　××
6　褐灰色灰層（10YR4／1）　△×　φ5～10の焼土粒を10％含む。

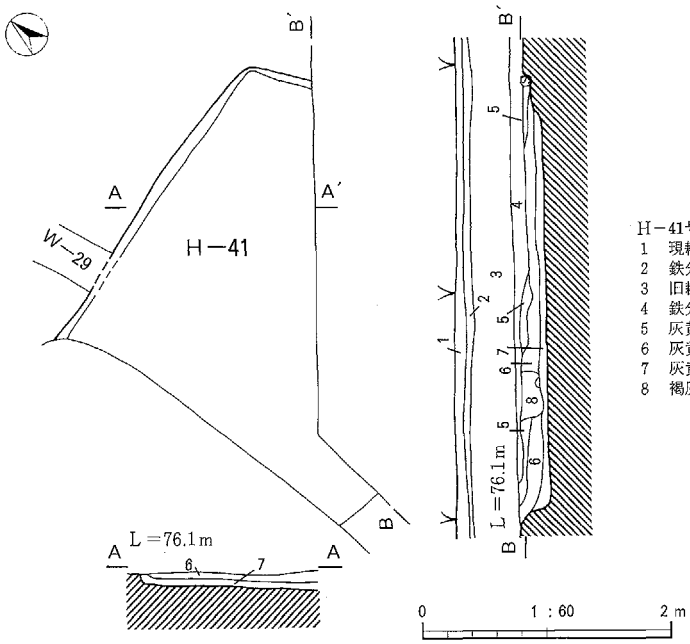
H－40号住居跡　竈セクション
1　にぶい黄褐色粘質土（10YR4／3）　○○　灰黄褐（10YR6／2）色粘質土を30％含む。竈天井部粘質土か？
2　赤褐色土（2.5YR4／8）　○○　焼土層
3　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△△　φ2～5㎜の焼土粒・φ2～3㎜のHr-FP軽石をわずかに含む。
4　黒褐色土（10YR3／2）　△○　φ5㎜の焼土粒をわずかに含む。
5　黒褐色土（10YR3／2）　△○　φ5㎜の焼土粒を5％含む。
6　暗灰色灰層（N3）　××　灰層
7　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　○○　φ50㎜の灰黄褐色粘質土を5％、φ5㎜の焼土粒をわずかに含む。



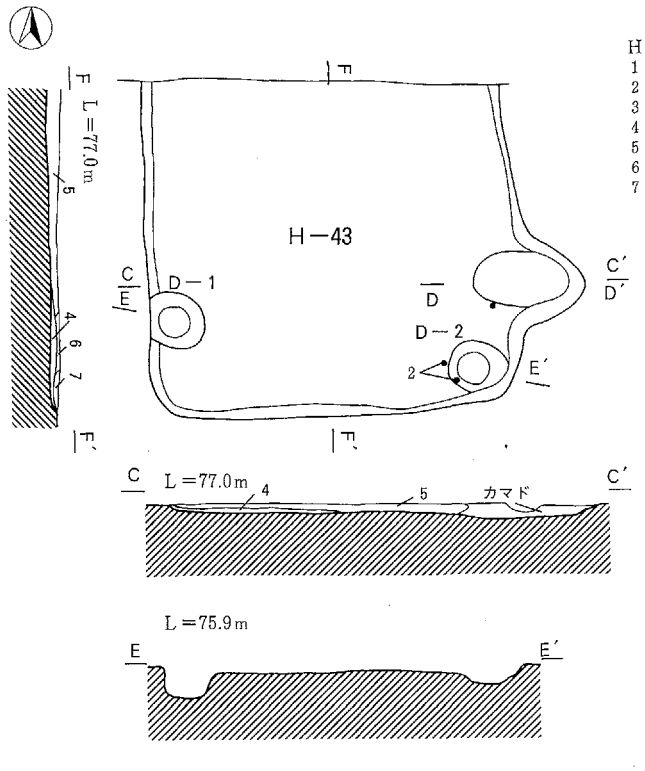
H－40・42号住居跡　西壁セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR5／2）　赤褐（5YR4／6）色斑点を有する。鉄分沈殿（斑鉄）層
3　暗褐色土（7.5YR3／3）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を5～10％含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
4　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ2㎜のHr-FP軽石を5％、明黄褐（10YR6／6）色土ブロックを1～2％含む。
5　暗褐色土（10YR3／3）　△○　φ3～5㎜のHr-FP軽石、φ3㎜の焼土粒をわずかに含む。
6　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△○　φ3～5㎜のHr-FP軽石を3％、φ2㎜のAs-C軽石・φ3～5㎜の焼土粒　をわずかに含む。
7　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　○△　φ3～5㎜のHr-FP軽石を5％、φ5～10㎜の焼土粒を2～3％含む。
8　黄褐色土（10YR5／6）　○○　φ10～50㎜の黒（10YR2／2）色土ブロックを30％含む。張り床

H－42号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　○△　φ2～3㎜の白色軽石を5％含む。W－33号溝埋土
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　○△　φ2～3㎜の白色軽石を5％含む。W－33号溝埋土
3　黒褐色灰層（10YR3／1）　××　灰層
4　黒褐色土（10YR3／2）　△○　φ5～10㎜の焼土粒を2％、φ5㎜のHr-FP軽石・φ10㎜の炭化物をわずかに含む。
5　黒褐色灰層（10YR3／1）　△×　φ5～10㎜の焼土粒を5％含む灰層
6　暗褐色土（10YR3／3）　△△　φ5㎜の焼土粒をわずかに含む。
7　H－42号住居セクション6層

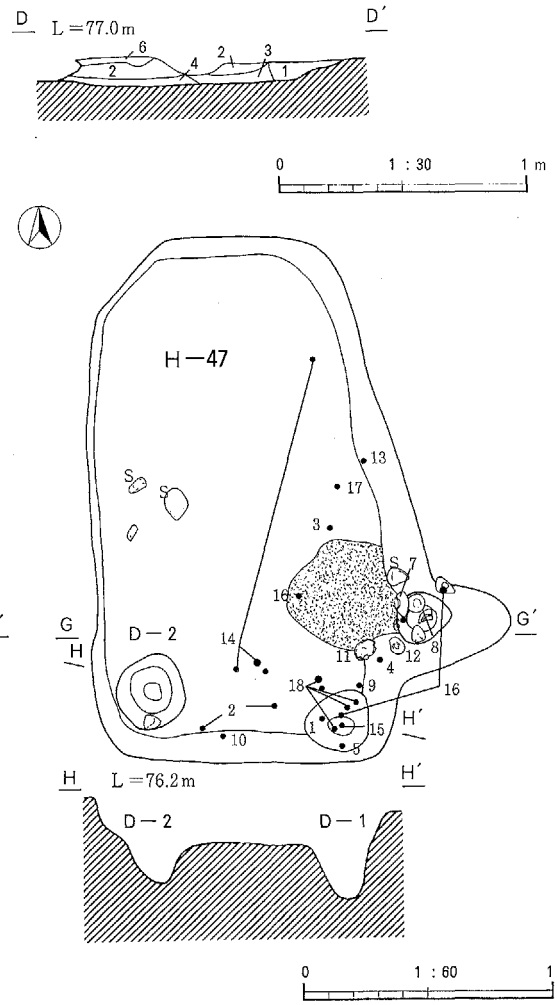
Fig.18　H－39・40・42号住居跡



H－41号住居跡　ベルトセクション
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層（As-B混土層）
5　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○
6　灰黄褐色土（10YR4／2）　○○　白色軽石・黄橙色土粒を含む。
7　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○
8　褐灰色土（10YR6／1）　△○　W－29号溝埋土

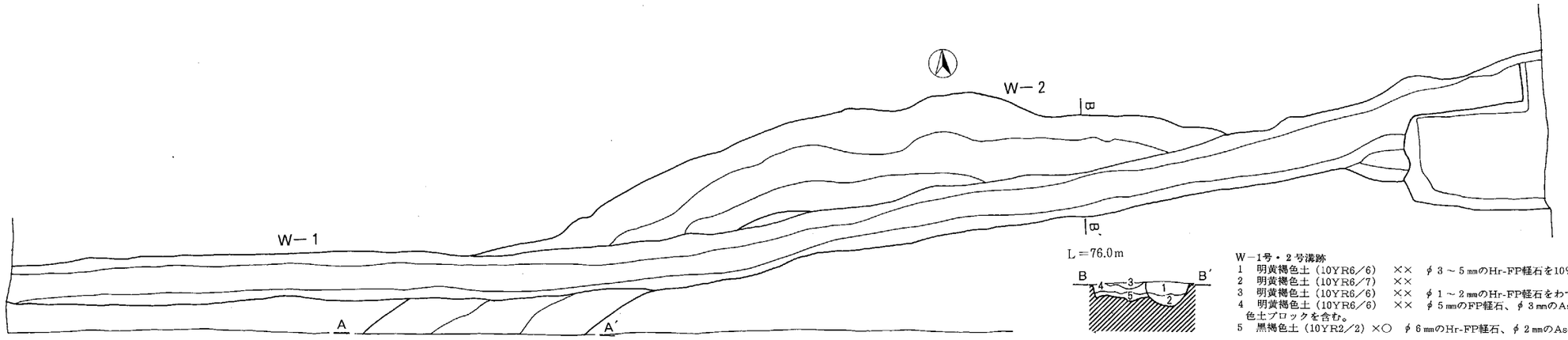


H－43号住居跡　竈・ベルトセクション
1　灰褐色土（10YR4／2）　△○　焼土粒・白色軽石をわずかに含む。
2　黒褐色土（10YR3／2）　○△　焼土ブロックを10%、灰を含む。
3　明黄褐色土（10YR7／6）　○×　下部に灰層がみられ、焼土粒を20%含む。
4　暗褐色土（10YR3／3）　○○　張り床
5　黒褐色土（10YR3／2）　×○　白色軽石を含む。
6　黒褐色土（10YR2／3）　×○　白色軽石・黄橙色土ブロックを含む。
7　橙色土（10YR7／8）　×○　焼土ブロックを含む。



H－47号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色土（10YR3／3）　○△　白色軽石を含む。
2　黒褐色土（10YR3／2）　○△　白色軽石をわずかに含む。
3　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　○△　浅黄橙（10YR8／3）色粘質土ブロックを含む。
4　黒褐色土（10YR3／2）　○△　白色軽石・灰を含む。
5　橙色土（10YR6／8）　×△　下部に灰層がみられる。
6　黒褐色土（10YR3／2）　○△　白色軽石を多く含む。
7　黒褐色土（10YR3／2）　○△　白色軽石をやや含む。

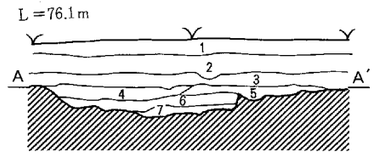
Fig.19　H－41・43・47号住居跡



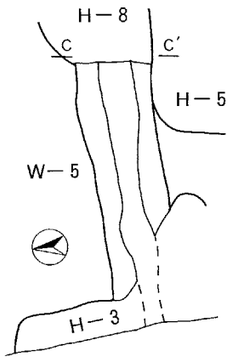
L＝76.0m

W－1号・2号溝跡
1　明黄褐色土（10YR6／6）　××　φ3～5㎜のHr-FP軽石を10％含む。
2　明黄褐色土（10YR6／7）　××
3　明黄褐色土（10YR6／6）　××　φ1～2㎜のHr-FP軽石をわずかに含む。
4　明黄褐色土（10YR6／6）　××　φ5㎜のFP軽石、φ3㎜のAs-C軽石を5～7％、φ10㎜の暗褐（10YR3／3）色土ブロックを含む。
5　黒褐色土（10YR2／2）×○　φ6㎜のHr-FP軽石、φ2㎜のAs-C軽石を3～5％含む。

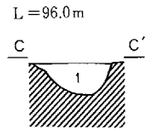
L＝76.1m



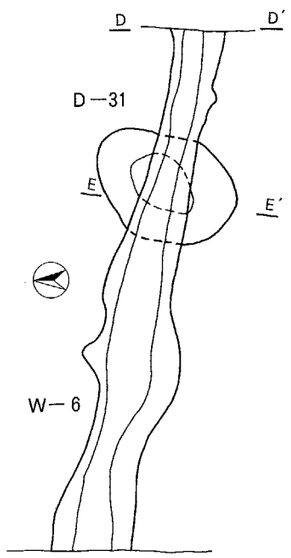
W－2号溝跡
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　△△　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を15～20％含み、上面に鉄分沈殿（斑鉄）層
3　褐色土（7.5YR4／3）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20～25％、φ5㎜のHr-FP軽石を2～3％含み、上面に鉄分沈殿（斑鉄）がみられる。
4　暗褐色土（10YR3／3）　○△　φ3～5㎜のHr-FP軽石及びAs-C軽石を2～3％、細砂を含む。
5　灰褐色土（7.5YR4／2）　○△　φ3～5㎜のHr-FP軽石及びAs-C軽石を2～3％、細砂を含む。
6　明黄褐色土（10YR6／6）　××　φ5㎜のHr-FP軽石・φ3㎜のAs-C軽石を5～7％、φ10㎜の暗褐（10YR3／3）色土ブロックを含む。
7　黒褐色土（10YR2／2）　×○　φ6㎜のHr-FP軽石・φ2㎜のAs-C軽石を3～5％含む。



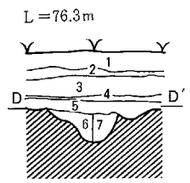
L＝96.0m



W－5号溝跡
1　にぶい黄褐色土（10YR7／3）　○×　As-C軽石、砂礫ブロックを含む。

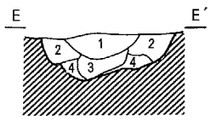


L＝76.3m

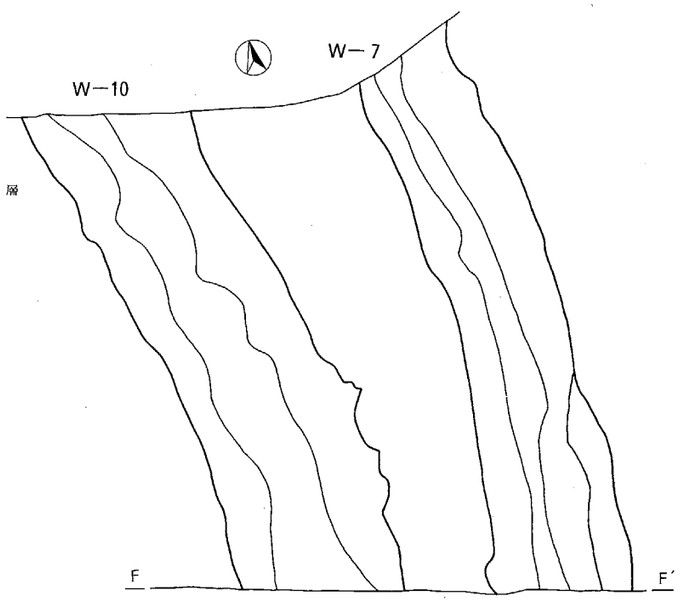


W－6号溝跡
1　褐灰色土（10YR4／1）　××　現耕作土
2　褐灰色土（10YR4／1）　×△　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　褐灰色土（10YR5／1）　×○　旧耕作土
4　黄褐色土（10YR7／8）　×○　As-B軽石混土
5　黒褐色土（10YR3／1）　×△　As-B軽石混土
6　黒褐色土（10YR2／2）　○△
7　明黄褐色土（10YR7／6）　○×　砂層

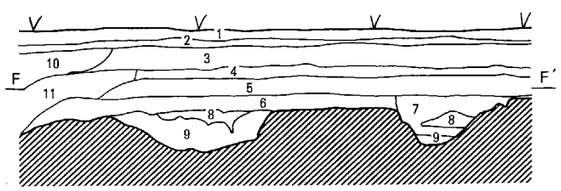
L＝76.1m



D－31号土坑
1　にぶい黄褐色土粗砂（10YR4／3）　×○　白色軽石を含む。
2　黒褐色土細砂（10YR3／2）　○○　白色軽石を含む。
3　にぶい黄褐色土細砂（10YR4／3）　○○　黄褐色土ブロックを含む。
4　にぶい黄褐色土細砂（10YR4／3）　○○

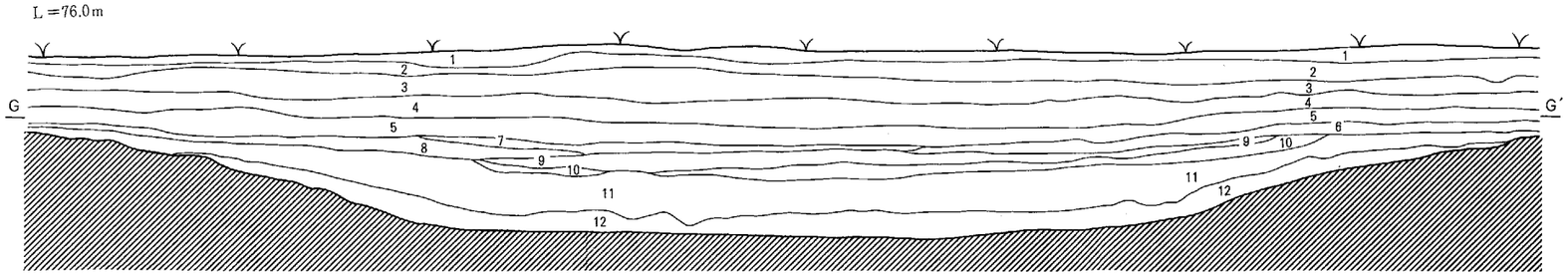


L＝76.0m



W－7・10号溝跡
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　明黄褐色土（10YR6／8）　○×
6　褐灰色土（10YR4／1）　○×　白色軽石を含む。
7　褐灰色土（10YR4／1）　○○
8　黒色土（10YR2／1）　○△
9　褐灰色土（10YR4／1）　××　砂層
10　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　W－17埋土
11　褐灰色土（10YR6／1）　×○　W－17埋土

W－11
L＝76.0m

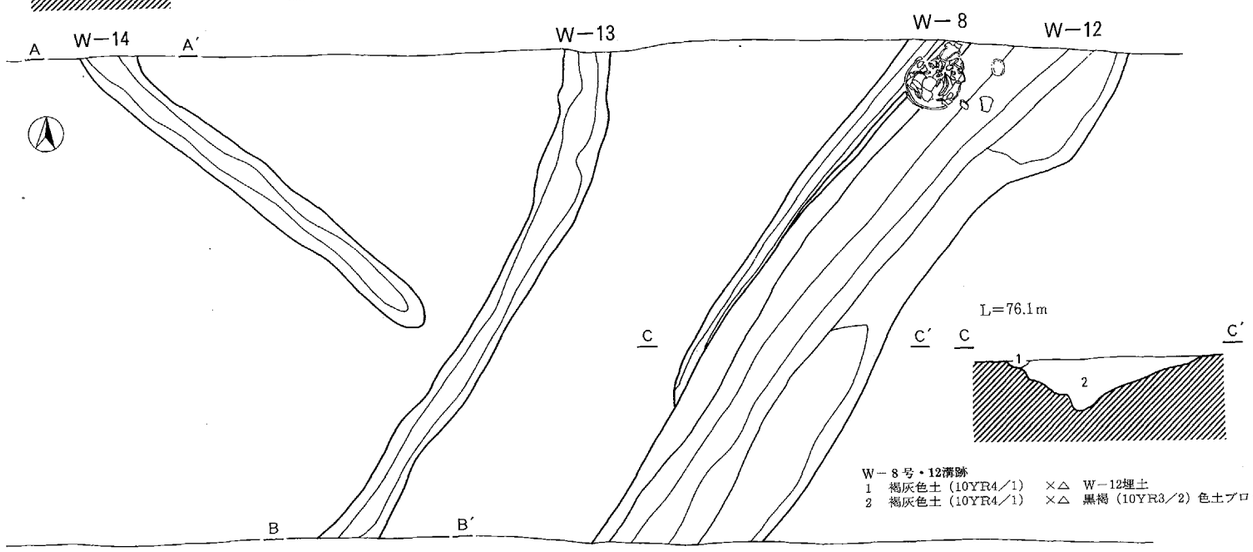


W－11号溝跡
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　黄褐色土（10YR7／8）　×○　白色軽石を含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
5　明黄褐色土（10YR6／6）　×○　白色軽石を含む。
6　明黄褐色土（10YR7／6）　△○　白色軽石を含む。
7　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○　黄褐色土、白色軽石を含む。
8　明黄褐色土（10YR7／6）　○△　白色軽石を含む。
9　灰黄褐色土（10YR5／2）　○○　白色軽石を含む。
10　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　白色軽石を含む。
11　褐灰色土（10YR6／1）　××　As-B軽石混土層
12　灰白色砂層（10YR7／1）　××　As-B軽石純層（As-Bユニット）

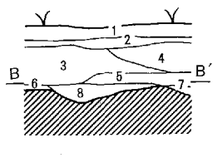
0　1：60　2m

Fig.20　W－1・2・5・6・7・10・11号溝跡　D－31号土坑

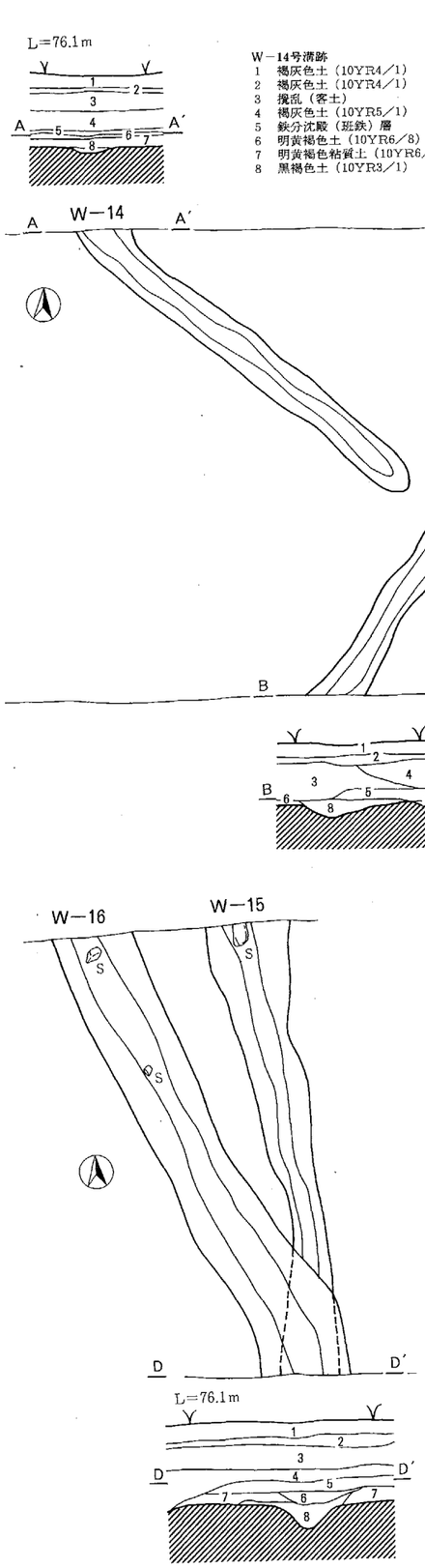
W－14号溝跡
1　褐灰色土（10YR4／1）　×○　現耕作土
2　褐灰色土（10YR4／1）　×○　明赤褐（5YR5／6）色斑点を有する。鉄分沈殿（斑鉄）層
3　撹乱（客土）
4　褐灰色土（10YR5／1）　×○　旧耕作土
5　鉄分沈殿（斑鉄）層
6　明黄褐色土（10YR6／8）　×○　下部にAs-B軽石を含む。
7　明黄褐色粘質土（10YR6／8）　○×
8　黒褐色土（10YR3／1）　△△　W－14埋土



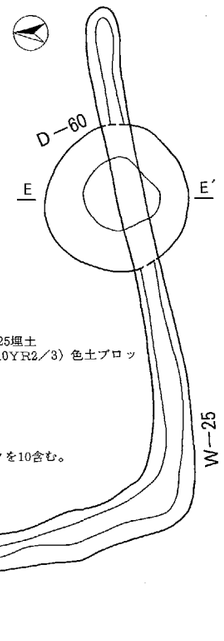
W－8号・12溝跡
1　褐灰色土（10YR4／1）　×△　W－12埋土
2　褐灰色土（10YR4／1）　×△　黒褐（10YR3／2）色土ブロックを含む。下部に縞混粗砂が目立つ。W－8埋土

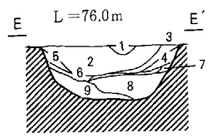


W－13号溝跡
1　褐灰色土（10YR4／1）　×○　現耕作土
2　褐灰色土（10YR4／1）　×○　明赤褐（5YR5／6）色斑点を有する。鉄分沈殿（斑鉄）層
3　褐灰色土（10YR5／1）　×○　旧耕作土
4　褐灰色土（10YR4／1）　×○　砂層
5　褐灰色土（10YR4／1）　×○　砂層、9層が混じる。
6　明黄褐色粘質土（10YR6／8）　○×
7　褐灰色土（10YR4／1）　×○　砂層
8　明黄褐色土（10YR6／8）　×○　5層が若干混じる。下部にAs-B軽石を含む。W－13埋土

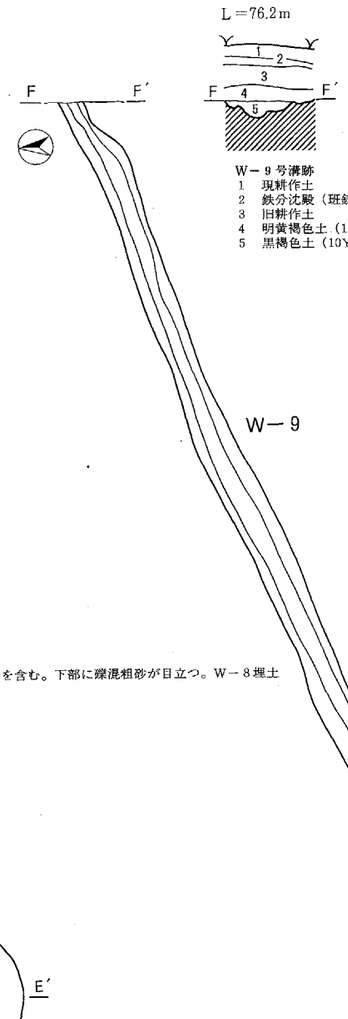


W－15・16号溝跡
1　現耕作土
2　客土を主体とした鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　明黄褐色土（10YR6／8）　×○　下部にAs-B軽石を含む。
5　明黄褐色粘質土（10YR6／8）　○×
6　黒褐色土（10YR3／1）　△△　W－15埋土
7　明黄褐色土（10YR6／6）　○×
8　褐灰色土（10YR6／1）　×○　黒褐（10YR6／1）色土ブロックを30%含む砂層

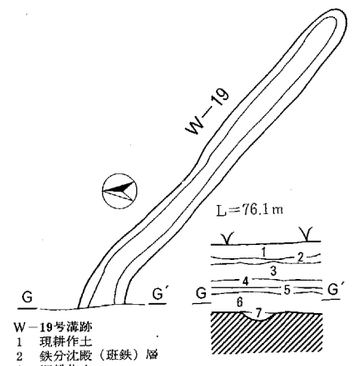




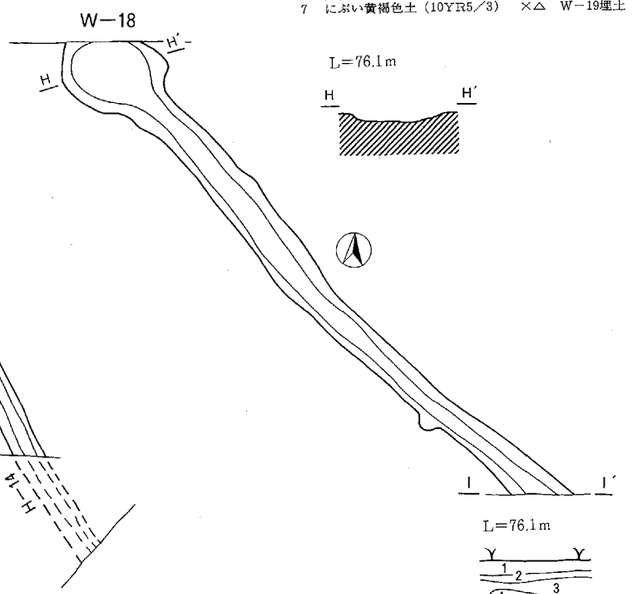
D－60号土坑
1　灰黄褐色土（10YR4／2）　×○　φ5～7㎜の白色軽石（発泡性有り）を5%含む。W－25埋土
2　黄灰色土（2.5Y4／1）　△○　細砂を30%、φ20㎜の明黄褐（10YR6／6）色土・黒褐（10YR2／3）色土ブロックを15%含む。
3　黄灰色土（2.5Y4／1）　○○　細砂を15%含む。
4　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　○○　明黄褐色土を10%含む。
5　黄灰色土（2.5Y4／1）　○△　φ10㎜の明黄褐色土・黒褐色土ブロックを10%含む。
6　褐灰色土（10YR4／1）　○△　φ50㎜の明黄褐色土・黒褐色土ブロックを10%含む。
7　灰色粘質土（N4）　○△
8　黒褐色土（10YR3／1）　△×　細砂を30%、φ10～50㎜の明黄褐色土・黒褐色土ブロックを10含む。
9　黒褐色土（10YR3／1）　××　細砂を30～40%含む。



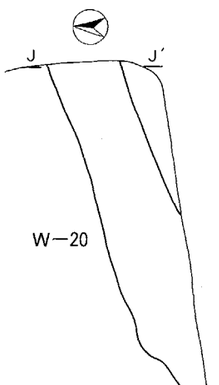
W－9号溝跡
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　明黄褐色土（10YR6／8）　×○　下部にAs-B軽石がみられる。
5　黒褐色土（10YR3／2）　×○　As-B軽石を含む砂層

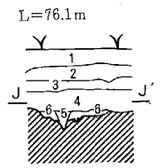


W－19号溝跡
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　黄褐色土（10YR5／6）　×○　As-B軽石、白色軽石を含む。
6　黒褐色土（10YR3／1）　×○　As-B軽石を多く含む。
7　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×△　W－19埋土



W－18号溝跡
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　客土
4　旧耕作土
5　明黄褐色土（10YR6／8）　×○　下部にAs-B軽石がみられる。
6　褐灰色土（10YR6／1）　○○
7　明黄褐色粘質土（10YR6／8）　○×
8　灰黄褐土（10YR5／2）　××　黒色土ブロック、As-C軽石を含む砂層、W－18埋土





W－20号溝跡
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　△△　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○
4　褐色土（7.5YR4／3）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20～25%含む。As-B混土層
5　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△△　φ3～5㎜のHr-FP軽石をわずかに含む。
6　橙色土（7.5YR6／8）　○△　Hr-FP軽石がわずかにみられ、4層をベースとし橙色シルトブロックが全体的に広がる。

0　1：60　2m

Fig.21　W－8・9・12・13・14・15・16・18・19・20・25号溝跡　D－60号土坑

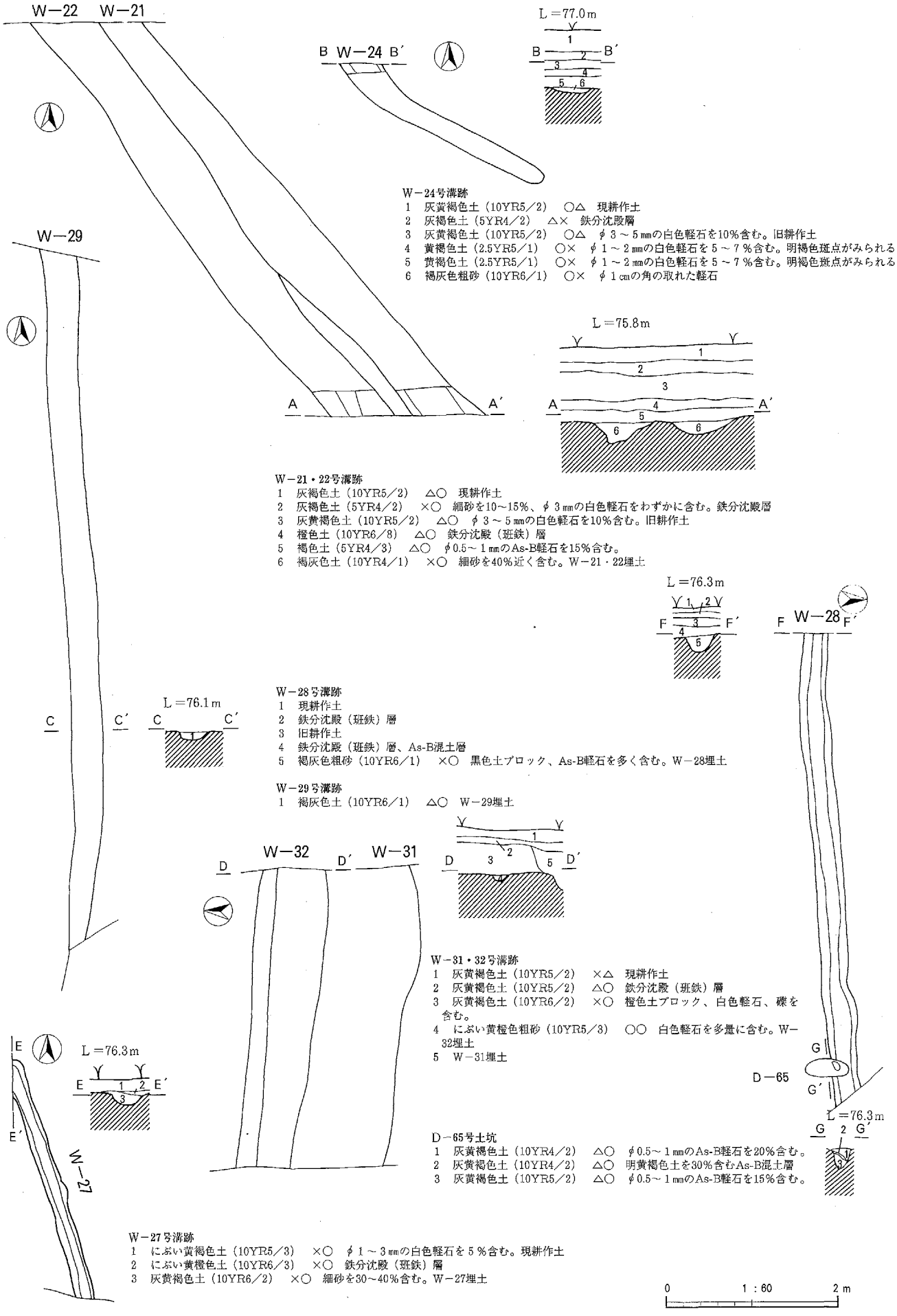
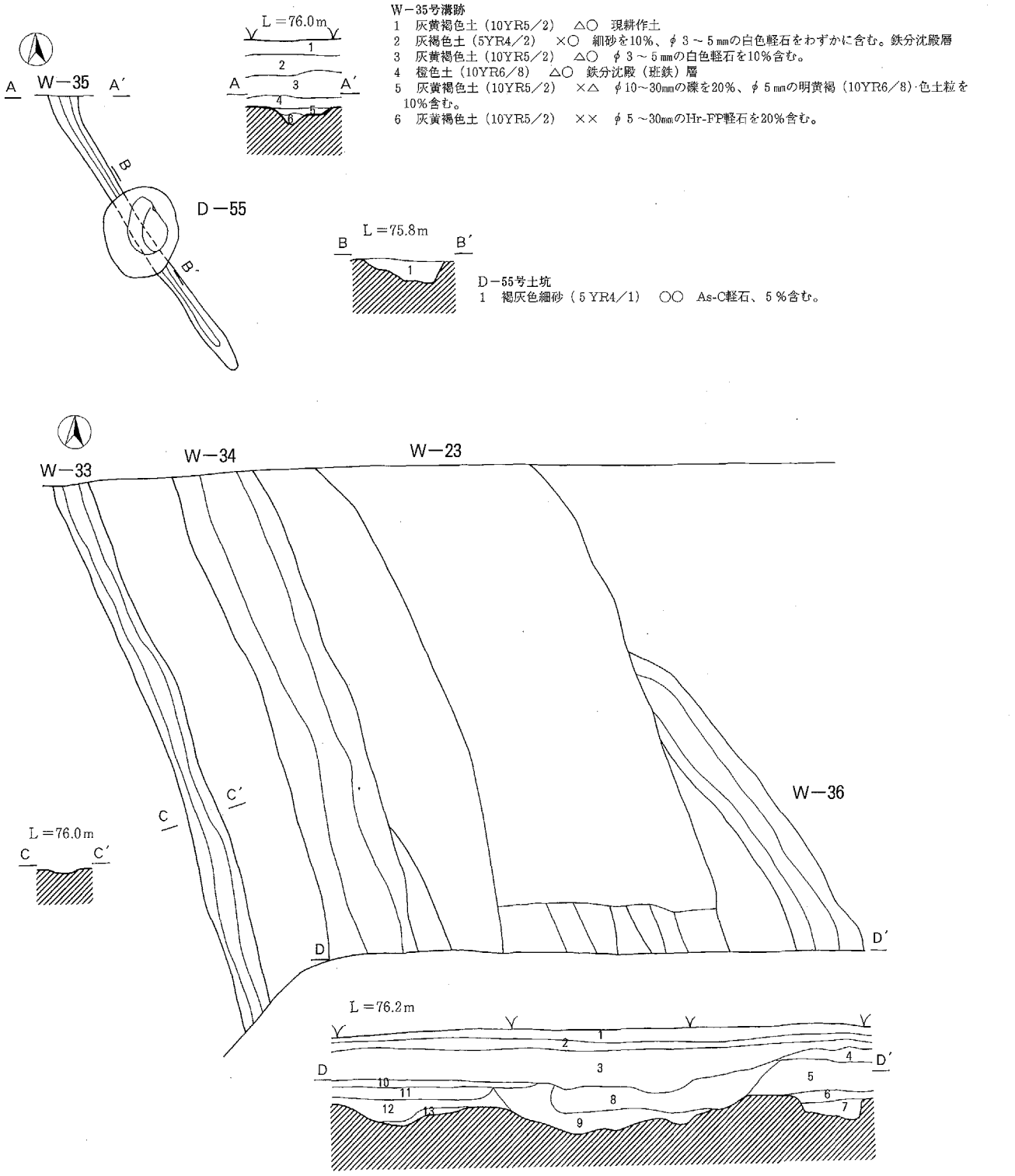


Fig.22 W−21・22・24・27～29・31・32号溝跡

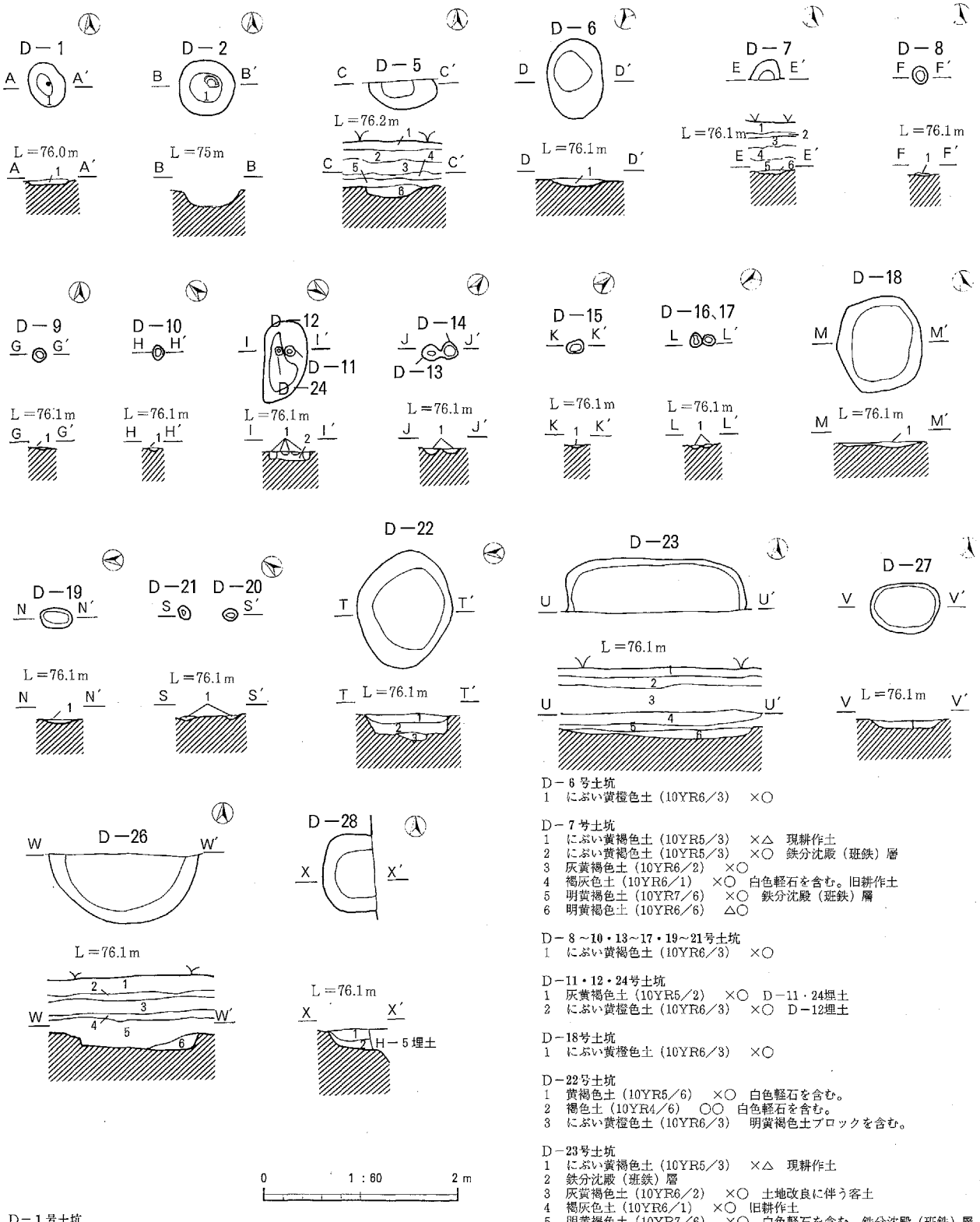


W－35号溝跡
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　現耕作土
2　灰褐色土（5YR4／2）　×○　細砂を10%、φ３～５㎜の白色軽石をわずかに含む。鉄分沈殿層
3　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　φ３～５㎜の白色軽石を10%含む。
4　橙色土（10YR6／8）　△○　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　灰黄褐色土（10YR5／2）　×△　φ10～30㎜の礫を20%、φ５㎜の明黄褐（10YR6／8）色土粒を10%含む。
6　灰黄褐色土（10YR5／2）　××　φ５～30㎜のHr-FP軽石を20%含む。

D－55号土坑
1　褐灰色細砂（５YR4／1）　○○　As-C軽石、５%含む。

W－23・34・36号溝跡
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰オリーブ色土（5Y6／2）
4　灰黄褐色土（10YR5／2）　△○　白色軽石、礫を含む
5　黄橙色（10YR8／8）　×○　白色軽石を含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
6　灰黄褐色粗砂（10YR5／2）　△○　礫を含まない３層に似る。
7　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　△○
8　にぶい黄橙色土（10YR6／4）　○○
9　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　△○　黄橙色土ブロックを含む。
10　旧耕作土
11　黄褐色土（10YR5／2）　△×　床土化、As-B軽石混土層
12　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　△○　白色軽石を含む。
13　褐灰色粗砂（10YR6／1）　×○　礫、Hr-FP軽石を含む。

Fig.23　W－23・33～36号溝跡



D－1号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR6／3）　○×

D－5号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×△　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○　旧耕作土
4　褐灰色土（10YR6／1）　×○
5　明黄褐色土（10YR7／6）　×○　白色軽石を含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
6　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　△○　白色軽石を含む。

D－6号土坑
1　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○

D－7号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×△　現耕作土
2　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○
4　褐灰色土（10YR6／1）　×○　白色軽石を含む。旧耕作土
5　明黄褐色土（10YR7／6）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層
6　明黄褐色土（10YR6／6）　△○

D－8～10・13～17・19～21号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR6／3）　×○

D－11・12・24号土坑
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　×○　D－11・24埋土
2　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○　D－12埋土

D－18号土坑
1　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○

D－22号土坑
1　黄褐色土（10YR5／6）　×○　白色軽石を含む。
2　褐色土（10YR4／6）　○○　白色軽石を含む。
3　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　明黄褐色土ブロックを含む。

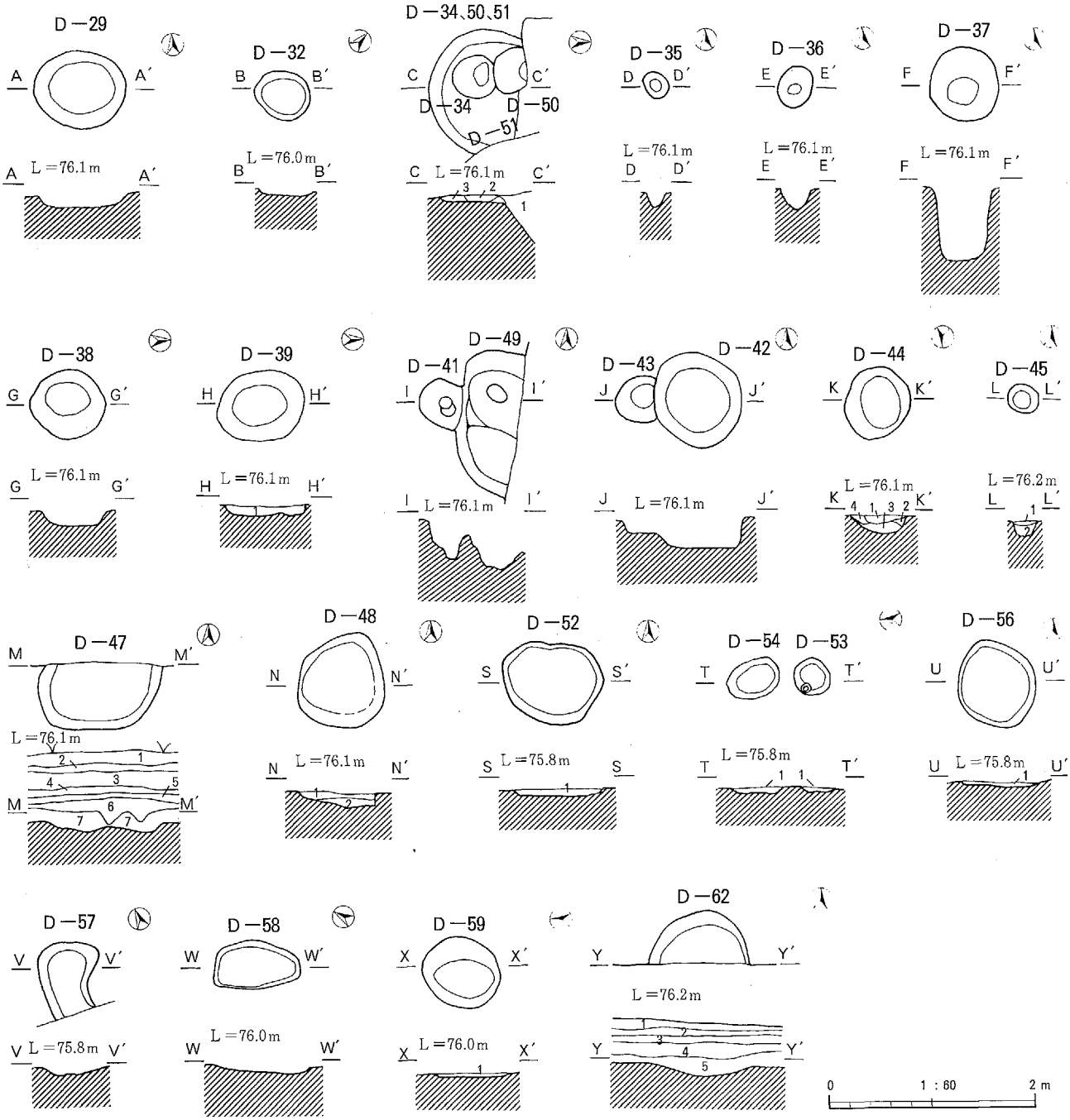
D－23号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×△　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　灰黄褐色土（10YR6／2）　×○　土地改良に伴う客土
4　褐灰色土（10YR6／1）　×○　旧耕作土
5　明黄褐色土（10YR7／6）　×○　白色軽石を含む。鉄分沈殿（斑鉄）層
6　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　△○　白色軽石を含む。

D－26号土坑
1　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　現耕作土
2　黄橙色土（10YR7／8）　××　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　にぶい黄褐色土（10YR6／3）　×△　旧耕作土
4　黄橙色土（10YR7／8）　×○　鉄分沈殿（斑鉄）層、As-B軽石混土層
5　褐色土（10YR4／4）　△△　白色軽石、黒色土ブロックを含む。
6　黒褐色土（10YR2／3）　○○　黄橙（10YR7／8）色粘質土ブロックを含む。

D－27号土坑
1　黒褐色土（10YR3／2）　×○　As-C軽石を含む。

D－28号土坑
1　暗褐色土（10YR3／3）　×△　As-C軽石を含む。
2　暗褐色土（10YR3／3）　△○　As-C軽石、橙（10YR6／8）色土ブロックを含む。

Fig.24　D－1～28号土坑



D－34・50・51号土坑
1　暗褐色土（10YR3／3）　○△　白色軽石を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3／3）　○△　白色軽石を多く含む。
3　黒褐色土（10YR2／3）　△○　白色軽石混土層

D－39号土坑
1　黒褐色土（10YR2／3）　○△　白色軽石を含む。

D－44号土坑
1　黒褐色土（10YR2／3）　○△　白色軽石を含む。
2　黒色土（10YR2／1）　○△
3　黒褐色土（10YR2／3）　○△　黄橙色土ブロックを含む。
4　黒褐色土（10YR3／2）　○△　白色軽石を含む。

D－45号土坑
1　暗褐色土（10YR3／3）　×△　白色軽石を含む。
2　黒褐色土（10YR2／3）　○△

D－47号土坑
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　明黄褐色土（10YR6／8）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を5％、φ3㎜の明黄褐色土粒を2％含む。
6　黒褐色土（10YR・2）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を15％、φ5㎜のHr-FP軽石を3％含む。
7　黒褐色土（10YR2／2）　○△　φ5㎜のHr-FP軽石を5％、φ8㎜の焼土粒を2％含む。

D－48号土坑
1　黒褐色土（10YR3／1）　○△　φ5㎜のHr-FP軽石、φ3㎜のAs-C軽石を5％、φ5㎜の焼土粒を2％含む。
2　黒色土（10YR2／1）　○○　φ5㎜の焼土粒を2％含む。

D－52号土坑
1　暗褐色土（7.5YR3／4）　△○　As-B軽石を5％含む。

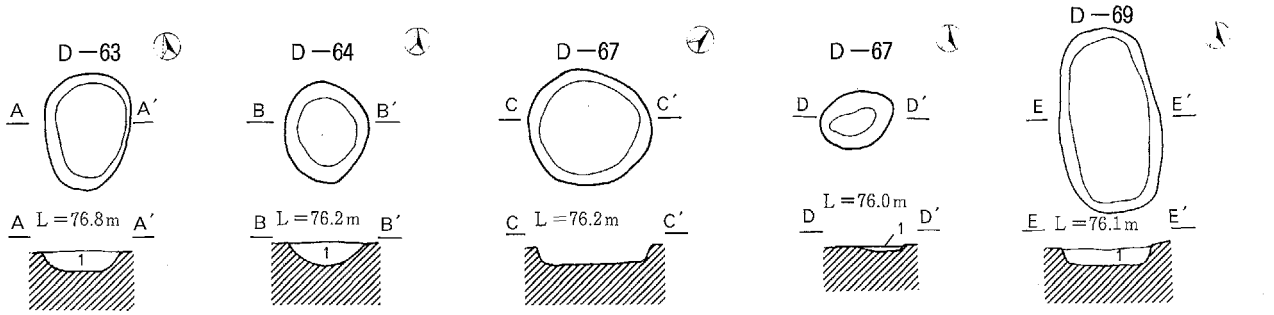
D－53・54号土坑
1　褐灰色土（5YR4／1）　○○　As-C軽石を5％含む。

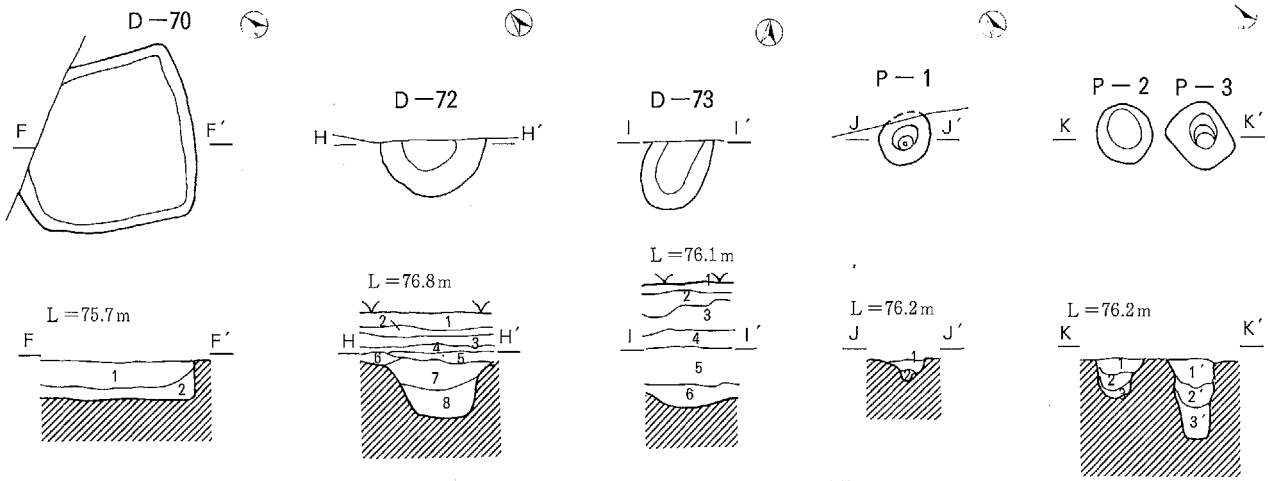
D－56号土坑
1　暗褐色土（10YR3／3）　○○　Hr-FP軽石を5％含む。

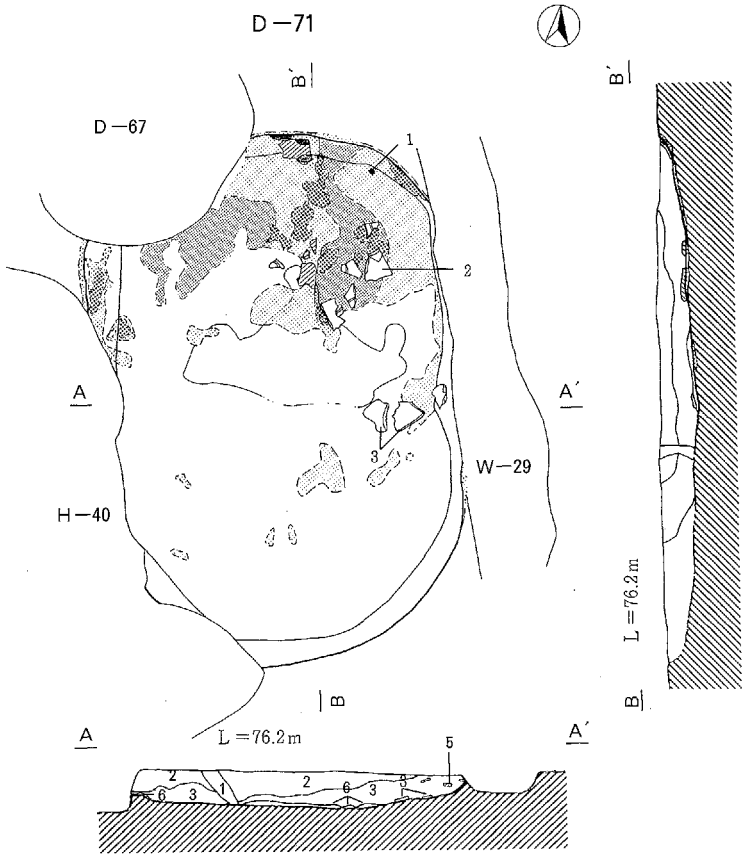
D－59号土坑
1　黒褐色土（10YR2／3）　○○

D－62号土坑
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土（下部に鉄分沈殿層有り）
4　As-B軽石混土層
5　黒褐色土（10YR2／2）　○△　白色軽石、黄橙色土ブロックを含む。

Fig.24　D－1～28号土坑







D－63・64号土坑
1　黒褐色土（10YR2／2）　白色軽石、黄橙色土ブロックを含む。

D－68号土坑
1　暗褐色土（10YR2／3）　○○

D－69号土坑
1　黒褐色土（10YR3／1）　△△　φ５㎜のHr-FP軽石、φ30㎜の黄褐色土ブロックを２％含む。

D－70号土坑
1　灰褐色土（7.5YR4／2）　○○　Hr-FP軽石を５％含む。
2　褐灰色土（7.5YR4／3）　○○　砂質土ブロックを５％、Hr-FP軽石をわずかに含む。

D－71号土坑
1　明黄褐色土（10YR6／6）　△○　φ２㎜の白色礫を３％含む。撹乱
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　φ３～５㎜の焼土粒を５％、φ５～10㎜のHr-FP軽石を３％含む。
3　暗褐色土（10YR3／3）　△○　φ５～10㎜の赤褐（5YR4／8）色焼土粒を10％、φ５～15㎜の炭化物を５％、φ５㎜のHr-FP軽石をわずかに含む。
4　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△○　φ５～20㎜の焼土粒を５％、φ７～15㎜の炭化物を３％、φ５～10㎜のHr-FP軽石をわずかに含む。
5　黄褐色土（10YR5／6）　△○　若干粘性を有し、上面がやや硬化し内面は軟質
6　褐灰色土（10YR5／1）　△×　灰を多く含む。（灰層）
7　橙色土（7.5YR6／8）　被熱により硬化、かなり焼き締まる。
8　暗赤褐色土（2.5YR3／4・3／6）　地山の焼土化（被熱）部分、軟質

D－72号土坑
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　暗褐色土（10YR3／3）　×○　0.5～１㎜のAs-B軽石を15％含む。
6　灰黄褐色土（10YR4／2）　△△　φ３㎜のHr-Hr-FP軽石、φ２～３㎜のAs-C軽石を１～２％含む。
7　黒褐色土（10YR3／2）　△×　φ３～20㎜の明黄褐（10YR6／8）色土ブロックを10％、φ２～７㎜のHr-FP軽石を５％含む。
8　黒褐色土（10YR2／2）　φ５～10㎜の明黄褐色土ブロックを５％含む。

D－73号土坑
1　現耕作土
2　鉄分沈殿（斑鉄）層
3　旧耕作土
4　鉄分沈殿（斑鉄）層
5　暗褐色土（10YR3／4）　△○　黄橙色斑点がみられ、φ0.5～２㎜のAs-B軽石を10％含む。
6　暗褐色土（10YR3／3）　×○　φ0.5～２㎜のAs-B軽石を30％、As-B軽石と細砂からなるブロックを含む。

P－１号柱穴
1　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○　白色軽石混土層
2　黒褐色土（10YR2／2）　××

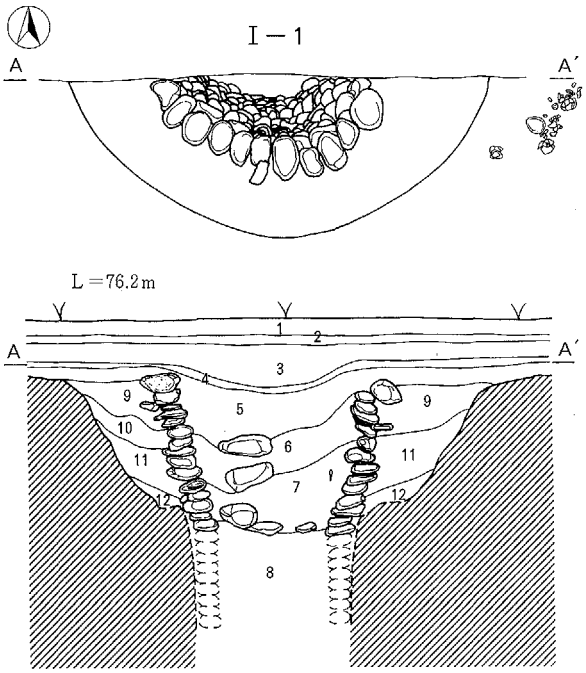
P－２号柱穴
1　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○　白色軽石混土層
2　にぶい黄橙色土（10YR6／3）　×○　白色軽石・黒色ブロック混土層
3　黒褐色土（10YR2／2）　××

P－３号柱穴
1　にぶい黄橙色土土細砂（10YR6／3）　×○　白色軽石混土層
2　にぶい黄橙色土細砂（10YR6／3）　×○　白色軽石・黒色ブロック混土層
3　黒色土細砂（10YR3／2）　○×

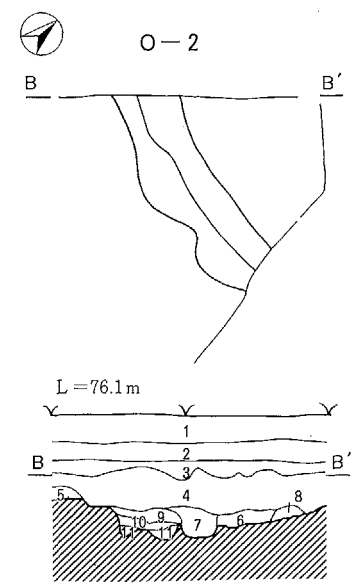
黄橙色被熱硬化面　黒色硬化面
濃暗赤褐色被熱面　黄褐色板状ブロック
淡暗赤褐色被熱面　灰

0　1：60　2 m

Fig.26　D－63～73号土坑、P－１～３号柱穴



I－1号井戸跡セクション
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　×△　現耕作土
2　明赤褐色土（5YR5／8）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を5％含む。鉄分沈殿（班鉄）層
3　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を15％含む。
4　明褐色土（7.5YR5／6）　×○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を10％含む。
5　暗褐色土（10YR3／3）　△△　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を10％含む。（As-B混土層）
6　黒色土（10YR2／1）　△△　φ1～5㎜のAs-C軽石を10％含む。（As-C混土層）
7　黒色土（10YR2／1）　△△　φ1～5㎜のAs-C軽石を2～3％含む。
8　黒褐色土（10YR3／1）　○△　ローム への漸移層
9　にぶい黄褐色土（10YR5／3）　○△　細砂を10％含む。
10　灰黄褐色粗砂（10YR6／2）　×△　φ10～20㎜の円礫を5％、φ10～20㎜の浅黄橙色（10YR8／4）軽石を10％含む。褐色（7.5YR4／6）斑点がみられる。
11　にぶい黄橙色細砂（10YR7／2）　×△　褐色（7.5YR4／6）斑点がみられる。
12　にぶい黄橙色粗砂（10YR7／2）　×○　φ5㎜の円礫を30％含み、極暗赤褐色（5YR2／4）斑点が多くみられ硬化している。



O－2号落ち込み
1　灰黄褐色土（10YR5／2）　△△　現耕作土
2　灰黄褐色土（10YR4／2）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を15～20％含み、上面に鉄分沈殿（班鉄）層
3　褐色土（7.5YR4／3）　△○　φ0.5～1㎜のAs-B軽石を20～25％、φ5㎜のHr-FP軽石を2～3％含み、上面に鉄分沈殿（班鉄）がみられる。
4　明黄褐色土（10YR6／6）　△○　As-C軽石とHr-FP軽石が1～2％と極わずか。
5　褐色土（7.5YR4／3）　△○　As-C軽石及びHr-FP軽石を含む。As-B軽石は3層よりも少ない。
6　灰褐色土（10YR4／1）　△×　φ10㎜のHr-FP軽石、φ2～3㎜のAs-C軽石を2％含む。
7　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　△△　φ5㎜のHr-FP、φ2～3㎜のAs-C軽石を2～3％含む。
8　にぶい黄褐色土（10YR4／3）　××　軽石を含まない。
9　灰褐色土（10YR4／1）　×△　φ10㎜のHr-FP軽石、φ2～3㎜のAs-C軽石を含む。
10　灰褐色土（10YR4／1）　○×
11　明褐色土（7.5YR5／8）　××　10層がブロック状に入り込む。

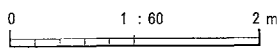


Fig.27　I－1号井戸跡、O－2号落ち込み

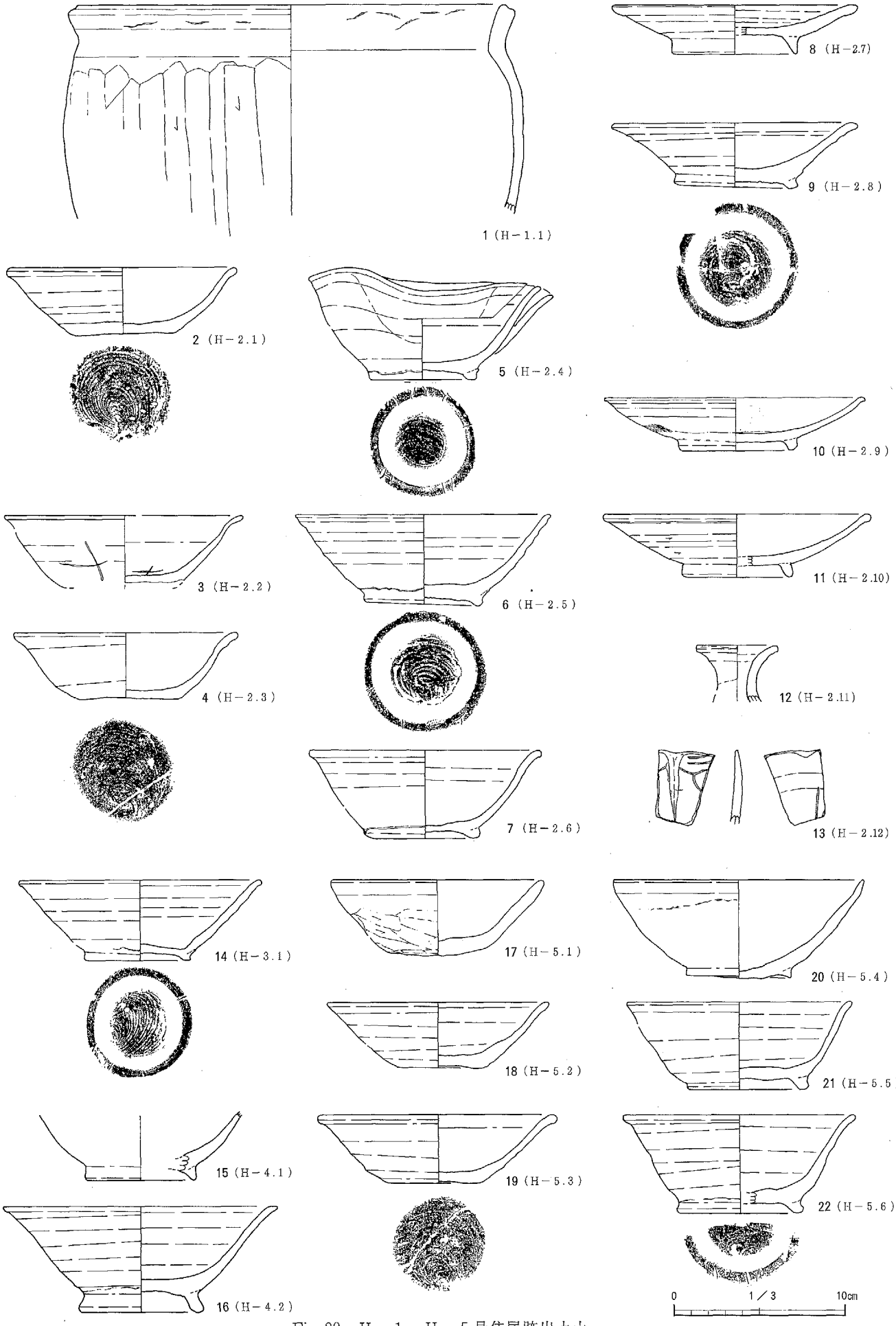
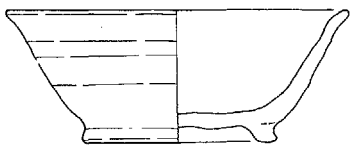
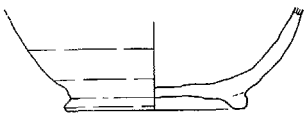


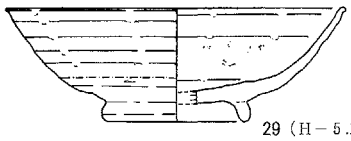
Fig.28　H－1～H－5号住居跡出土土



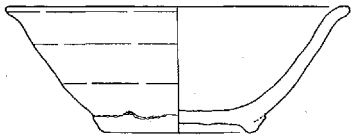
23（H－5.7）



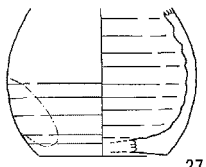
26（H－5.10）



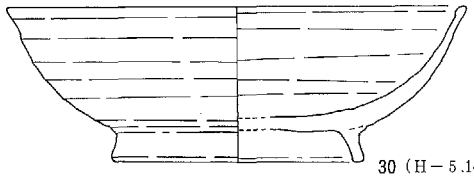
29（H－5.13）



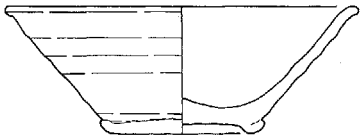
24（H－5.8）



27（H－5.11）

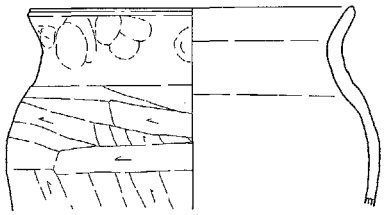


30（H－5.14）

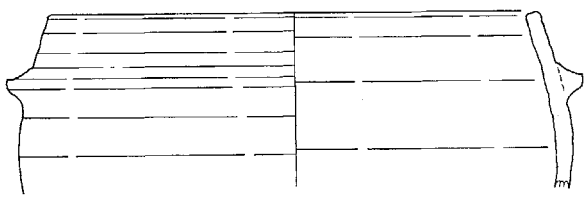


25（H－5.9）

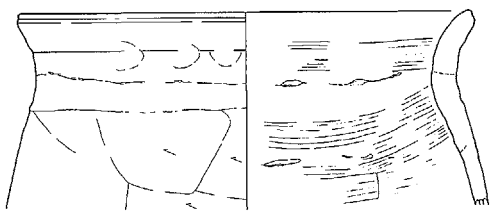
28（H－5.12）



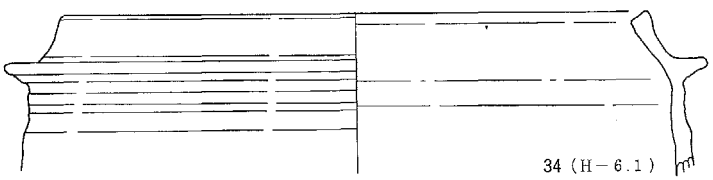
31（H－5.15）



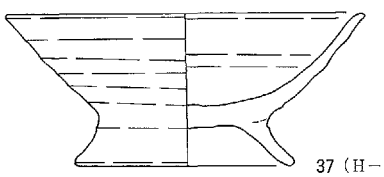
33（H－5.17）



32（H－5.2）

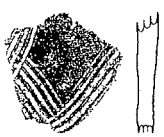


34（H－6.1）

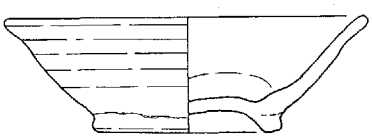


37（H－7.1）

35（H－6.2）

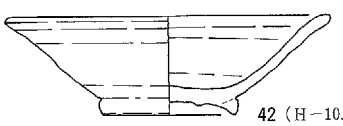


36（H－6.3）

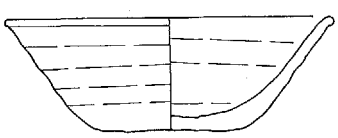


38（H－8.1）

40（H－10.1）

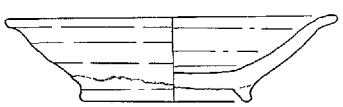


42（H－10.3）

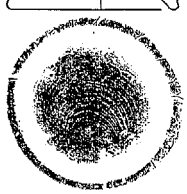


39（H－9.1）

41（H－10.2）



43（H－10.4）



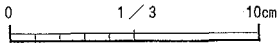
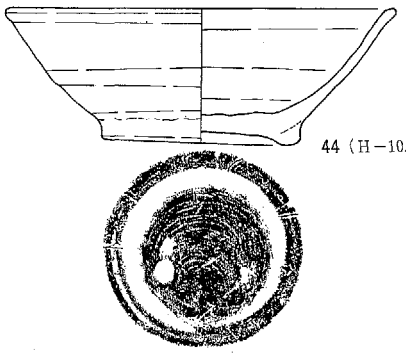
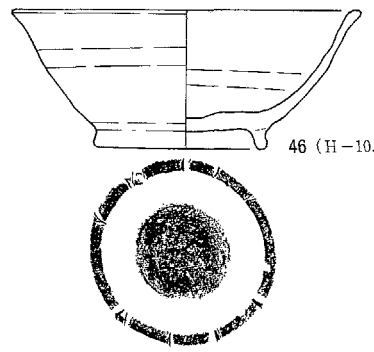


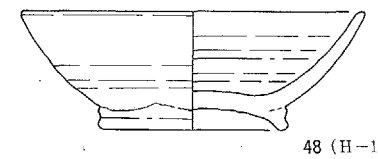
Fig.29　H－5～H－10号住居跡出土土器



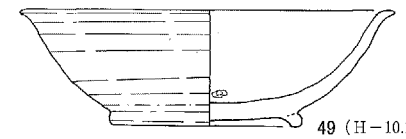
44（H－10.5）



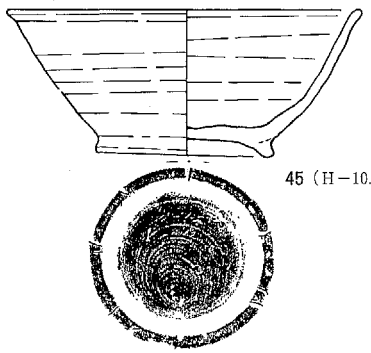
46（H－10.7）



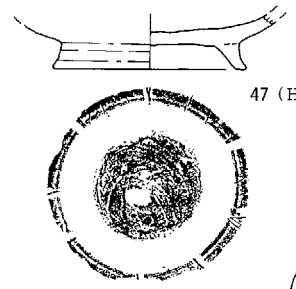
48（H－10.9）



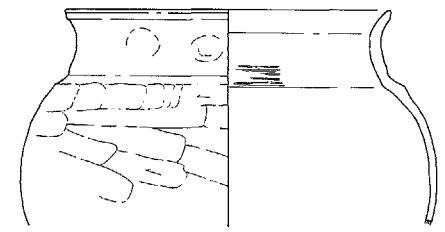
49（H－10.10）



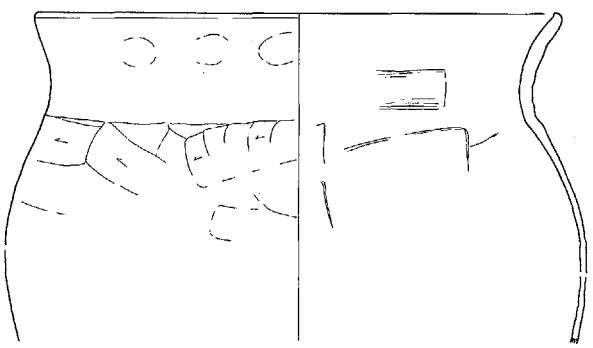
45（H－10.6）



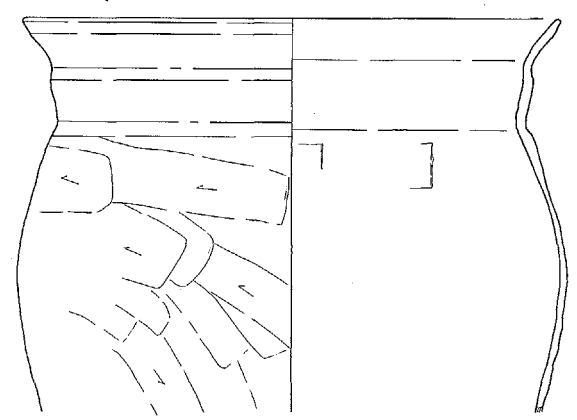
47（H－10.8）



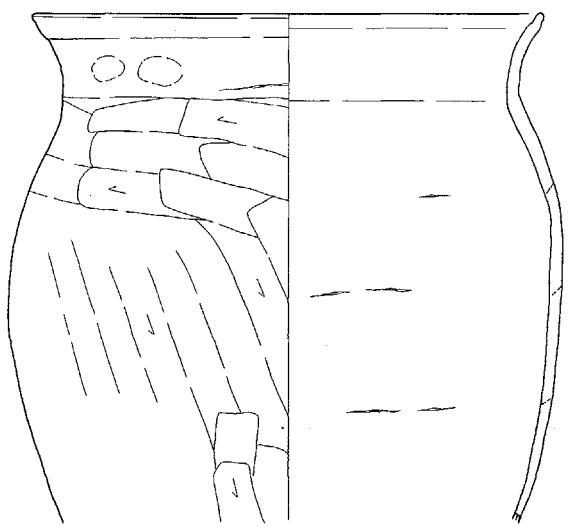
50（H－10.11）



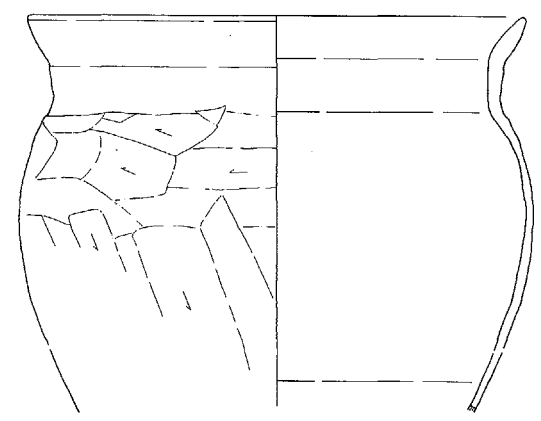
51（H－10.12）



53（H－10.14）



52（H－10.13）



54（H－10.15）

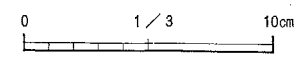
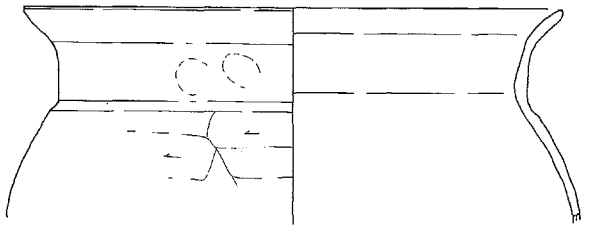
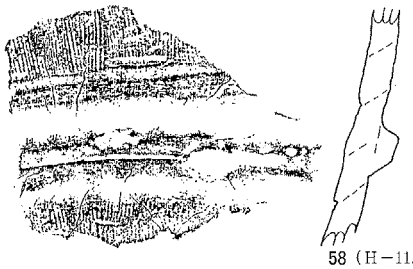
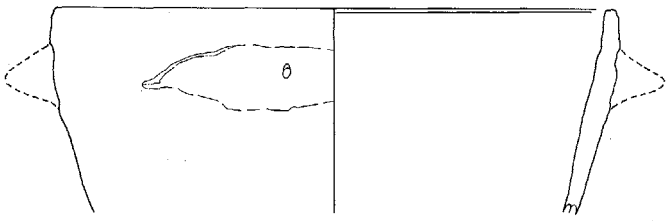


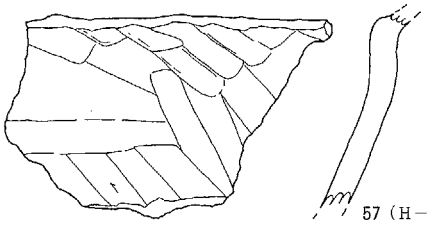
Fig.30　H－10号住居跡出土土器

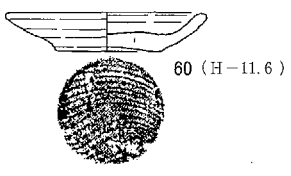

55（H－11.1）

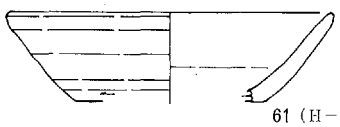

58（H－11.4）

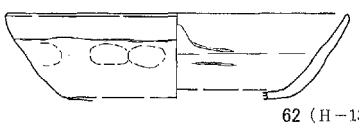

56（H－11.2）

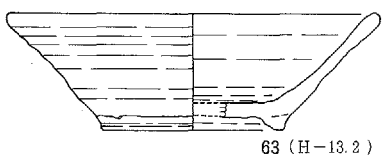
59（H－11.5）

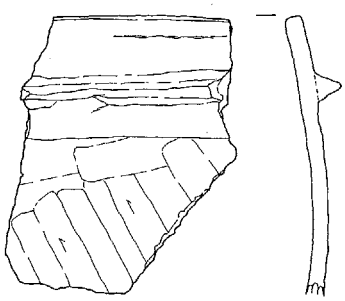

57（H－11.3）

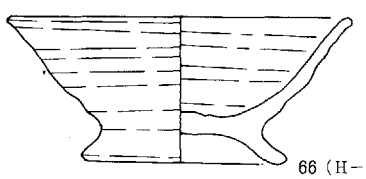

60（H－11.6）

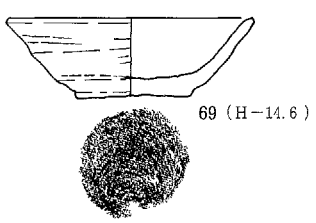

61（H－12.1）

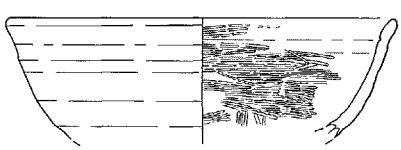

62（H－13.1）

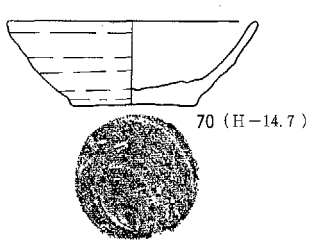

63（H－13.2）

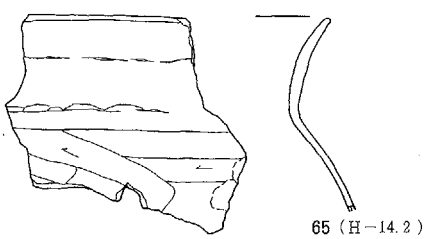

64（H－14.1）

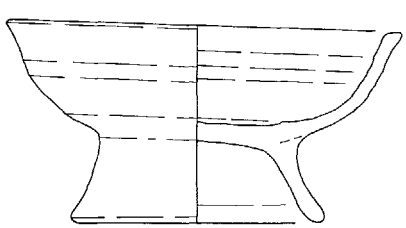

66（H－14.3）

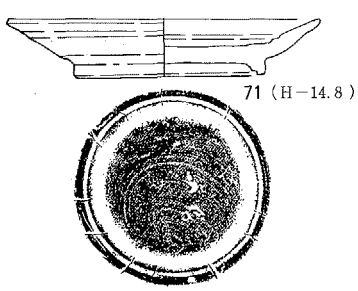

69（H－14.6）

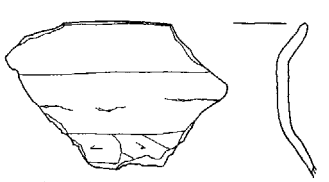

67（H－14.4）

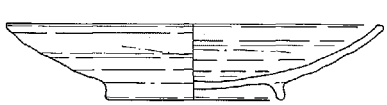

70（H－14.7）


65（H－14.2）


68（H－14.5）


71（H－14.8）


72（H－15.1）


73（H－15.2）

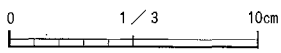


Fig.31　H－11～15号住居跡出土土器

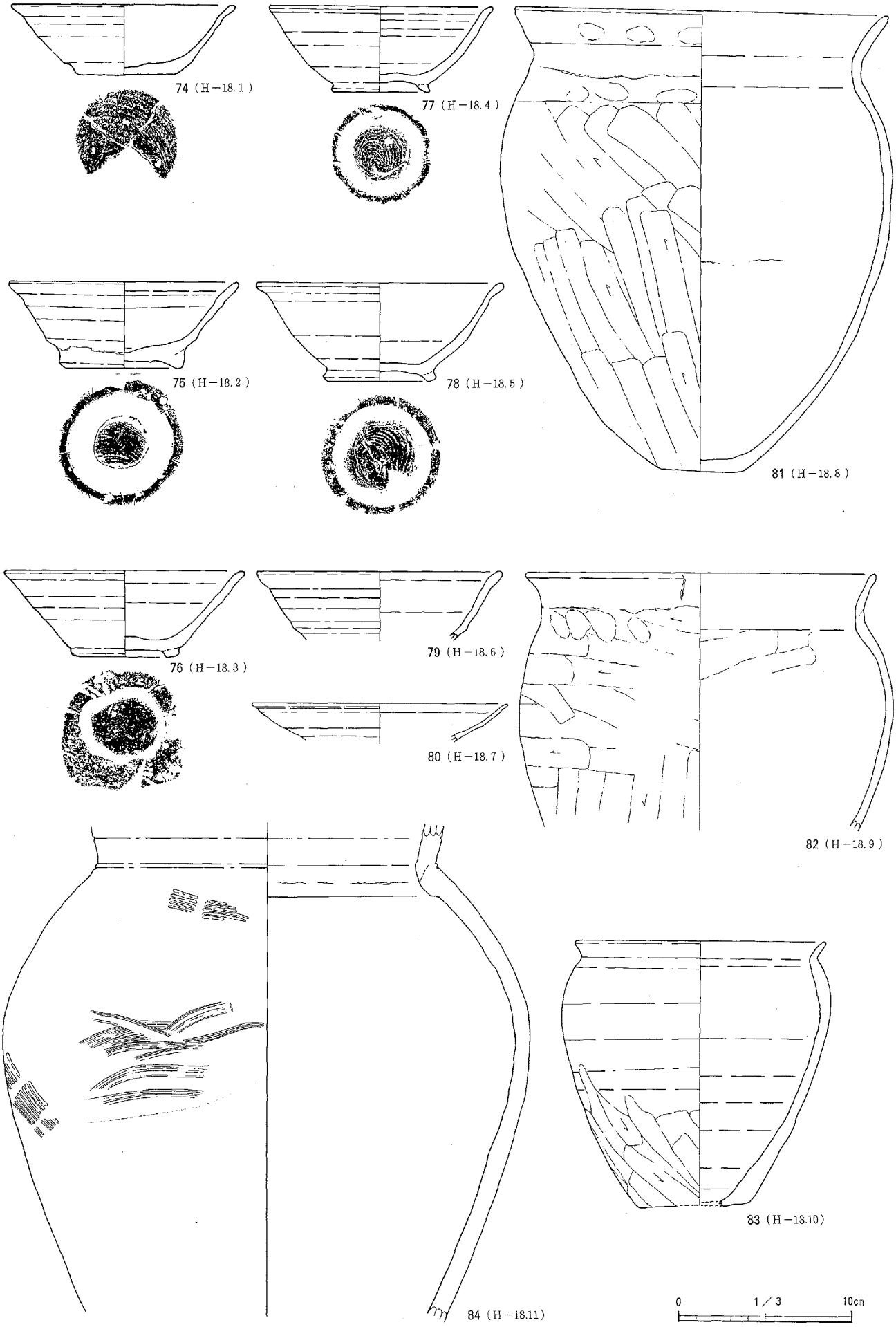


Fig.32　H－18号住居跡出土土器

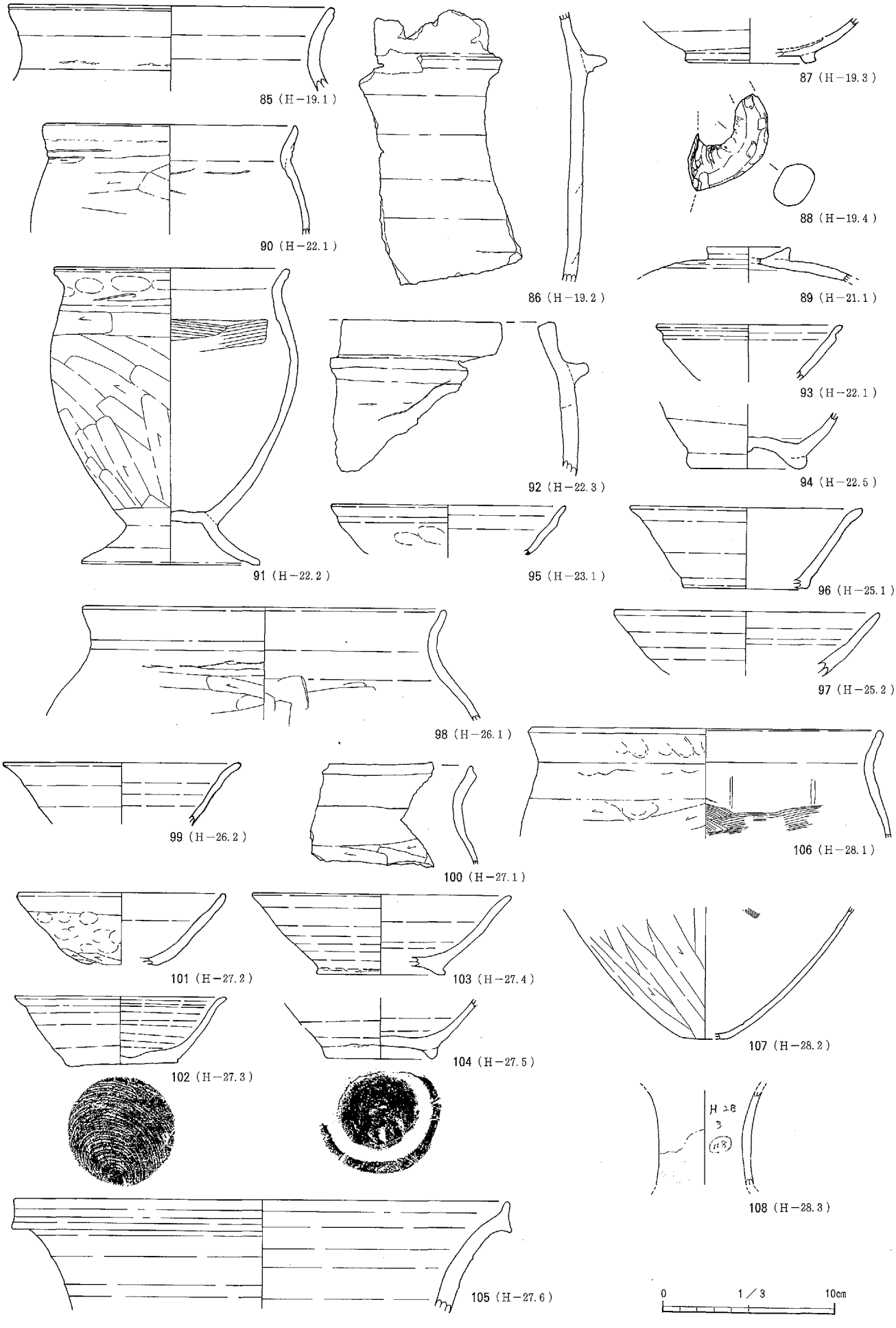


Fig.33　H－19～28号住居跡出土土器

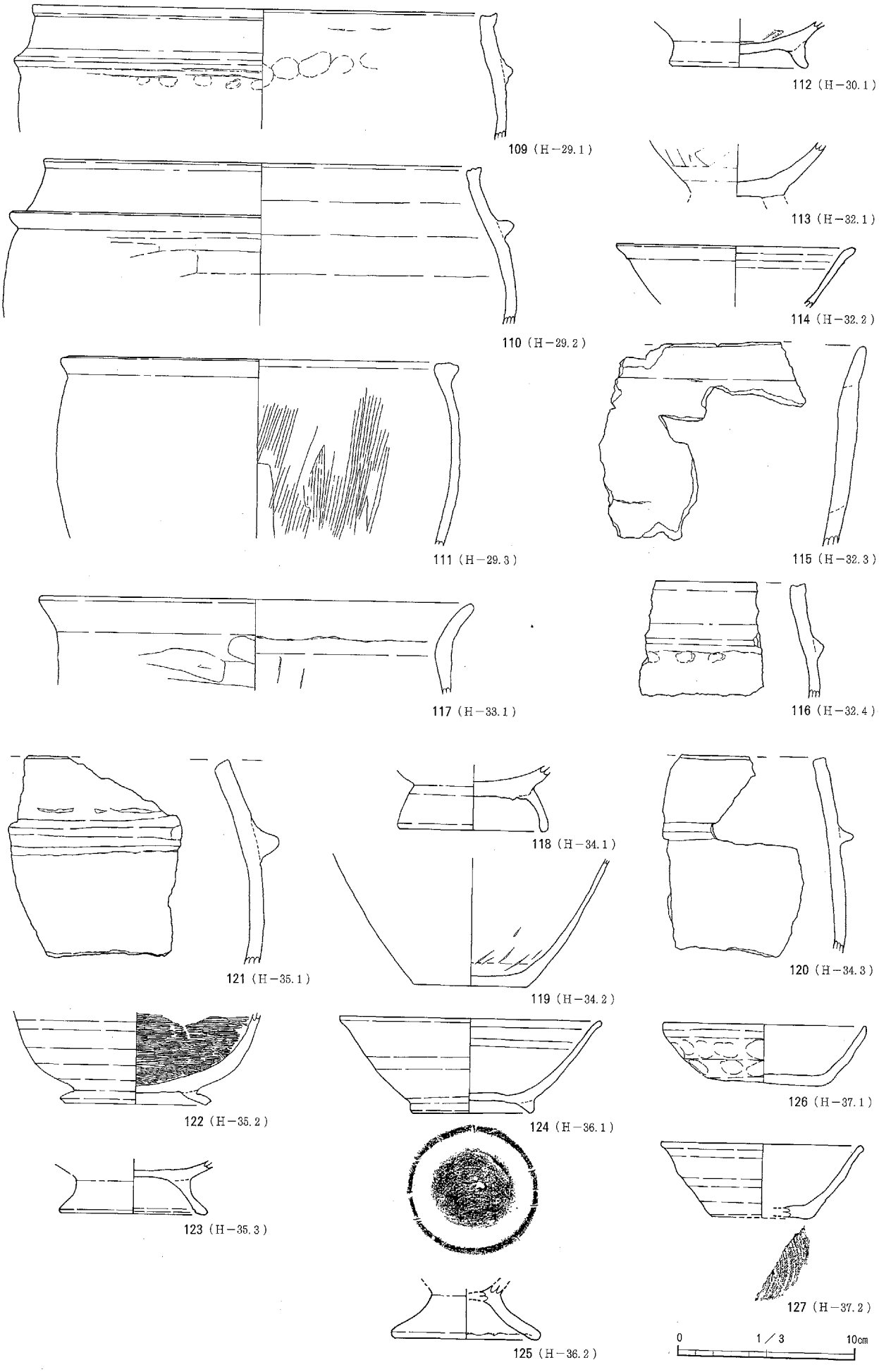
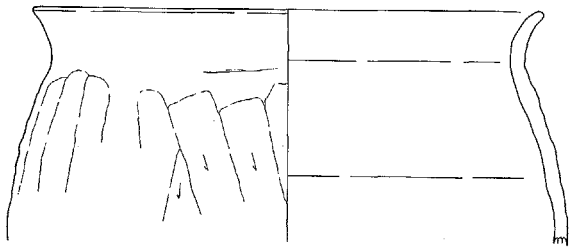
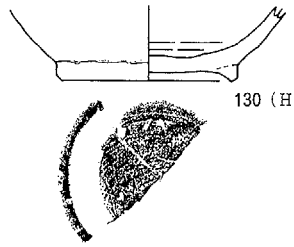


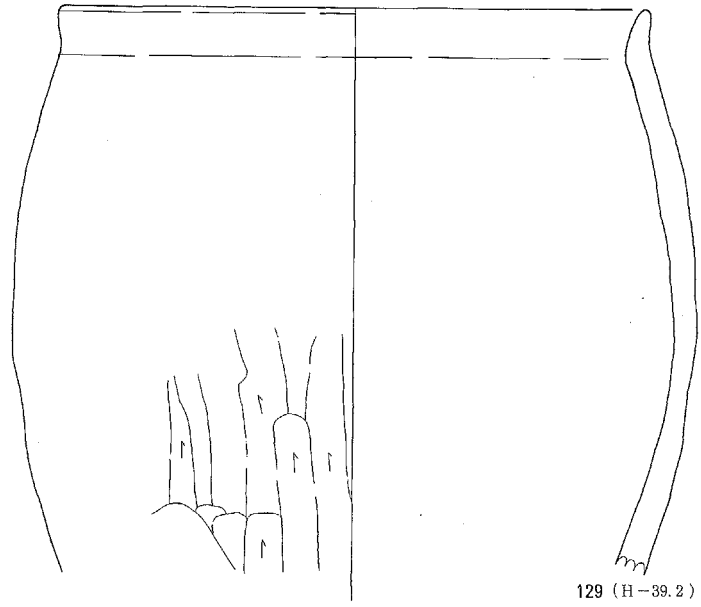
Fig.34　H－29～37号住居跡出土土器



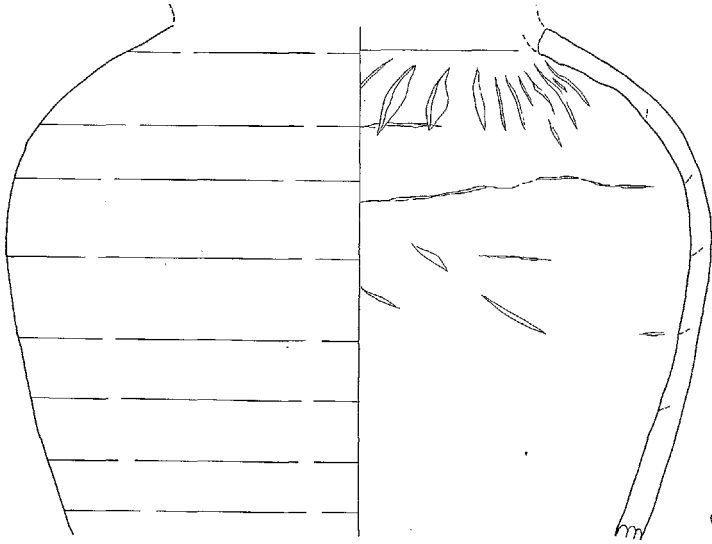
128（H－39.1）



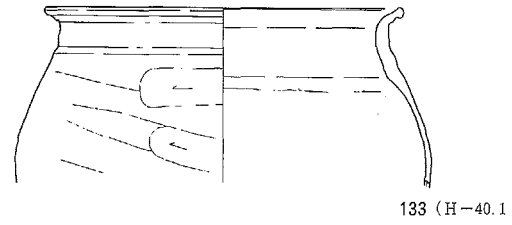
130（H－39.3）



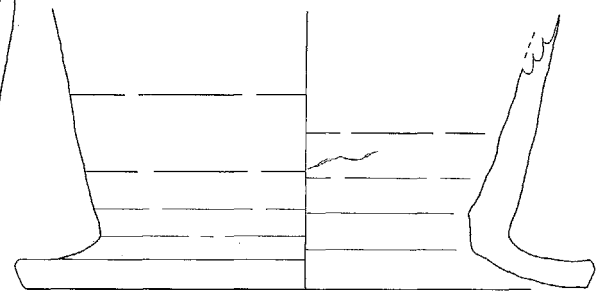
129（H－39.2）



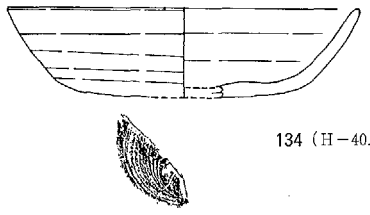
131（H－40.1）



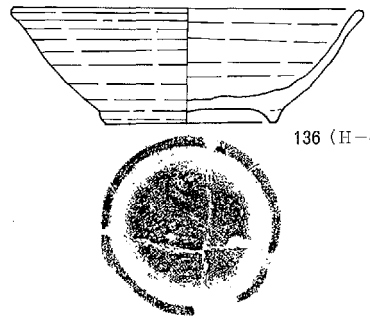
133（H－40.1）



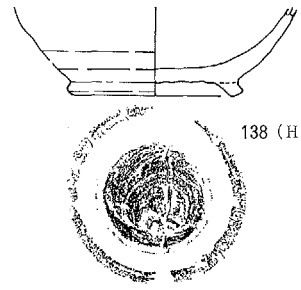
133（H－40.3）



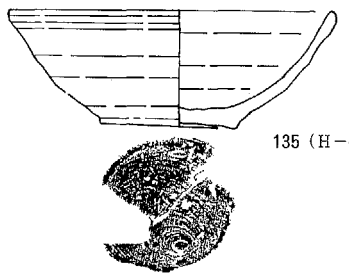
134（H－40.4）



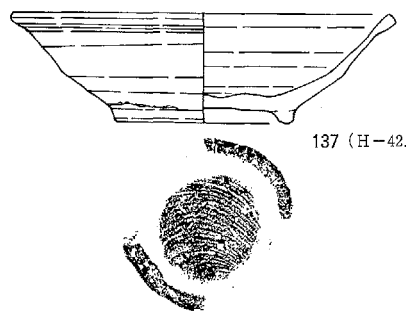
136（H－42.2）



138（H－42.4）



135（H－42.1）



137（H－42.3）

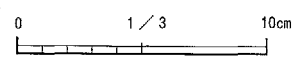


Fig.35　H－39～42号住居跡出土土器

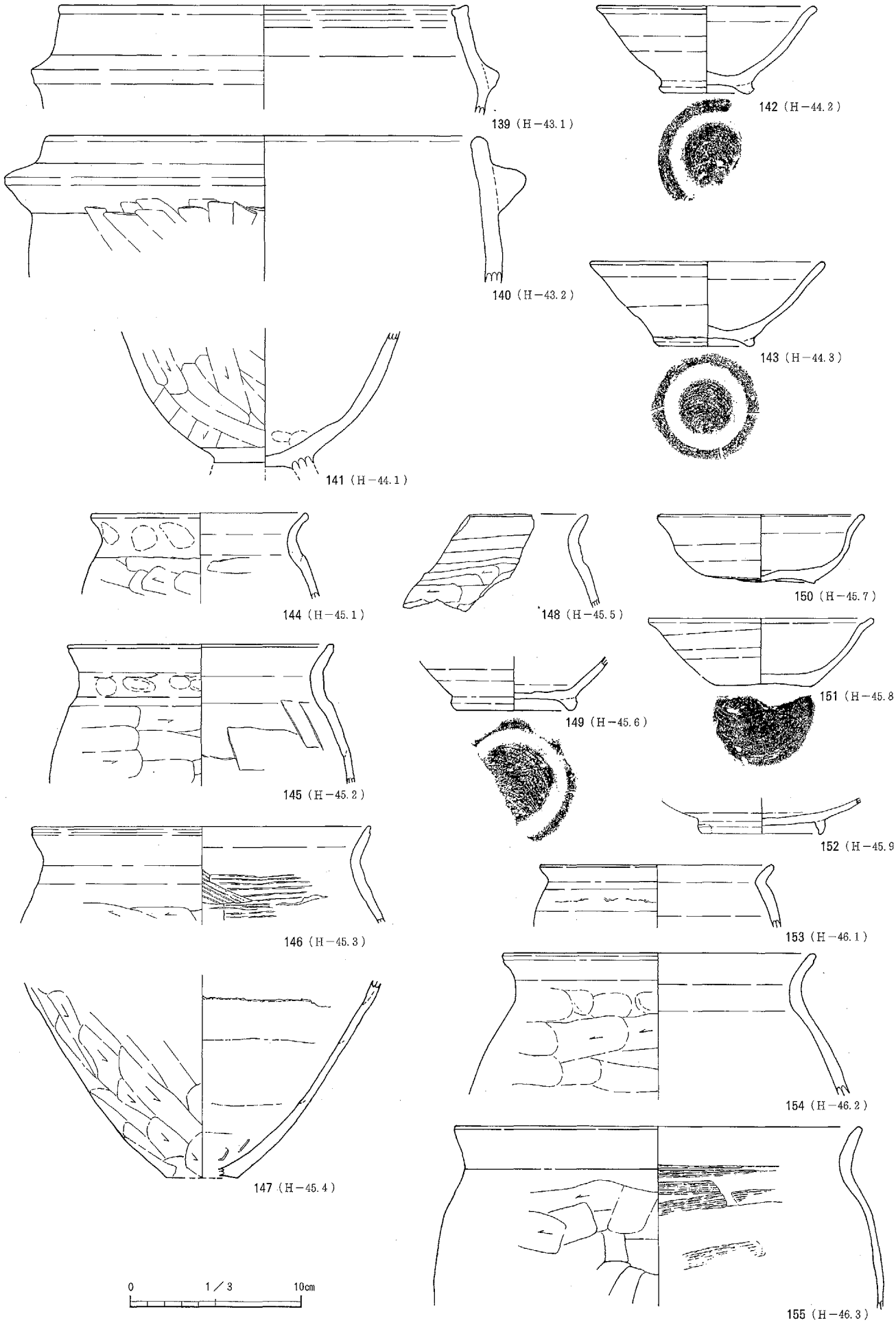
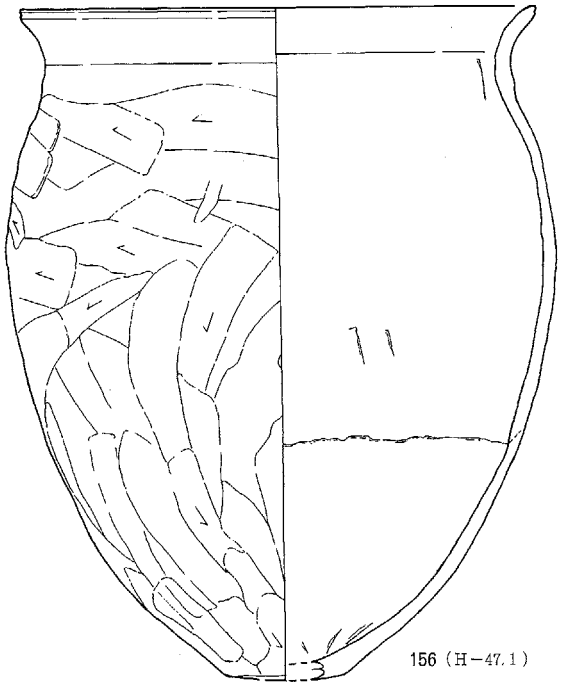
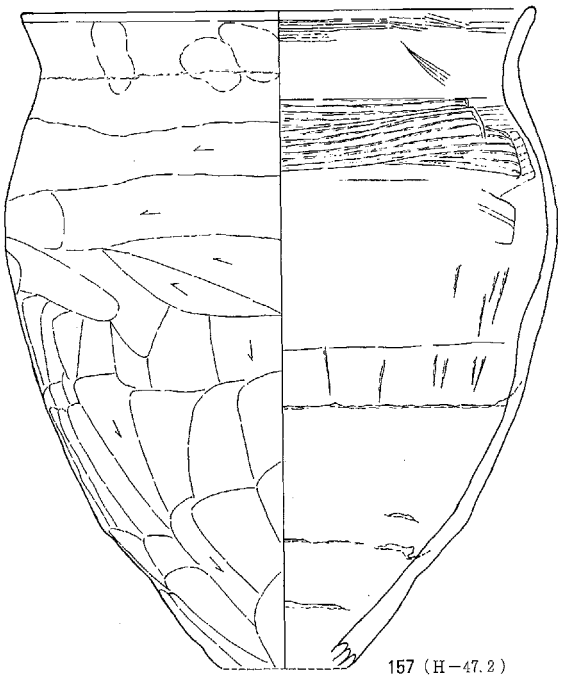


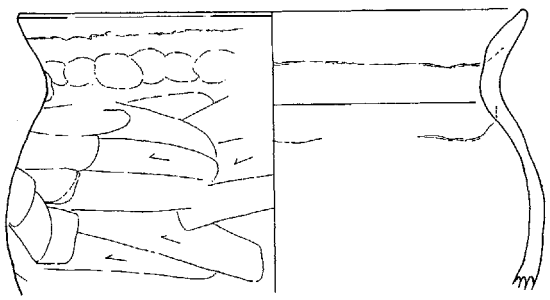
Fig.36　H－43～46号住居跡出土土器



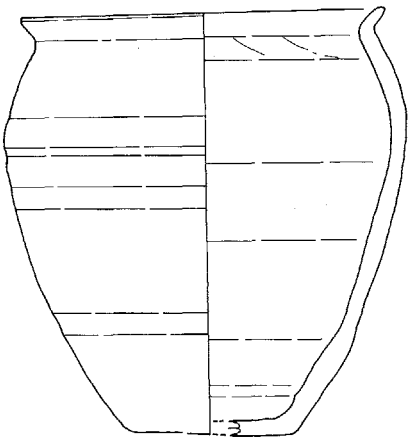
156（H－47.1）



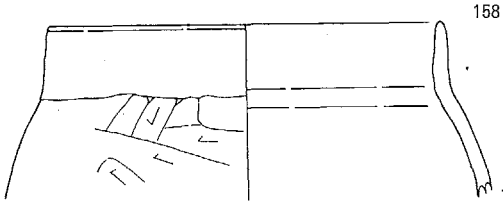
157（H－47.2）



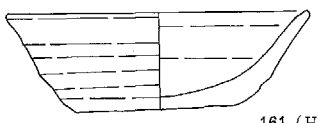
158（H－47.3）



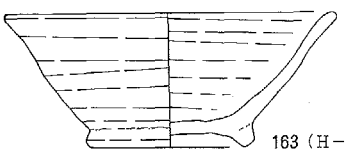
160（H－47.5）



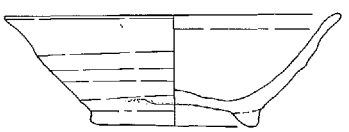
159（H－47.4）



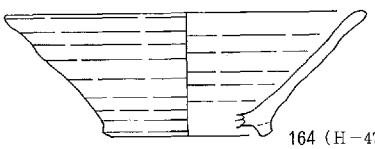
161（H－47.6）



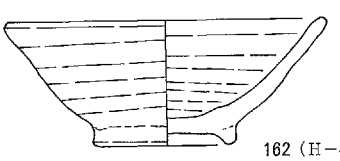
163（H－47.8）



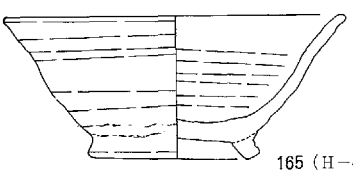
166（H－47.11）



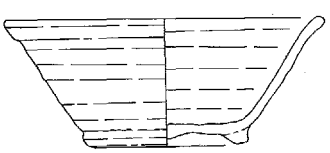
164（H－47.9）



162（H－47.7）



165（H－47.10）



167（H－47.12）

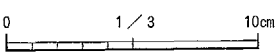
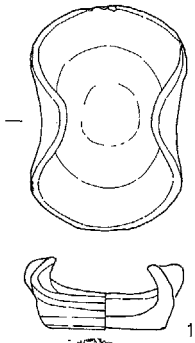
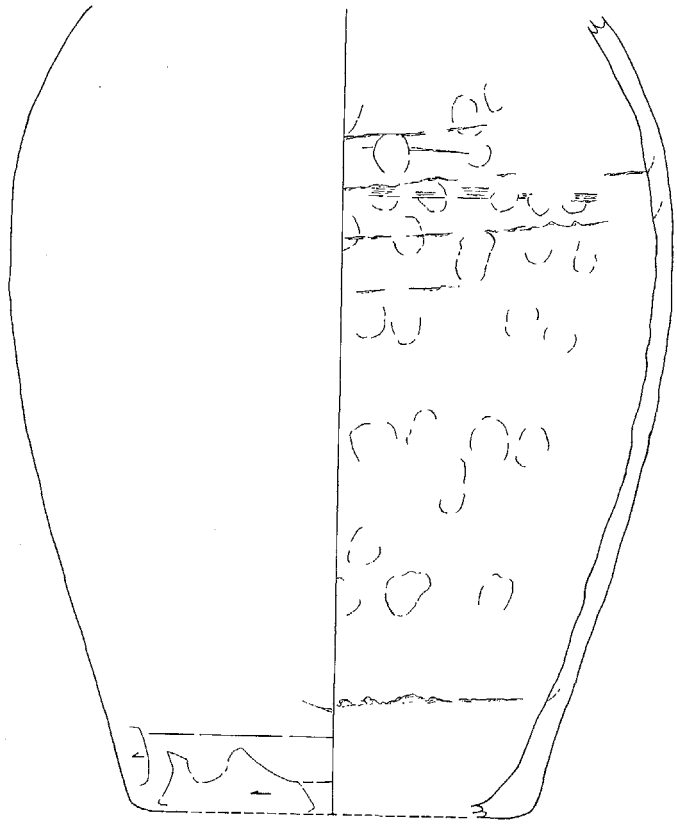


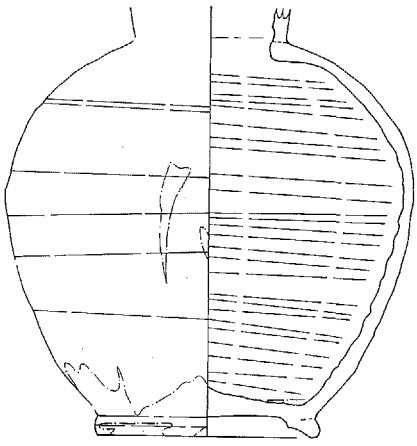
Fig.37　H－47号住居跡出土土器(1)



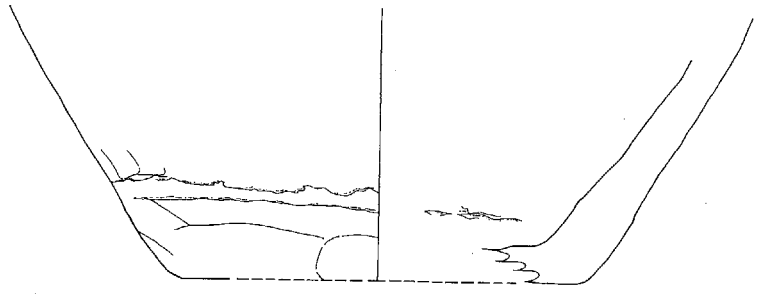
168（H－47.13）



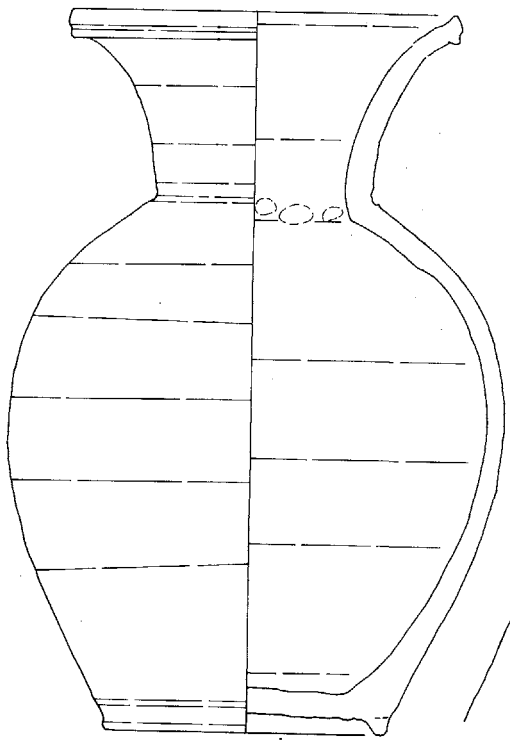
171（H－47.15）



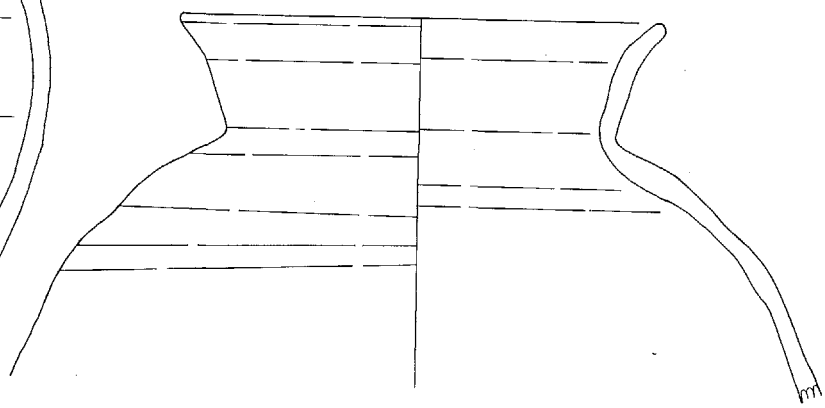
169（H－47.14）



172（H－47.17）



170（H－47.15）



173（H－47.18）

0　1／3　10cm

Fig.38　H－47号住居跡出土土器(2)

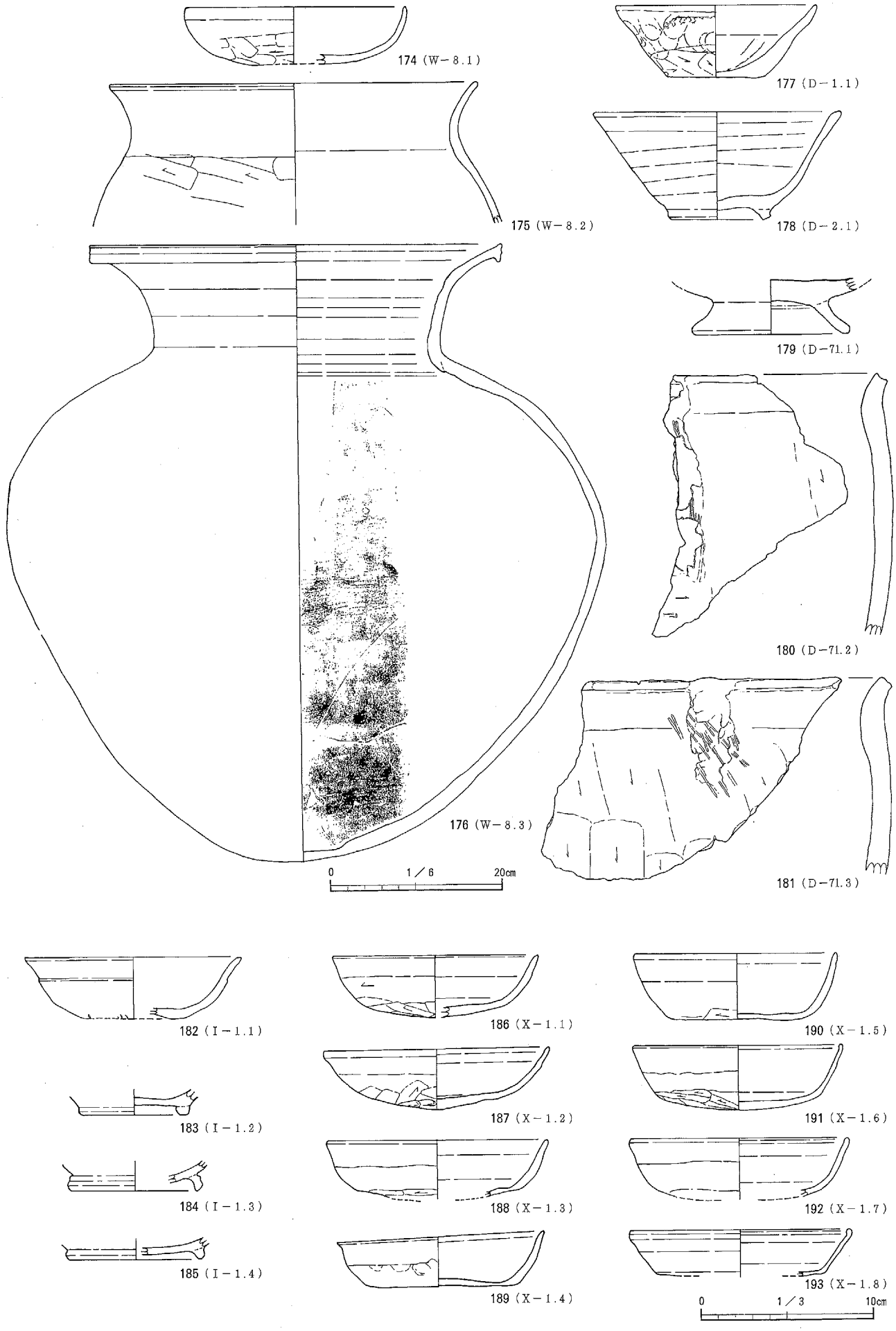
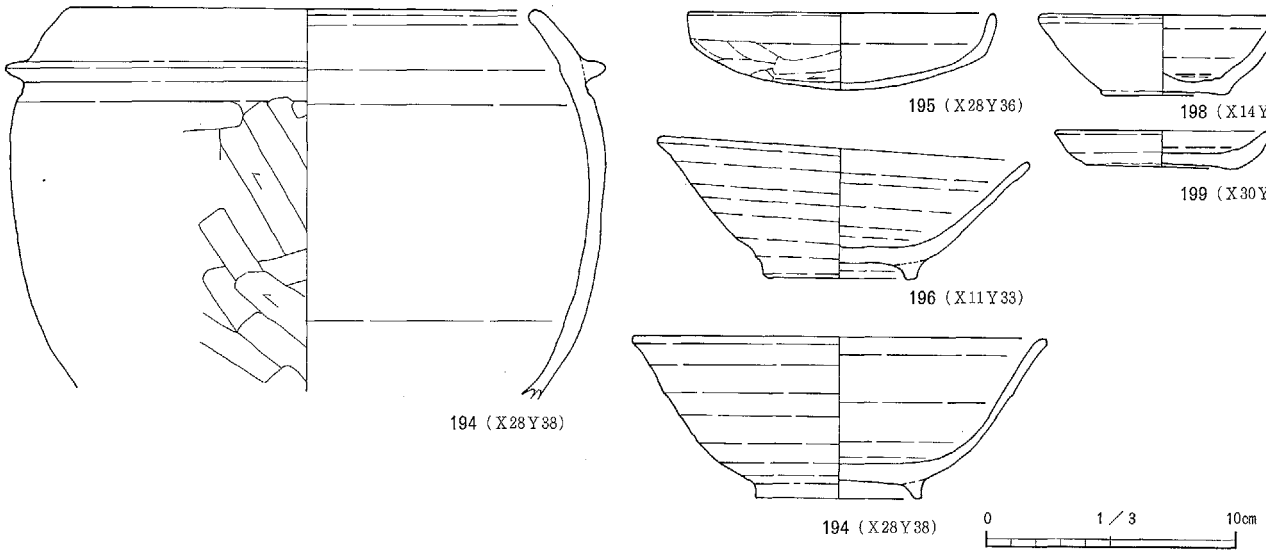
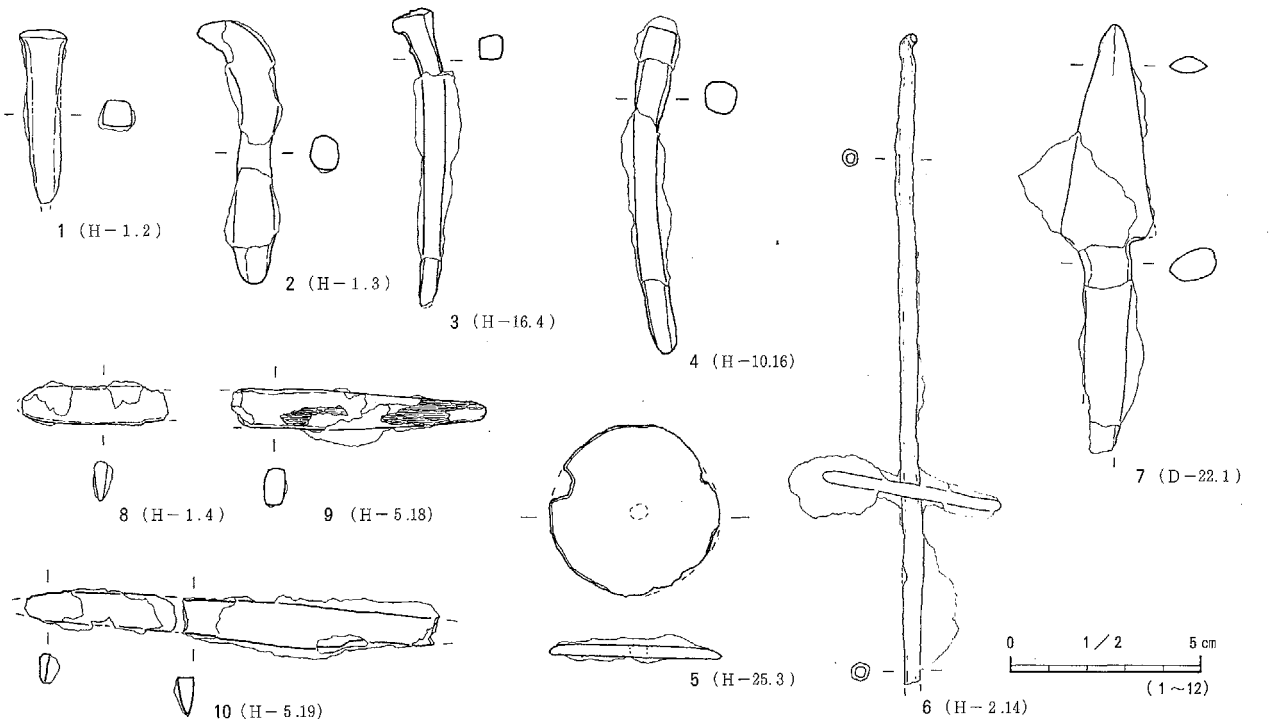


Fig.39 W－8号溝跡、D－1、72号土坑、I－1号井戸跡、X－1号土器溜り出土土器





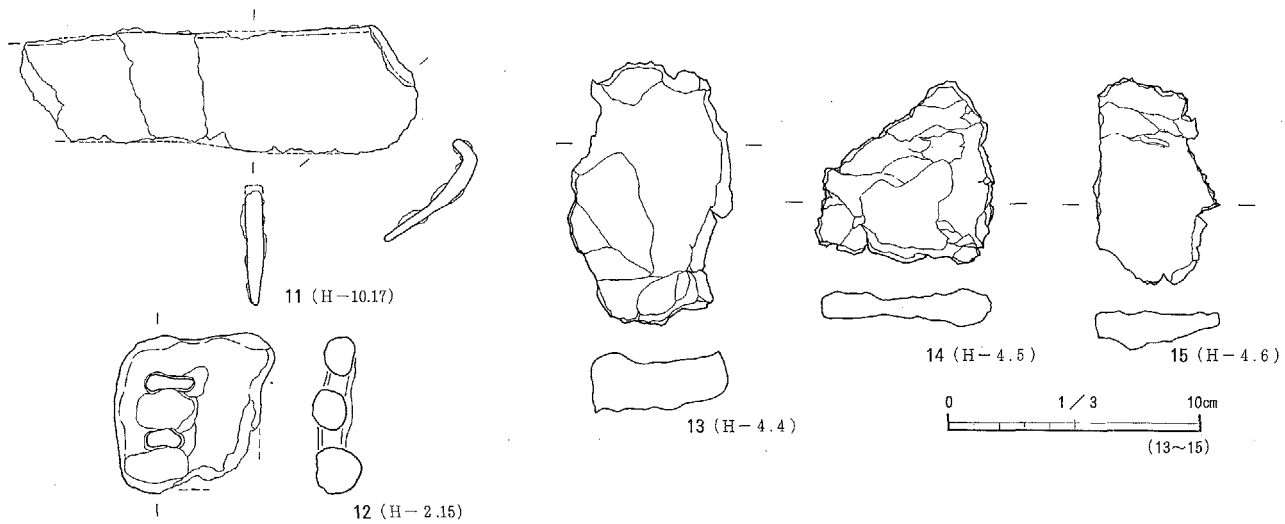


Fig.40 グリッド出土土器及び出土鉄

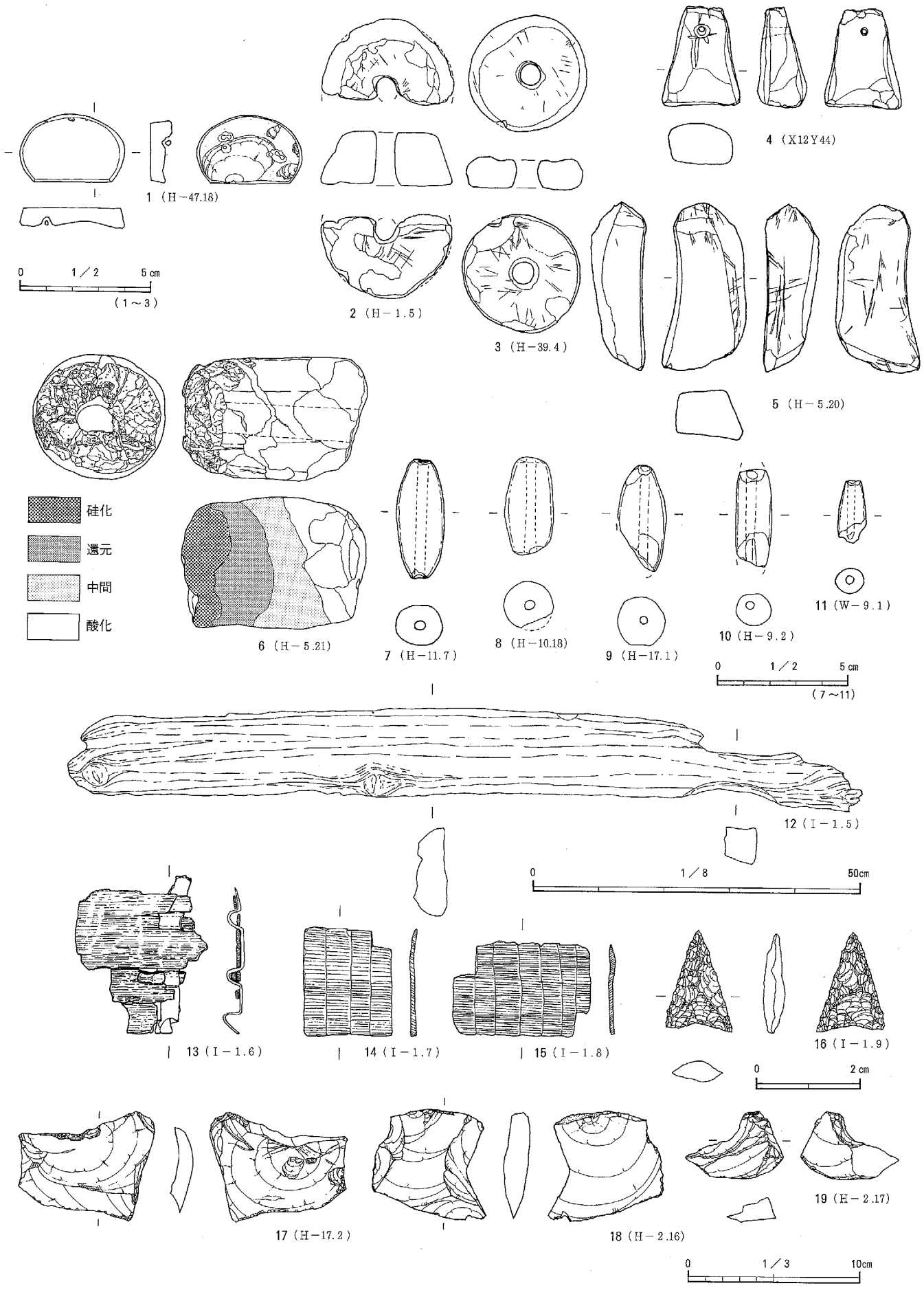


Fig.41 石製品、木製品、特殊遺物など

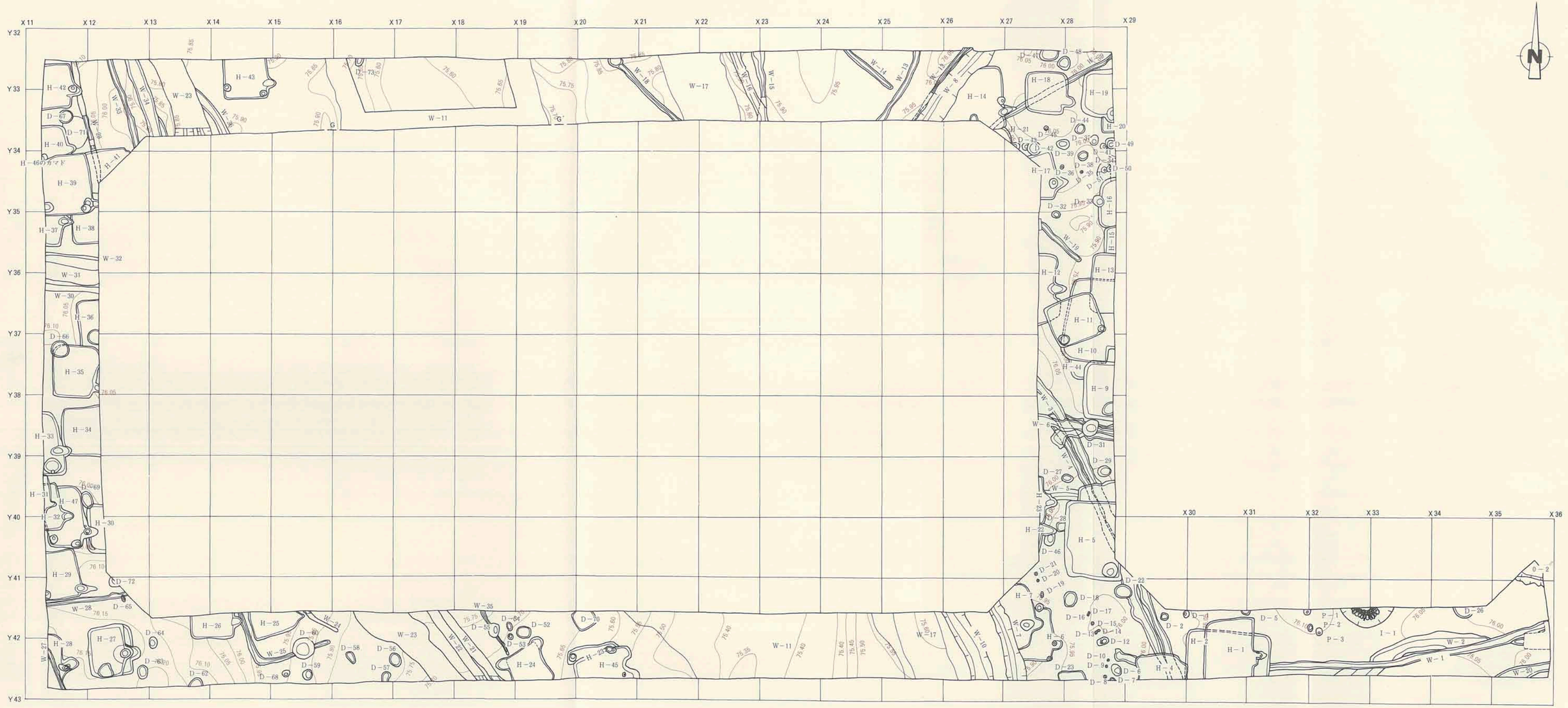
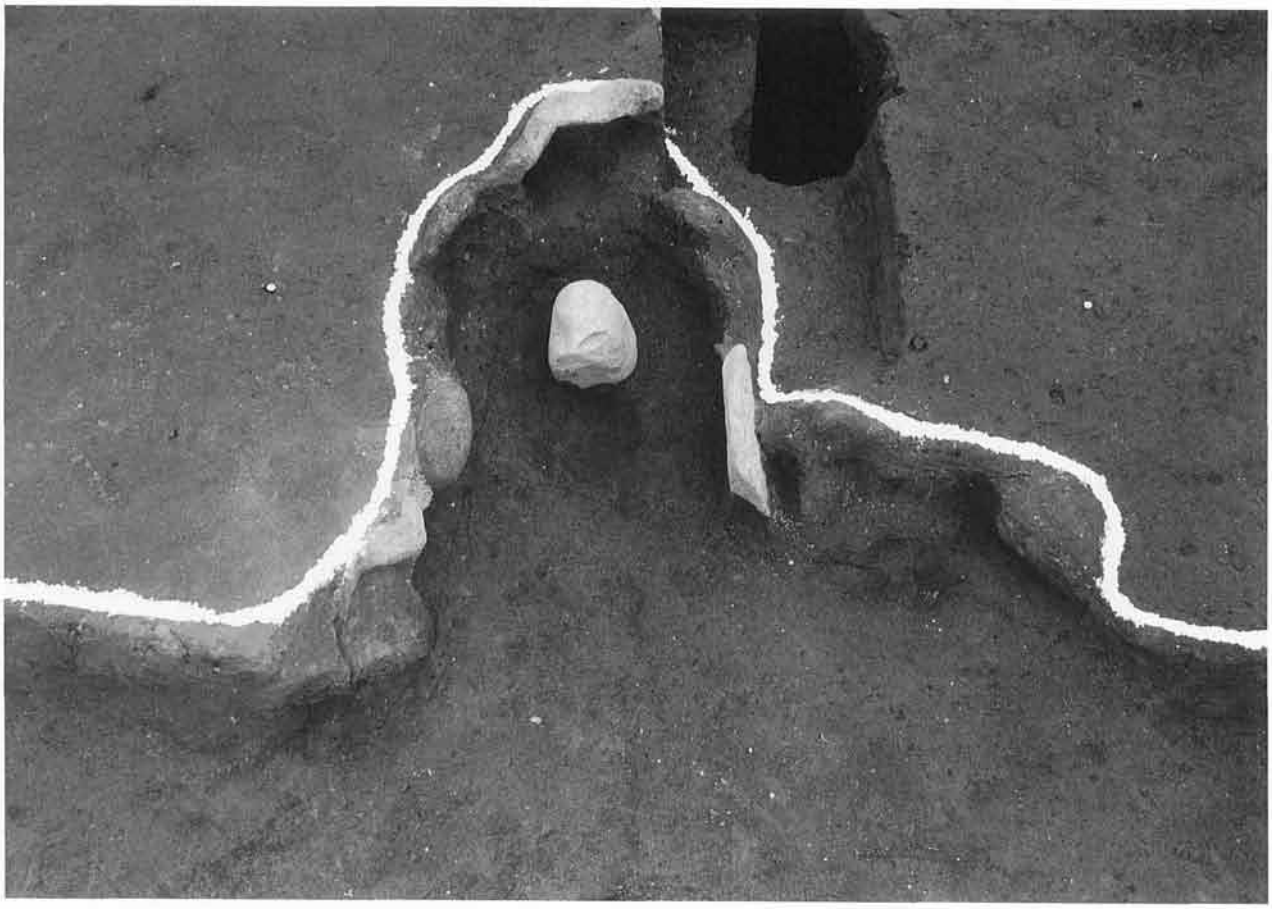
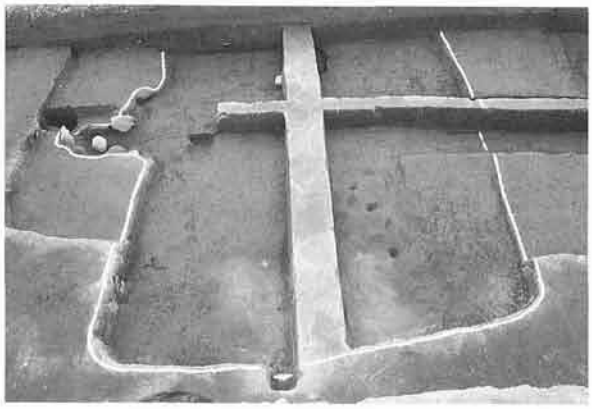


Fig.42　前田Ⅴ遺跡　全体図

PL. 1



H－1号住居跡竈全景（西から）



H－1号住居跡全景（北から）

H－1号住居跡竈遺物出土状況（西から）

H－2号住居跡全景（西から）

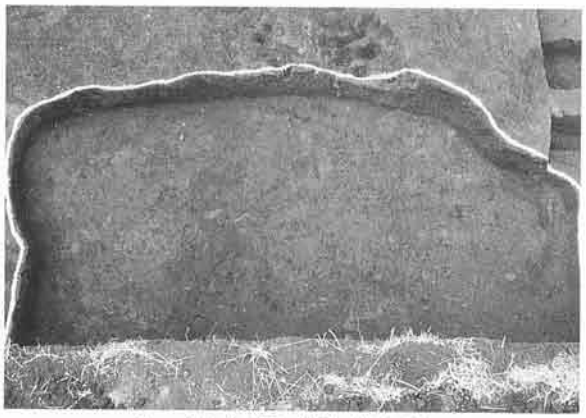
H－2号住居跡鉄製紡錘車出土状況（南西より）

PL. 2

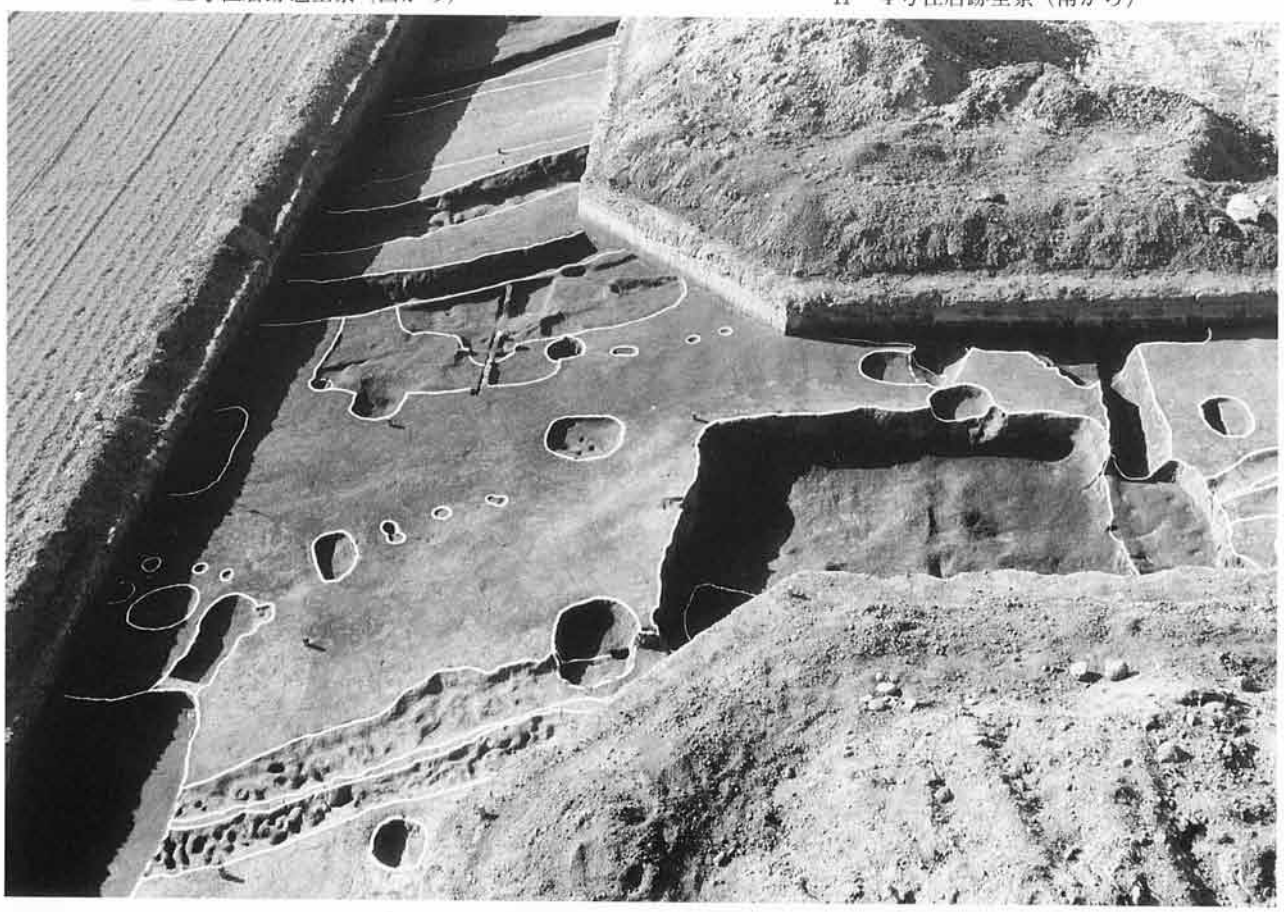
H－3・22号住居跡全景（南から）

H－3号住居跡竈全景（西から）

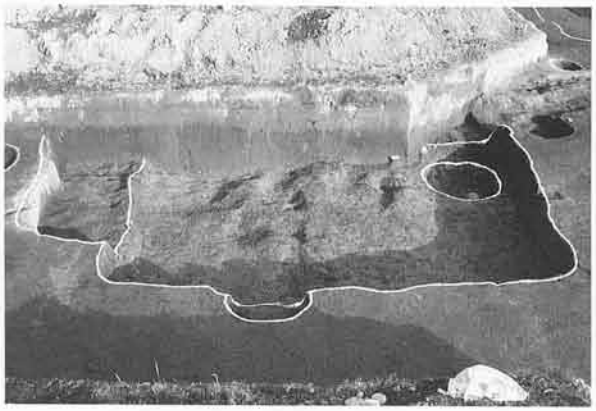
H－22号住居跡竈全景（西から）



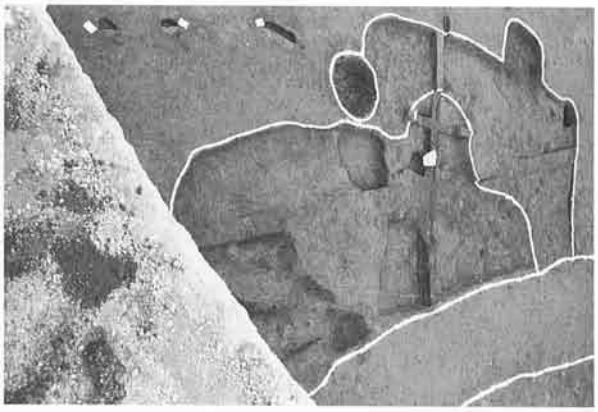
H－4号住居跡全景（南から）



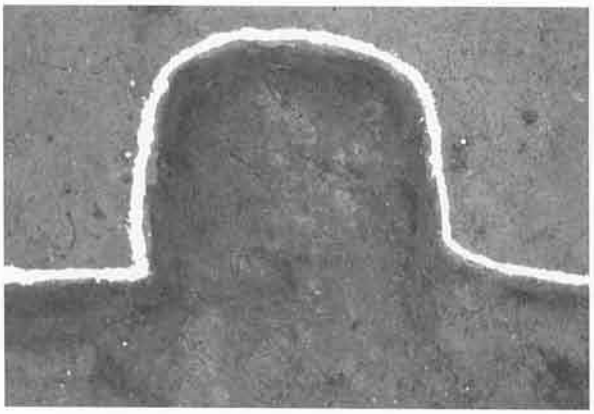
H－5号住居跡周辺（東から）



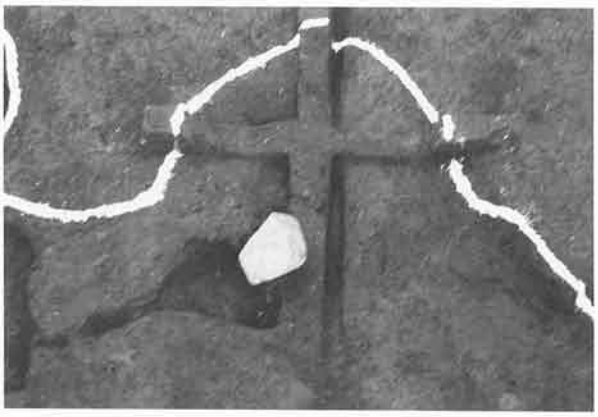
H－5・8号住居跡全景（西から）



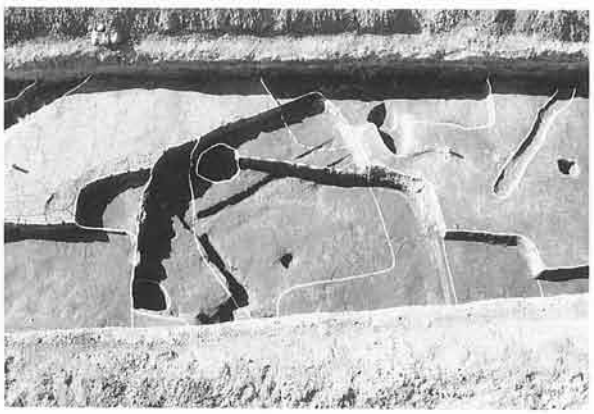
H－6・7号住居跡全景（北西から）



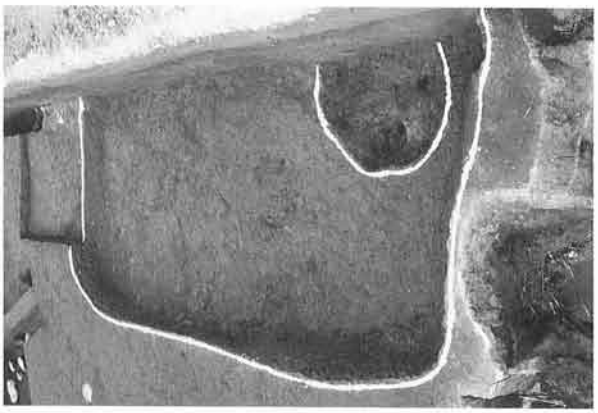
H－6号住居跡竈全景（西から）



H－7号住居跡竈全景（西から）



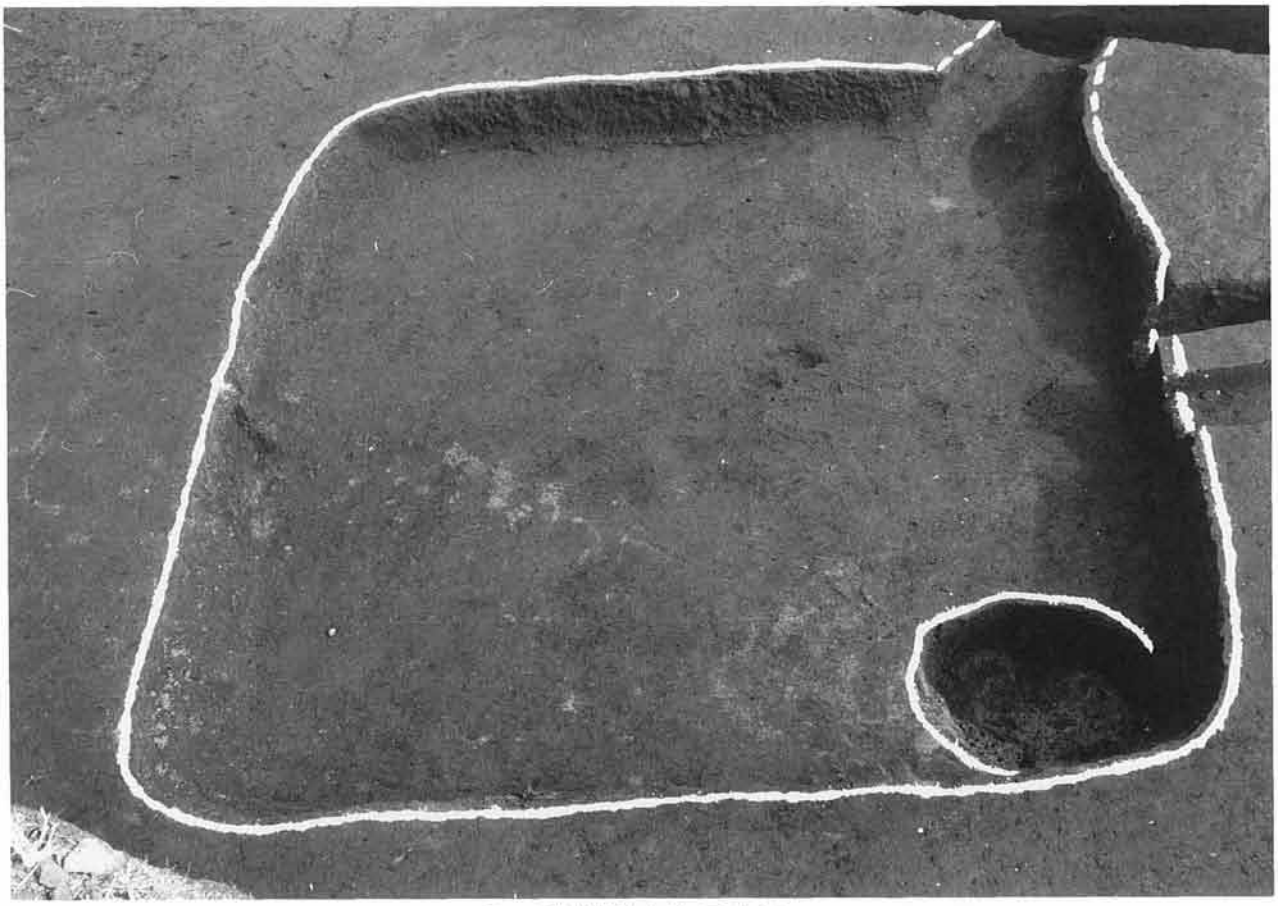
H－11号住居跡周辺（東から）



H－9号住居跡全景（南から）

H－10号住居跡全景（西から）

H－9・10・44号住居跡の重複（西から）

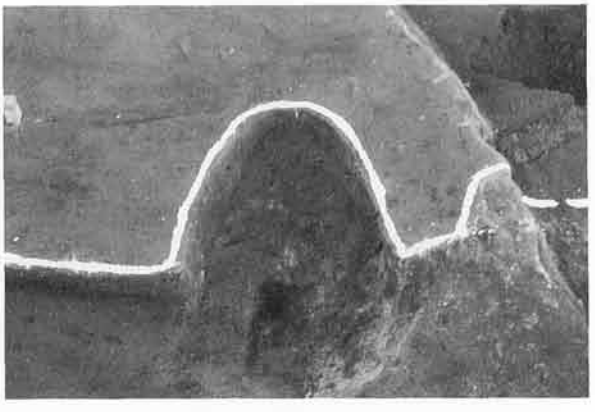


H－11号住居跡全景（西から）

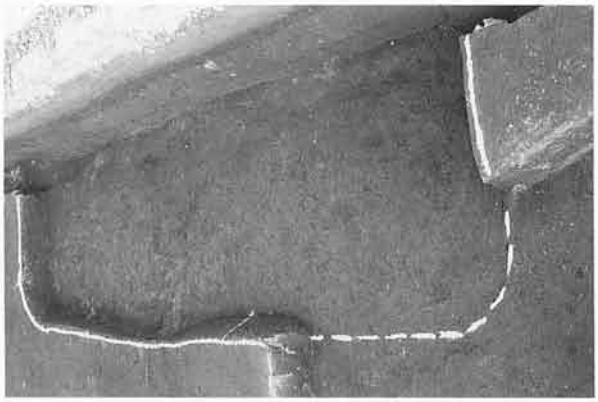
H－11号住居跡竈セレクション（西から）

H－11号住居跡石出土状況（西から）

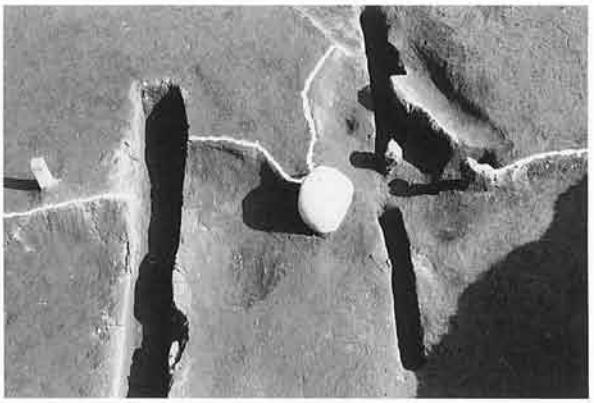
H－12号住居跡全景（西から）



H－12号住居跡竈全景（西から）



H－13号住居跡全景（南から）



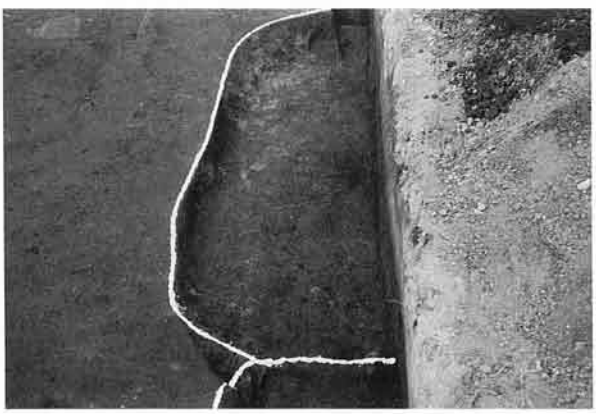
H－14号住居跡の2つの竈全景（西から）

H－14号住居跡の焼土、炭化物出土状況

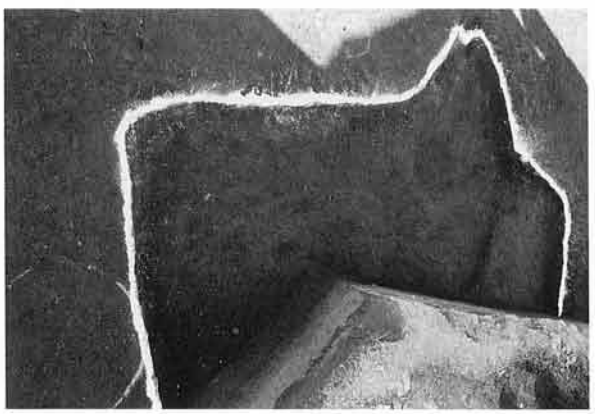
H－14・21号住居跡全景（北から）

H－14号住居跡緑釉皿出土状況（西から）

H－15号住居跡全景（南から）

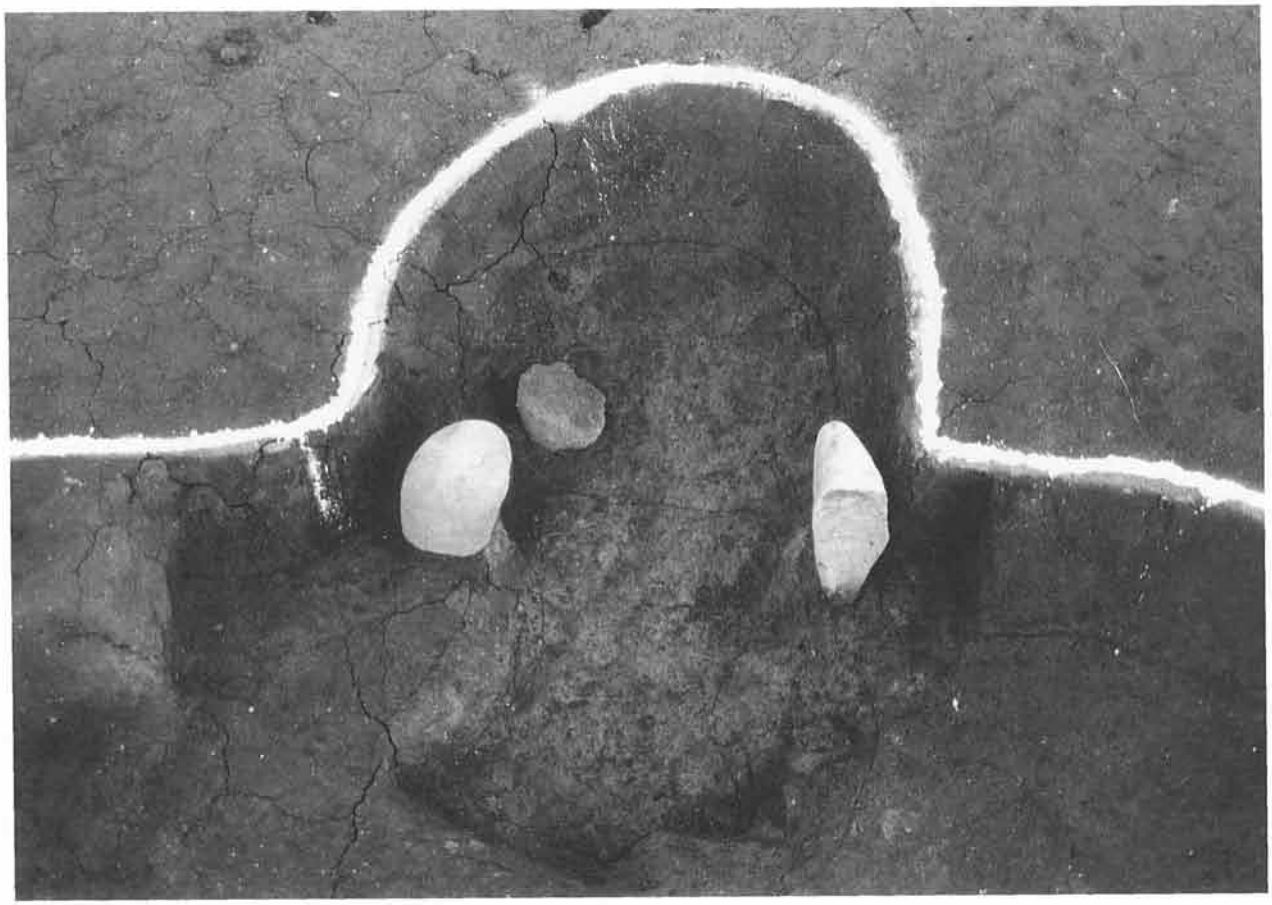


H－16号住居跡全景（南から）

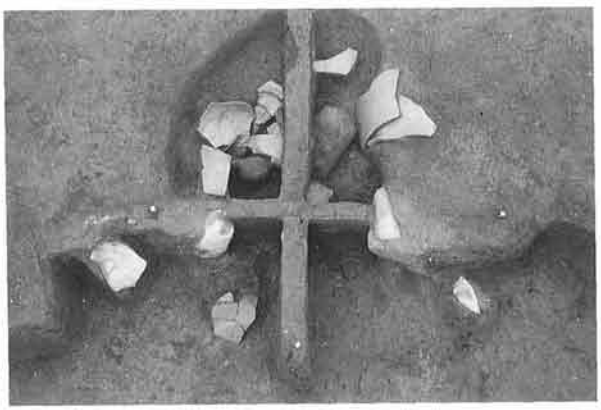


H－17号住居跡全景（北から）

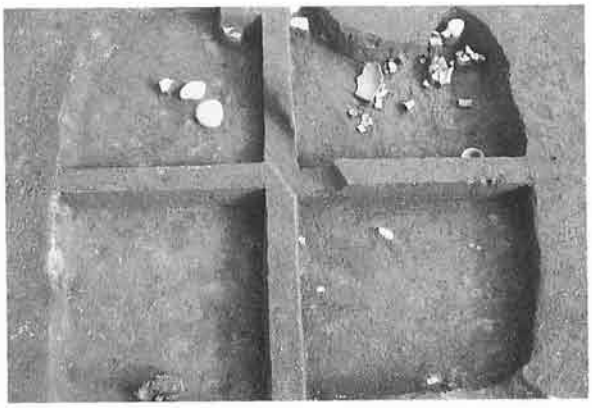
PL. 6



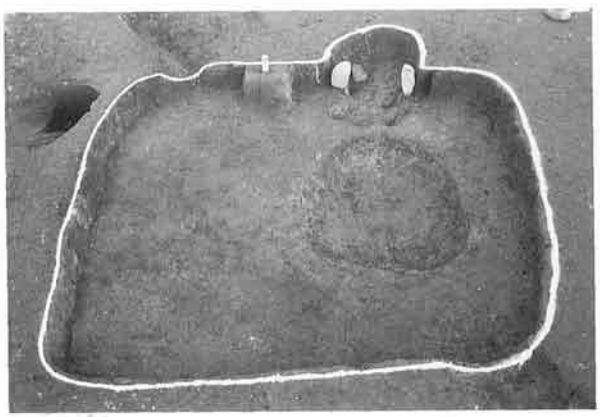
H－18号住居跡竈全景（西から）



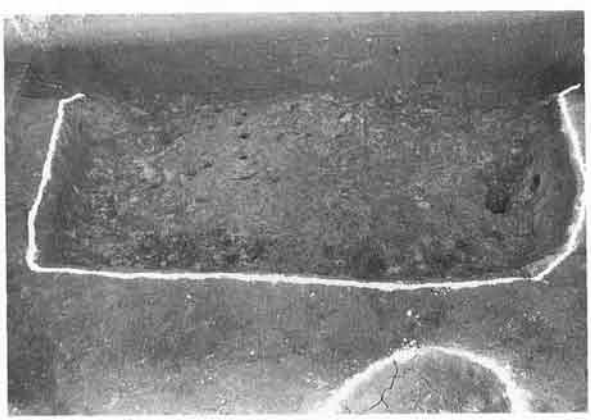
H－18号住居跡の竈遺物出土状況（西から）



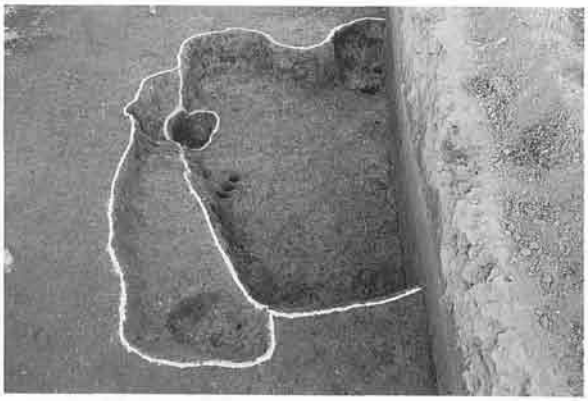
H－18号住居跡遺物出土状況（西から）



H－18号住居跡全景（西から）

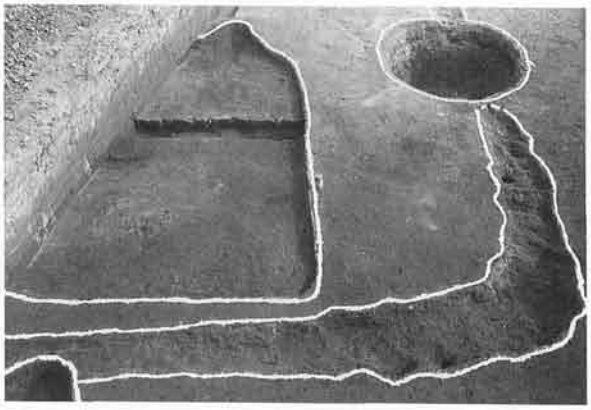


H－19号住居跡全景（西から）



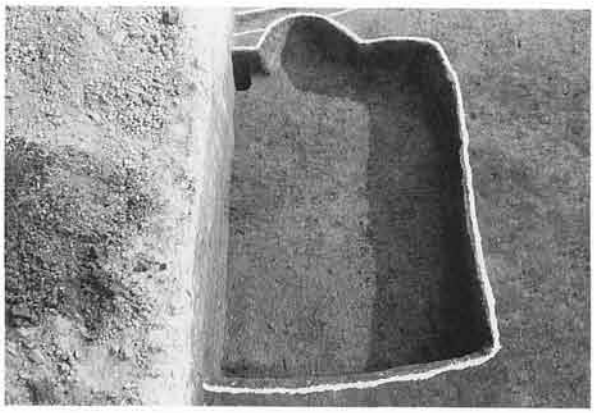
H－23・45号住居跡全景（西から）

H－24号住居跡全景（北から）



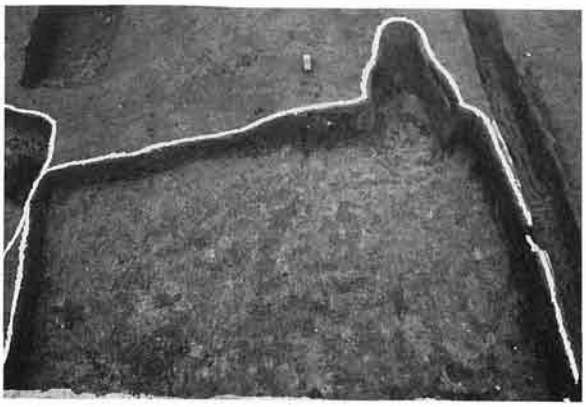
H－25号住居跡全景とその周辺（西から）

H－25号住居跡竈全景（西から）



H－26号住居跡全景（西から）

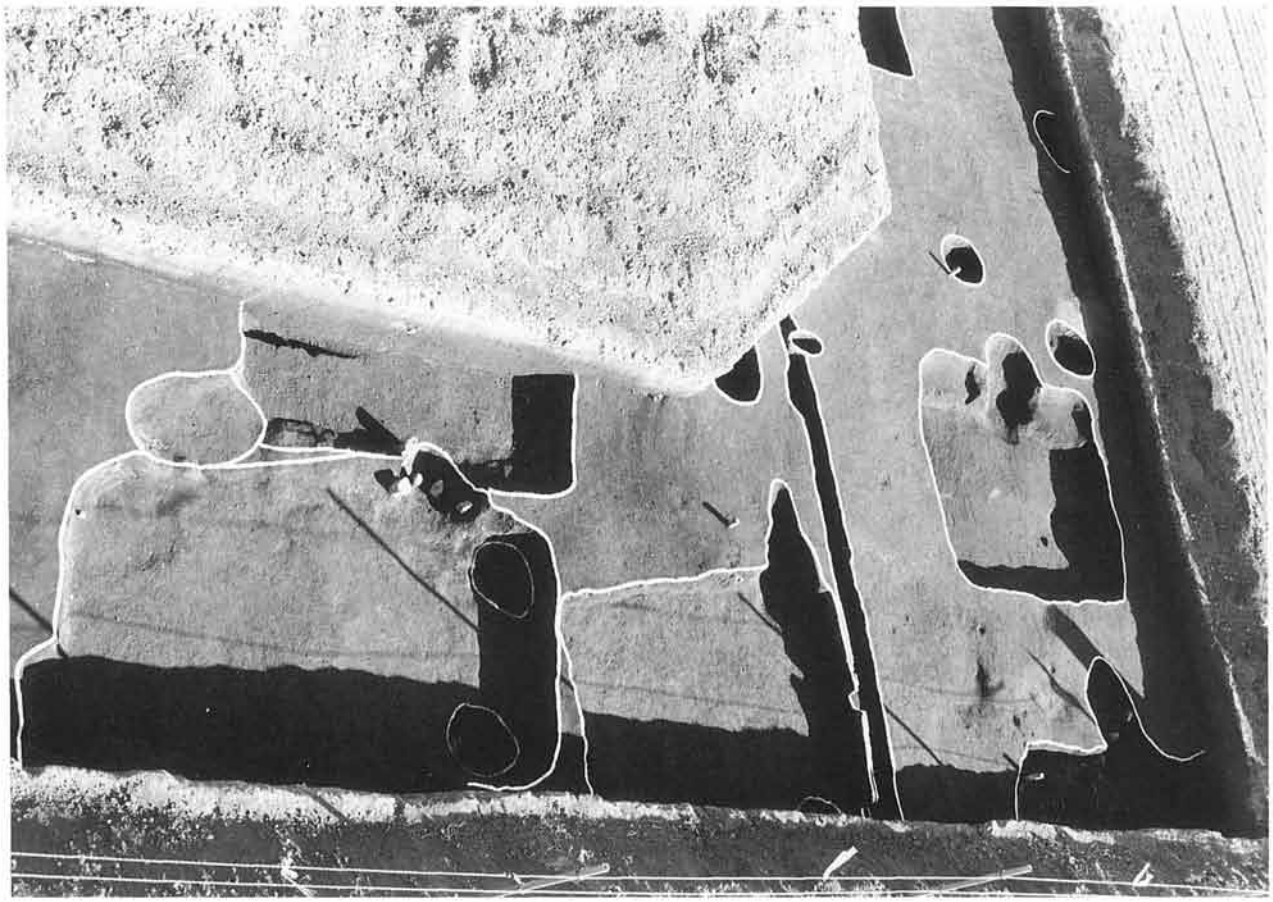
H－26号住居跡竈全景（西から）



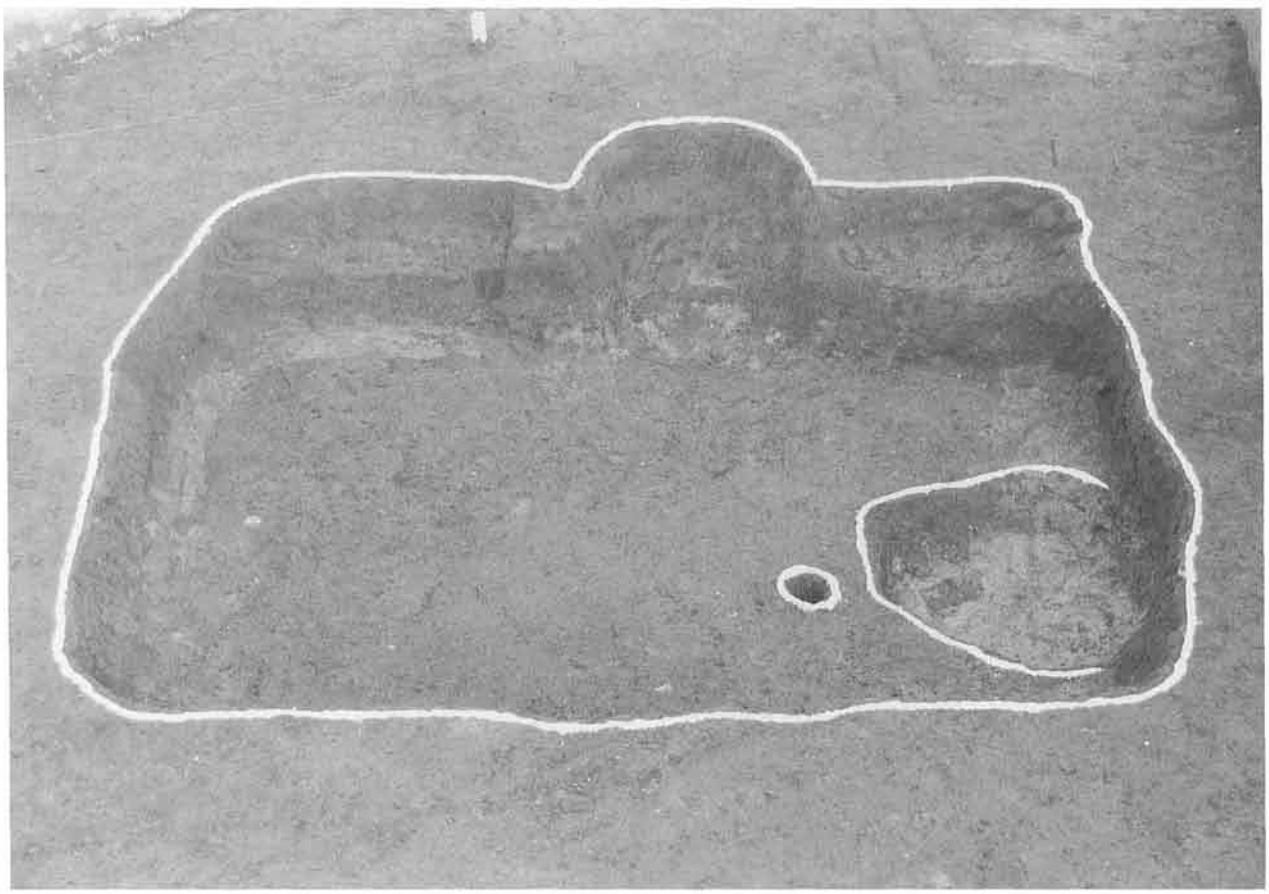
H－29号住居跡全景（西から）

H－29号住居跡竈全景（西から）

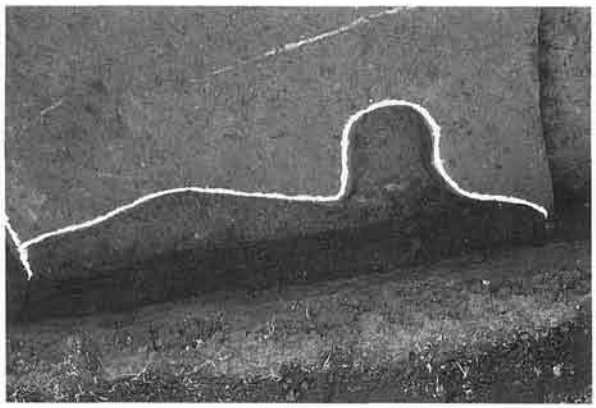
PL. 8



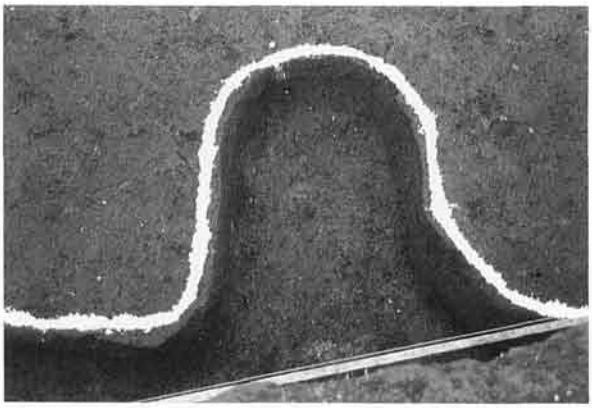
H－29号住居跡周辺（北西から）



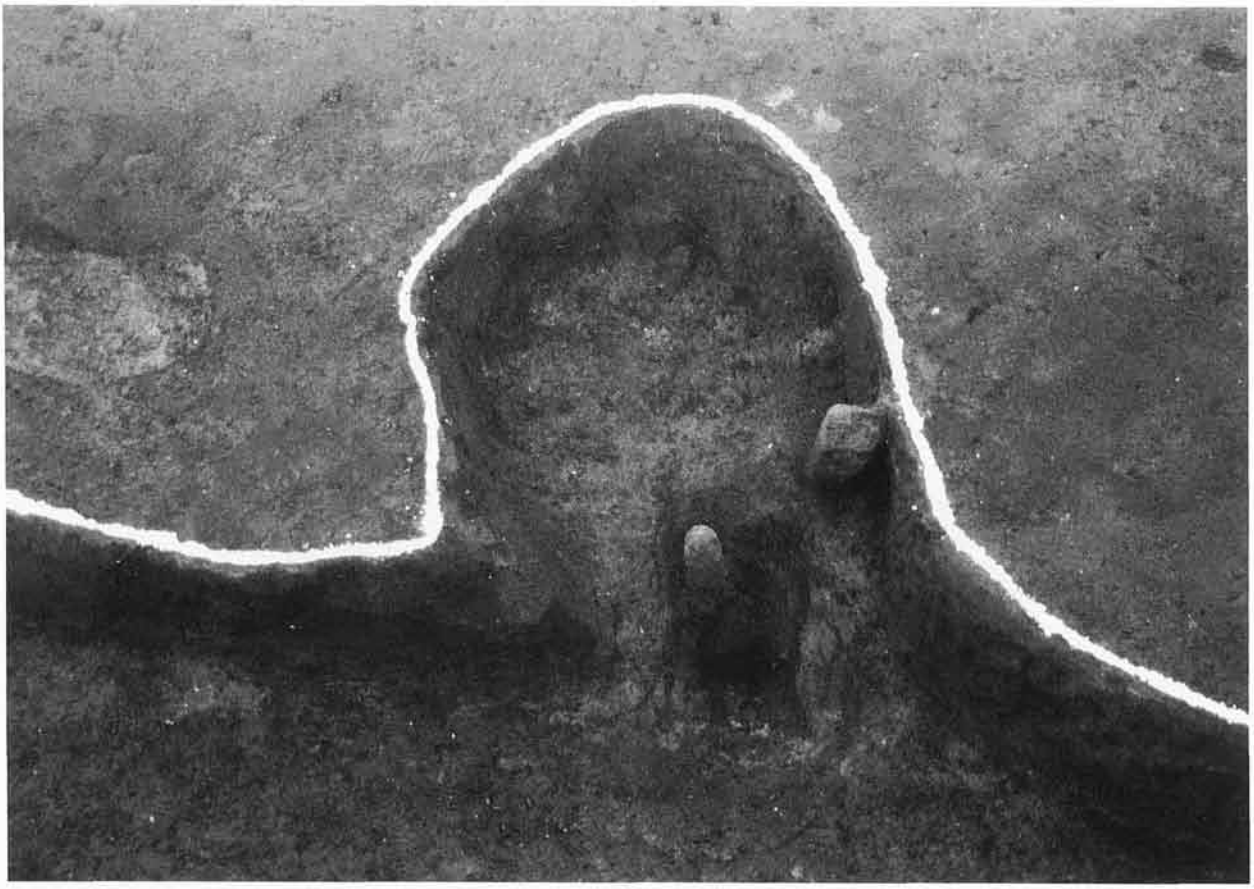
H－27号住居跡全景（西から）



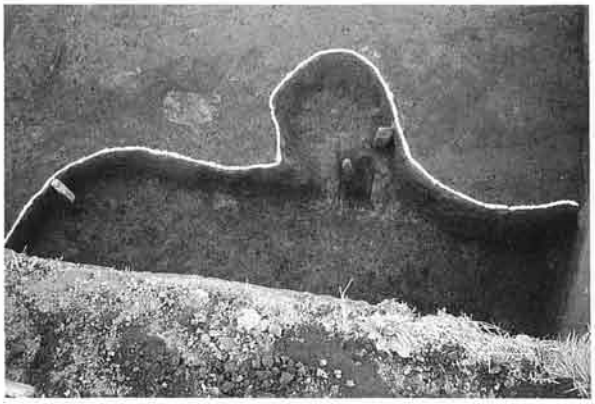
H－31号住居跡全景（西から）



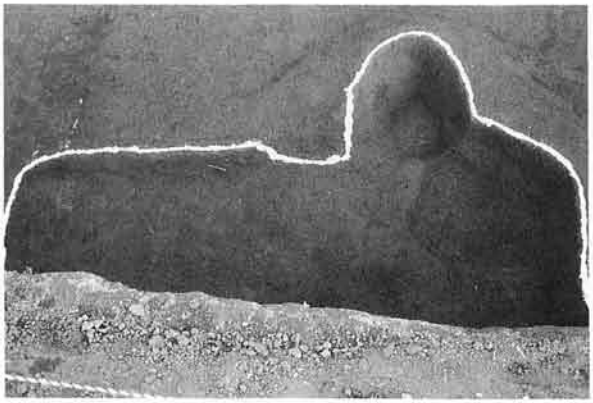
H－31号住居跡竈全景（西から）



H－28号住居跡竈全景（西から）

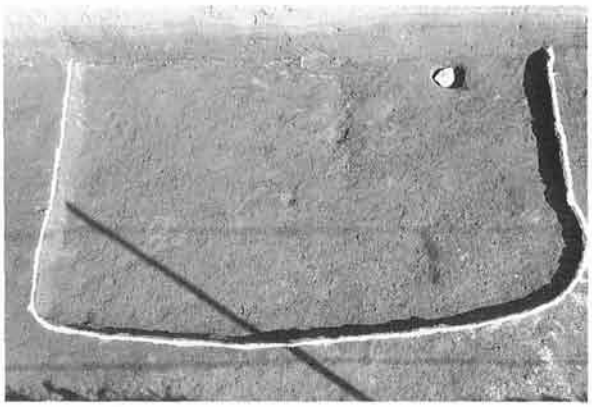


H－28号住居跡全景（西から）

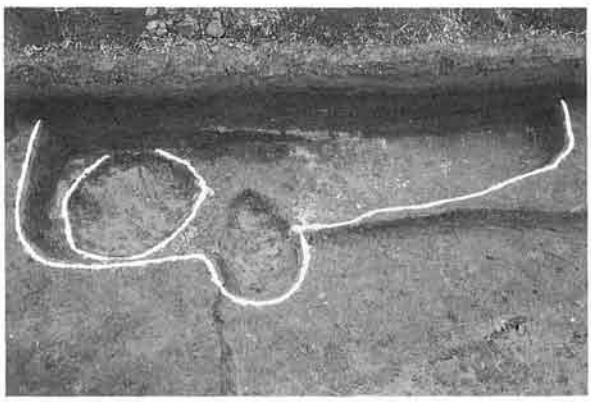


H－32号住居跡竈全景（西から）

H－33・34号住居跡の重複（西から）

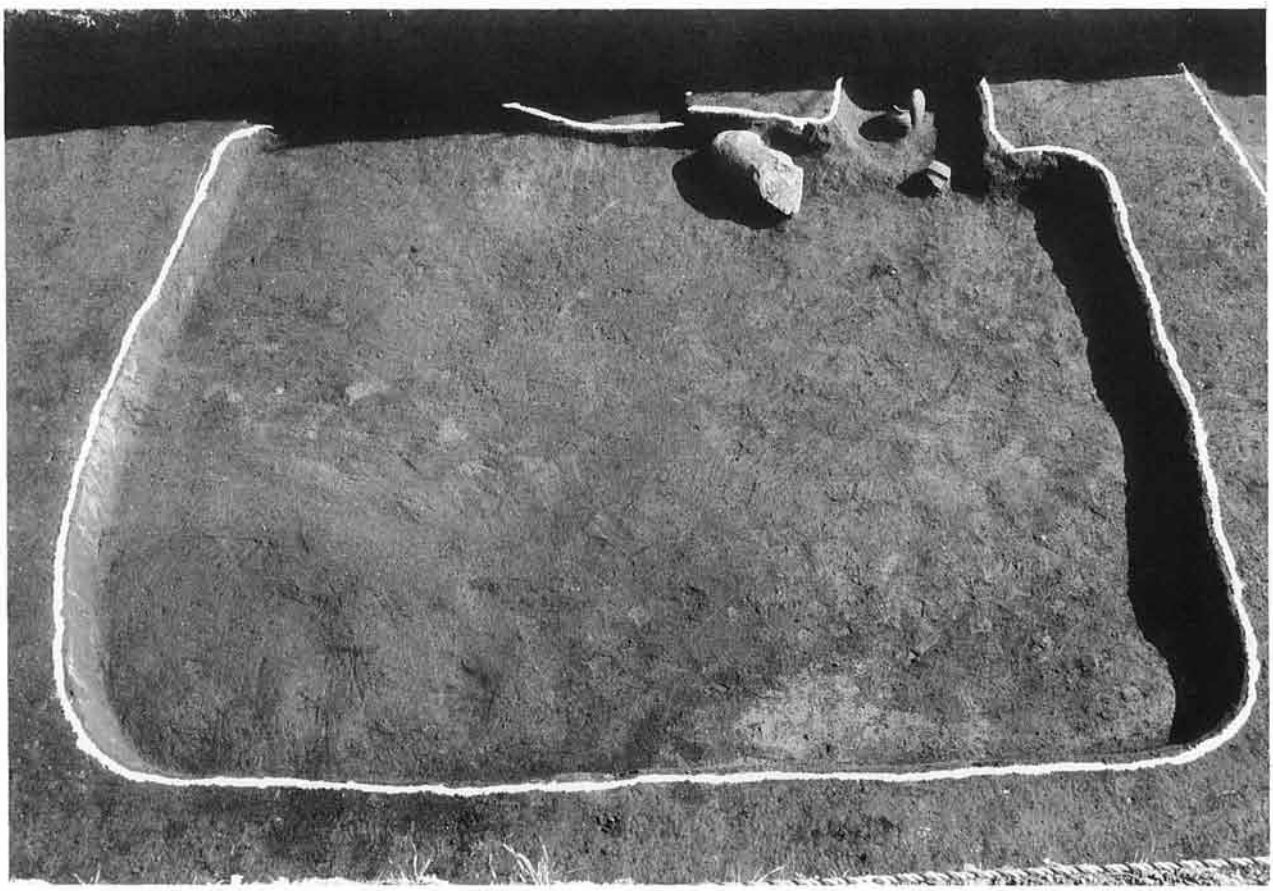


H－34号住居跡全景（西から）



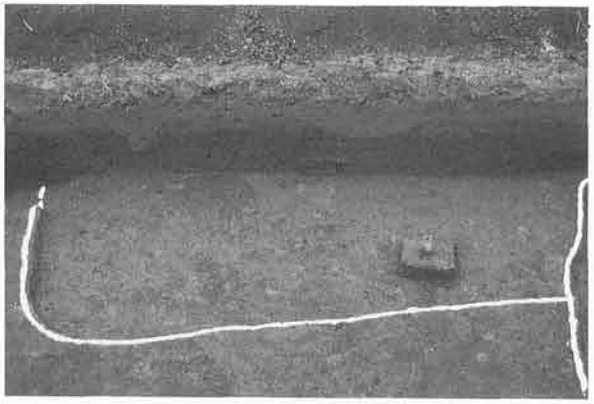
H－33号住居跡全景（東から）

H－33号住居跡竈全景（西から）

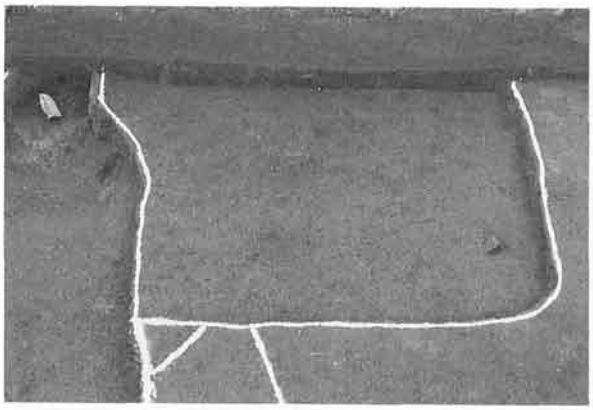


H－35号住居跡全景（西から）

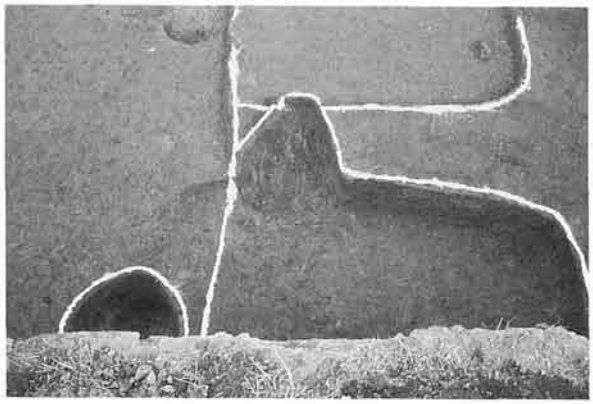
PL.11



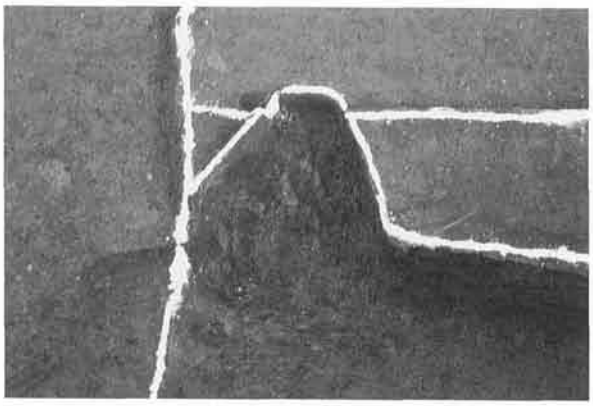
H－36号住居跡全景（西から）



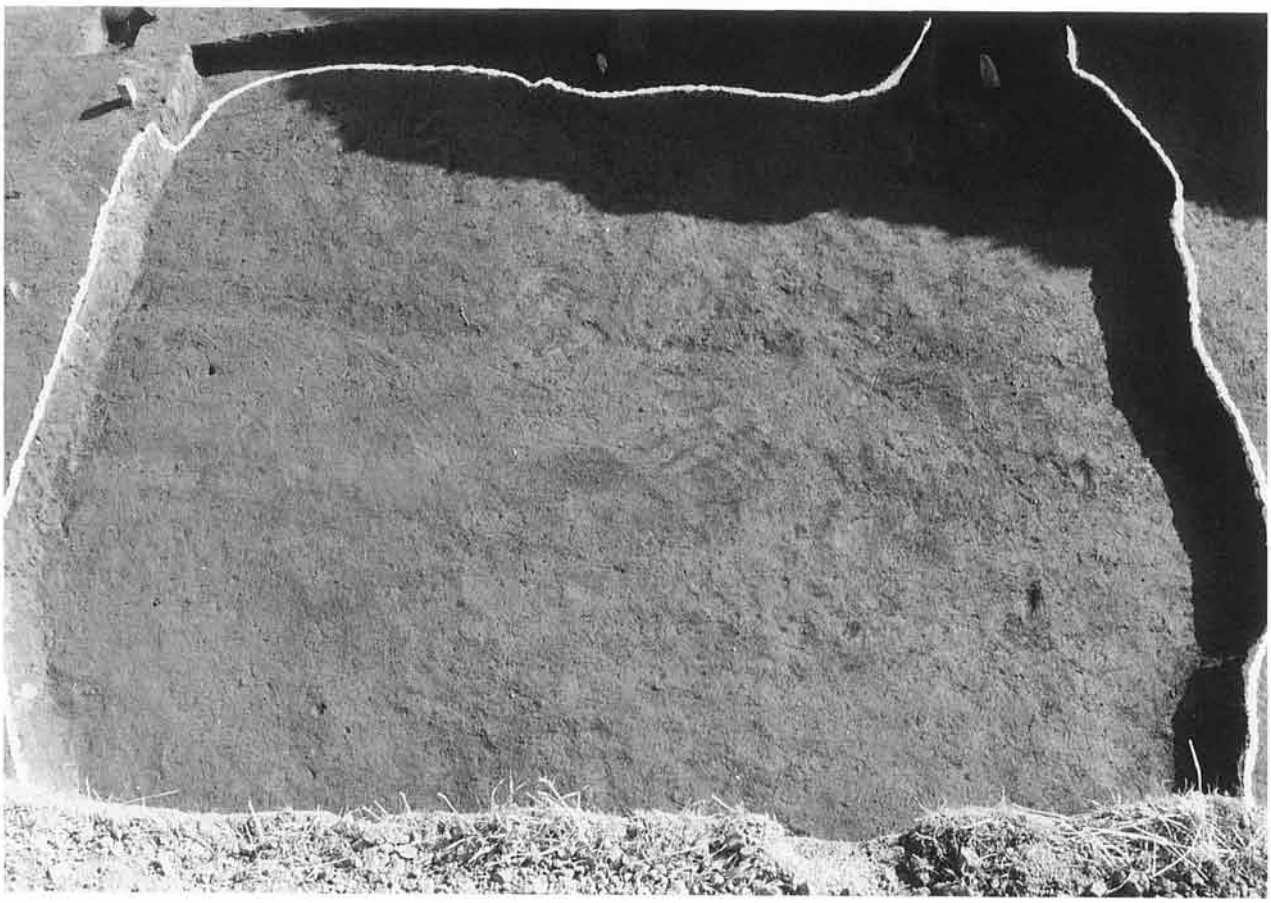
H－37・38・39号住居跡の重複（西から）



H－37号住居跡全景（西から）

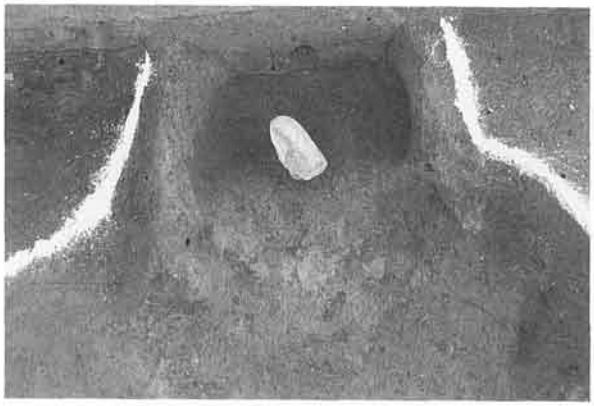


H－37号住居跡竈全景（西から）

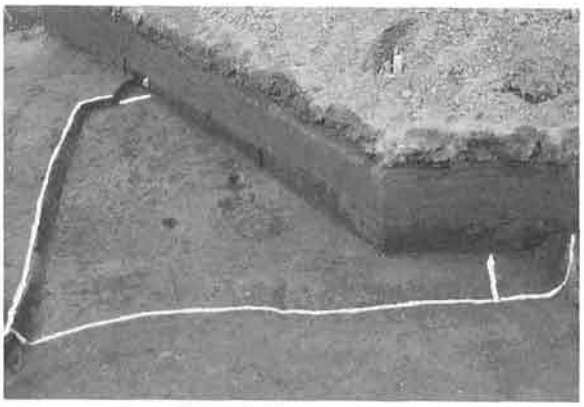


H－39号住居跡全景（西から）

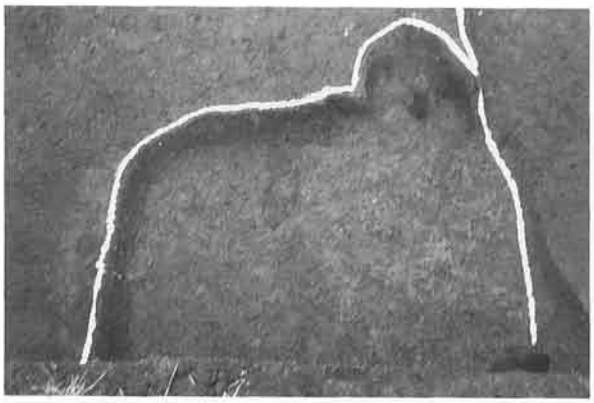
PL. 12



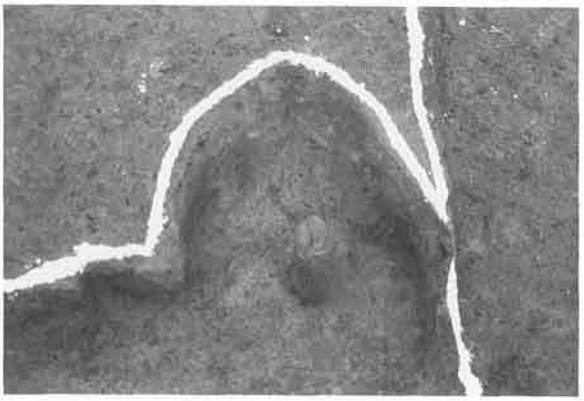
H－39号住居跡竈全景（西から）



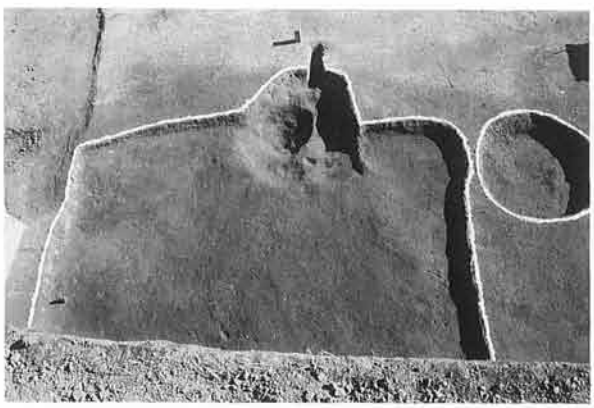
H－41号住居跡全景（西から）



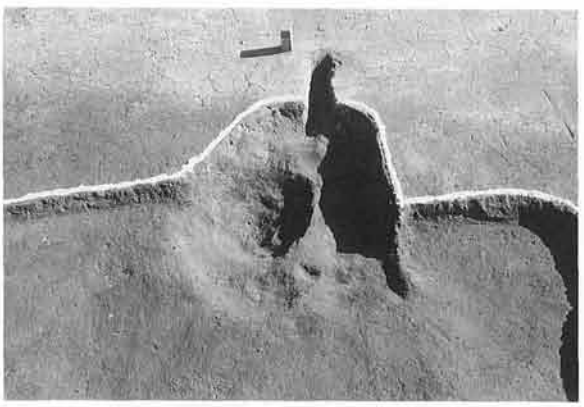
H－40号住居跡全景（西から）



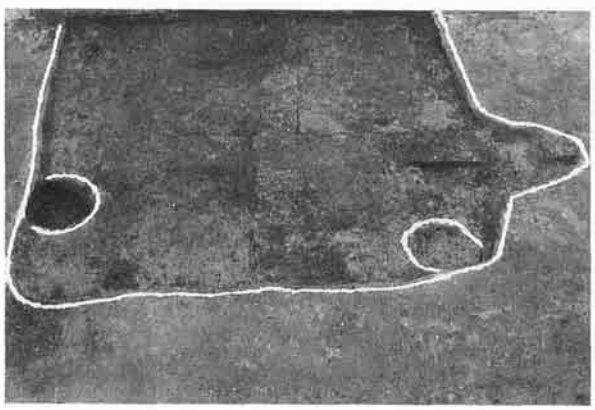
H－40号住居跡竈全景（西から）



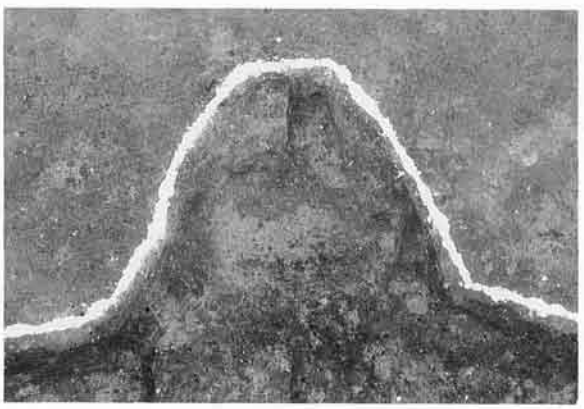
H－42号住居跡全景（西から）



H－42号住居跡竈全景（西から）



H－43号住居跡全景（南から）



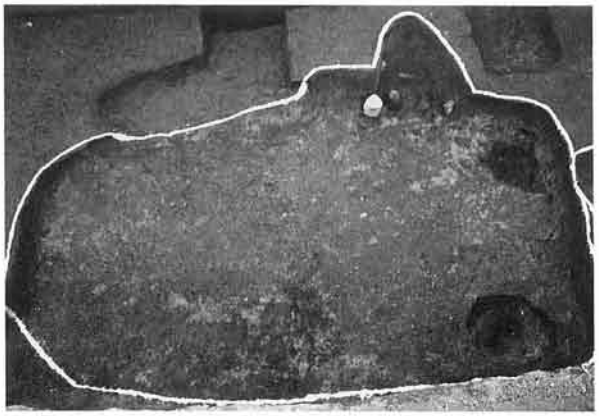
H－43号住居跡竈全景（西から）

H－47号住居跡南側遺物出土状況（南西から）

H－47号住居跡北側遺物出土状況（西から）

H－47号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（北から）

H－47号住居跡の竈遺物出土状況（西から）



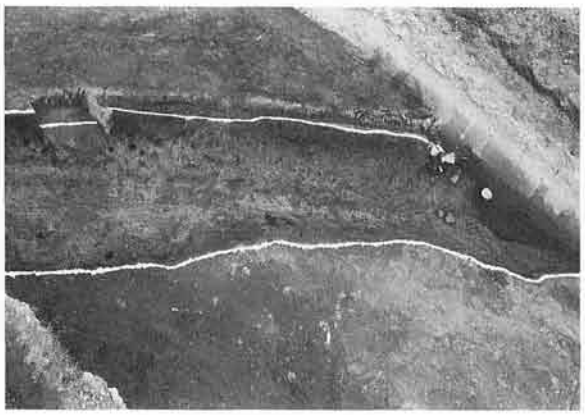
H－47号住居跡全景（西から）

PL.14

W－1・2、Ⅰ－1周辺（北から）

W－5号溝跡全景（東から）

W－7・10・17号溝跡全景（東から）



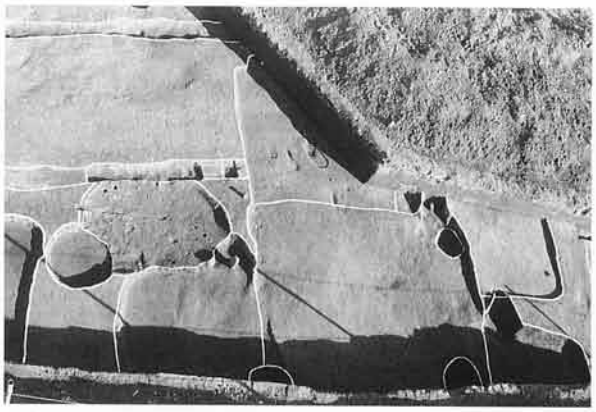
W－8号溝跡全景（南東から）

W－8号溝跡須恵器甕出土状況①（南東から）

W－8号溝跡須恵器甕出土状況②（南東から）

W－13・14号溝跡（南東から）

W－18号溝跡と溜井（南東から）

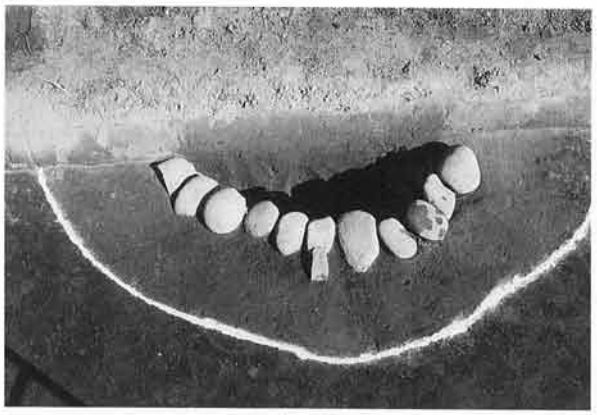


H－39号住居跡周辺（北西から）

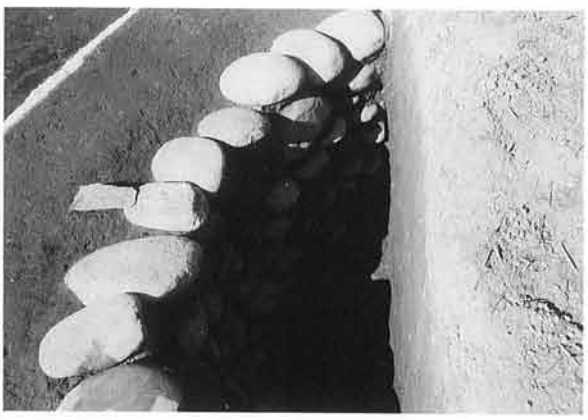
D－71号土坑全景（南から）

D－71号土坑（南から）

D－71号土坑（東から）

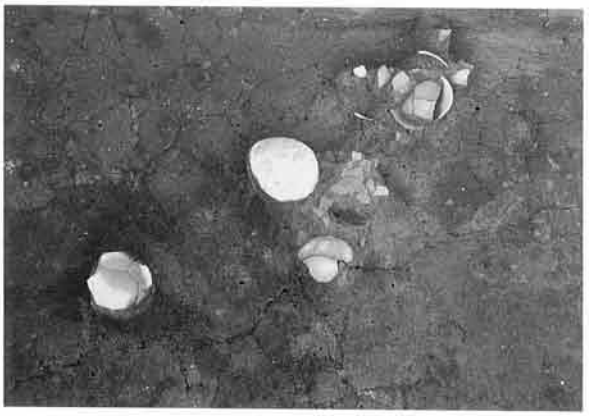


Ⅰ－1号井戸跡全景（南から）



Ⅰ－1号井戸跡の石組み（東から）

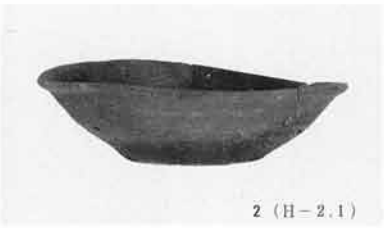
Ⅰ－1号井戸跡石組みとセレクション（南から）



土器溜まり（南から）

PL. 16

1 (H－1.1)


2 (H－2.1)

3 (H－2.2)

4 (H－2.3)

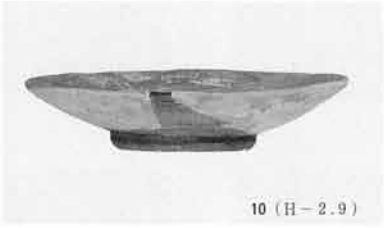
5 (H－2.4)

6 (H－2.5)

7 (H－2.6)

8 (H－2.7)

9 (H－2.8)


10 (H－2.9)

11 (H－2.10)

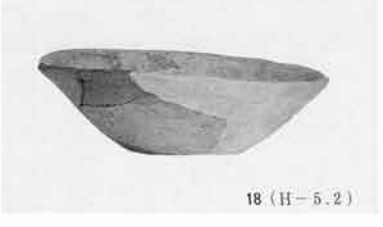
12 (H－2.11)

13 (H－2.12)

14 (H－3.1)

16 (H－4.2)

17 (H－5.1)


18 (H－5.2)

19 (H－5.3)

20 (H－5.4)

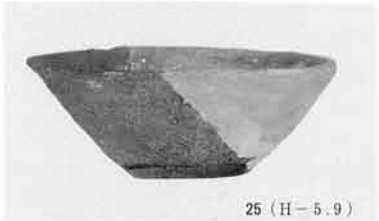
21 (H－5.5)

PL.17

22（H－5.6）

23（H－5.7）

24（H－5.8）


25（H－5.9）

27（H－5.11）

28（H－5.12）

29（H－5.13）

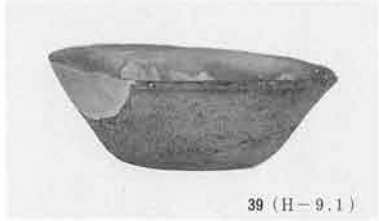
30（H－5.14）

31（H－5.15）

32（H－5.16）

37（H－7.1）

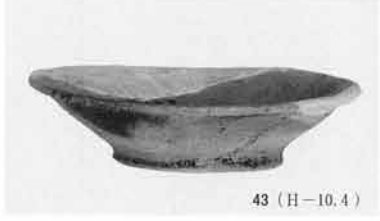
38（H－8.1）


39（H－9.1）

40（H－10.1）

41（H－10.2）

42（H－10.3）


43（H－10.4）

44（H－10.5）

45（H－10.6）

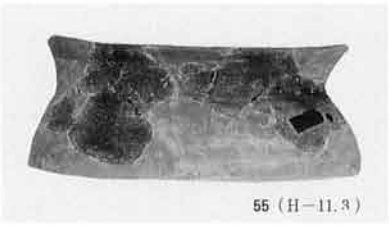
46（H－10.7）

48（H－10.9）

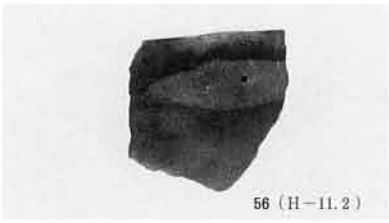
PL. 18

49（H－10.10）

50（H－10.11）



55（H－11.3）



56（H－11.2）

51（H－10.12）

53（H－10.14）

63（H－13.2）

68（H－14.5）

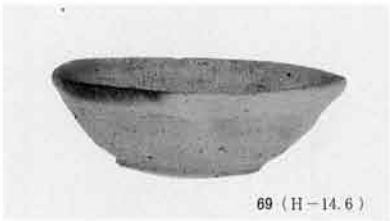
71（H－14.8）

75（H－18.2）

52（H－10.13）

54（H－10.15）

66（H－14.3）



69（H－14.6）

73（H－15.2）

76（H－18.3）

70（H－14.7）

74（H－18.1）

77（H－18.4）

PL. 19

78（H－18.5）

81（H－18.8）

82（H－18.9）

84（H－18.11）

83（H－18.10）

90（H－22.1）

91（H－22.2）

102（H－27.3）

119（H－34.2）

122（H－35.2）

124（H－36.1）

126（H－37.1）

128（H－39.1）

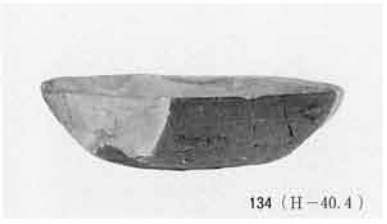
129（H－39.2）

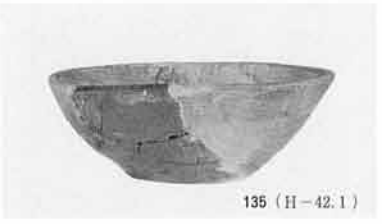
131（H－40.1）

132（H－40.2）

PL. 20

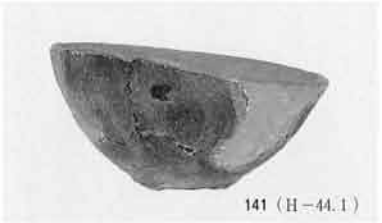
133（H－40.3）


134（H－40.4）


135（H－42.1）

136（H－42.2）

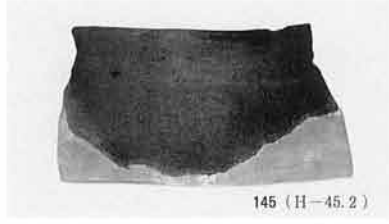
137（H－42.3）


141（H－44.1）

142（H－44.2）

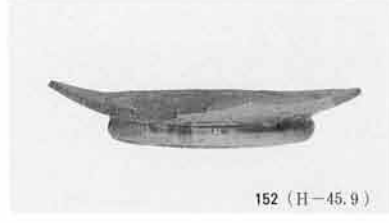
143（H－44.3）

144（H－45.1）


145（H－45.2）

150（H－45.7）

151（H－45.8）

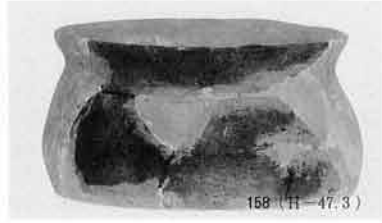

152（H－45.9）

160（H－47.5）

156（H－47.1）

157（H－47.2）

161（H－47.6）


158（H－47.3）

PL. 21

162 (H－47.7)

163 (H－47.8)

164 (H－47.9)

165 (H－47.10)

166 (H－47.11)

167 (H－47.12)

168 (H－47.13)

168 (H－47.13)

169 (H－47.14)

170 (H－47.15)

171 (H－47.16)

172 (H－47.17)

173 (H－47.18)

176 (W－8.3)

177 (D－1.1)

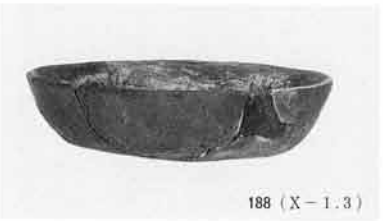
178 (D－2.1)

181 (D－71.3)
180 (D－71.2)

PL.22

186（X－1.1）

187（X－1.2）

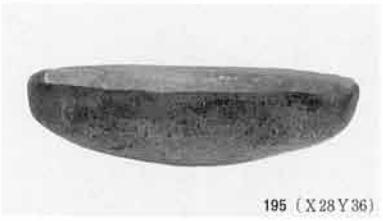


188（X－1.3）

191（X－1.6）

189（X－1.4）

190（X－1.5）



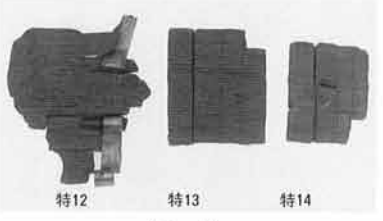
195（X28Y36）

196（X11Y33）

196（X30Y41）

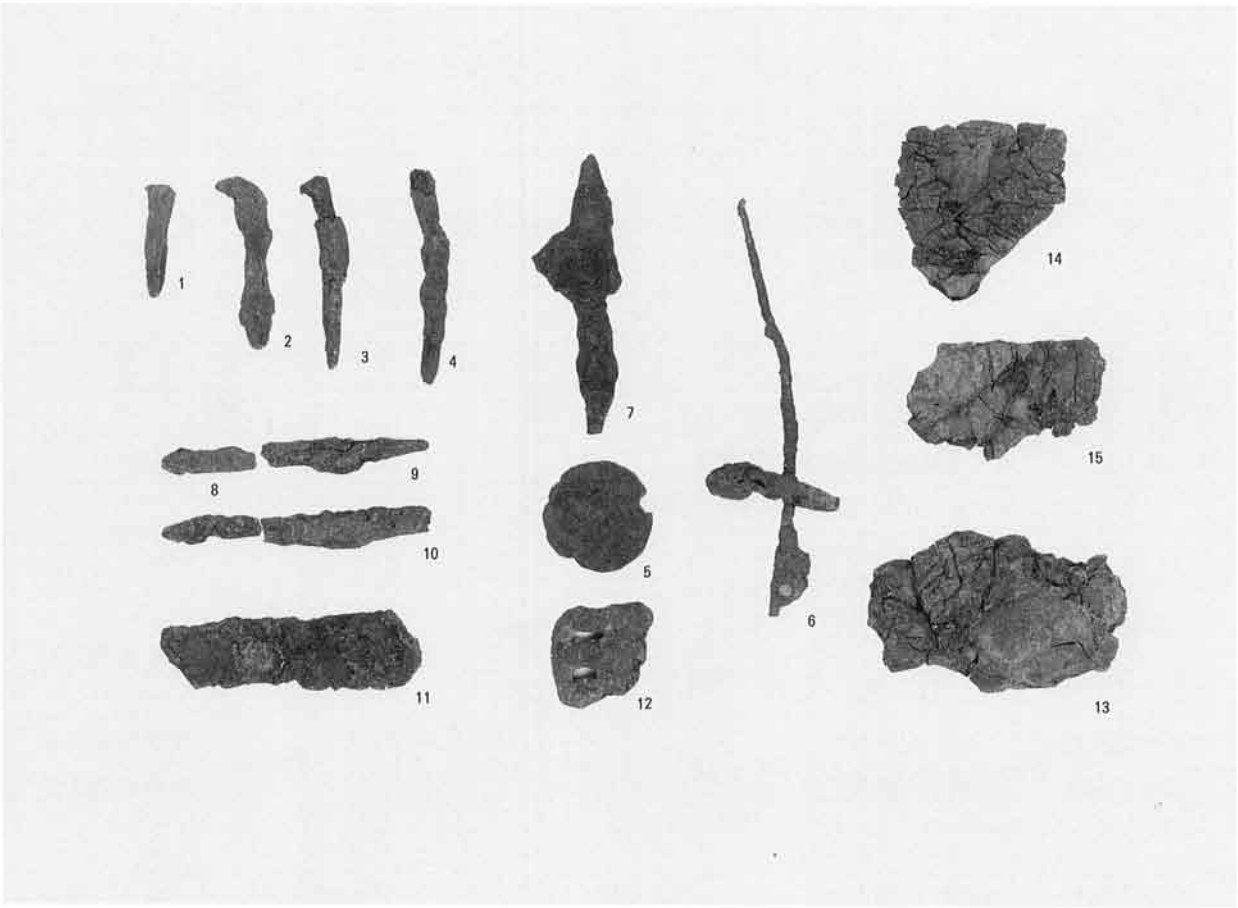
198（X14Y33）

199（X30Y48）

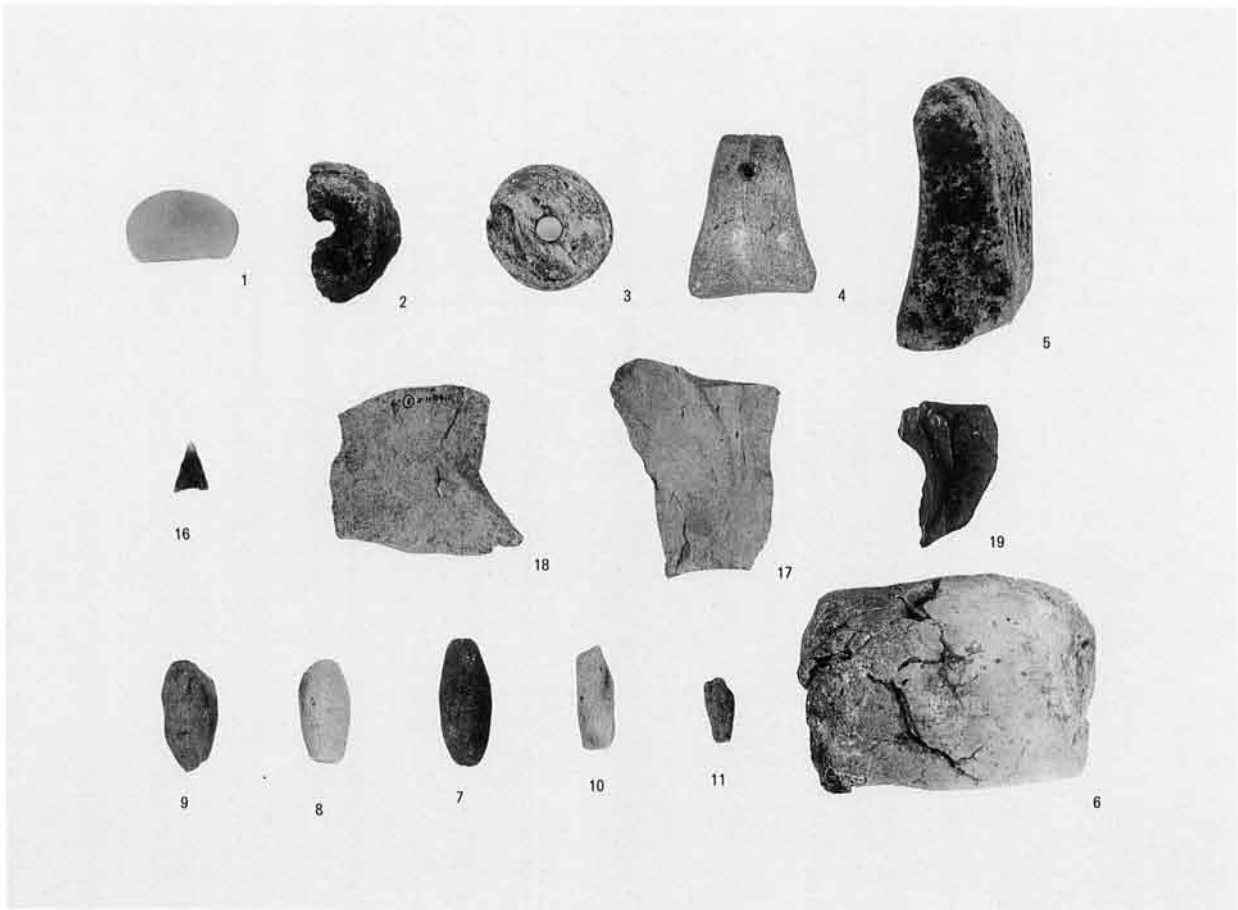


特12　特13　特14

（1－1）



鉄　器



石製品・木製品・特殊遺物

抄　　録

フリガナ	マエダゴイセキ
書名	前田Ｖ遺跡
副書名	東善住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木　一敏・山口　宗男・吉沢　貴
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
所在地	〒371－0007　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦2000年３月24日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
マエダゴイセキ 前田Ｖ遺跡	ﾏｴﾊﾞｼﾅｶｳﾁﾏﾁ 前橋市中内町	10201	11G41	36° 20′ 16″	139° 07′ 56″	19991004 ～ 19991216	1,428m²	東善住宅団地 拡張造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
前田Ｖ遺跡	集落跡	平安時代	住居址47軒　溝址36条 土坑73基他	土師器　須恵器　灰釉陶器他	なし

前田Ｖ遺跡

2000年3月15日　印　刷
2000年3月24日　発　行

発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
　　前橋市三俣町二丁目10－2
印　刷　松本印刷工業株式会社
　　前橋市紅雲町１－12－3